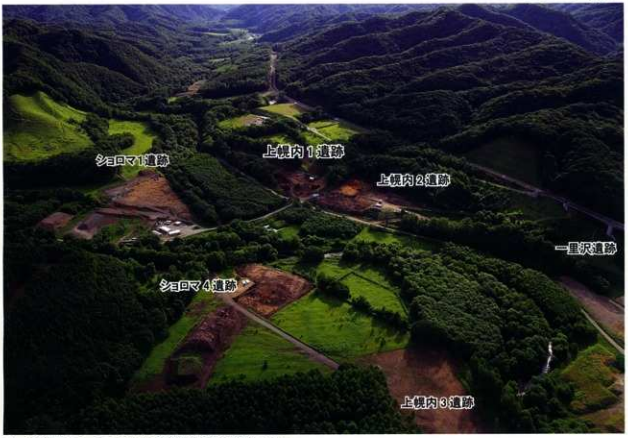
上幌内1遺跡

－厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 14－

2016. 3

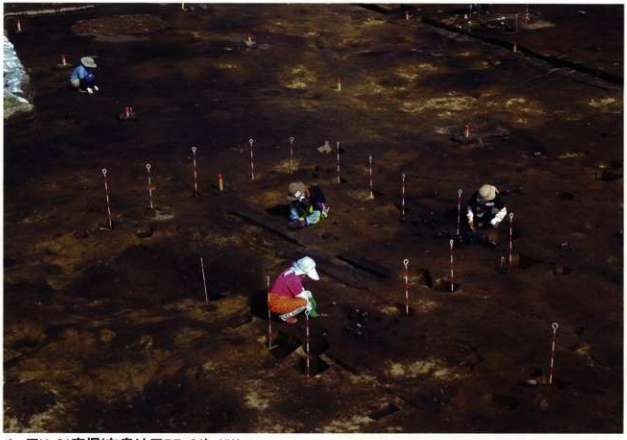
厚真町教育委員会



1. 厚真川・ショロマ川合流部付近遺跡群　SW→

2. A1区Ⅲ層完掘　NW→

カラー図版2



1. ⅢH-01完掘(左奥はⅢBB-01) NW→

2. ⅢIPB-01検出 NW→

1. ⅤH-01完掘　NW→

2. ⅤAXB-01石斧類出土状態　SW→

カラー図版4

1. ⅢPB-02出土遺物

2. ⅤAXB-01出土石斧類

序　文

厚真町は、胆振・日高管内屈指の豊かな水田地帯を有する大いなる田園都市であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成７年度に本格着工され、平成２９年春に共用開始となります。

さて、本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査された上幌内１遺跡の調査報告書であります。本書は平成２６年度の発掘成果を記載するもので、縄文時代の竪穴式住居跡１軒や多数のシカの落とし穴などが見つかっています。また、約７００年前の平地式住居跡も４軒見つかっており、先住民族であるアイヌ民族の歴史を探るうえでも大変に貴重な資料とも思われます。

今後は、これらの埋蔵文化財を地域の教育的資源、知的観光財産として町内外へ広く普及活用を推し進めてまいる所存でございます。また本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く、感謝申し上げる次第であります。

平成２８年３月

厚真町教育委員会
教育長　兵頭　利彦

例 言

1. 本書は、平成 26 年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査された上幌内 1 遺跡（登載番号：J-13-30）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北海道胆振総合振興局の委託を受け、厚真町教育委員会が実施した。
3. 調査・整理（分担）は以下の体制で行った。

調査担当者：乾 哲也・奈良智法・宮塚義人（有限会社 宮塚文化財研究所）

調査補助員：松井 昭・服部一雄・山戸大知（平成 27 年 1 月～）

事務員：浅野愛子・脇田幹王・宮崎和幸

測量技能作業員：畑嶋朝江・渡辺博道・石山 容　整備技能作業員：佐伯憲吾・畑嶋雄樹・日野 修

写図工：海津孝之・疇木也寸志（平成 27 年 1 月～）

発掘作業員 34 名　　整理作業員 12 名

乾　：土器復元・実測図作成・拓影指導・統括・監修

宮塚：Ⅲ層・Ⅴ層遺構図面作成指導・図版作成

松井：礫石器・剥片石器実測図指導・図版作成

服部：現地実測図作成指導、写真整理

山戸：土器・礫石器実測

4. 本書の編集は乾、奈良の協力を得て宮塚が行い、各節の執筆は、文末に記す。
5. 関連諸科学の同定分析については、以下の機関および個人に依頼した。
   - AMS 法 ^{14}C 年代測定：株式会社 加速器分析研究所
   - 動物遺存体同定：千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理
   - 炭化種子同定：Project Seeds 考古植物研究会 椿坂恭代
   - 花粉分析：アースサイエンス株式会社 岡 孝雄・五十嵐八枝子
   - 出土木材の樹種同定：パレオ・ラボ 小林克也
   - 黒曜石原産地分析：株式会社第四紀研究所 井上 巌
   - 石材同定：アースサイエンス株式会社 加藤孝幸・米島真由子
   - 鉄器分析：岩手県立博物館 赤沼英男
6. 出土遺物の写真撮影を有限会社写真事務所クリーク 佐藤雅彦へ委託した。
7. 剥片石器実測を株式会社シン技術コンサルに委託した。
8. 礫石器実測図用撮影・写真、復元土器実測の一部を株式会社トラスト技研に委託した。
9. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
10. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導・御協力を頂き、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、北海道胆振総合振興局、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部厚幌ダム建設事務所、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、東海大学文学部、札幌学院大学人文学部、千歳市埋蔵文化財センター、公益社団法人北海道アイヌ協会、苫小牧アイヌ協会、厚真アイヌ協会、苫小牧市美術博物館、平取町沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、恵庭市教育委員会、新ひだか町教育委員会、日高町教育委員会、特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団、函館市縄文文化交流センター、市立函館博物館、函館市教育委員会、七飯町教育委員会、豊浦町教育委員会、厚真町幌内自治会、(有)講神組、

愛場和人、青野友哉、赤石慎三、天方博章、天野哲也、阿部明義、新家水奈、飯村 均、伊藤昭和、石橋孝夫、石代啓視、臼杵 勲、内田和典、大沼忠春、及川真紀、岡田路明、奥山さとみ、長田佳宏、小野哲也、小野寺聡、笠原 興、加藤 忠、川内谷 修、菊池俊彦、北沢 実、工藤研治、熊木俊朗、越田賢一郎、小林 貢、斉藤大朋、佐藤一夫、澤田一憲、末光正卓、鈴木琢也、鈴木 信、瀬川拓郎、田口 尚、竹内 渉、田才雅彦、塚本敏夫、鶴丸俊明、中田由香、長町章弘、中村和之、西脇対名夫、羽柴直人、福井淳一、福田裕二、藤原秀樹、三浦正人、蓑島栄紀、宗像公司、村田 大、村本周三、森岡健治、八重樫忠朗、藪中剛司、山田 央、山原敏朗、山口博之、柳原敏昭、吉田 力、吉田正明

凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕 住居跡：H　住居跡に付属する柱穴：HP　住居跡に付属する土坑：PT
土坑：P　Tピット：TP　焼土：F

〔遺物〕 土器：P　擦文土器：SP　続縄文土器：ZP　縄文土器：JP　剥片石器：FT　礫石器：ST　礫：S
フレイク・チップ：FC　石斧石器群削片（緑色泥岩・片岩）：SFC　石製品：SP　炭化種子：SD
鉄器：IP　銅製品：BP　木製品：WP　骨角器：BBP

〔遺物等集中〕 土器集中：PB　礫集中：SB　石斧類集中：AXB　獣骨集中：BB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕 樽前a砂質降下火山灰：Ta-a　駒ヶ岳c2砂質降下火山灰：Ko-c2　樽前b降下軽石：Ta-b
有珠b降下火山灰：Us-b　白頭山苫小牧火山灰：B-Tm　樽前c砂質降下軽石：Ta-c
樽前d1細礫質降下スコリア：Ta-d1　樽前d2中礫質降下軽石：Ta-d2　恵庭a降下軽石：En-a
黄褐色粘土質シルト（いわゆるローム）：L　撹乱：KR

〔色調〕 小山・竹原編著（1994）『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については（ ）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。
混入土の比率
A＋B：AとBが同量比混じる　A－B：Aを主体にBが多量に混じる
A＝B：Aを主体にBが少量　A≡B：Aを主体にBが微量
φ：粒径（単位：mm）　↓：以下　（状態）：斑状に混じる・均一に混じる

〔層位〕 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や倒木痕による撹乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また、一覧表中には下記の略号を用いている。
U：上位　M：中位　L：下位

〔Tピット〕第Ⅲ章第3節のTピット堆積図には以下のトーンを用いた。
基本層の細分
：Ⅴ層　：Ⅵ層　：Ⅶa層　：Ⅶb層　：Ⅸ層

〔焼土・獣骨集中〕　被熱による土壌赤色化の度合い等の表現に以下のトーンを用いた。

:焼土燃焼面範囲　:付帯黒色部範囲　:焼土粒範囲

:灰層範囲　:焼骨片分布範囲　:炭化物集中範囲

3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

基本土層：1/40　遺構関連図：1/150　住居跡・建物跡：1/50

住居跡に付属する柱穴その他の付属遺構：1/20　Tピット：1/40　土坑：1/20　焼土：1/20

遺物集中：1/20・1/25・1/100　遺物集中出土状態：1/10・1/20・1/25　杭列跡：1/100

土器実測図：1/3　土器拓影図：1/3　剥片石器実測図：1/2　礫石器実測図：1/3・1/4

金属製品実測図：1/2　骨角器実測図：1/1

4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

〔線種 ---------- ：オーバーハング　—·—·—·— ：推定線　---------- ：撹乱

5. 土器・石器の挿図および写真図版の番号に後続する枝番号は同一個体表記である。

6. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

〔平面〕 :滑沢面範囲　:被熱による赤色化/付着物範囲

〔断面〕 ∨————∨：たたき痕　|————| ：剥片石器 磨滅 ／ 礫石器 擦り痕・滑沢面

7. 一覧表中の石材及び材質については、委託した石材同定のほか、乾、松井が肉眼観察で分類した。

また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察によるものである。

Gra.：花崗岩　Gr-Mud.：緑色泥岩　Mud.：泥岩　Obs.：黒曜石　Qu.：石英　Qu-Sch.：石英片岩

Sa.：砂岩　Sch.：片岩　Ser.：蛇紋岩　Sh.：頁岩　Si.：珪化岩　Tu.：凝灰岩

Clay.：粘土　Irn.：鉄　Cu.：銅　B.：獣骨　W.：木材

本文目次

カラー図版

1-1　厚真川・ショロマ川合流部付近遺跡群

1-2　A1区Ⅲ層完掘

2-1　ⅢH-01完掘

2-2　ⅢPB-01検出

3-1　ⅤH-01完掘

3-2　ⅤAXB-01石斧類出土状態

4-1　ⅢPB-02出土遺物

4-2　ⅤAXB-01出土石斧類

序　文

例　言

凡　例

第Ⅰ章　調査の概要

第1節　調査要項と体制 …… 1

1. 調査要項 …… 1

2. 調査体制 …… 1

第2節　調査に至る経緯 …… 1

1. 厚幌ダム建設事業 …… 1

2. 発掘調査までの経緯 …… 2

第3節　調査の方法 …… 3

1. 発掘区の設定 …… 3

2. グリッド設定 …… 4

3. 包含層および遺構調査の方法 …… 4

4. 整理作業 …… 8

第4節　遺物の分類 …… 8

1. 土器 …… 8

2. 剥片石器 …… 10

3. 礫石器 …… 11

第5節　調査結果の概要 …… 12

1. Ⅲ層の調査 …… 12

2. Ⅴ層の調査 …… 12

第6節　遺跡の位置 …… 13

1. 厚真町の概要 …… 13

2. 遺跡の位置と周辺の環境 …… 19

3. 調査区内の地形と地質 …… 23

第Ⅱ章　Ⅲ層の調査

第1節　住居跡 …… 29

第2節　建物跡 …… 54

第3節　集中区 …… 55

第4節　土坑 …… 68

第5節　焼土 …… 70

第6節　遺物集中 …… 74

1. 土器集中 …… 74

2. 礫集中 …… 82

3. 鉄器集中 …… 84

4. 獣骨集中 …… 87

第7節　杭列跡 …… 89

第8節　道跡 …… 95

第9節　包含層出土遺物 …… 98

1. 土器 …… 98

2. 剥片石器 …… 99

3. 礫石器 …… 99

4. 金属製品 …… 99

第Ⅲ章　Ⅴ層の調査

第1節　竪穴住居跡 …… 103

第2節　土坑 …… 111

第3節　Tピット …… 112

第4節　遺物集中 …… 140

1. 土器集中 …… 140

2. 礫集中 …… 148

3. 石斧類集中 …… 156

第5節　包含層出土遺物 …… 160

1. 土器 …… 160

2. 剥片石器 …… 161

3. 礫石器 …… 162

第Ⅳ章　自然科学的分析

第１節　上幌内１遺跡における
放射性炭素年代(AMS 測定) …… 174
第２節　平成 26 年度北海道勇払郡厚真町
上幌内１遺跡の動物 …… 179
第３節　厚真町上幌内１遺跡から
検出された植物種子 …… 187
第４節　上幌内１遺跡の花粉分析 …… 196
第５節　上幌内１遺跡出土木材の
樹種同定 …… 201
第６節　上幌内１遺跡出土黒曜石の
原産地分析 …… 206
第７節　上幌内１遺跡における石材同定 …… 210
第８節　上幌内１遺跡出土鉄器の
金属考古学的調査結果 …… 213
引用・参考文献 …… 220

写真図版

図版 …… 221
報告書抄録 …… 288
奥　付

挿 図 目 次

第Ⅰ章

図Ⅰ-1　厚幌ダム建設事業関連
埋蔵文化財包蔵地位置図 …… 5
図Ⅰ-2　調査範囲・基準杭・試掘坑
・メインセクション位置図 …… 6
図Ⅰ-3　グリッド区分図 …… 7
図Ⅰ-4　厚真町内遺跡分布図 …… 14
図Ⅰ-5　周辺の遺跡と地形面区分図 …… 21
図Ⅰ-6　上幌内１遺跡周辺の地形断面図 …… 22
図Ⅰ-7　基本土層柱状図 …… 24
図Ⅰ-8　A0 ライン断面図(1) …… 25
図Ⅰ-9　A0 ライン断面図(2)
・A2 区沢部断面図 …… 26
図Ⅰ-10　X ライン断面図 …… 27

第Ⅱ章

図Ⅱ-1　Ⅲ層遺構配置図(1) …… 30
図Ⅱ-2　Ⅲ層遺構配置図(2) …… 31
図Ⅱ-3　ⅢH-01 及び関連遺構位置図 …… 34
図Ⅱ-4　ⅢH-01 平面図 …… 35
図Ⅱ-5　ⅢH-01 付属ⅢF・HP 平面及び断面図 …… 36
図Ⅱ-6　ⅢBB-01A 平面図 …… 37
図Ⅱ-7　ⅢBB-01B・C 平面図 …… 38
図Ⅱ-8　ⅢH-01・ⅢSB-01・02・ⅢBB-01A 出土礫 …… 39
図Ⅱ-9　ⅢH-02 及び関連遺構位置図 …… 42
図Ⅱ-10　ⅢH-02 平面図 …… 42
図Ⅱ-11　ⅢH-02 付属ⅢF・HP 平面及び断面図 …… 43
図Ⅱ-12　ⅢP-02～04・ⅢBB-02・ⅢSB-03
平面・断面図及び出土礫 …… 44
図Ⅱ-13　ⅢBB-04 平面図 …… 45
図Ⅱ-14　ⅢH-03 平面図・付属ⅢF
平面及び断面図 …… 48
図Ⅱ-15　ⅢH-03 付属 HP 断面図
・ⅢH-03 出土遺物 …… 49
図Ⅱ-16　ⅢH-04 平面及び遺物垂直分布図 …… 51
図Ⅱ-17　ⅢH-04 付属ⅢF・HP 平面及び断面図 …… 52
図Ⅱ-18　ⅢH-04 出土遺物 …… 53
図Ⅱ-19　建物跡 01・02 平面及び柱穴断面図 …… 56
図Ⅱ-20　集中区１平面及び断面図 …… 59
図Ⅱ-21　集中区１拡大遺物分布図(1) …… 60
図Ⅱ-22　集中区１拡大遺物分布図(2) …… 61
図Ⅱ-23　集中区１拡大遺物分布図(3) …… 62
図Ⅱ-24　集中区１出土遺物 …… 63
図Ⅱ-25　ⅢF-34・ⅢBB-08・09 出土礫 …… 64
図Ⅱ-26　集中区１出土礫 …… 65

図Ⅱ-27　ⅢP-01・05・06 平面及び断面図 …… 70
図Ⅱ-28　ⅢF-04～06・13～15・17・21・24
平面及び断面図 …… 72
図Ⅱ-29　ⅢF-28～30・35・36 平面及び断面図 … 73
図Ⅱ-30　ⅢPB-01 平面図及び出土土器 …… 76
図Ⅱ-31　ⅢPB-02 平面及び付属ⅢF 断面図 …… 77
図Ⅱ-32　ⅢPB-02 出土遺物 …… 78
図Ⅱ-33　ⅢPB-03・04 平面図 …… 79
図Ⅱ-34　ⅢPB-03・04 出土土器 …… 80
図Ⅱ-35　ⅢSB-04 平面図及び出土礎 …… 83
図Ⅱ-36　ⅢⅠPB-01 平面及び断面図 …… 85
図Ⅱ-37　ⅢⅠPB-01 出土遺物 …… 86
図Ⅱ-38　ⅢBB-03・07 平面図及び出土遺物 …… 88
図Ⅱ-39　杭列跡 01 平面及び杭穴断面図 …… 91
図Ⅱ-40　杭列跡 02 平面及び杭穴断面図(1) …… 92
図Ⅱ-41　杭列跡 02 杭穴断面図(2) …… 93
図Ⅱ-42　杭列跡 03 平面及び杭穴断面図 …… 94
図Ⅱ-43　道跡平面図 …… 97
図Ⅱ-44　道跡断面図 …… 98
図Ⅱ-45　Ⅲ層包含層出土遺物(1) …… 100
図Ⅱ-46　Ⅲ層包含層出土遺物(2) …… 101

第Ⅲ章

図Ⅲ-1　Ⅴ層遺構配置図(1) …… 104
図Ⅲ-2　Ⅴ層遺構配置図(2) …… 105
図Ⅲ-3　VH-01 平面及び断面図 …… 107
図Ⅲ-4　VH-01 付属 PT・HP 断面図 …… 108
図Ⅲ-5　VH-01 出土石器 …… 109
図Ⅲ-6　VP-01 平面及び断面図 …… 111
図Ⅲ-7　TP-02・03 平面及び断面図 …… 114
図Ⅲ-8　TP-04～06 平面及び断面図 …… 115
図Ⅲ-9　TP-07・08 平面及び断面図 …… 116
図Ⅲ-10　TP-09 平面及び断面図 …… 117
図Ⅲ-11　TP-10 平面及び断面図 …… 119
図Ⅲ-12　TP-11 平面及び断面図 …… 120
図Ⅲ-13　TP-12 平面及び断面図 …… 121
図Ⅲ-14　TP-13・14 平面及び断面図 …… 122
図Ⅲ-15　TP-15・16 平面及び断面図 …… 123
図Ⅲ-16　TP-17・18 平面及び断面図 …… 124
図Ⅲ-17　TP-19～21 平面及び断面図 …… 125
図Ⅲ-18　TP-22～24 平面及び断面図 …… 126
図Ⅲ-19　TP-25～27 平面及び断面図 …… 127
図Ⅲ-20　TP-28・29 平面及び断面図 …… 128
図Ⅲ-21　TP-30・31 平面及び断面図 …… 129
図Ⅲ-22　TP-32・33 平面及び断面図 …… 130
図Ⅲ-23　TP-34～36 平面及び断面図 …… 131
図Ⅲ-24　TP-37・38 平面及び断面図 …… 132
図Ⅲ-25　TP-39～41 平面及び断面図 …… 133
図Ⅲ-26　TP-42・43 平面及び断面図 …… 134
図Ⅲ-27　TP-44・46 平面及び断面図 …… 135
図Ⅲ-28　TP-47 平面及び断面図 …… 136
図Ⅲ-29　Tピット出土遺物 …… 136
図Ⅲ-30　VPB-01～05 平面図 …… 141
図Ⅲ-31　VPB-06～10 平面図 …… 142
図Ⅲ-32　VPB-11・12 平面及び断面図
・VPB-13 平面図 …… 145
図Ⅲ-33　VPB-01～03 出土土器 …… 146
図Ⅲ-34　VPB-04・06・09・11・12 出土遺物 …… 147
図Ⅲ-35　VSB-02・04・05 平面図 …… 148
図Ⅲ-36　VSB-03 平面図 …… 149
図Ⅲ-37　VSB-03 拡大遺物分布図(1) …… 150
図Ⅲ-38　VSB-03 拡大遺物分布図(2) …… 151
図Ⅲ-39　VSB-03 拡大遺物分布図(3) …… 152
図Ⅲ-40　VSB-03 拡大遺物分布図(4) …… 153
図Ⅲ-41　VSB 出土遺物(1) …… 154
図Ⅲ-42　VSB 出土遺物(2) …… 155
図Ⅲ-43　VAXB-01 平面及び断面図 …… 156
図Ⅲ-44　VAXB-01 出土石器 …… 157
図Ⅲ-45　縄文時代包含層出土土器(1) …… 164
図Ⅲ-46　縄文時代包含層出土土器(2) …… 165
図Ⅲ-47　縄文時代包含層出土石器(1) …… 166
図Ⅲ-48　縄文時代包含層出土石器(2) …… 167
図Ⅲ-49　縄文時代包含層出土石器(3) …… 168
図Ⅲ-50　縄文時代包含層出土石器(4) …… 169
図Ⅲ-51　縄文時代包含層出土石器(5) …… 170

挿表目次

第Ⅰ章

表Ⅰ-1　グリッド設定関係杭座標一覧表 …… 7
表Ⅰ-2　上幌内1遺跡検出遺構一覧表 …… 12
表Ⅰ-3　上幌内1遺跡出土遺物一覧表 …… 12
表Ⅰ-4　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1) …… 15
表Ⅰ-5　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2) …… 16

第Ⅱ章

表Ⅱ-1　Ⅲ層遺構群一覧表 …… 32
表Ⅱ-2　ⅢH-01 属性表 …… 39
表Ⅱ-3　ⅢH-01 付属炉・関連遺構属性表 …… 39
表Ⅱ-4　ⅢH-01 柱穴属性表 …… 39
表Ⅱ-5　ⅢH-01 出土礫属性表 …… 40
表Ⅱ-6　ⅢSB-01 出土礫属性表 …… 40
表Ⅱ-7　ⅢSB-02 出土礫属性表 …… 40
表Ⅱ-8　ⅢBB-01A 出土礫属性表 …… 40
表Ⅱ-9　ⅢH-02 属性表 …… 46
表Ⅱ-10　ⅢH-02 付属炉・関連遺構属性表 …… 46
表Ⅱ-11　ⅢH-02 柱穴属性表 …… 46
表Ⅱ-12　ⅢSB-03 出土礫属性表 …… 46
表Ⅱ-13　ⅢH-03 属性表 …… 49
表Ⅱ-14　ⅢH-03 付属炉属性表 …… 49
表Ⅱ-15　ⅢH-03 柱穴属性表 …… 49
表Ⅱ-16　ⅢH-03 出土土器属性表 …… 49
表Ⅱ-17　ⅢH-04 属性表 …… 53
表Ⅱ-18　ⅢH-04 付属炉属性表 …… 53
表Ⅱ-19　ⅢH-04 柱穴属性表 …… 53
表Ⅱ-20　ⅢH-04 出土土器属性表 …… 54
表Ⅱ-21　ⅢH-04 出土遺物属性表 …… 54
表Ⅱ-22　ⅢH-04 出土礫属性表 …… 54
表Ⅱ-23　建物跡属性表 …… 57
表Ⅱ-24　建物跡柱穴属性表 …… 57
表Ⅱ-25　集中区1遺構属性表 …… 58
表Ⅱ-26　集中区1出土土器属性表 …… 58
表Ⅱ-27　集中区1出土遺物属性表 …… 58
表Ⅱ-28　ⅢF-34 出土礫属性表 …… 65
表Ⅱ-29　ⅢBB-08 出土礫属性表 …… 66
表Ⅱ-30　ⅢBB-09 出土礫属性表 …… 66
表Ⅱ-31　集中区1出土礫属性表 …… 67
表Ⅱ-32　ⅢP 属性表 …… 70
表Ⅱ-33　ⅢF 属性表 …… 74
表Ⅱ-34　ⅢPB 属性表 …… 79
表Ⅱ-35　ⅢPB 出土土器属性表 …… 81
表Ⅱ-36　ⅢPB-02 出土礫石器属性表 …… 82
表Ⅱ-37　ⅢPB-02 出土礫属性表 …… 82
表Ⅱ-38　ⅢSB 属性表 …… 83
表Ⅱ-39　ⅢSB-04 出土礫属性表 …… 84
表Ⅱ-40　ⅢIPB-01 属性表 …… 86
表Ⅱ-41　ⅢIPB-01 出土鉄鍋属性表 …… 87
表Ⅱ-42　ⅢIPB-01 出土礫属性表 …… 88
表Ⅱ-43　ⅢBB 属性表 …… 89
表Ⅱ-44　ⅢBB-03 出土遺物属性表 …… 89
表Ⅱ-45　杭列跡属性表 …… 95
表Ⅱ-46　杭列跡 01～03 杭穴属性表 …… 96
表Ⅱ-47　道跡属性表 …… 98
表Ⅱ-48　Ⅲ層包含層出土土器属性表 …… 102
表Ⅱ-49　Ⅲ層包含層出土遺物属性表 …… 102

第Ⅲ章

表Ⅲ-1　縄文時代遺構群一覧表 …… 106
表Ⅲ-2　VH-01 属性表 …… 110
表Ⅲ-3　VH-01 付属土坑属性表 …… 110
表Ⅲ-4　VH-01 柱穴属性表 …… 110

表Ⅲ-5　VH-01 出土石器属性表 …… 110
表Ⅲ-6　VP 属性表 …… 111
表Ⅲ-7　TP 属性表 …… 137
表Ⅲ-8　TP 杭穴属性表 …… 139
表Ⅲ-9　TP 出土遺物属性表 …… 139
表Ⅲ-10　VPB・VSB・VAXB 属性表 …… 158
表Ⅲ-11　VPB 出土土器属性表 …… 159
表Ⅲ-12　VPB・VSB・VAXB 出土遺物属性表 …… 160
表Ⅲ-13　縄文時代包含層出土土器属性表 …… 171
表Ⅲ-14　縄文時代包含層出土石器属性表 …… 173

写真図版目次

図版 1-1　A1 区Ⅲ層完掘 …… 223
図版 1-2　A2 区沢部Ⅲ層完掘
及び道跡検出 …… 223
図版 2-1　B 区Ⅴ層完掘及びＴピット配列 …… 224
図版 2-2　C 区Ⅴ層完掘及びＴピット配列 …… 224
図版 3-1　基本土層(1)(A0-23 区) …… 225
図版 3-2　基本土層(2)(A0-27 区) …… 225
図版 3-3　基本土層(3)(A2 区沢部西側) …… 225
図版 3-4　基本土層(4)(A2 区沢部東側) …… 225
図版 3-5　基本土層(5)(X-21 区西側) …… 225
図版 3-6　基本土層(6)(X-21 区東側) …… 225
図版 3-7　C 区南側トレンチ断面(西側) …… 225
図版 3-8　C 区南側トレンチ断面(東側) …… 225
図版 4-1　ⅢH-01 完掘 …… 226
図版 4-2　ⅢH-01 付属ⅢF-07・09～11 検出 …… 226
図版 5-1　ⅢH-01 付属ⅢF-09 断面 …… 227
図版 5-2　ⅢH-01 付属ⅢF-11 断面 …… 227
図版 5-3　ⅢH-01 付属ⅢSB-01 検出 …… 227
図版 5-4　ⅢH-01 付属ⅢSB-02 検出 …… 227
図版 5-5　ⅢH-01.HP03 断面 …… 227
図版 5-6　ⅢH-01.HP04 断面 …… 227
図版 5-7　ⅢH-01.HP05 断面 …… 227
図版 5-8　ⅢH-01.HP05 完掘 …… 227
図版 5-9　ⅢH-01.HP07 断面 …… 227
図版 5-10　ⅢH-01.HP07 完掘 …… 227
図版 5-11　ⅢH-01.HP14 断面 …… 227
図版 5-12　ⅢH-01.HP17 断面 …… 227
図版 6-1　ⅢBB-01A・B・C 検出 …… 228
図版 6-2　ⅢBB-01A・B 検出 …… 228
図版 7-1　ⅢBB-01B 検出 …… 229
図版 7-2　ⅢBB-01C 検出 …… 229
図版 8-1　ⅢH-02 完掘 …… 230
図版 8-2　ⅢH-02 付属ⅢF-01 断面 …… 230
図版 8-3　ⅢH-02 付属ⅢF-02 断面 …… 230
図版 8-4　ⅢH-02.HP02 断面 …… 230
図版 8-5　ⅢH-02.HP02 完掘 …… 230
図版 8-6　ⅢH-02.HP05 断面 …… 230
図版 8-7　ⅢH-02.HP05 完掘 …… 230
図版 9-1　ⅢH-02・ⅢBB-04 検出 …… 231
図版 9-2　ⅢBB-04 検出 …… 231
図版 9-3　ⅢPB-02 調査状況 …… 231
図版 9-4　集中区 1 調査状況 …… 231
図版 10-1　ⅢBB-04 歯列(B.179) …… 232
図版 10-2　ⅢBB-04 獣骨(B.181) …… 232
図版 10-3　ⅢBB-04 歯列(B.196) …… 232
図版 10-4　ⅢBB-04 歯列(B.207) …… 232
図版 10-5　ⅢP-02 完掘 …… 232
図版 10-6　ⅢP-02 断面・獣骨出土状態 …… 232
図版 10-7　ⅢP-04 完掘 …… 232
図版 10-8　ⅢP-04 断面・ⅢBB-02 出土状態 …… 232
図版 11-1　ⅢH-03 完掘 …… 233
図版 11-2　ⅢH-03 付属ⅢF-22 検出 …… 233
図版 11-3　ⅢH-03 付属ⅢF-23・25 検出 …… 233
図版 11-4　ⅢH-03 付属ⅢF-22 断面 …… 233
図版 11-5　ⅢH-03 付属ⅢF-23 断面 …… 233
図版 11-6　ⅢH-03 付属ⅢF-25 断面 …… 233
図版 12-1　ⅢH-03.HP01 断面 …… 234
図版 12-2　ⅢH-03.HP01 完掘 …… 234
図版 12-3　ⅢH-03.HP04 断面 …… 234
図版 12-4　ⅢH-03.HP04 完掘 …… 234

図版 12-5　ⅢH-03. HP05 断面 …… 234
図版 12-6　ⅢH-03. HP05 完掘 …… 234
図版 12-7　ⅢH-03. HP08 断面 …… 234
図版 12-8　ⅢH-03. HP08 完掘 …… 234
図版 12-9　ⅢH-04 完掘 …… 234
図版 13-1　ⅢH-04 付属ⅢF-31 検出 …… 235
図版 13-2　ⅢH-04 付属ⅢF-31 断面 …… 235
図版 13-3　ⅢH-04 付属ⅢF-33 検出 …… 235
図版 13-4　ⅢH-04 付属ⅢF-33 断面 …… 235
図版 13-5　ⅢF-33 擦文土器出土状態 …… 235
図版 13-6　ⅢF-33 北側遺物出土状態 …… 235
図版 13-7　ⅢH-04. HP01 断面 …… 235
図版 13-8　ⅢH-04. HP02 断面 …… 235
図版 13-9　ⅢH-04. HP02 完掘 …… 235
図版 13-10　ⅢH-04. HP03 断面 …… 235
図版 14-1　ⅢH-04. HP04 断面 …… 236
図版 14-2　ⅢH-04. HP04 完掘 …… 236
図版 14-3　ⅢH-04. HP08 断面 …… 236
図版 14-4　ⅢH-04. HP08 完掘 …… 236
図版 14-5　ⅢH-04. HP11 断面 …… 236
図版 14-6　ⅢH-04. HP19 断面 …… 236
図版 14-7　ⅢH-04. HP19 完掘 …… 236
図版 14-8　ⅢH-04. HP22 断面 …… 236
図版 14-9　建物跡 01 完掘 …… 236
図版 15-1　ⅢKP-276 断面 …… 237
図版 15-2　ⅢKP-276 完掘 …… 237
図版 15-3　ⅢKP-277 断面 …… 237
図版 15-4　ⅢKP-277 完掘 …… 237
図版 15-5　ⅢKP-282 断面 …… 237
図版 15-6　ⅢKP-282 完掘 …… 237
図版 15-7　ⅢKP-287 断面 …… 237
図版 15-8　ⅢKP-287 完掘 …… 237
図版 15-9　建物跡 02 完掘 …… 237
図版 16-1　ⅢKP-298 断面 …… 238
図版 16-2　ⅢKP-298 完掘 …… 238
図版 16-3　ⅢKP-300 断面 …… 238
図版 16-4　ⅢKP-300 完掘 …… 238
図版 16-5　ⅢKP-301 断面 …… 238
図版 16-6　ⅢKP-301 完掘 …… 238
図版 16-7　ⅢKP-305 断面 …… 238
図版 16-8　ⅢKP-305 完掘 …… 238
図版 16-9　集中区 1 遺物出土状態 …… 238
図版 17-1　集中区 1ⅢB-01 遺物 …… 239
図版 17-2　集中区 1 小刀出土状態 …… 239
図版 17-3　集中区 1 獣骨(B. 317)出土状態 …… 239
図版 17-4　集中区 1ⅢBB-08 遺物出土状態 …… 239
図版 18-1　集中区 1ⅢBB-09 遺物出土状態 …… 240
図版 18-2　集中区 1ⅢF-34 検出 …… 240
図版 18-3　集中区 1ⅢF-34 断面 …… 240
図版 18-4　ⅢBB-09 獣骨(B. 374) …… 240
図版 18-5　ⅢBB-09 獣骨(B. 378) …… 240
図版 18-6　ⅢP-01 完掘 …… 240
図版 18-7　ⅢP-01 断面 …… 240
図版 19-1　ⅢP-05 検出 …… 241
図版 19-2　ⅢP-05 完掘 …… 241
図版 19-3　ⅢP-05 断面 …… 241
図版 19-4　ⅢP-06 検出 …… 241
図版 19-5　ⅢP-06 完掘 …… 241
図版 19-6　ⅢP-06 断面 …… 241
図版 19-7　ⅢF-04 検出 …… 241
図版 19-8　ⅢF-04 断面 …… 241
図版 20-1　ⅢF-05 検出 …… 242
図版 20-2　ⅢF-05 断面 …… 242
図版 20-3　ⅢF-06 検出 …… 242
図版 20-4　ⅢF-06 断面 …… 242
図版 20-5　ⅢF-13・14 検出 …… 242
図版 20-6　ⅢF-13 断面 …… 242
図版 20-7　ⅢF-14 断面 …… 242
図版 20-8　ⅢF-15 検出 …… 242
図版 20-9　ⅢF-15 断面 …… 242
図版 21-1　ⅢF-17 検出 …… 243
図版 21-2　ⅢF-17 断面 …… 243
図版 21-3　ⅢF-21 検出 …… 243
図版 21-4　ⅢF-21 断面 …… 243
図版 21-5　ⅢF-24 検出 …… 243
図版 21-6　ⅢF-24 断面 …… 243

図版 21-7　ⅢF-28 検出 …… 243
図版 21-8　ⅢF-28 断面 …… 243
図版 22-1　ⅢF-29 検出 …… 244
図版 22-2　ⅢF-29 断面 …… 244
図版 22-3　ⅢF-30 検出 …… 244
図版 22-4　ⅢF-35 検出 …… 244
図版 22-5　ⅢF-35 断面 …… 244
図版 22-6　ⅢF-36 検出 …… 244
図版 22-7　ⅢF-36 断面 …… 244
図版 22-8　ⅢPB-01 検出 …… 244
図版 23-1　ⅢPB-02 検出 …… 245
図版 23-2　ⅢF-26 検出 …… 245
図版 23-3　ⅢF-26 断面 …… 245
図版 23-4　ⅢPB-03 検出 …… 245
図版 23-5　ⅢPB-04 検出 …… 245
図版 24-1　ⅢSB-04 検出 …… 246
図版 24-2　ⅢSB-04 検出(拡大) …… 246
図版 24-3　ⅢⅠPB-01 検出 …… 246
図版 24-4　ⅢⅠPB-01 検出(拡大) …… 246
図版 24-5　ⅢⅠPB-01 調査状況 …… 246
図版 24-6　ⅢBB-03 検出 …… 246
図版 24-7　ⅢBB-07 検出 …… 246
図版 25-1　杭列跡 01 完掘 …… 247
図版 25-2　杭列跡 01 南側検出 …… 247
図版 26-1　ⅢKP-23 断面 …… 248
図版 26-2　ⅢKP-45 断面 …… 248
図版 26-3　ⅢKP-50 断面 …… 248
図版 26-4　ⅢKP-50 完掘 …… 248
図版 26-5　ⅢKP-65 断面 …… 248
図版 26-6　ⅢKP-65 完掘 …… 248
図版 26-7　ⅢKP-70 断面 …… 248
図版 26-8　ⅢKP-76 断面 …… 248
図版 26-9　杭列跡 02 完掘 …… 248
図版 27-1　杭列跡 02 西端部完掘 …… 249
図版 27-2　ⅢKP-130 断面 …… 249
図版 27-3　ⅢKP-130 完掘 …… 249
図版 27-4　ⅢKP-139 断面 …… 249
図版 27-5　ⅢKP-139 完掘 …… 249
図版 27-6　ⅢKP-149 断面 …… 249
図版 27-7　ⅢKP-149 完掘 …… 249
図版 27-8　ⅢKP-188 断面 …… 249
図版 27-9　ⅢKP-188 完掘 …… 249
図版 28-1　ⅢKP-332 断面 …… 250
図版 28-2　ⅢKP-332 完掘 …… 250
図版 28-3　ⅢKP-344 断面 …… 250
図版 28-4　ⅢKP-344 完掘 …… 250
図版 28-5　ⅢKP-454 断面 …… 250
図版 28-6　ⅢKP-454 完掘 …… 250
図版 28-7　ⅢKP-441 断面 …… 250
図版 28-8　ⅢKP-441 完掘 …… 250
図版 28-9　杭列跡 03 完掘 …… 250
図版 29-1　B 区杭列跡 03(北西側)完掘 …… 251
図版 29-2　ⅢKP-209 断面 …… 251
図版 29-3　ⅢKP-209 完掘 …… 251
図版 29-4　ⅢKP-224 断面 …… 251
図版 29-5　ⅢKP-224 完掘 …… 251
図版 29-6　ⅢKP-231 断面 …… 251
図版 29-7　ⅢKP-231 完掘 …… 251
図版 29-8　ⅢKP-238 断面 …… 251
図版 29-9　ⅢKP-238 完掘 …… 251
図版 30-1　道跡完掘 …… 252
図版 30-2　道跡断面 A …… 252
図版 30-3　道跡断面 B …… 252
図版 30-4　道跡断面 C …… 252
図版 31-1　VH-01 完掘 …… 253
図版 31-2　VH-01 遺物出土状態(1) …… 253
図版 31-3　VH-01 遺物出土状態(2) …… 253
図版 31-4　VH-01 遺物出土状態(3) …… 253
図版 31-5　VH-01 つまみ付きナイフ
出土状態 …… 253
図版 32-1　VH-01 SN ライン断面 …… 254
図版 32-2　VH-01 WE ライン断面 …… 254
図版 32-3　VH-01.HP08 断面 …… 254
図版 32-4　VH-01.HP08 完掘 …… 254
図版 32-5　VH-01.HP09 断面 …… 254
図版 32-6　VH-01.HP09 完掘 …… 254

図版 32-7　VH-01.HP13 断面 …… 254
図版 32-8　VH-01.HP13 完掘 …… 254
図版 32-9　VH-01.HP16 断面 …… 254
図版 32-10　VH-01.HP16 完掘 …… 254
図版 33-1　VH-01.HP17 断面 …… 255
図版 33-2　VH-01.HP17 完掘 …… 255
図版 33-3　VH-01.HP18 断面 …… 255
図版 33-4　VH-01.HP18 完掘 …… 255
図版 33-5　VH-01.HP19 断面 …… 255
図版 33-6　VH-01.HP19 完掘 …… 255
図版 33-7　VH-01.HP20 断面 …… 255
図版 33-8　VH-01.HP20 完掘 …… 255
図版 33-9　VP-01 完掘 …… 255
図版 33-10　VP-01 断面 …… 255
図版 34-1　TP-02 完掘 …… 256
図版 34-2　TP-02 断面 …… 256
図版 34-3　TP-03 完掘 …… 256
図版 34-4　TP-03 断面 …… 256
図版 34-5　TP-04 完掘 …… 256
図版 34-6　TP-04 断面 …… 256
図版 34-7　TP-04.KP03 断面 …… 256
図版 34-8　TP-04.KP05 断面 …… 256
図版 34-9　TP-04.KP06 断面 …… 256
図版 34-10　TP-05 完掘 …… 256
図版 34-11　TP-05 断面 …… 256
図版 34-12　TP-05.KP02 断面 …… 256
図版 34-13　TP-05.KP02 完掘 …… 256
図版 34-14　TP-05.KP03 断面 …… 256
図版 34-15　TP-05.KP05 断面 …… 256
図版 34-16　TP-05.KP06 断面 …… 256
図版 35-1　TP-06 完掘 …… 257
図版 35-2　TP-06 断面 …… 257
図版 35-3　TP-07 完掘 …… 257
図版 35-4　TP-07 断面 …… 257
図版 35-5　TP-07 掘り上げ土断面 …… 257
図版 35-6　TP-08 完掘 …… 257
図版 35-7　TP-08 断面(1) …… 257
図版 35-8　TP-08 断面(2) …… 257
図版 36-1　TP-09 完掘 …… 258
図版 36-2　TP-09 断面 …… 258
図版 36-3　TP-09 掘り上げ土断面 …… 258
図版 36-4　TP-09 掘り上げ土(南西側)断面 …… 258
図版 36-5　TP-09.KP02・03 断面 …… 258
図版 36-6　TP-09.KP06 断面 …… 258
図版 36-7　TP-10 完掘 …… 258
図版 36-8　TP-10 断面 …… 258
図版 36-9　TP-11 完掘 …… 258
図版 36-10　TP-11 断面 …… 258
図版 37-1　TP-11 掘り上げ土断面 …… 259
図版 37-2　TP-11.KP01 断面 …… 259
図版 37-3　TP-11.KP02 断面 …… 259
図版 37-4　TP-11.KP03 断面 …… 259
図版 37-5　TP-12 完掘 …… 259
図版 37-6　TP-12 断面 …… 259
図版 37-7　TP-12.KP04・05 断面 …… 259
図版 37-8　TP-12.KP07 断面 …… 259
図版 37-9　TP-13 完掘 …… 259
図版 37-10　TP-13 掘り上げ土断面 …… 259
図版 37-11　TP-13.KP01 断面 …… 259
図版 37-12　TP-13.KP02 断面 …… 259
図版 38-1　TP-14 完掘 …… 260
図版 38-2　TP-14 断面 …… 260
図版 38-3　TP-14.KP01 断面 …… 260
図版 38-4　TP-14.KP02 断面 …… 260
図版 38-5　TP-15 完掘 …… 260
図版 38-6　TP-15 断面 …… 260
図版 38-7　TP-16 完掘 …… 260
図版 38-8　TP-16 断面 …… 260
図版 38-9　TP-16.KP01 断面 …… 260
図版 38-10　TP-16.KP02 断面 …… 260
図版 38-11　TP-17 完掘 …… 260
図版 38-12　TP-17 断面 …… 260
図版 39-1　TP-18 完掘 …… 261
図版 39-2　TP-18 断面 …… 261
図版 39-3　TP-19 完掘 …… 261
図版 39-4　TP-19 断面 …… 261

図版 39-5　TP-19. KP01 断面 …… 261
図版 39-6　TP-19. KP04 断面 …… 261
図版 39-7　TP-19. KP06 断面 …… 261
図版 39-8　TP-20 完掘 …… 261
図版 39-9　TP-20 断面 …… 261
図版 39-10　TP-21 完掘 …… 261
図版 40-1　TP-21 断面 …… 262
図版 40-2　TP-21. KP01 完掘 …… 262
図版 40-3　TP-21. KP02 完掘 …… 262
図版 40-4　TP-22 完掘 …… 262
図版 40-5　TP-22 断面 …… 262
図版 40-6　TP-23 完掘 …… 262
図版 40-7　TP-23 断面 …… 262
図版 40-8　TP-24 完掘 …… 262
図版 40-9　TP-24 断面 …… 262
図版 40-10　TP-25 完掘 …… 262
図版 41-1　TP-25 断面 …… 263
図版 41-2　TP-25. KP02 断面 …… 263
図版 41-3　TP-25. KP03 断面 …… 263
図版 41-4　TP-26 完掘 …… 263
図版 41-5　TP-26 断面 …… 263
図版 41-6　TP-27 完掘 …… 263
図版 41-7　TP-27 断面 …… 263
図版 41-8　TP-27 覆土中逆茂木跡完掘 …… 263
図版 41-9　TP-28 完掘 …… 263
図版 41-10　TP-28 断面 …… 263
図版 42-1　TP-28. KP03 断面 …… 264
図版 42-2　TP-28. KP03 完掘 …… 264
図版 42-3　TP-28. KP04 断面 …… 264
図版 42-4　TP-28. KP04 完掘 …… 264
図版 42-5　TP-28. KP05 断面 …… 264
図版 42-6　TP-28. KP05 完掘 …… 264
図版 42-7　TP-28. KP07 断面 …… 264
図版 42-8　TP-28. KP07 完掘 …… 264
図版 42-9　TP-29 完掘 …… 264
図版 42-10　TP-29 断面 …… 264
図版 42-11　TP-29. KP01 断面 …… 264
図版 42-12　TP-29. KP01 完掘 …… 264
図版 42-13　TP-29. KP05・11 断面 …… 264
図版 43-1　TP-30 完掘 …… 265
図版 43-2　TP-30 断面 …… 265
図版 43-3　TP-30 掘り上げ土断面 …… 265
図版 43-4　TP-31 完掘 …… 265
図版 43-5　TP-31 断面 …… 265
図版 43-6　TP-31 掘り上げ土断面 …… 265
図版 43-7　TP-32 完掘 …… 265
図版 43-8　TP-32 断面 …… 265
図版 44-1　TP-33 完掘 …… 266
図版 44-2　TP-33 断面 …… 266
図版 44-3　TP-34 完掘 …… 266
図版 44-4　TP-34 断面 …… 266
図版 44-5　TP-35 完掘 …… 266
図版 44-6　TP-35 断面 …… 266
図版 44-7　TP-36 完掘 …… 266
図版 44-8　TP-36 断面 …… 266
図版 44-9　TP-37 完掘 …… 266
図版 45-1　TP-37 断面 …… 267
図版 45-2　TP-37. KP03 断面 …… 267
図版 45-3　TP-37. KP04 断面 …… 267
図版 45-4　TP-37. KP07 断面 …… 267
図版 45-5　TP-37. KP08 断面 …… 267
図版 45-6　TP-38 完掘 …… 267
図版 45-7　TP-39 完掘 …… 267
図版 45-8　TP-38 断面 …… 267
図版 45-9　TP-39 断面 …… 267
図版 45-10　TP-40 完掘 …… 267
図版 45-11　TP-40 断面 …… 267
図版 45-12　TP-41 完掘 …… 267
図版 46-1　TP-41 断面 …… 268
図版 46-2　TP-41. KP02 断面 …… 268
図版 46-3　TP-41. KP04 断面 …… 268
図版 46-4　TP-42 完掘 …… 268
図版 46-5　TP-42 断面 …… 268
図版 46-6　TP-42. KP04 断面 …… 268
図版 46-7　TP-42. KP04 完掘 …… 268
図版 46-8　TP-42. KP09 断面 …… 268

図版 46-9　TP-42. KP09 完掘 …… 268
図版 46-10　TP-43 完掘 …… 268
図版 46-11　TP-43 断面 …… 268
図版 46-12　TP-43. KP02 断面 …… 268
図版 46-13　TP-43. KP09 断面 …… 268
図版 47-1　TP-44 完掘 …… 269
図版 47-2　TP-44 断面 …… 269
図版 47-3　TP-44. KP02 断面 …… 269
図版 47-4　TP-44. KP04 断面 …… 269
図版 47-5　TP-46 完掘 …… 269
図版 47-6　TP-46 断面 …… 269
図版 47-7　TP-47 完掘 …… 269
図版 47-8　TP-47 断面 …… 269
図版 47-9　TP-47 掘り上げ土検出 …… 269
図版 47-10　TP-47 掘り上げ土断面 …… 269
図版 48-1　VPB-01 検出 …… 270
図版 48-2　VPB-02 検出 …… 270
図版 48-3　VPB-03 検出 …… 270
図版 48-4　VPB-04 検出 …… 270
図版 48-5　VPB-05・06 検出 …… 270
図版 48-6　VPB-05 検出 …… 270
図版 48-7　VPB-06 検出 …… 270
図版 48-8　VPB-07 検出 …… 270
図版 49-1　VPB-08 検出 …… 271
図版 49-2　VPB-09・10 検出 …… 271
図版 49-3　VPB-09 検出 …… 271
図版 49-4　VPB-10 検出 …… 271
図版 49-5　VPB-11 検出 …… 271
図版 49-6　VPB-12 検出 …… 271
図版 49-7　VPB-13 検出 …… 271
図版 49-8　VSB-02 検出 …… 271
図版 50-1　VSB-03 検出 …… 272
図版 50-2　VSB-03 北側拡大 …… 272
図版 50-3　VSB-03 南側拡大 …… 272
図版 50-4　VSB-04 検出 …… 272
図版 50-5　VSB-05 検出 …… 272
図版 50-6　VAXB-01 検出 …… 272
図版 50-7　Tピット調査状況(1) …… 272
図版 50-8　Tピット調査状況(2) …… 272
図版 51-1　ⅢH-01・ⅢSB-01・02・
ⅢBB-01・ⅢSB-03 出土礫 …… 273
図版 51-2　ⅢH-03・04 出土遺物 …… 273
図版 52-1　集中区 1 出土遺物 …… 274
図版 52-2　集中区 1 出土礫 …… 274
図版 53　ⅢPB-01・02 出土遺物 …… 275
図版 54-1　ⅢPB-02 出土礫石器・礫 …… 276
図版 54-2　ⅢPB-03 出土土器 …… 276
図版 55-1　ⅢPB-04 出土土器 …… 277
図版 55-2　ⅢSB-04・ⅢPB-01 出土礫・
ⅢBB-03 出土骨角器 …… 277
図版 55-3　ⅢPB-01 出土鉄器 …… 277
図版 56　Ⅲ層包含層出土遺物 …… 278
図版 57-1　VH-01 出土石器
・TP-19 出土逆茂木 …… 279
図版 57-2　VPB-01～03 出土土器 …… 279
図版 58　VPB-04・06・09～12 出土遺物 …… 280
図版 59　VSB 出土遺物(1) …… 281
図版 60-1　VSB 出土遺物(2) …… 282
図版 60-2　VAXB-01 出土礫石器 …… 282
図版 61　縄文時代包含層出土土器(1) …… 283
図版 62　縄文時代包含層出土土器(2) …… 284
図版 63　縄文時代包含層出土石器(1) …… 285
図版 64　縄文時代包含層出土石器(2) …… 286
図版 65　縄文時代包含層出土石器(3) …… 287

第Ⅰ章　調査の概要

第1節　調査要項と体制

1. 調査要項

事 業 名：厚幌ダム建設事業　埋蔵文化財発掘調査　その2
委 託 者：北海道胆振総合振興局
受 託 者：厚真町教育委員会
遺 跡 名：上幌内1遺跡（J－13－30）
調査面積：9,022 ㎡
所 在 地：北海道勇払郡厚真町字幌内 372-1～3 番地
受託期間：平成 26 年 4 月 10 日～平成 27 年 3 月 25 日
発掘期間：平成 26 年 5 月 13 日～平成 26 年 10 月 31 日
整理期間：平成 26 年 11 月 1 日～平成 28 年 3 月 13 日

2. 調査体制

厚真町教育委員会　教育長　兵頭利彦
生涯学習課社会教育グループ
参事　橋本欣哉　主幹　斉藤雪美　主査　乾 哲也（学芸員）　主査　奈良智法（学芸員）
委託担当者　宮塚義人（有限会社 宮塚文化財研究所）
嘱託職員　調査補助員　松井 昭　服部一雄　山戸大知（平成 27 年 1 月～）
　　事務員　浅野愛子　脇田幹王　宮崎和幸
臨時職員　測量技能作業員　畑嶋朝江　渡辺博道　石山 容
　　整備技能作業員　佐伯憲吾　畑嶋雄樹　日野 修
　　発掘作業員　34 名　　整理作業員 12 名　　（宮塚）

第2節　調査に至る経緯

1. 厚幌ダム建設事業

町内を縦貫する厚真川中・下流域には約 3,000ha もの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和 46（1971）年には現河口より約 38km 地点に農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和 45 年には洪水と渇水、昭和 48・50・56 年にも洪水が発生した。近年においては平成 12 年春の融雪期と平成 13 年秋に、家屋や農地に被害を及ぼす洪水、平成 18・21・23 年にも一部が冠水する事態が発生している。また昭和 59・60・63 年には深刻な水不足にも見舞われており、平成 19 年は幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年となった。平成 26 年春にも渇水となり、水田への引水ができず作付を断念する農家もあり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設は町民の切望として陳情されてきた。さらには市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港入港船舶

への水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況の抜本的な改善策として、昭和52年に北海道室蘭土木現業所（現北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部。以下、室建管）により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手され、昭和61年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まった。平成7（1995）年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が締結され、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）が開設され、その後、環境アセスメント等も実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業（厚幌導水路建設）が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工のひとつとして、平成14年度から湛水区域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで開通の計画である。また平成24年度からは付随する町道や林道の切替工事も着手されている。

厚幌ダム本体は31.4km の地点に堤体を建設する計画で、規模は堤体長516m、高さ47.2m のダムである。貯水は常時湛水面標高85.4m、最深湛水面標高88.1m であり、総貯水量は47,400千㎥、現在の厚真ダムのおおよそ4.7倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な効果波及がある。平成26年10月にダム堤体敷きの掘削が始まり、現在、堤体本体の工事が始まっている。

2. 発掘調査までの経緯

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて平成12年7月6日にダム事務所より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書（室土厚幌第158号）が厚真町教育委員会（以下、町教委）を経て北海道教育委員会（以下、道教委）へ提出された。事前協議区域は最深湛水面標高88.1m以下の区域と道道切替路線や湛水区域外の残土置き場など合計約315,700㎡に及ぶ。厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、試掘調査までは道教委が行い、発掘調査は町教委と室建管で委託契約を締結し、町教委が実施することとなった。調査は平成14年度の厚幌1遺跡から始まり、平成28年秋までの継続予定で、整理業務も含めた事業完了は平成29年度の予定である。

湛水地域内については、平成13年10月に所在確認調査が行われ、周知の遺跡（オニキシベ1遺跡、上幌内1遺跡）を含め16ヵ所、面積235,500㎡の要試掘調査の回答がされた（平成13年11月16日付け教文第4532号）。以後、追加箇所や範囲拡張もあるが平成19年度までに8回、18地点の試掘調査が実施され、14遺跡、約143,000㎡の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されていた。しかし、これまでの発掘調査成果から河岸段丘の低位面にも埋蔵文化財包蔵地が広がること等、この地区における遺跡の立地パターンが判明してきており、建設工事中の不時発見を避けるため、新たな視点での再試掘調査の必要性が町教委やダム事務所等から望まれていた。これを受け道教委は平成21年5月に湛水地域内の所在確認踏査を行い、要試掘調査地点10ヵ所を回答した（平成21年6月11日付け教文ス第928号）。このうち8地点については7･8月に試掘踏査を実施し6ヵ所の包蔵地が発見された（平成21年9月10日付け教文ス第1940号）。更に平成21年12月にも試掘調査が実施され新たに1ヵ所が追加された（平

成22年1月5日付け教文ス第3145号）。平成27年1月現在の要発掘調査地点は21ヵ所に及び要発掘面積164,650㎡、要遺構確認調査39,720㎡で合計204,370㎡となった。平成27年1月現在で発掘調査終了面積が164,726㎡で約80%の進捗率となっている（図Ⅰ-1）。

上幌内1遺跡の埋蔵文化財包蔵地調査カードには、昭和47年12月に厚真町郷土研究会の踏査によって確認されたのが初出である。農家住宅及び耕作地であったことから表面採集によって遺物が回収され、包蔵地として周知されていたものと思われる。昭和54年9月に道教委によって厚真町内における一般分布調査が実施され、「幌内3遺跡（J-13-30）」として登載された。

平成13年10月に道教委による厚幌ダム建設事業に係るA調査で協議地№5として13,200㎡の「要試掘調査」と回答された（平成13年11月16日付け教文第4532号）。試掘調査は平成15年9月に実施され、南部の開析谷周辺を主体として段丘面の縁辺部に30ヵ所の試掘孔が掘開され、2ヵ所からたたき石、被熱礫の計9点が出土したほか、3ヵ所から土坑などの遺構も確認された。遺物等が確認された試掘孔は段丘面のほぼ全域に散在していることから、南北約220m、東西20～55mの範囲の約8,758㎡について「要遺構確認調査（部分的に発掘調査となる範囲がある）」の回答がされた（平成15年11月14日付け教文第4692号）。

なお、本遺跡は平成15年11月に町教委によって「幌内3遺跡」から「上幌内1遺跡」に名称変更されている。（乾）

第3節　調査の方法

1. 発掘区の設定

上幌内1遺跡の発掘調査範囲は、ダム水没地域内であることから遺跡の全面が調査対象となっており、微地形等で若干の変更が生じるものの、道教委の試掘調査回答の「要発掘調査範囲」の8,758㎡に基づいている。調査範囲は南北に細長く、厚真川本流に並行する1面の河岸段丘面の全面で、調査区西側は厚真川本流、南側は開析する無名の小沢と並行する段丘崖上部縁辺部まで、東側は高位面からの段丘崖裾下方を境界とし、北側は段丘平坦面で遺物が出土していない試掘坑との中間位置までを調査区としている。現地における調査区範囲の設定には道教委回答図面を元図として、有限会社幅田測量に調査区境界杭、計16ヵ所の打設を委託した。調査区全体として南北約220m、東西20～55mの範囲で細長い滴形状を呈している。ただし調査区境界東側においてTピットを検出したこと、南西部の低位面への段丘崖で調査区外への出土遺物の連続性を確認したことから一部範囲の拡張をしている。

なお、試掘調査回答書には遺構確認調査範囲が示されていたが、添付の一覧表備考欄に「部分的に発掘調査となる範囲がある。」と記載されており、調査開始にあたって、調査区南部の民家の範囲及びその周辺域（A1･A2区）と調査区西側の段丘縁辺部（B区とC区西側）を人力による発掘調査範囲とした。

調査対象となる遺物包含層は、試掘調査出土の遺物、確認遺構から樽前cテフラより下層のⅤ層黒色土層、縄文時代の包含層を調査対象とされていたが、表土火山灰除去作業の初期段階でⅢ層黒色土中より礫が出土したことから上層黒色土も調査対象と変更し、のべ調査面積が大幅に増加した。

2. グリッド設定

平成 26 年度の発掘調査は、当遺跡のほか小沢を挟んで 20m 南の位置に上幌内 2 遺跡があるため、両遺跡を一括して世界測地系公共座標でグリッド網を設定した。いずれのグリッド網も公共座標 5m 単位での設定であるため、グリッド方眼は一致している。グリッド網は包蔵地可能性範囲を含めた段丘面全体を網羅するため、北東方向に図面上での基点を設けた。図上の基点 A-01 杭から（世界平面直角座標系第ⅩⅡ系 X=－135,820.0　Y=－19,870.0）南北 260m×東西 180m の範囲を 5m 四方の方眼で区分した。各グリッド起点も北東角を原点とした。

グリッド名称は、南北の X 軸を A･B…Y･Z･AA･AB…のアルファベット列で、東西の Y 軸ラインを 1･2･3…のアラビア数字列とした。なお、Ⅴ層調査における剥片類と礫の出土位置記録の際に、5m 四方のグリッドを 2.5m 四方に 4 分割した中グリッドを設定した。さらに報告書の遺構図中に位置関係を示すため、5m グリッドを 1m 四方に 25 分割した小グリッドを定義した。

現地での測量は、厚幌ダム建設事業の三級基準点を与点とするトータルステーション四級基準点測量とし、発掘調査区境界杭及びグリッド杭設置を佾幅田測量設計が行った。現地におけるＺ座標もグリッド杭設定の際の基準杭や遺物取り上げ時の機械点杭に移設している。

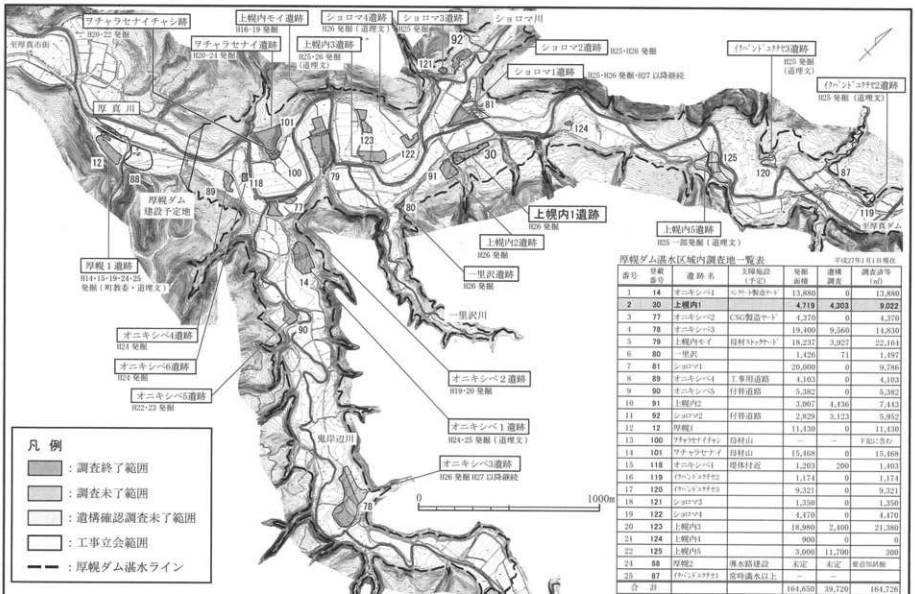
3. 包含層および遺構調査の方法

調査の準備段階として、発掘調査前年度の平成 25 年度末に調査区内及び周辺部分の伐採作業を実施した。平成 26 年 4 月下旬から人力調査範囲 A1 区について調査員と作業員の立会、作業補助のもとバックホーで表土、耕作土、火山灰を除去し、遺物包含層のⅢ層及びⅤ層の残存範囲を確認、記録した。合わせて規模の大きい撹乱穴についても重機で掘開し土砂を排出した。なお、切株や建物基礎などの構造物については抜根等を行わず周囲の調査を行っている。遺構確認調査範囲については、現地表面から調査員と作業員が立会補助のもと極少量の遺物回収を行いながら、遺構確認面のⅦ層（樽前 d テフラ）上面まで 10cm 掘開し、検出したⅤ層黒色土の落ち込みを半截、遺構判別を行った。なお遺構確認と人力調査の排土は隣接する調査区域内へ排出した。

発掘作業着手の作業員投入は、まず上層黒色土Ⅲ層上面などの調査着手面の検出作業と撹乱穴の清掃作業をスコップやジョレンで行った。この時点で耕作による削平によって既に遺構被覆土が遺失している焼土などを検出した場合は移植ゴテに切り替えて精査も行っている。同時にグリッド杭打設を測量技能作業員が中心となって行った。なおこの時点で削平範囲の平面記録を行うと同時に調査区内の地形図作成のため 1m ピッチで Z 座標単点を記録し、㈱シン技術コンサルへ等高線図作成ソフトを用いた地形図作成を委託している。

包含層の調査方法は、グリッド単位で細分層位毎に面的に広げ、出土遺物の同時期性などに留意した。掘削はⅢ層において遺物が出土する黒色土のⅢb 層まで 1～3cm の深度を移植ゴテで行った。暗褐色を呈するⅢc 層は遺物が殆ど出土しないことからジョレンで掘開し、柱穴等の確認作業を行っている。柱穴等の黒色土落ち込みの検出確認はⅢc 層中位で行い、一部はⅣ層の樽前 c テフラ上面で行っている。縄文時代の遺物包含層であるⅤ層についてはⅥ層にて遺構確認作業を行った。

遺構調査は、Ⅲ層については包含層掘開中に焼骨片や灰層、土器片や礫などを一定の範囲で集中的に検出確認した際に、堆積状態観察のためのベルトを設定してから、範囲確定の精査を

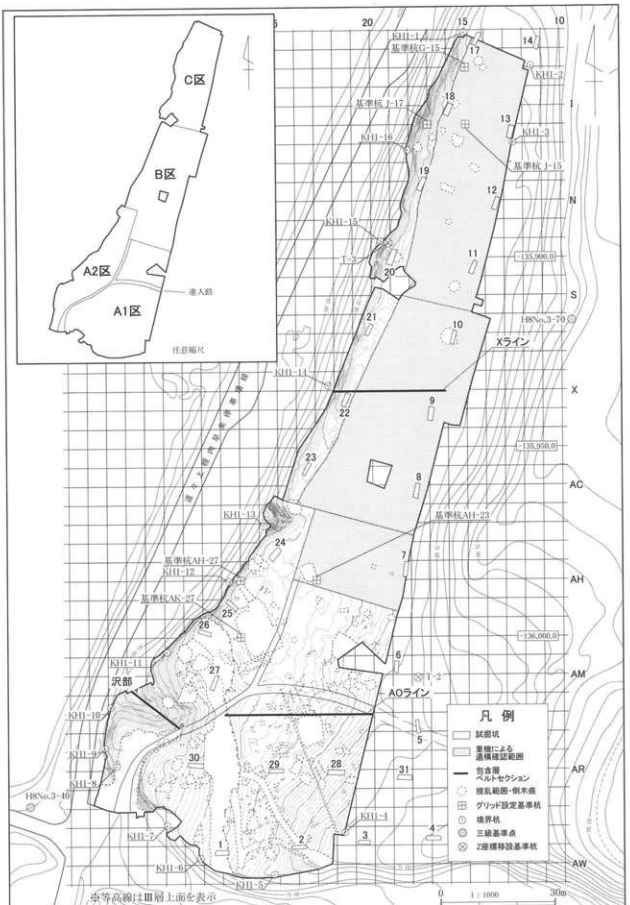


厚幌ダム湛水区域内調査地一覧表

平成27年1月1日現在

番号	登載番号	遺跡名	支障施設（予定）	発掘面積	遺構調査	調査調等（m²）
1	14	オニキシベ4	ベルト・製造ヤード	13,880	0	13,880
2	**30**	**上幌内1**		**4,719**	**4,303**	**9,022**
3	77	オニキシベ2	CSC製造ヤード	4,370	0	4,370
4	78	オニキシベ3		19,400	9,560	14,830
5	79	上幌内モイ	母材ストックヤード	18,237	3,927	22,164
6	80	一里沢		1,426	71	1,497
7	81	ショロマ1		20,000	0	9,786
8	89	オニキシベ4	工事用道路	4,103	0	4,103
9	90	オニキシベ5	付替道路	5,382	0	5,382
10	91	上幌内2		3,007	4,436	7,443
11	92	ショロマ2	付替道路	2,829	3,123	5,952
12	12	厚幌1		11,430	0	11,430
13	100	ワチャラセナイチャシ	母材山	—	—	不足に含む
14	101	ワチャラセナイ	母材山	15,468	0	15,468
15	118	オニキシベ4	埋体付近	1,203	200	1,403
16	119	イカベンドゥ3		1,174	0	1,174
17	120	イカベンドゥ2		9,321	0	9,321
18	121	ショロマ3		1,350	0	1,350
19	122	ショロマ4		4,470	0	4,470
20	123	上幌内3		18,980	2,400	21,380
21	124	上幌内4		900	0	0
22	125	上幌内5		3,000	11,700	300
24	88	厚幌2	導水路建設	未定	未定	要追加調査
25	87	イカベンドゥ2	常時満水以上	—	—	—
合	計			164,650	39,720	164,726

図Ⅰ-1 厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図



図Ⅰ-2 調査範囲・基準杭・試掘坑・メインセクション位置図

表Ⅰ-1　グリッド設定関係杭座標一覧表

杭名	X座標	Y座標	Z座標
三級基準点 H8No.3-40	-136,044.378	-20,055.726	64.510
T-2	-136,010.747	-19,953.400	74.371
T-3	-135,896.042	-19,960.520	73.390
KH1-1	-135,840.695	-19,940.294	-
KH1-2	-135,849.526	-19,922.698	-
KH1-3	-135,869.726	-19,927.498	-
KH1-4	-136,051.526	-19,972.897	-
KH1-5	-136,062.651	-19,991.502	-
KH1-6	-136,058.226	-20,010.997	-
KH1-7	-136,049.526	-20,019.698	-
KH1-8	-136,033.826	-20,032.898	-
KH1-9	-136,029.026	-20,035.998	-
KH1-10	-136,018.226	-20,034.498	-
KH1-11	-136,003.825	-20,019.498	-
KH1-12	-135,985.325	-20,002.998	-
KH1-13	-135,970.625	-19,993.998	-
KH1-14	-135,933.725	-19,976.698	-
KH1-15	-135,895.625	-19,962.498	-
KH1-16	-135,871.725	-19,955.398	-

【大・中・小グリッド区分】

図Ⅰ-3　グリッド区分図

行った。これにより遺構等の被覆層厚の記録も可能であり、層位からの帰属時期の推定条件となった。土坑や杭穴などの掘り込み等を伴う遺構については、Ⅲc～Ⅳ層（樽前ｃテフラ）上面を確認面とし、包含層の主体であるⅢb層調査終了後にこれらの遺構検出作業を行った。

Ⅴ層の遺構調査では住居跡は包含層上面で窪地として確認でき、土層観察のための十字トレンチを掘開し、床面及び壁面の立ち上がりや掘り上げ土の範囲及び堆積状態の確認作業を行った。また土坑やTピットなどはⅥ層上面を確認面とし、ジョレンで遺構平面形の検出確認作業を行った。記録図化は、完掘後にトータルステーションを用いて平面形及びエレベーションを記録し、堆積状態については半截状態で調査員が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積状態の実測を行った。遺物出土状態等微細図については、土器片や礫などの輪郭をトータルステーションで記録し、1/5や1/10縮尺でプリントした輪郭図を下地に測量技能作業員が作成した。各調査経過の写真記録は調査員が35mm一眼レフデジタルカメラで撮影した。

出土遺物は、Ⅲ層については全点、Ⅴ層は土器と石器に遺物番号を付与した。取り上げについては調査員による層位確認のうえ、トータルステーションによる3次元座標のデータ取得を行うと同時に、手簿（日付・グリッド・層位・遺物名等）の記載も行い、データ入力ミスの補完を行った。Ⅴ層の礫及びフレイク・チップに関してはトータルステーションによる位置記録を行わず、層位を記録しながら5m四方グリッドの4分割中グリッドもしくは遺構単位で取り上げている。

Ⅲ層及びⅤ層の礫集中や焼土については、調査時に各担当者が土壌サンプルを回収し、発掘現場内に設置したビニールハウス内で乾燥した後にフローテーション作業を現地で行っている。なおフローテーションや遺物水洗、調査区内の散水等で用いる作業用水は、井戸を掘削し独自に確保している。

4. 整理作業

出土遺物の一次整理は、発掘調査段階から遺物水洗、調査区遺構名や層位、種別等の台帳確認作業、注記作業を行った。11月からの整理業務は軽舞地区の整理事務所で行った。

遺構図等の実測図編集やトレース図作成については、パソコンでのデジタル編集（Os Windows Adobe IllustratorCS6）で行った。出土遺物の写真撮影は写真事務所クリークに委託し、パソコン（Os Windows Adobe PhotshopCS6）での背景の切抜き作業等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトウェアで行い、本文のWord文書と合わせて印刷所へデジタル入稿した。

遺物の収納保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは分類および調査区遺構毎にコンテナに収納し、軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）に収蔵している。（乾）

第4節　遺物の分類

1. 土器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字で群別し、アルファベットとアラビア数字で類別した。

第Ⅰ群土器　縄文時代早期に属する土器。

A類　貝殻文・条痕文土器。

B類　早期後半の東釧路式土器群。

B1類　東釧路Ⅱ式に相当するもの。

B2類　東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。

B3類　中茶路式に相当するもの。

B4類　東釧路Ⅳ式に相当するもの。

第Ⅱ群土器　縄文時代前期に属する土器。

A類　前期前半の縄文尖底・丸底土器群。

A1類　美沢3式、綱文式土器に相当するもの。

A2類　トビノ式、静内中野式に相当するもの。

B類　前期後半の円筒下層式系土器群及び並行する土器群。

B1類　円筒下層a式ないしはb式に相当するもの。

B2類　円筒下層c式ないしはd式に相当するもの。所謂フゴッペ貝塚式土器も含める。

B3類　植苗式ないしは大麻Ⅴ式に相当するもの。便宜的に宮本式の一群である横走沈線文上に刺突文を施す土器も含める。

B4類　シュブノツナイ式に相当するもの。

B5類　胎土に蛇紋岩を含む土器。

第Ⅲ群土器　縄文時代中期に属する土器。

A類　中期前半の円筒上層式系土器群。

A1類　円筒上層a式またはb式に相当するもの。

A2類　サイベ沢Ⅵ・Ⅶa・b式、厚真1式に相当するもの。

B類　中期後半から末葉の土器群。

B1類　萩ヶ岡1・2式、天神山式に相当するもの。

B2類　柏木川式に相当するもの。

B3類a種　北筒式に相当するもの。

B3類b種　煉瓦台式に相当するもの。

第Ⅳ群土器　縄文時代後期に属する土器。

A類　後期初頭の土器群。

A1類a種　古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。

A1類b種　Ⅳ群A1類a土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。

A1類c種　天祐寺式に相当するもの。Ⅳ群A1類a種土器に併存する。非在地系。

A2 類　新しい段階の余市式。タプコプ式の古手。
　　階段状の器表面や斜め下方からの刺突文
　　や縄端圧痕文が施される土器。
B類　後期前葉の土器群。
B1 類　新手のタプコプ式。縦位の棒状貼付帯
　　縄線文または地文縄文のみが施されて
　　いるもの。
B2 類　手稲砂山式に相当するもの。
B3 類　入江式、大津７群、白坂３式土器。
C類　後期中葉の土器群。
C1 類　ウサクマイＣ式に相当するもの。
C2 類　手稲式に相当するもの。
C3 類　ホッケマ式に相当するもの。
D類　後期後葉の土器群。
D1 類　堂林式、御殿山式に相当するもの。

第Ⅴ群　縄文時代晩期に属する土器群。

A類　晩期前葉の土器群。
A1 類　爪形文や刺突文を施すもの。
A2 類　大洞 B･BC 式土器に相当するもの。
B類　晩期中葉の土器群。
B1 類　縄線文や円弧文を施すもの。美々３式、
　　ママチⅠ・Ⅱ群に相当するもの。
B2 類　大洞 C1･C2 式土器に相当するもの。
C類　晩期後葉の土器群。
C1 類　ママチⅢ･Ⅳ･Ⅴ群に相当するもの。
C2 類　大洞 A･A´式土器に相当するもの。

第Ⅵ群土器　続縄文文化期に属する土器群。

A1 類　砂沢式･二枚橋式に並存する在地の土器。
a：札幌市 H37 遺跡　丘珠空港地点相当のもの。
b：いわゆる汐見式相当。縄線文が施され、地
　　文に帯縄文発達以前の土器。
A2 類　砂沢式･二枚橋式に並存する搬入系土器。
a：砂沢式土器。
b：二枚橋式土器。
B1 類　アヨロ２類土器並行の土器。
a：アヨロ２類 a 相当の土器。
b：アヨロ２類 b 相当の土器。
B2 類　アヨロ３類相当の土器。
C1 類　江別太１～３式土器。
C2 類　後北 B 式土器。
C3 類　後北 C_1 式土器。
C4 類　後北 C_2-D 式土器。
D1 類　宇津内Ⅱa 式土器。
D2 類　宇津内Ⅱb 式土器。
E1 類　北大Ⅰ式土器。
E2 類　北大Ⅱ式土器。

第Ⅶ群土器　擦文文化期に属する土器群。

A　北大Ⅲ式相当
B　擦文土器（甕形）
B1：擦文「前期」に相当するもの。主として胴部
　　上半に横走沈線のみを施す一群。
B1a：軽い段により頸部を形成した無文もしくは
　　数条の横走沈線を廻らすもの。
B1b：多条の横走沈線を施すものもの。
B2：擦文「中期」に相当するもの。
　　主として口縁部文様帯が未形成もしくは
　　単調な刻みのみの一群。
B2a：横走沈線を地文とし、刻文を重ねるもの。
B2b：刻文のみのもの。
B2c：無文のもの。
B3：擦文「後期」に相当するもの。
　　主として口縁部文様帯を形成した一群。
B3a：横走沈線を地文とするもの。
B3b：綾杉文主体のもの。
B3c：斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状文、
　　「X」字状文等を施すもの。
B3d：胴部文様帯を３段以上に区画した上でⅦ
　　B3a～c の文様要素を施したもの。
B3e：無文のもの。
B3f：口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせたもの。

C　撚文土器（坏形）

C1：台部を有さないもの。

C2：平底の低い台部を有するもの。

C3：平底の高台部を有するもの。

C4：上げ底の高台部を有するもの。

C4a：口縁部に沈線を有するもの。

C4b：体部に刻文を施すもの。

D　撚文土器（鉢形・壺形）

E　ロクロ成形土器

E1：甕形

E2：壺形

E3：鉢形

E4：坏形

E4a：軟質で内面黒色処理を施さないもの。

E4b：軟質で内面黒色処理を施すもの。

E4c：硬質で酸化炎焼成のもの。

E4d：硬質で還元炎焼成のもの。

2. 剥片石器

ポイント類

長軸4㎝を境に石鏃と石槍・石銛とを区分した。

A「石鏃」

1　細身で薄手のもの。

2　無茎のもの。

a：鏃身部が正三角形。

b：鏃身部が二等辺三角形。

3　明瞭な茎部をもつもの。

a：鏃身部が正三角形。

b：鏃身部が二等辺三角形。

4　不明瞭な茎部を持つもの。

B「石槍」・「石銛」

1　明瞭な茎部をもつもの。

a：茎部端が尖らない。

b：茎部端が尖る。

2　不明瞭な茎部をもつもの。

a：茎部端が尖らない。

b：茎部端が尖る。

C　欠損品・未成品

石錐

A　剥片の一部に機能部を作出したもの。

B　柄と機能部の区別が明瞭なもの。

C　柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。

D　柄と機能部の区別が不明瞭で棒状のもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A　「つまみ付きナイフ」

1　素材の周縁にのみ加工を施したもの。

2　素材の片面ほぼ全体に加工を施したもの。

3　素材の両面全体に加工を施したもの。

B　素材端部に刃部が形成されているもの。

1　「ラウンド・スクレイパー」

2　「エンド・スクレイパー」

C　素材側縁に刃部が形成されているもの。

1　「サイド・スクレイパー」

a：原石・転石面無。

b：原石・転石面有。

2　「コンケイブ・スクレイパー」

a：原石・転石面無。

b：原石・転石面有。

3　「抉入石器」

D　欠損品

RF・UF

縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものをRF、使用によると思われる微細剥離のあるものをUFとして扱っている。

ピエス・エスキーユ

両極打撃による剪断面のあるもの。

石核

石器素材となる剥片を剥離した面で構成されるもの。

火打石

珪質な石材を素材に、連続的な剥離によるジグザグ状の側面観の稜をもつもの。

3. 礫石器

石 斧

A　磨製石斧

1　平面形が撥形。

a：片刃のもの。

b：両刃のもの。

2　平面形が短冊形。

a：片刃のもの。

b：両刃のもの。

B　未製品1：剥離・敲打により完成品近くまで整形されているもの。

C　未製品2：礫皮を残し、剥離・敲打により素材礫の形状が不明瞭なもの。

D　未製品3：剥離・敲打が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

Ⅰ　平面形が縦長のもの。

A　扁平のもの。

1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3　1・2が並存するもの。

B　棒状または角柱状のもの。

1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの

2　素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3　1・2が並存するもの。

Ⅱ　平面形が方形～不整形で幅広のもの。

A　扁平のもの。

1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2　素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3　1・2が並存するもの。

B　厚手のもの。

1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

2　素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打を有するもの。

3　1・2が並存するもの。

Ⅲ　平面形が円～楕円形のもの。

A　扁平のもの。

B　球形または棒状のもの。

Ⅳ　礫片が素材となるもの。

Ⅴ　破片で上記に分類出来ないもの。

すり石

側縁稜などに平坦なすり面をもつもの。

A　断面三角形の礫の稜にすり面のあるもの。

B　断面方形の礫の稜にすり面のあるもの。

C　扁平な礫の側縁にすり面があるもの。

1　敲打による整形のあるもの

2　敲打による整形のないもの

D　北海道式石冠。

砥 石

使用面が溝状に窪み、直線状の線条痕が見られるもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。線条痕はほとんど観察できない。

線条痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

石皿・台石

（便宜的に）素材礫の重量が900 g以上で、礫平坦面に擦り面・敲打痕があるもの。

加工痕のある礫

側縁に連続的な剥離があり、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず、側面観が直線状となるもの。

第５節　調査結果の概要

1. Ⅲ層の調査

遺跡の中央山側にかけては、縁辺部を除いて畑の造成によって、削平されておりⅢ層は残っていなかった。

調査したアイヌ文化期は黒色土を 2～3cm 被覆している遺構及び遺物を対象としている。検出層位は概ねⅢb 層中位である。擦文文化期の遺構とアイヌ文化期の遺構は、層位的に明瞭な区別はできなかったが、擦文文化期は概ねⅢb 層中位から下位にかけて遺物が出土した。本遺跡では、白頭山苫小牧火山灰（B-Tm）が散見でき、擦文文化期の遺物は B-Tm の上位から出土した。縄文文化期に属する遺物の出土層位はⅢc 層であるが、遺物の出土した区域には B-Tm が確認できなかったため層位的な上下関係は把握できなかった。

Ⅲ層で検出した遺構は、アイヌ文化期の平地式住居跡３軒、擦文文化期～アイヌ文化期にかけての平地式住居跡１軒、アイヌ文化期の建物跡２軒、擦文文化期の遺物集中区１ヵ所ほか、アイヌ文化期の土坑、焼土、遺物集中、杭列跡、道跡である。平地式住居跡は台地中央部で検出しており、東側に獣骨集中を伴っている。

2. Ⅴ層の調査

遺跡北半部の撹乱は、段丘縁辺部を除いてⅥ・Ⅶ層まで削平している部分が多く、同層位からは、Ｔピットなど深い遺構のみが残存していた。北端の一部は、撹乱が浅く、住居跡１軒・石斧類集中１ヵ所を検出している。Ｔピットは 45 基検出され、列状に並ぶものや、２基セットになるものも見られた。縄文時代後期の礫集中がＴピット覆土に落ち込んでいるような状態で検出され、Ｔピットの時期を判断する資料となり得る。土器集中は 13 ヵ所、礫集中は４ヵ所確認され、段丘縁辺部から中央部にかけて分布している。縄文時代早期後葉の土器集中は段丘縁辺部に集中している。

表Ⅰ-2　上幌内1遺跡検出遺構一覧表

項　目	Ⅲ層 続縄・擦文・アイヌ文化期	Ⅴ層 縄文時代
人力発掘調査面積	4,719㎡	
重機遺構確認調査面積	4,303㎡	
住居跡	4	1
建物跡	2	－
集中区	1	－
土　坑	3(3)	1
焼　土	14(12)	－
Tピット		45

項　目	Ⅲ層 続縄・擦文・アイヌ文化期	Ⅴ層 縄文時代
杭列跡	3	－
道　跡	1	－
土器集中	4	13
石斧類集中	－	1
鉄器集中	1	－
礫集中	1(3)	4
獣骨集中	2(5)	－

※（　）の数字は住居跡または集中区に含まれる遺構

表Ⅰ-3　上幌内1遺跡出土遺物一覧表

層位	種別													合計
	土器	剥片石器	礫石器	土製品	石製品	鉄製品	銅製品	石斧石器製作片	剥片類	礫		木製品	骨角器	
	P	FT	ST	PP	SP	IP	BP	SFC	FC	S		WP	BBP	
Ⅲ層	1,091	8	39	－	－	47	1	2	26	1,568		1	1	2,784
Ⅴ層	1,712	73	245	1	2	－	－	5	851	968		2	－	3,859
表採	－	－	－	－	－	－	－	－	－	32		－	1	33
合計	2,803	81	284	1	2	47	1	7	877	2,568		3	2	6,676

第6節　遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A　地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振総合振興局管内の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川流域に広がる、人口4,709人（平成27年1月末日現在）の農業の町である。町域の総面積は404.61㎢で、流路52.3kmの二級河川厚真川水系と同入鹿別川右岸に広がり南北32.5km、東西17.3kmと細長く、南部は約6.5kmにわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。

北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端域の標高200～600mの山地が続き、町域総面積の約70%を山林が占めている。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高100m前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東）内で苫小牧市と接する。厚真の語源は3説ほどあるが、有力な説としてアイヌ語の「アットマム」（at-to-mam・向こうの湿地帯）で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという（厚真村 1956）。

以下に厚真川中流域から本遺跡が所在する厚真川上流域にかけての概略を述べる。

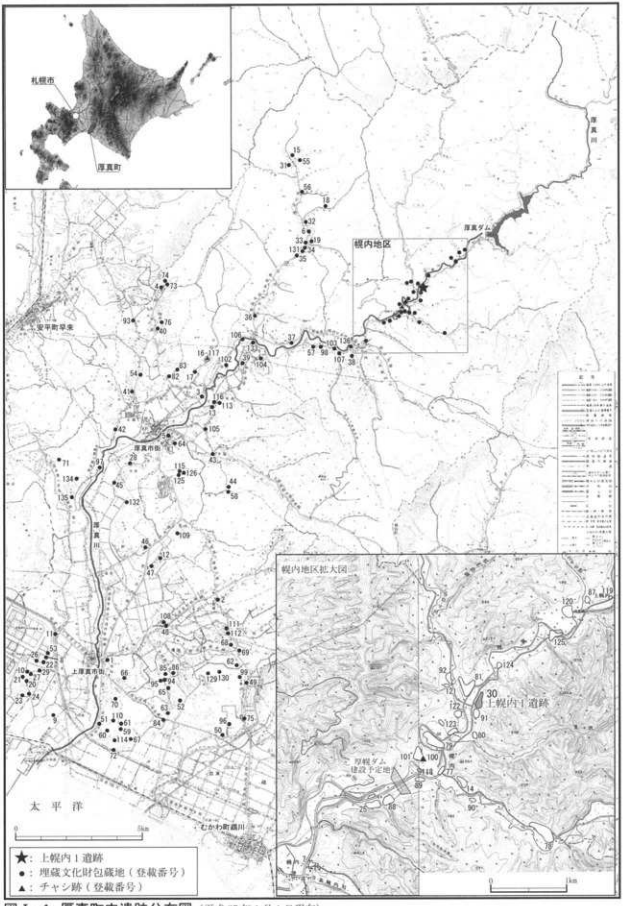
厚真町の中心市街地は厚真川中流域にあり、鵡川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展してきた。また、平成3年に日勝峠を含む「石勝樹海ロード」が全面開通する以前は札幌方面から厚真町市街地を通過し、日高・十勝へ抜けるルートともなっていた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追丘陵南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中流域から上流域にかけては、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。中流域最奥部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部でもあり、本流とシュルク川、幌内川の3河川の合流点である。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、明治44年から昭和24年まで早来駅とを結ぶ軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。山地は標高400m以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜で壮年期地形の様相を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との1市2町の境界線付近、標高500m付近の夕張山地南域に源流部がある。

B　歴史的環境

(1) 先史時代

厚真町内には現在136ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近現代の軌道跡やトーチカなど第二次世界大戦時の戦争遺跡まで時期幅がある（図Ⅰ-4、表Ⅰ-4・5）。遺跡の分布傾向は開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区と北部の高丘・幌内地区にやや密集する傾向がある。他の市町村と異なる特徴として、これらの北部地区の遺跡は安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町豊田・穂別・稲里地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と思われる。

時期的には上幌内モイ遺跡で後期旧石器（札滑型細石刃核等）のブロックが調査されている。



図Ⅰ-4　厚真町内遺跡分布図（平成27年1月1日現在）

表Ⅰ-4　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

登載番号	種別	名称	時代	文献等
1	遺物出土地	上厚真遺跡	縄文中期、続縄文期、擦文期	1
2	遺物出土地	軽舞遺跡	縄文中期、続縄文期	1
3	遺物出土地	朝日遺跡	縄文中～晩期、続縄文期、擦文期、近代	1,2,31
4	遺物出土地	幌里1遺跡	縄文中・晩期、続縄文期	1
5	遺物出土地	新町遺跡	縄文早・中期、続縄文期、アイヌ期	1,4,6
6	遺物出土地	高丘1遺跡	縄文中期・続縄文期、擦文期、アイヌ期	1
7	遺物出土地	幌内1遺跡	縄文中・後期	1
8	集落跡	共和遺跡	縄文晩期、続縄文期、擦文期	1,8
9	遺物出土地	浜厚真遺跡	詳細不明	
10	墳穴遺構	厚真10遺跡	縄文中・晩期	3,8
11	遺物出土地	厚真11遺跡	縄文時代	
12	遺物出土地	豊沢1遺跡	続縄文期	1
13	遺物出土地	東和遺跡	縄文後期	1
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	縄文早～晩期、擦文期	1
15	遺物出土地	高丘3遺跡	縄文中期	
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	中世アイヌ期	4,6
17	遺物出土地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物出土地	高丘2遺跡	詳細不明	
19	集落跡	高丘10遺跡	詳細不明	
20	集落跡	厚真1遺跡	縄文中期	8,13
21	墳穴遺構	厚真2遺跡	縄文時代	8
22	墳穴遺構	厚真3遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期	10
23	集落跡	厚真4遺跡	縄文中・後期、続縄文期、近代	
24	遺物出土地	厚真5遺跡	縄文時代、続縄文期	
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、中・近世アイヌ期	18,30,38
26	集落跡	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期	9
27	集落跡	厚真8遺跡	縄文早・中～晩期、続縄文期	8
28	墳穴遺構	美里2遺跡	縄文早・中期	
29	墳墓	厚真12遺跡	縄文早・後・晩期、擦文期	10
30	集落跡	上幌内1遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	
31	遺物出土地	高丘4遺跡	縄文時代	
32	遺物出土地	高丘5遺跡	縄文時代	
33	遺物出土地	高丘6遺跡	縄文時代	
34	遺物出土地	高丘7遺跡	縄文中期	
35	遺物出土地	高丘8遺跡	縄文時代	
36	遺物出土地	高丘9遺跡	縄文早期	
37	遺物出土地	富里1遺跡	縄文中・後・晩期、アイヌ期	1
38	遺物出土地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物出土地	チコマナイ遺跡	縄文時代	
40	遺物出土地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物出土地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物出土地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物出土地	宇陸1遺跡	擦文期	16,32
44	遺物出土地	宇陸2遺跡	縄文後期	
45	遺物出土地	美里1遺跡	縄文中期	1
46	遺物出土地	豊沢2遺跡	擦文期	
47	遺物出土地	豊沢3遺跡	続縄文期	
48	遺物出土地	鱒沼1遺跡	詳細不明	1
49	遺物出土地	鹿沼2遺跡	縄文中期	5
50	遺物出土地	鹿沼1遺跡	縄文早期	5
51	遺物出土地	厚和1遺跡	縄文中期、アイヌ期	1,4,6
52	遺物出土地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	墳穴遺構	厚真13遺跡	縄文早期	10
54	遺物出土地	本郷3遺跡	縄文時代	
55	遺物出土地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物出土地	高丘12遺跡	縄文時代	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前期、近世アイヌ期	32
58	墳穴遺構	豊沢4遺跡	縄文早・後期	
59	遺物出土地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物出土地	厚和3遺跡	縄文後期	
61	遺物出土地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物出土地	鹿沼4遺跡	縄文時代	
63	遺物出土地	厚和5遺跡	縄文時代	
64	遺物出土地	新町2遺跡	縄文後期	
65	遺物出土地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物出土地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物出土地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	墳穴遺構	鱒沼2遺跡	縄文時代	14
69	遺物出土地	豊丘遺跡	縄文前期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文前～後期	15
72	墳穴遺構	浜厚真3遺跡	縄文早期	17
73	遺物出土地	ニタッポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物出土地	幌里神社遺跡	縄文時代	
75	墳穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期	
76	墳穴遺構	幌里3遺跡	縄文時代	
77	集落跡・墳墓	オニキシベ2遺跡	縄文中・後期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	33
78	遺物出土地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	
79	集落跡・墳墓	上幌内モイ遺跡	旧石器、縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	19,2,22,24,26,27,28
80	墳穴遺構	一里沢遺跡	縄文時代、アイヌ期	4,5,21
81	集落跡	ショロマ1遺跡	縄文前・後期、続縄文期、擦文期、アイヌ期	
82	遺物出土地	東ニタッポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物出土地	東ニタッポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物出土地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	集落跡	鱒沼3遺跡	縄文前～後期	20,23,25
86	遺物出土地	鱒沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物出土地	イクパンドニクチセ遺跡	縄文後期	
88	墳穴遺構	厚幌2遺跡	縄文前期	
89	集落跡	オニキシベ4遺跡	縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期、近代	39
90	集落跡	オニキシベ5遺跡	縄文中期・後期	36
91	集落跡・墳墓	上幌内2遺跡	縄文早～後期、続縄文期、擦文期、アイヌ期	
92	集落跡	ショロマ2遺跡	縄文早～後期	
93	墳穴遺構	幌里4遺跡	縄文時代	

表Ⅰ-5　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)

登載番号	種別	名称	時代	文献等
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中・後期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文時代	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	続縄文期、擦文期	
98	集落跡	幌内6遺跡	縄文前～晩期、擦文期、中世アイヌ期	
99	集落跡	鹿沼7遺跡	縄文前～晩期	
100	チャシ跡	ヲチャラセナイチャシ跡	中世アイヌ期	35
101	集落跡	ヲチャラセナイ遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	33,35,40
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	集落跡	幌内7遺跡	縄文前～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	
104	集落跡	ニタップナイ遺跡	縄文前～晩期、続縄文期、擦文期、近世アイヌ期、近代	29,32
105	遺物包含地	宇陪3遺跡	縄文中期	
106	集落跡	富里2遺跡	縄文後・晩期、擦文期、近世アイヌ期	32
107	集落跡・墳墓	オコッコ1遺跡	縄文前～後期、擦文期、中世アイヌ期	
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期、続縄文期	
109	遺物包蔵地	豊沢5遺跡	縄文後・晩期	
110	遺物包含地	厚和10遺跡	縄文早・中・後期	
111	埋穴遺構	豊丘2遺跡	縄文早期	
112	遺物包蔵地	豊丘3遺跡	縄文中期	
113	遺物包蔵地	東和2遺跡	縄文晩期	
114	遺物包含地	浜厚真5遺跡	縄文後期	
115	遺物包蔵地	豊沢6遺跡	縄文早・中・後期	
116	遺物包蔵地	東和3遺跡	縄文早期	
117	遺物包含地	桜丘2遺跡	縄文中期	
118	遺物包含地	オニキシベ6遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期	41
119	埋穴遺構	イトウンドコタチ2遺跡	縄文早・中～晩期	
120	集落跡	イケウンドコタチセ3遺跡	縄文中・後期、擦文期、中世アイヌ期	
121	集落跡・墳墓	ショロマ3遺跡	縄文早～後期、続縄文期、擦文期	42
122	集落跡・墳墓	ショロマ4遺跡	縄文早・中・後期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	
123	集落跡・墳墓	上幌内3遺跡	縄文中・後期、続縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期、近代	
124	遺物包含地	上幌内4遺跡	縄文中期、中世アイヌ期	
125	埋穴遺構	上幌内5遺跡	縄文時代	
126	遺物包含地	豊沢7遺跡	縄文中・後期	
127	遺物包含地	豊沢8遺跡	縄文後期	
128	遺物包含地	ヲイカルマイ遺跡	続縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期、近代	37
129	遺物包含地	長沼1遺跡	縄文早期	
130	遺物包含地	長沼2遺跡	縄文中期	
131	遺物包含地	高丘13遺跡	縄文前期、擦文期	
132	遺物包含地	上野1遺跡	縄文中期	
133	遺物包含地	富里3遺跡	縄文中・晩期、中・近世アイヌ期	
134	遺物包含地	豊川3遺跡	縄文晩期	
135	遺物包含地	三ヶ月沼遺跡	縄文晩期	
136	遺物包含地	幌内8遺跡	縄文前・中期	

関連文献

1：厚真村郷土研究会 1956『厚真村古代史』 2：亀井喜久太郎 1957「厚真出土の土偶」『先史時代3』 3：苫小牧市教育委員会 1974『苫小牧東部工業地帯内埋蔵文化財分布調査報告書』 4：亀井喜久太郎・池田実 1976『厚真の旧地名を尋ねて』 5：勝川町教育委員会 1977『勝川町遺跡分布報告』 6：亀井喜久太郎・池田実 1978『続厚真の旧地名を尋ねて』 7：松浦武四郎(高倉新一郎校訂) 1985『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』 8：苫小牧市教育委員会 1986『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』 9：苫小牧市教育委員会 1987『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』 10：苫小牧市教育委員会 1990『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』 11：苫小牧市教育委員会 1992『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』 12：苫小牧市教育委員会 1995『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅴ』 13：赤石慎三 1999「苫小牧地方の円筒土器式について」『苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報1』 14：厚真町教育委員会 2001『鯉沼2遺跡』 15：厚真町教育委員会 2001『豊川1遺跡』 16：鈴木信 2001「Ⅳ-4 北海道の中世陶磁器」『千歳市ユカンボシC15遺跡(4,5)附)北海道埋蔵文化財センター159 17：(財)北海道埋蔵文化財センター 2003『厚真町浜厚真3遺跡』 18：厚真町教育委員会 2004『厚幌1遺跡』 19：厚真町教育委員会 2005『上幌内モイ遺跡発掘調査概要報告書』 20：厚真町教育委員会 2005『鯉沼3遺跡』 21：義島栄紀 2005「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高Ⅰ)』 22：厚真町教育委員会 2006『上幌内モイ遺跡(1)』 23：厚真町教育委員会 2006『鯉沼3遺跡(2)』 24：厚真町教育委員会 2007『上幌内モイ遺跡(2)』 25：厚真町教育委員会 2008『鯉沼3遺跡(3)』 26：出穂雅実他 2008『論集忍路子Ⅱ』 27：間根達人 2008「平泉文化と北方交易2－擦文期の銅鏡をめぐって－」『平泉文化研究年報8』 28：厚真町教育委員会 2009『上幌内モイ遺跡』発掘調査報告書(3)』 29：厚真町教育委員会 2009『ニタップナイ遺跡(1)』 30：厚真町教育委員会 2010a『厚幌1遺跡(2)・幌内7遺跡(1)』 31：北海道大学附属図書館HP.北方資料データベース　32：厚真町教育委員会 2010b『幌内5遺跡(1)・富里2遺跡・ニタップナイ遺跡(2)』 33：厚真町教育委員会2011『オニキシベ2遺跡』 34：苫小牧民報社2011.3.3 新聞記事 35：厚真町教育委員会2013a『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡』 36：厚真町教育委員会2013b『オニキシベ5遺跡』 37：厚真町教育委員会2013c『ヲイカルマイ遺跡』 38：厚真町教育委員会2014a『厚幌1遺跡(3)』 39：厚真町教育委員会2014b『オニキシベ4遺跡』 40：厚真町教育委員会2014c『ヲチャラセナイ遺跡』 41：厚真町教育委員会2014d『オニキシベ6遺跡』 42：厚真町教育委員会2014e『ショロマ3遺跡』

縄文時代では浜厚真3遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している(道埋文2003)。後続する東釧路Ⅲ式やコッタロ式土器が多量に出土する早期後葉の遺跡は、厚真川中流域以南に分布しており、上流域の幌内地区では、散発的な極少量の遺物が出土しているに過ぎない。上流域では、中茶路式期以降が遺跡の増加傾向にあり、厚真川流域において縄文時代の人の拡散を考えると、海岸部から内陸部への進出が想定できる。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の静内中野式期で、厚幌2遺跡（88）、オコッコ1遺跡（107）、幌内5遺跡（57）ニタップナイ遺跡（104）、豊丘遺跡（69）、鹿沼7遺跡（99）などでは多量の被熱礫や哺乳綱の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認されている。この時期の遺跡は湧水地点に隣接する特徴的な立地で、鹿沼7遺跡や幌内5遺跡、ニタップナイ遺跡、オコッコ1遺跡では露頭や試掘調査で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期で遺跡数がピークとなる。縄文時代後期中葉から後葉にかけては遺跡数が激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。続縄文文化期から擦文文化期前期にかけての遺跡数も少ない。この様な各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市の傾向と一致している。しかし、厚真町内では白頭山苫小牧火山灰 B-Tm 降下（10世紀前葉）以降の擦文中期以降に再び遺跡数が増加する点において、隣接する苫小牧市とは異なる様相を示している。アイヌ文化期についても、厚幌ダムや厚幌導水路建設事業に伴う発掘調査で13世紀以降17世紀中葉に至るまでの数多くの遺構・遺物が検出されており、中世アイヌ文化期の一様相の解明に期待が高まっている。

(2)町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究・活用は、大正5年、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を、教材として学校に保管する許可書が発行されたのが最初である（厚真村郷土研究会1956）。これ以降、現在に至るまでを大きく3期に分けることが可能である。

a. 厚真村郷土研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和20年代後半から40年代中頃）

元厚真村長　亀井喜久太郎氏が昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報での遺物紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を発刊した（厚真村郷土研究会1956）。また分布調査なども積極的に行い、埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「厚真村郷土研究会」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残している。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模発掘「苫東調査」（昭和48年から昭和54年）

昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、59年までの12年間で厚真町域では新規登載14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。昭和51年調査の厚真1遺跡（苫小牧市教育委員会1986）では、この地域で初めてのTピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真1式土器」（赤石1999）の標識遺跡でもある。厚真7遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡8軒、石狩川中流域を中心に分布する「丸のみ形石斧」も出土した（苫小牧市教育委員会1987）。共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡2軒を調査している（苫小牧市教育委員会1987）。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始（平成10年以降）

道教委による豊川1遺跡、鯉沼2遺跡などの調査が行われたほか、高規格道路日高自動車道の建設に伴う浜厚真3遺跡の調査では、187基のTピットが検出されている（道埋文2003）。

平成12年にはダム事務所より厚幌ダム建設事業に係る事前協議書が提出され、A・B調が開始された。発掘調査は平成14年から町教委により継続的に行われ、上幌内モイ遺跡、オニキシベ2・4・5・6遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡、ヲチャラセナイ遺跡、ショロマ2・3遺跡、一里沢遺跡など10遺跡の発掘調査を終えている。また平成24年度からは道埋文も本事業の調査に入り、平成27年度までの14年間の調査面積は約164,726㎡で全体面積の約80%の進捗率となっている。

平成15年には総延長24.5kmに及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、B調等は未了箇所があるものの、現在11遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認されている。平成19年度から発掘調査が開始され、厚真川中流域富里地区のニタップナイ遺跡、富里2遺跡、幌内地区の幌内5・7遺跡や厚幌1遺跡で発掘調査を行った。これらの大規模開発に伴う発掘調査は、平成28年秋まで継続し、29年度に整理業務を終え、ダム事業に係る一連の埋蔵文化財発掘調査業務を完了する予定となっている。

(3)歴史時代

厚真町に係わる最初の記述は、1692（元禄5）年に書かれた『続々類従本蝦夷記』でシャクシャインの戦いにおいて「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」というものである（野澤1692）。その後、寛政年間（18世紀末）に八王子千人同心等数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはなかった。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鵡川間の厚真川河口周辺や千歳と日高間の富里地区の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したものは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』（松浦・吉田1962、松浦・高倉1985）で、1857（安政5）年6月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ（現富里）にて3泊している。この時、町内にはアツマ（厚真河口）、キムンコタン（現厚和・厚和1遺跡）、シナイ（現新町・新町遺跡）、チケツヘ（現本郷）、トンニカ（現富里）、ニタツナイ（現富里・ニタップナイ遺跡周辺）の5ヵ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、これまでの地域とは別格として記している。しかし直前に襲った厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記されており、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。上流部に関しては聞き取りによるもので、夕張方面への交通路やシカやワシ・タカ類の狩猟に関する記述がある。武四郎の日誌からは、上流域におけるこの時期の集落跡は存在せず、無人地帯となっていたことがわかり、中世アイヌ文化期から近世アイヌ文化期にかけて厚真川流域における社会・集落構造の変容が分かりつつある。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、本遺跡を含め厚幌ダム水没地域内の試掘・発掘調査で確認された上幌内モイ遺跡、オニキシベ2遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡、ヲチャラセナイ遺跡、上幌内2遺跡、導水路事業で富里2遺跡、ニタップナイ遺跡などのほか、厚和1遺跡、幌内5遺跡では耕作により近世アイヌの土坑墓が単独で発見されている。

2. 遺跡の位置と周辺の環境

A　地理的環境

遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲としたい。この範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、以後、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区の中で比較的大きな支流である鬼岸辺川、ショロマ川がある。分水嶺を介して鬼岸辺川は東方の鵡川水系むかわ町豊田地区へ、本遺跡が所在するショロマ川は分水嶺を越えて石狩川水系夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、ショロマ川との合流点より約 4.8km 上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鵡川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区は標高約 150～250m の山頂に囲まれ、厚真川が浸食開折した谷状の地形で緩やかに傾斜する“線状”の地域となっており、遺跡群は流域に形成された河岸段丘上に立地している。厚真川流域の段丘面は上流～中流域まで発達し、厚真川上流域の上幌内モイ遺跡周辺の段丘面を標識として T_0～T_5 面に細分されている（出穂 2006）。本流河川面との比高差や支笏、恵庭、樽前の各火山灰の堆積状態から離水時期がわかり、他地域よりも詳細に把握することができる。支流域まで含めた詳細な検討はされていないものの、概ね連動していると思われる。

本遺跡は夕張山地南端部、厚真川河口から約 35.6km に位置し、厚真川の左岸に所在している。山塊先端部の段丘面 T_2（現地表面標高約 68～71m）と T_1（現地表面標高約 65m）に遺跡は形成されている。段丘面は南端部から厚真川本流沿いの北北東方向に約 215m、幅約 30-70m の段丘面 T_2 が形成されている。この T_2 面南端部に北西－南東軸を長軸とする狭小な低位段丘面 T_1 が形成されている。なお、東に隣接する厚真川との比高差は T_1 面で 7m、T_2 面で 12m 前後となっている。

周辺環境として厚真川とショロマ川との合流点の東側に位置する本遺跡の北側にはショロマ川を挟んで、標高 85m 前後の段丘面 T_4、標高 95m 前後の段丘面 T_5 が続き、標高 290m の山頂へと続く山体がある。ショロマ川の右岸には標高 300m 前後の南北に連なる山稜があり、東側には標高 200～260m の山体によって三方向を囲まれている。本遺跡の南から南西方向にかけては広い氾濫原が形成され、谷状地形によって日照条件は好条件となっている。

B　歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 24 遺跡と 1 ヵ所のチャシ跡が所在する（図Ⅰ-1）。最上流のイクバンドユクチセ 2 遺跡（J-13-87）は厚真川の河口より約 37km の地点にあるが、さらに約 1.5 km上流に位置する厚真ダム堤体付近にも遺跡が所在していたという。調査対象の約 80%を終え本地区の特徴が見え始めている。時期的な特徴として縄文時代の遺跡は中茶路式期以降であり、これ以前の東釧路系土器群や貝殻文系土器群はほぼ皆無に近い。また、中茶路式と東釧路Ⅳ式土器がセットとなって出土し、これらに石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器が伴う。これに対し、厚真川中下流域や苫小牧市苫東地区での試掘・発掘調査ではコッタロ式や東釧路Ⅲ式、貝殻文・条痕文系土器群の遺跡が確認されており、厚真川流域においては海岸部から上流域への縄文文化の進入拡散が想定される。継続する縄文前期前半期も遺跡や出土遺物が少ない傾向にあり、本地域での遺跡数や遺構数増加は縄文時代前期後葉の植苗式から円筒土器上層 a 式期にみられ、平成 20～24 年度にかけて発掘調査したヲチャラセナイ遺跡も当該期の集落跡である（町教委 2013・2014）。また縄文時

代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群も各遺跡から出土しており、この時期の富良野盆地系土器も多産している。時期の偏りが見受けられると同時に富良野盆地系土器が伴う特徴も見逃せない。また擦文文化期中期後半以降、中世アイヌ文化期に至るまでの遺跡数も多い。発掘調査が行われた遺跡は本遺跡のほか、厚幌１遺跡、上幌内モイ遺跡、オニキシベ２遺跡、上幌内２遺跡などがあり、平成20･22年度にはヲチャラセナイチャシ跡も全面発掘調査されている。しかし、17世紀前葉以降のアイヌ文化期の遺跡数は極端に減少し、本地区での寛永通寶や煙管の出土例は今のところ確認されていない。1667年降下の樽前ｂテフラを直接被覆する大木に伴うシカ送り場跡が確認されていることから、本地区は集落居住域から後述する狩猟区域として位置づけを変えていった可能性が見えてきている。

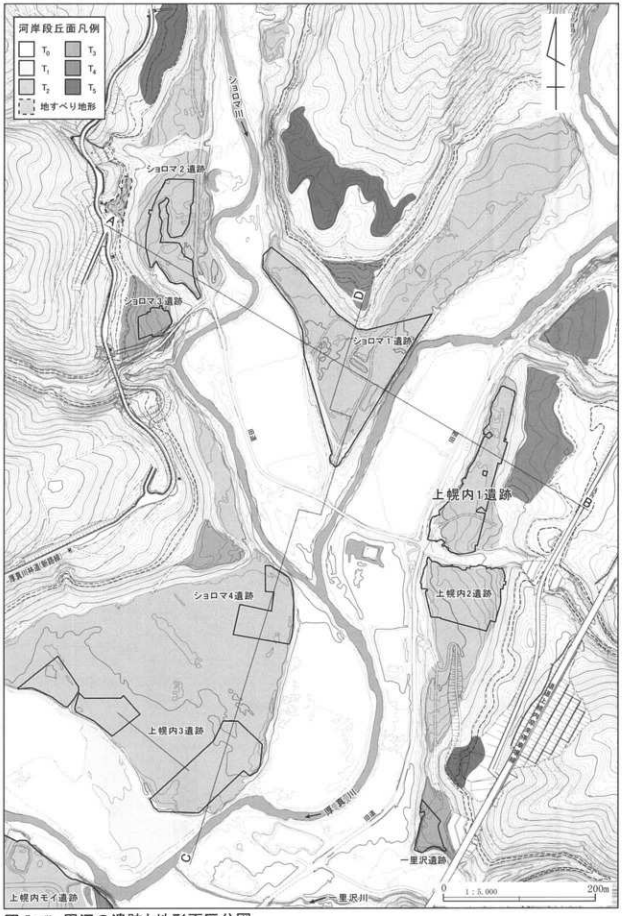
C 松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、先述の松浦武四郎の記録が最も古い。本地区にはヲチャラセナイやカニシユウ（現一里沢遺跡）、ヲニケレベ（現鬼岸辺）、シヨウロマ（現ショロマ）、メルクンナイなどの多数の地名が記載されている。特徴としては、「ル」（路）の付く地名が多く、複数の山越えルートが存在する地域でもある。厚真川から鵡川水系へは厚真ダム左岸のメルクンナイ～鵡川水系穂別川へのパンケオピラルカ川へ、鬼岸辺川～良樹ノ沢（ルーマキウシ）～鵡川～パンケルベシベ川～沙流川水系オサチナイ沢川へのルートが想定される。

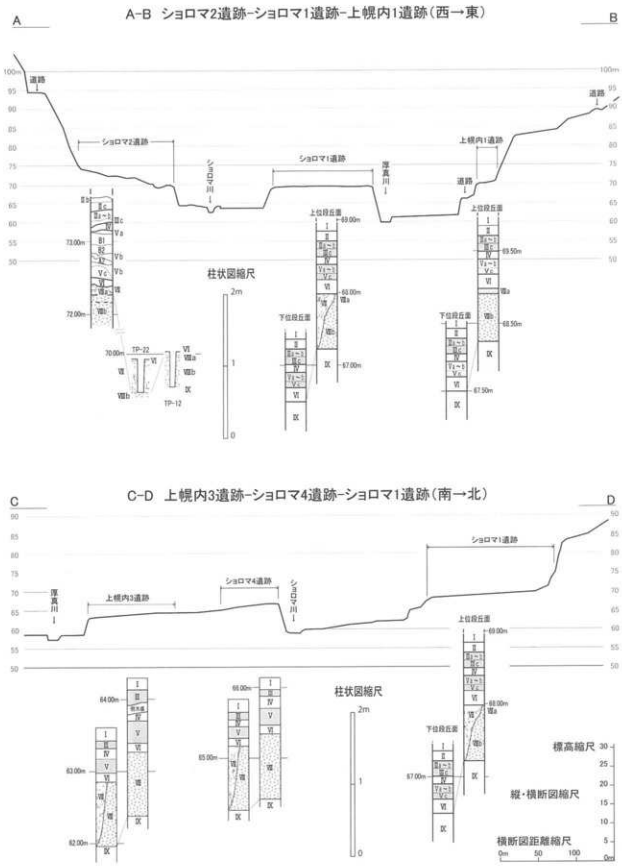
シヨロマ（現ショロマ川）も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ（滝）・ル（路）・マ（泳ぎ渡る）とも読み取れる。明治29年発行の地形図には「ショルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を馬車道として木材や木炭を運び出したこと、明治･大正期の夕張山地への熊狩の記録（厚真村史 1956）から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛（おそうし）へのルートが想定される。現在は「厚真川林道」で通り抜けることが可能である。

これらのルートは厚真川本流とオニキシベ川との合流点付近で１本となり、対岸に位置するヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と鵡川流域、沙流川流域や日高方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点に立地している。人やモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定でき、考古学的にも縄文時代早期からの富良野盆地系土器や道東北地域の縄文土器、黒曜石原石、豊富な金属製品の出土がその証拠ともなろう。

ショロマ川流域に関する武四郎の記述は「西岸川巾五六間、急流峨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」と記され、この流域について「マタヤツチセ　是冬分鷲、熊等を取に来りし時の小屋」、「ソウ　滝に成て此処に落る。少し此辺より上一面の椴木立に成り」、「ベンケヤツチセ　是も狩師の立置処～中略～うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当るとかや」と３つの地名等を書き記している。この記述からも夕張へのルートの他、鷲鷹、熊狩の地域でもあることが記されている。なお、ユウハリのソウホコマナイ（草木舞川）には夕張市滝ノ上チャシ跡が所在している。（乾）



図Ⅰ-5　周辺の遺跡と地形面区分図



図Ｉ-6 上幌内1遺跡周辺の地形断面図

3. 調査区内の地形と地質

A　地形

発掘調査区の標高は67.5～73.5m、大半が段丘面T_2面（標高69m以上）に属する。T_2面はⅧ層の樽前dテフラ降下以前に離水した段丘面であるが、ショロマ1遺跡他で確認されたイベント堆積物の洪水堆積層（Ⅶ層）はみられない。遺跡の南端、進入路の北側にわずかなT_1面が残り、縄文時代後期前葉の土器集中を検出したが、Ⅶ層は見られず、河川の浸食を受けていたことがわかる。調査区西側は厚真川の氾濫原となり、段丘崖は大きく切土掘削され、一部に段丘基盤層（シルト層・礫層）が露出している。

本遺跡と上幌内2遺跡との間には厚真川に注ぐ沢が開析している。本遺跡の南側や上幌内2遺跡の北側は基層の礫層が盛り上がっており、樽前d層以降も同様に盛り上がって整層堆積しているので、樽前d層堆積以前に扇状地地形を形成していたことが分かる。

図Ⅰ-5･6に本遺跡周辺の地形面区分図と地形断面図を提示した。

本遺跡は厚真川とショロマ川の合流部に位置し、近隣にはショロマ3遺跡・一里沢遺跡（T_3面）、ショロマ1遺跡（一部T_1面）・ショロマ2遺跡・上幌内2遺跡・ショロマ4遺跡・上幌内3遺跡（T_2面）が所在する。

ショロマ2遺跡から上幌内1遺跡の断面（厚真川・ショロマ川の横断面）を見ると、ショロマ2遺跡の南側とショロマ1遺跡のショロマ川側にはⅦ層が厚く堆積し、Ⅶ層が堆積している箇所にはⅧ層（樽前dフォールユニット）は存在しない。Ⅶ層が分布している箇所以外のT_2面はⅧ層が整層堆積している。

ショロマ1遺跡のⅦ層分布範囲を見ると、ショロマ3遺跡の南に位置する沢の正面にあたり、ショロマ1遺跡の西側がこの沢の攻撃斜面になっていることが分かる。Ⅶ層を含む土石流は樽前dテフラ降下後にショロマ1遺跡の西側を一部覆ったものと思われる。Ⅶ層とⅧ層の間に腐植土層がみられないことから、土石流の発生時期については、火山灰降下直後あるいはその後（比較的短期）の時期と思われる。

T_1面にはⅦ･Ⅷ層は認められない。粘土質シルト層や礫層を基盤層としている。Ⅶ･Ⅷ層はその後の河川浸食によって流失したものと思われる。

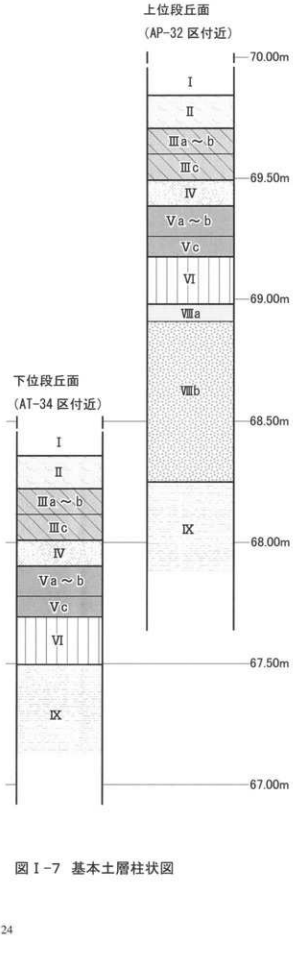
上幌内1遺跡は、縄文時代遺物包含層のⅤ･Ⅵ層下位がⅧ層であり、以下、段丘基盤層である粘土質シルト層や礫層が続く。

B　地質

前述では、遺跡形成以前の河岸段丘面の微地形について堆積状態も含め記述したことから、ここでは表土層から縄文時代早期後葉の遺物が出土するⅥ層漸移層までの堆積状態について記載する。

本遺跡は近世アイヌ文化期に降下堆積した樽前山、駒ヶ岳のテフラや上層黒色土Ⅲ層は宅地・耕地の造成の削平等によって遺失している範囲が多い。通常は表土層直下にⅡa層の樽前aテフラ（Ta-a･1739年降下）やⅡd層の樽前bテフラ（Ta-b･1667年降下）が面的に堆積し、2層の間にⅡc層の駒ヶ岳c2テフラ（Ko-c2･1694年降下）が不連続に挟在している。また、樽前bテフラの直下には有珠bテフラが数ミリ程度の層厚で確認できるところもある。

〔上幌内１遺跡基本土層〕



Ⅰ層 ： 近現代表土　7.5YR3/1 黒褐色砂質土

Ⅱ層 ： 近世火山噴出物及び黒色砂質腐植土
- a ： 樽前ａテフラ (Ta-a) 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質降下火山灰 1739 年降下。部分的に堆積。層厚 5cm 前後。
- b ： 黒色砂質腐植土層 10YR2/1 黒色 新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）の調査における０黒層相当。
- c ： 駒ケ岳 c2 テフラ (Ko-c2) 10YR8/3 浅黄橙色 砂質降下火山灰 1694 年降下。Ⅱb 層中において部分的に堆積している。
- d ： 樽前ｂテフラ (Ta-b) 2.5YR7/3 浅黄色 細礫質降下軽石 1667 年降下。層厚 20cm 前後。

Ⅲ層 ： 黒色腐植土
新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）・苫小牧東部工業地帯の遺跡群の調査におけるⅠ黒層相当。
- a ： 砂質シルト 7.5YR2/1 黒色 Ⅱd 層を斑状に含む。層厚 1cm 前後。やや赤味あり。近世初頭遺物包含層。
- b ： シルト 10YR1.7/1 黒色 やや粘性あり。層厚 25cm 前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期遺物包含層。下位が擦文文化期包含層。Ⅲb 層とⅢc 層との層境に白頭山苫小牧火山灰 (B-Tm シルト質降下火山灰 10c 前半降下）が部分的に堆積する。
- c ： 砂質シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 15cm 前後。続縄文～縄文晩期後半の包含層。

Ⅳ層 ： 樽前ｃテフラ (Ta-c) 10YR6/6 明黄褐色 砂質降下軽石 B.P. 2,500 年前後降下。層厚 20cm 前後。一層のﾌｫｰﾙ・ﾕﾆｯﾄ。

Ⅴ層 ： 黒色腐植土
新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）・苫小牧東部工業地帯の遺跡群の調査におけるⅡ黒層相当。
- a ： シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚 2cm 前後。縄文晩期前半の遺物包含層。
- b ： シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚 25cm 前後。縄文中・後期の遺物包含層。
- c ： シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 15cm 前後。縄文前・中期の遺物包含層。

Ⅵ層 ： 漸移層 2.5YR4/6 褐色 暗褐色シルト。層厚 30cm 前後。縄文早期の遺物包含層。

Ⅷ層 ： 樽前ｄテフラ B.P.8,000 年前後降下。
- a ： 樽前 d1 テフラ (Ta-d1) 5G4/1 暗緑灰色 細礫質降下スコリア（φ5↓、sfa *1）層厚 10cm 前後。
- b ： 樽前 d2 テフラ (Ta-d2) 5YR4/8 赤褐色 中礫質降下パミス (pfa *2) 層厚 120cm 前後。部分的に水成風化による粘土化。(*1・2 町田・新井 1992)

Ⅸ層 ： 河岸段丘基盤層　青灰色粘土質シルト層や礫層。

図Ⅰ-7 基本土層柱状図

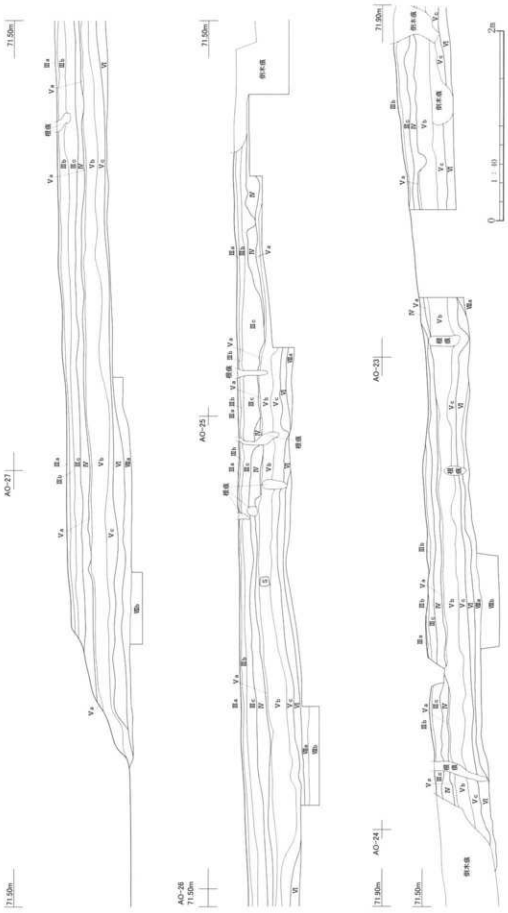
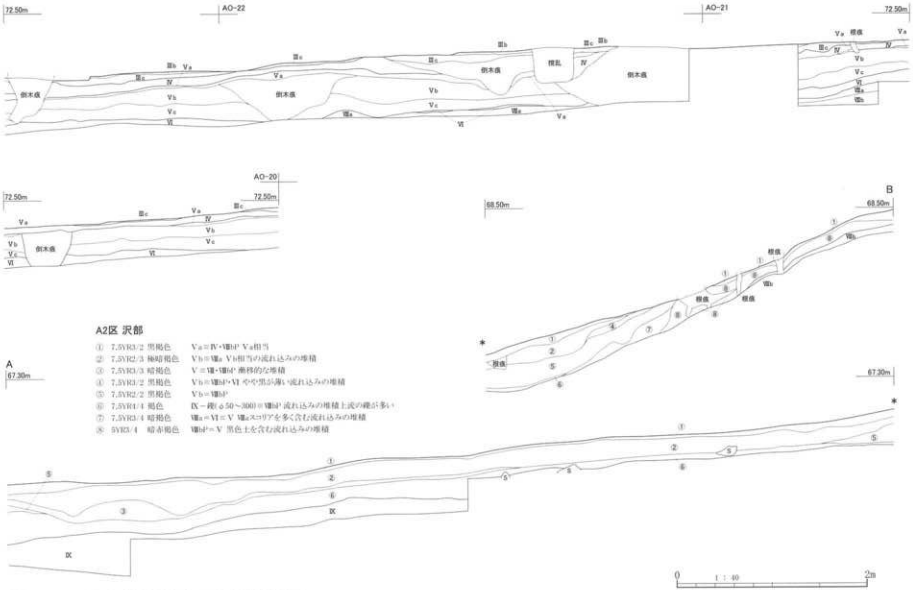
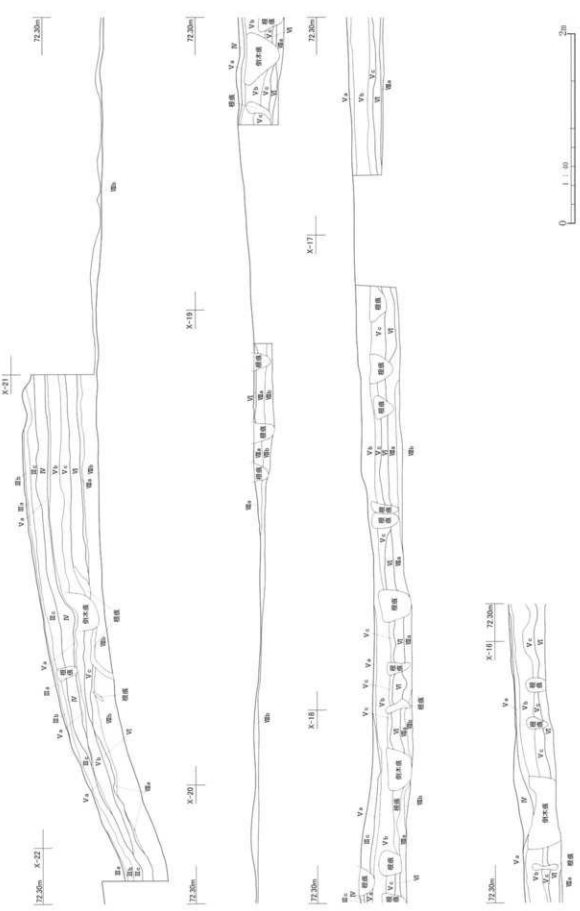


図1-8 AOライン 断面図(1)



図Ⅰ-9 AOライン断面図(2)・A2区沢部断面図



図Ⅰ-10　Xライン断面図

これらの近世アイヌ文化期の火山灰層は通常 20～30cm の層厚で堆積している。近世火山噴出物の堆積層以下には、遺物包含層となる黒色腐植土Ⅲ層とⅤ層、その間にⅣ層の樽前ｃテフラ（Ta-c・B.P.2500 年前後に降下）が堆積している。さらにⅤ層・Ⅵ層の下に樽前ｄテフラⅧ層が堆積している。Ⅷ層は d1 と d2 の２層のユニットで堆積しており、樽前山起源の噴出物が計４層堆積している。このほかⅢ層中に白頭山苫小牧火山灰（B-Tm・10 世紀前半降下）が倒木痕の窪みなどに堆積している。

遺物包含層の調査は、東西Ｘライン・AO ラインに幅 50cm のトレンチを掘開し、堆積状態の情報を参考として出土遺物取り上げ時の層位決定に留意した（図Ⅰ-2・8～10）。

図Ⅰ-7 に本遺跡の基本土層を示した。縄文晩期後半以降の遺物包含層であるⅢ層黒色腐植土層は堆積が安定し色調や火山灰の混入比率により a～c までの３層に分層している。Ⅲb・Ⅲc 層はさらに上位・中位・下位を考慮し、発掘調査に留意している。本層出土の遺物はⅡ層とⅣ層のテフラに保護されていることから、ほぼ原位置を保って出土することが多く、今回の調査でも中世アイヌ文化期と擦文文化期の遺構が撹乱されていない箇所では若干の高低差をもって確認された。この様な層位認識は厚真町における発掘調査で、平成 14・15 年度に調査した厚幌１遺跡と平成 16 年度から調査に着手した上幌内モイ遺跡での調査成果によって確立した層位認識、調査方法である。なお本遺跡では調査区の大部分が削平を受けていたため、Ⅲ層は窪地などに残存していたに過ぎず、本来のⅢ層の状態とは言い難い状況であった。

黒色腐植土Ⅴ層は、撹乱の著しい北半部を除いて、南半部では面的に残っており、層厚は 15～20cm であった。本層も上層の樽前ｃテフラの混入層で黒褐色を呈するⅤa 層、中位の黒色土をⅤb 層、下位の漸移層を含む黒褐色はⅤc 層として分層した。さらにⅤb 層は調査掘削回数を目安に上～下位に分けて遺物を取り上げており、概ね縄文後期の遺物はⅤb 層上位より出土している。

Ⅵ層はⅤ層とⅧ層の漸移層で、調査区の南端部から南西部にかけて縄文時代早期後葉の中茶路式土器や末葉の東釧路Ⅳ式が出土している。他の遺跡においても同様の出土例が多数あり、本地区における漸移層の発達開始時期が概ね縄文時代早期中葉から後葉にかけての可能性がある。（宮塚）

第Ⅱ章　Ⅲ層の調査

本章で取り扱う遺構及び遺物は、基本的にⅢaからⅢc層より出土したものである。Ⅲ層については27ラインから西側とAIラインから北側は段丘縁辺部を除いてかなりの範囲で削平を受け、遺構及び遺物が希薄である。検出された遺構は平地式住居跡4軒（焼土、礫集中、獣骨集中含む）、建物跡2軒、集中区1ヵ所（焼土、灰集中、礫集中、獣骨集中含む）、土坑3基、焼土15ヵ所、杭列跡3条、道跡1条、鉄器集中1ヵ所、礫集中3ヵ所、獣骨集中2ヵ所である。

遺構については、Ⅲ層黒色土が被覆する厚さから続縄文、擦文文化期～アイヌ文化期に帰属すると考えられる。杭列跡と道跡については明確な帰属時期は不明であるが、遺構の検出状態からアイヌ文化期に帰属すると考えられる。

Ⅲ層から出土した遺物は土器1,091点、剥片石器8点、礫石器39点、鉄製品47点、銅製品1点、石斧石器群削片2点、フレイク・チップ類26点、礫1,568点、カバ属樹皮製品1点、骨角器1点の計2,784点である。（宮塚）

第1節　住居跡

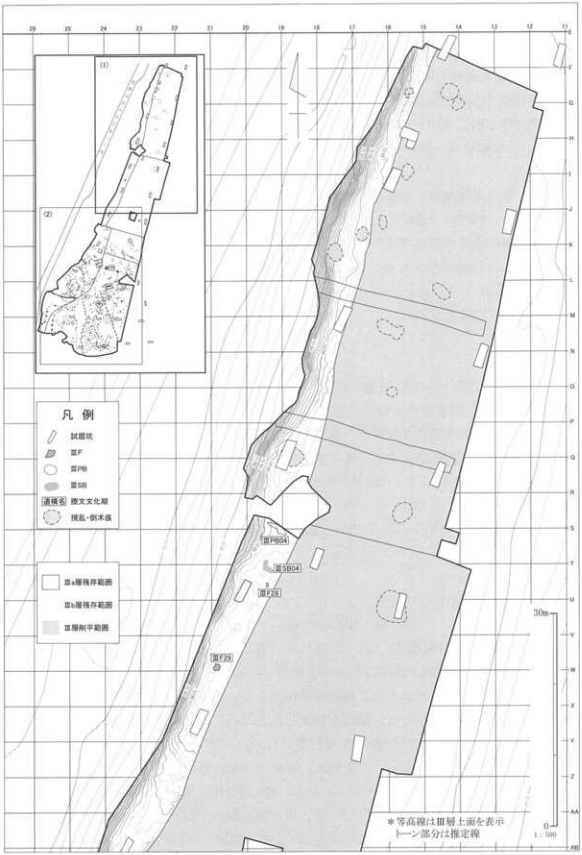
調査区中央部から南側にかけて、4軒の住居跡を検出した（図Ⅱ-2）。中央部の2軒の住居跡（ⅢH-01・02）は東側に獣骨集中を伴い、住居跡の主軸方向はほぼ東西で、中世アイヌ文化期に属する。この住居群の南側に存在する1軒（ⅢH-03）については床面近くから1点の擦文土器片が出土しているが、撹乱が床面直上まで及んでおり住居に伴った可能性は低いと考えられるため、中世アイヌ文化期とした。ⅢH-02の北西側に検出した1軒（ⅢH-04）は、西側が大きな撹乱坑によって破壊されており、そのほかの部分も床面近くまで撹乱が及んでいたが、床面上と炉跡から擦文土器片が出土したことから擦文文化期後期～中世アイヌ文化期の住居跡と判断した。（宮塚）

ⅢH-01（図Ⅱ-3～8　図版4～7・51-1）

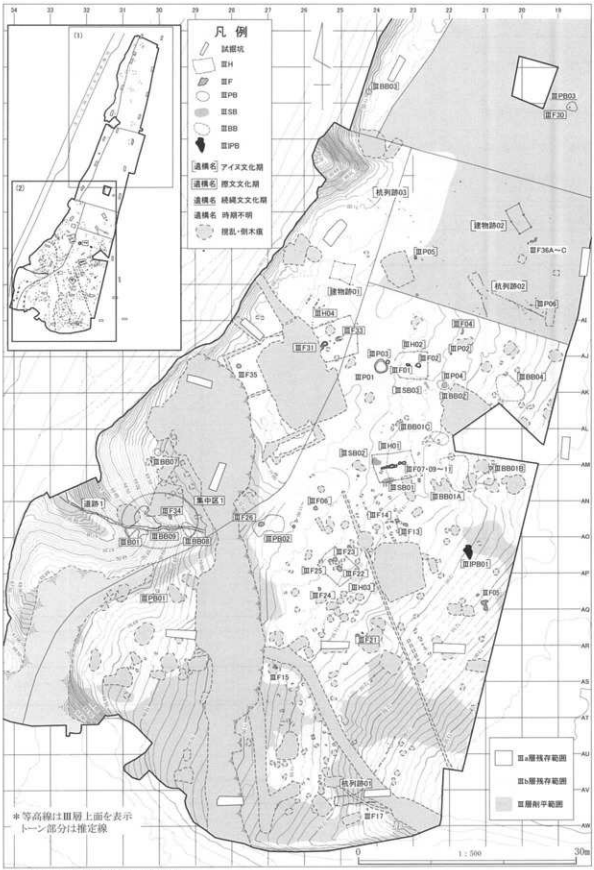
位　置：AL・AM-23・24区　　規　模：570×400㎝　　検出層位：ⅢbM

長軸方向：N-81°E　　付属遺構：ⅢF-07・09～11　ⅢSB-01・02　ⅢBB-01A～C

確認・調査　表土・火山灰除去段階に調査区南側のAL・AM-23・24区で、ほぼ東西方向の同一軸に並ぶ焼土とややまとまって出土した棒状礫を確認した。遺構の種別及び位置関係から平地式住居跡を想定し、調査を開始した。周囲を精査したところ、列状に並ぶ炉跡と礫集中2ヵ所が検出されたため、住居跡と判断しⅢH-01を付番した。2ヵ所の炉跡には、トレンチを連続して設定し新旧関係の判断ができるように努めた。遺構の一部は耕作による削平を受けていたが、集石を被覆する黒色土が約2～3㎝であることから、Ⅲb層中位に帰属することが分かった。同一層位の遺物は礫集中以外出土していないため、Ⅲc層上面まで掘り下げ、炉跡と礫集中を台状に残した後、スタッフを用いて炉跡からの距離・配列を確認しながら柱穴を確認した。この段階で、住居跡の検出写真を撮影している。断面確認で根痕と判断し、欠番にした柱穴がある。また、ⅢH-01の長軸方向東側にはシカの四肢骨や歯列のまとまりを3ヵ所検出し、町内の調査



図Ⅱ-1 Ⅲ層遺構配置図(1)



図Ⅱ-2　Ⅲ層遺構配置図(2)

表Ⅱ-1　Ⅲ層遺構群一覧表

遺構名	帰属時期	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	グリッド	検出確認層位	付属遺構	関連遺構	備　考
ⅢH-01	中世アイヌ文化期	570	400	AL・AM-23・24	ⅢbM	ⅢF-07・09～11 ⅢSB-01・02 HP01～07・09・10・12～17	ⅢBB-01 A～C	－
ⅢH-02	中世アイヌ文化期	450	370	AI・AJ-22・23	ⅢbM	ⅢF-01・02 HP01～15	ⅢP-02～04 ⅢBB-02・04 ⅢSB-03	－
ⅢH-03	中世アイヌ文化期	485	370	AO・AP-24・25	ⅢbM	ⅢF-22・23・25 HP01～10	－	ⅢH-01・02・04と軸異なる
ⅢH-04	擦文後期～中世アイヌ文化期	(550)	535	AH・AI・AJ-24・25	ⅢbM	ⅢF-31・33 HP01～08・10～28	－	－
建物跡1	中世アイヌ文化期	290	282	AG-24・25	Ⅳ	－	－	－
建物跡2	中世アイヌ文化期	367	212	AE・AF-19・20	Ⅳ	－	－	－
集中区1	擦文文化期	1,010	500	AM・AN-29・30 AO-29	ⅢbM ・L	－	ⅢB-01 ⅢF-34 ⅢBB-08・09	沢状地形内に位置
ⅢP-01	擦文～中世アイヌ文化期	186	170	AJ-23・24	Ⅲc	－	－	－
ⅢP-05	中世アイヌ文化期	36	32	AG-22	Ⅳ	－	－	坑底面に未被熱獣骨
ⅢP-06	中世アイヌ文化期	29	14	AH-19	Ⅳ	－	－	坑底面に未被熱獣骨
ⅢF-04	擦文文化期	55	(26)	AI-21	ⅢbL	－	－	－
ⅢF-05	中世アイヌ文化期	38	30	AP-21	ⅢbM	－	－	－
ⅢF-06	中世アイヌ文化期	46	45	AN-25	ⅢbL	－	－	－
ⅢF-13	中世アイヌ文化期	81	34	AN-23	ⅢbL	－	－	－
ⅢF-14	中世アイヌ文化期	(48)	31	AN-23	ⅢbL	－	－	－
ⅢF-15	擦文～中世アイヌ文化期	65	39	AR-26	Ⅲb	－	－	－
ⅢF-17	擦文～中世アイヌ文化期	(38)	(23)	AV-24	Ⅲb	－	－	－
ⅢF-21	擦文文化期	(27)	29	AQ-24	ⅢbL	－	－	－
ⅢF-24	中世アイヌ文化期	55	35	AP-25	ⅢbM	－	－	－
ⅢF-28	擦文文化期	(69)	(31)	T-19	ⅢbL	－	－	－
ⅢF-29	擦文文化期	107	92	V-20	ⅢbL	－	－	－
ⅢF-30	擦文文化期	12	9	AC-18	ⅢbL	－	－	－
ⅢF-35	擦文～中世アイヌ文化期	71	62	AJ-27	Ⅲb	－	－	－
ⅢF-36A	擦文～中世アイヌ文化期	(27)	(14)	AF-19	Ⅲb	－	－	撹乱を受けわずかに残存。
ⅢF-36B	擦文～中世アイヌ文化期	(48)	(24)	AF-19	Ⅲb	－	－	撹乱を受けわずかに残存。
ⅢF-36C	擦文～中世アイヌ文化期	(64)	(27)	AF-19	Ⅲb	－	－	撹乱を受けわずかに残存。
ⅢPB-01	擦文文化期後期	29	25	AP-30	ⅢbL	－	－	甕1個体。
ⅢPB-02	擦文文化期後期	306	157	AN-26・27	ⅢbM ・L	－	ⅢF-26	被熱破砕礫を伴う。 甕4個体、高坏2個体。
ⅢPB-03	続縄文文化期前葉	126	101	AC-18	Ⅲc	－	－	深鉢2個体。
ⅢPB-04	擦文文化期後期	252	172	R-S-18・19	ⅢbL	－	－	甕1個体。
ⅢSB-04	擦文文化期	239	202	S・T-19	ⅢbL	－	－	－
ⅢIPB-01	中世アイヌ文化期	128	110	AO-21	ⅢbM	－	－	TP-12埋没後のⅢⅡ層 窪みに位置。 内耳鉄鍋2個体。
ⅢBB-03	中世アイヌ文化期	39	17	AB-24	ⅢbM	－	－	窪みに一括投棄。 遺存状態から浅いピットの可能性。
ⅢBB-07	中世アイヌ文化期	79	26	AL-30	ⅢbU	－	－	－
杭列跡01	アイヌ文化期	1,290	520	AT-23、AL-23・24、AV-24・25	Ⅲc・Ⅳ	－	－	－
杭列跡02	アイヌ文化期	1,540	615	AG-21、AH-19・20・21	Ⅲc・Ⅳ	－	－	－
杭列跡03	アイヌ文化期	1,365	310	AE～AG-22～24	Ⅲc・Ⅳ	－	－	－
道跡1	擦文文化期	2,050	52	AM-32 AN-28～32	Ⅲc・Ⅳ	－	－	－

事例から住居跡とセット関係をなすと思われる。炉跡断面図の実測と土壌サンプルの採取を行った後、住居跡と獣骨集中を合わせて完掘写真を撮影し、調査を終了した。

付属炉（ⅢF-07・09～11）　同一軸上、列状に検出された。検出レベルはⅢSB-01・02 と同一で、Ⅲb 層中位に帰属すると思われる。ⅢF-07・09 は平面形で重複しているのが確認され、断面観察から 09 がより新しいことが分かった。また、ⅢF-09 の 1 層とした燃焼面には、被熱した泥岩片が検出された。同様の事例はⅢH-02 においても見られたが、どのような意図によるかは不明である。炉跡の切り合い関係から、ⅢF-07・10、ⅢF-09・11 が対になると思われる。ⅢF-10・11 の上面は一部削平を受けており、耕作土が斑状に混じる。これらの炉跡燃焼面の土壌サンプルを採取したところ、シソ属、アカザ属の種子、ホタルイ属、ニワトコ属、クルミ属の内果皮片が得られた。ⅢF-09 から出土したクルミ内果皮片による AMS 年代測定の結果、13 世紀後葉～14 世紀末葉の年代が得られている。

柱穴（HP01～07・09・10・12～17）　柱穴は全部で 15 本検出された。主体部を構成する柱穴のみでセムは確認されなかった。また、長軸東側には明瞭な柱穴は確認できなかった。柱穴は径 10cm 前後、間隔は 75～100cm で、確認面からの深さは 15～40cm、平均 23cm である。断面の観察から、柱穴は打込みによるものと考えられる。HP02・03・05 は住居内側に傾く。

礫集中（ⅢSB-01・02）　住居跡の南西隅からⅢSB-01 が、北西隅からⅢSB-02 が検出された。ⅢSB-01 からは 15 点、ⅢSB-02 からは 14 点の棒状礫が出土した。

遺物出土状態　礫集中は殆どが柱穴列の内側でまとまって出土しているが、密度は薄く疎らで、ⅢSB-01 は一部直線状の分布を示している。構成礫は棒状のものが主体である。同一面から未被熱の獣骨が疎らに出土した。

ⅢBB-01A（図Ⅱ-6　図版 6・51-1-4・5）

位　置：AL・AM-21・22 区　　主体検出層位：ⅢbM

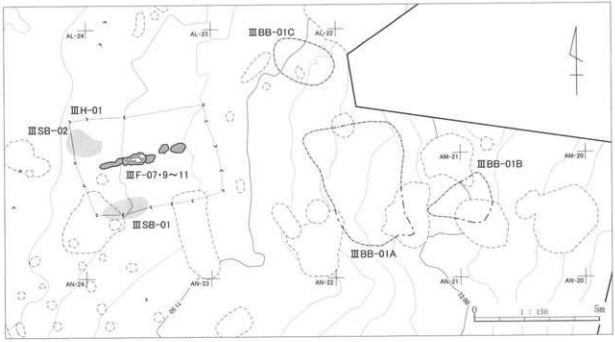
規　模：620×40 cm　　主体動物／部位：シカ／遊離歯及び四肢骨

確認・調査　AL・AM-21・22 区のⅢb 層掘り下げ時に未被熱の獣骨が集中する範囲を確認し、ⅢBB-01 として調査を開始した。検討の結果、獣骨集中は 3 ヵ所の単位にまとまると思われ、これを A・B・C に細分した。獣骨の検出段階で、すでにⅢH-01 の調査に着手しており、住居跡長軸方向東側（神窓方向）にⅢBB-01A・B・C が位置していたことと検出層位が同一レベルであったことから、住居跡と獣骨集中をセットとしてとらえた。平面形は南北に長い楕円形を呈す。移植ごて、竹串を用いながら検出・精査作業を行った後、酢酸ビニル系樹脂（水溶性ボンド）を希釈したものを 2～3 回塗布した。獣骨番号を付番しながら、形状の明瞭なものは輪郭を記録し、遺存状態の不良なものは位置情報のみ記録した。並行して遺存体同定分析のための記録写真を撮影した。取り上げ後、室内にてクリーニング作業および再度樹脂の塗布を行い、形状の保持に努めた。獣骨集中を構成する遺存体は全て未被熱で、主体となる動物骨はシカである。これ以外にヒグマの橈骨（B.081C と B.084A）も出土した。

ⅢBB-01B（図Ⅱ-7　図版 6・7-1）

位　置：AM-20・21 区　　主体検出層位：ⅢbM

規　模：262×148 cm　　主体動物／部位：シカ／遊離歯



図Ⅱ-3　ⅢH-01 及び関連遺構位置図

確認・調査　ⅢBB-01 とした範囲の内、東側のまとまりをⅢBB-01B とした。Ⅲ層上面が撹乱により削平された地点が範囲に含まれるが、Ⅴ層のTピットが下位にあり等高線でも若干の窪みが見られる。その窪んだ地点に獣骨が遺棄されており、分布範囲の平面形は三角形状を呈する。獣骨集中を主体的に構成する遺存体はシカの遊離歯である。

ⅢBB-01C（図Ⅱ-7　図版 6-1・7-2）

位　置：AL-22 区　　主体検出層位：ⅢbM

規　模：194×102 cm　　主体動物／部位：シカ／遊離歯

確認・調査　ⅢBB-01 とした範囲の内、北側のまとまりをⅢBB-01C とした。電柱設置区域の未調査範囲にも獣骨は続いているものと思われる。獣骨集中を主体的に構成する遺存体はシカの遊離歯である。

出土遺物（図Ⅱ-8）　1～7・9 はいわゆる棒状礫で、礫集中を構成する礫の主体となる。8・10 は扁平な礫。石材は砂岩・泥岩が主体である。

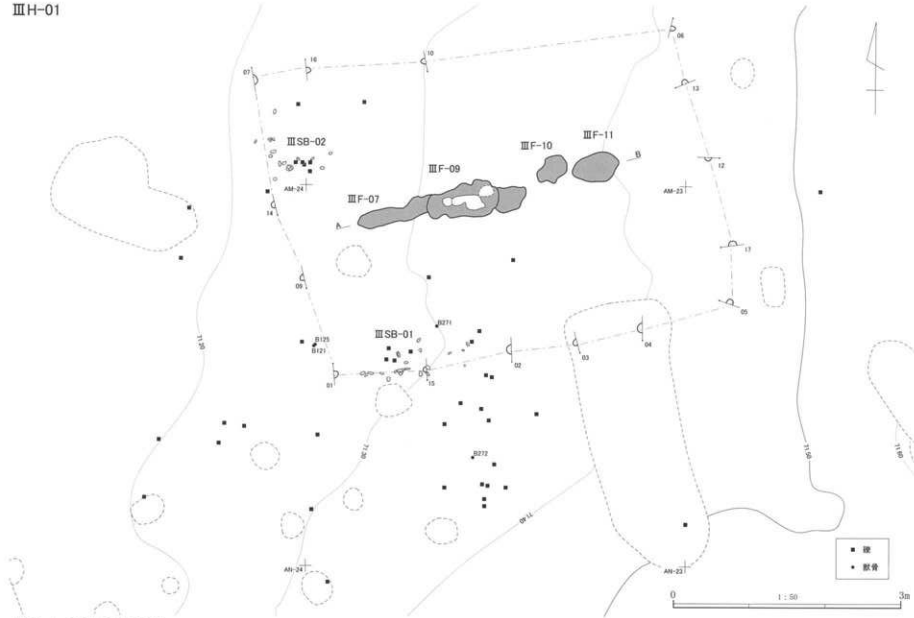
時　期　撹乱が床面近くにまで及び遺物も検出されなかったため、明確な時期決定要素はないが、遺構の形態や年代測定結果から中世アイヌ文化期に属するものと考えられる。　（松井）

ⅢH-02（図Ⅱ-9～13　図版 8～10）

位　置：AI・AJ-22・23 区　　規　模：主体部 450×370 cm　　検出層位：ⅢbM

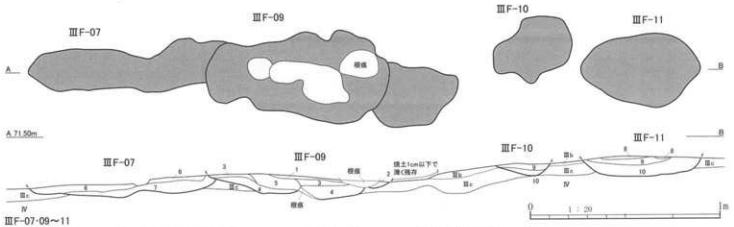
長軸方向：N-91° E　　付属遺構：ⅢF-01・02　ⅢP-02～04　ⅢSB-03　ⅢBB-02・04

確認・調査　調査区北側、AI・AJ-22・23 区のⅢa 層掘削後、Ⅲb 層上位で 2 ヵ所の焼土（ⅢF-01・02）を検出した。周辺から東－西に長軸方向を持つ柱穴列を検出したため、住居跡と判断し、ⅢH-02 を付番した。柱穴は長軸に 6 本、短軸東側は 5 本の柱穴がほぼ直線状に並び、西側は 4 本が直線状に並ぶ状態で検出した。「セム」と思われる柱穴列は確認できなかった。さらに西


ⅢH-01
ⅢSB-02
ⅢF-07
ⅢF-09
ⅢF-10
ⅢF-11
ⅢSB-01
AM-24
AM-23
AN-24
AN-23
B125
B121
B271
B272
71.20
71.00
71.60
71.80
A
B
礫
獣骨
0
1:50
3m

図Ⅱ-4 ⅢH-01 平面図

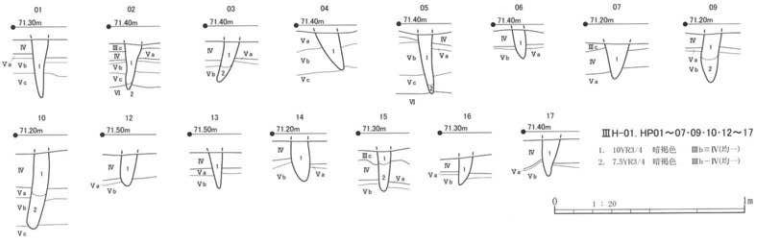
ⅢF-07・09～11



ⅢF-07・09～11

1.	7.5YR5/3 にぶい褐色	焼成面層(強い)＋泥岩(φ5)＝焼骨片	6.	5YR6/6 橙色	Ⅲb～Ⅲc地山被熱層(強い)
2.	5YR3/6 暗赤褐色	Ⅲc～Ⅳ地山被熱層(弱い)	7.	5YR4/3 にぶい赤褐色	Ⅲc～Ⅳ地山被熱層(弱い)
3.	5YR6/8 橙色	Ⅲb～Ⅲc地山被熱層(強い)	8.	10YR3/3 暗褐色	Ⅲb＝焼土ブロック(斑状)一部現見
4.	5YR5/6 明赤褐色	Ⅲc～Ⅳ層地山被熱層(弱い)	9.	5YR5/6 明赤褐色	Ⅲb地山被熱層(強い)
5.	7.5YR5/2 灰褐色	灰層＝炭化物(斑状)層による押込み	10.	5YR4/3 にぶい赤褐色	Ⅲc～Ⅳ地山被熱層(弱い)

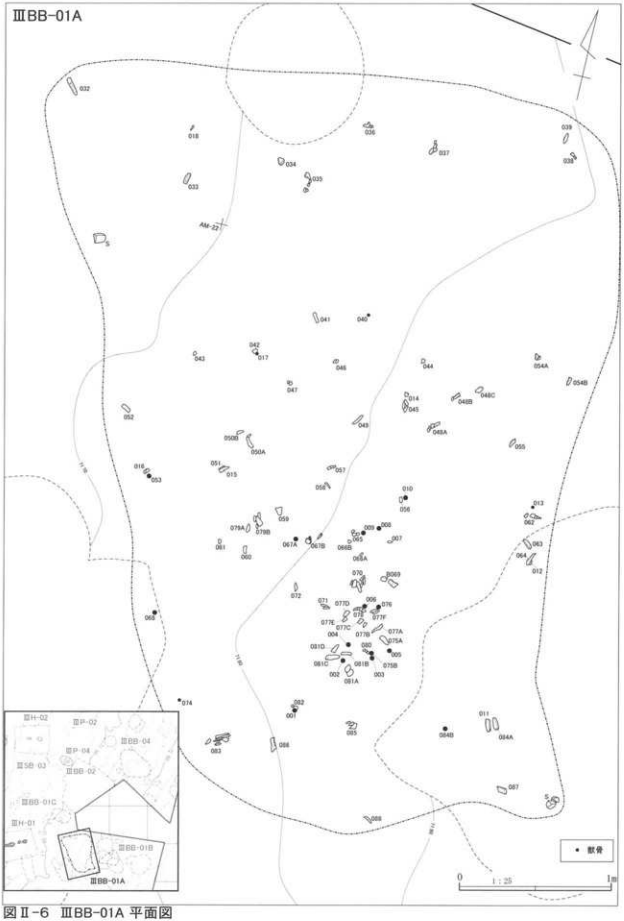
ⅢH-01.HP



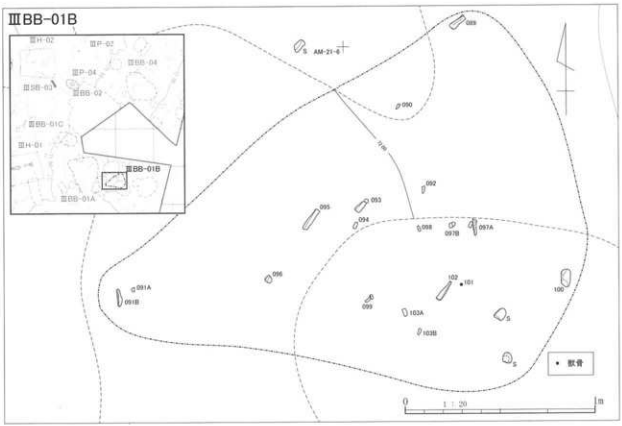
ⅢH-01. HP01～07・09・10・12～17

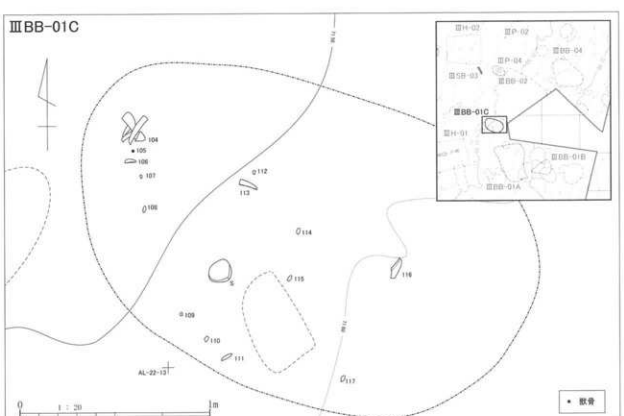
1.	10YR3/4 暗褐色	Ⅲb＝Ⅳ(均一)	
2.	7.5YR3/4 暗褐色	Ⅲb～Ⅳ(均一)	

図Ⅱ-5 ⅢH-01 付属ⅢF・HP 平面及び断面図

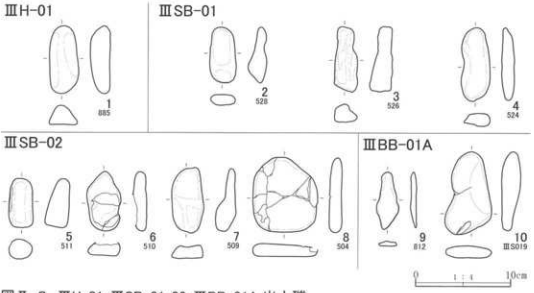


図Ⅱ-6　ⅢBB-01A 平面図





図Ⅱ-7　ⅢBB-01B･C 平面図



図Ⅱ-8　ⅢH-01・ⅢSB-01・02・ⅢBB-01A 出土礫

表Ⅱ-2　ⅢH-01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm) 主体部 長軸	規模(cm) 主体部 短軸	規模(cm) 付属部 長軸	規模(cm) 付属部 短軸	柱穴 本数 主柱	柱穴 本数 付属	柱穴 本数 他	付属関連遺構
Ⅱ-4	4	ⅢH-01	AL・AM -23・24	ⅢbM	N-81° E	570	400	-	-	15	2	-	ⅢF-07・09～11 ⅢSB-01・02 ⅢBB-01A～C

表Ⅱ-3　ⅢH-01付属炉・関連遺構属性表

挿図番号	図版番号	遺構名		グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	規模(cm) 厚さ	炭・骨片	備考
Ⅱ-5	4-2	ⅢH-01	ⅢF-07	AL-23	ⅢbM	長楕円形	59	22	7	-	
	4-2,5-1		ⅢF-09	AM-23	ⅢbM	不整形	130	52	11	炭	
	4-2		ⅢF-10	AL-24	ⅢbM	不整形	45	36	7	-	
	4-2,5-2		ⅢF-11	AM-24	ⅢbM	楕円形	63	41	11	-	
Ⅱ-4	5-3		ⅢSB-01	AM-23	ⅢbM	長楕円形	175	65	-	-	
Ⅱ-4	5-4		ⅢSB-02	AM-23・24	ⅢbM	不整形	115	50	-	-	
Ⅱ-6	6	ⅢH-01 関連遺構	ⅢBB-01A	AL・AM -21・22	ⅢbM	不整形	620	40	-	未被熱骨	
Ⅱ-7	6,7-1		ⅢBB-01B	AM-20・21	ⅢbM	不整形	262	148	-	未被熱骨	
Ⅱ-7	6-1,7-2		ⅢBB-01C	AL-22	ⅢbM	不整形	194	102	-	未被熱骨	

表Ⅱ-4　ⅢH-01柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm) 上端	規模(cm) 下端	規模(cm) 深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-5	-	HP01	9	0	30	1.5°	打込み
Ⅱ-5	-	HP02	9	0	24	3°	打込み
Ⅱ-5	5-5	HP03	8	0	22	8°	打込み
Ⅱ-5	5-6	HP04	12	0	21	25°	打込み
Ⅱ-5	5-7・8	HP05	8	0	31	6°	打込み
Ⅱ-5	-	HP06	7	0	15	11°	打込み
Ⅱ-5	5-9・10	HP07	13	0	18	5°	打込み
Ⅱ-5	-	HP09	9	0	25	2°	打込み
Ⅱ-5	-	HP10	8	0	40	6.5°	打込み
Ⅱ-5	-	HP12	9	0	16	2°	打込み
Ⅱ-5	-	HP13	7	0	19	6.5°	打込み
Ⅱ-5	5-11	HP14	9	0	21	8.5°	打込み
Ⅱ-5	-	HP15	7	0	22	0°	打込み
Ⅱ-5	-	HP16	7	0	15	12°	打込み
Ⅱ-5	5-12	HP17	9	0	19	1°	打込み

表Ⅱ-5 ⅢH-01出土礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-8-1	51-1-1	-	885	ⅢbM	完形	71.5	0.0	30.8	0.0	20.6	0.0	2.3	0.0	56.0	-	Sa.	

※1点

表Ⅱ-6 ⅢSB-01出土礫属性表

(は　)の表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
-		-	539	ⅢbM	完形	55.0	-12.8	32.3	0.9	20.5	0.9	1.7	-0.5	43.1	-	Sa.	
-		-	545	ⅢbM	完形	55.7	-12.1	30.3	-1.1	15.4	-4.2	1.8	-0.4	34.9	-	Sa.	
Ⅱ-8-2		-	528	ⅢbM	完形	58.2	-9.6	28.0	-3.4	18.7	-0.9	2.1	-0.1	30.9	-	Mud.	
-		ⅢS017	529 530	ⅢbM	完形	59.2	-8.6	29.4	-2.0	16.3	-3.3	2.0	-0.2	29.8	-	Mud.	
-		-	315	ⅢbM	略完形	59.9	-7.9	32.9	1.5	25.9	6.3	1.8	-0.4	68.1	-	Sa.	
-		-	534	ⅢbM	完形	63.1	-4.7	30.6	-0.8	15.4	-4.2	2.1	-0.1	37.0	-	Sa.	
-		-	316	ⅢbM	完形	63.7	-4.1	37.3	5.9	10.2	-9.4	1.7	-0.5	30.1	-	Sa.	
-	51-1	-	525	ⅢbM	完形	66.9	-0.9	31.0	-0.4	14.1	-5.5	2.2	0.0	48.6	-	Sa.	
-	-2	-	518	ⅢbM	完形	68.4	0.6	36.3	4.9	22.7	3.1	1.9	-0.3	68..8	-	Sa.	
Ⅱ-8-3		-	526	ⅢbM	完形	69.3	1.5	23.8	-7.6	24.6	5.0	2.9	0.7	47.6	-	Sa.	
-		-	520	ⅢbM	完形	75.3	7.5	31.4	0.0	24.6	5.0	2.4	0.2	74.6	-	Sa.	
Ⅱ-8-4		-	524	ⅢbM	完形	76.4	8.6	30.1	-1.3	13.4	-6.2	2.5	0.3	40.8	-	Sa.	
-		ⅢS021	532 541-1 551	ⅢbM	略完形	78.1	10.3	30.1	-1.3	25.6	6.0	2.6	0.4	57.6	-	Mud.	
-		ⅢS050	519 521	ⅢbM	略完形	99.6	31.8	36.0	4.6	26.7	7.1	2.8	0.6	102.7	-	Mud.	
完形平均値						67.8		31.4		19.6		2.2		49.7			
遺物総重量														645.8			

※14点

表Ⅱ-7 ⅢSB-02出土礫属性表

(は　)の表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-8-5		-	511	ⅢbM	完形	51.0	-11.0	25.4	-10.6	24.9	5.1	2.0	0.2	42.0	-	Sa.	
-		-	590	ⅢbM	完形	51.6	-10.4	29.9	-6.1	23.1	3.3	1.7	-0.1	45.2	-	Sa.	
-		-	508	ⅢbM	完形	52.6	-9.4	38.9	2.9	21.6	1.8	1.4	-0.4	56.0	-	Sa.	
-		-	502	ⅢbM	完形	54.7	-7.3	32.6	-3.4	18.6	-1.2	1.7	-0.1	43.0	-	Sa.	
-		-	505	ⅢbM	完形	57.9	-4.1	40.4	4.4	15.6	-4.2	1.4	-0.4	46.0	-	Sa.	
-		-	516	ⅢbM	完形	58.4	-3.6	36.7	0.7	20.4	0.6	1.6	-0.2	51.0	-	Sa.	
Ⅱ-8-6	51-1	-	510	ⅢbM	略完形	61.5	-0.5	35.1	-0.9	15.2	-4.6	1.8	0.0	37.8	-	Sa.	
-	-3	-	549	ⅢbM	完形	63.7	1.7	35.0	-1.0	24.4	4.6	1.8	0.0	68.6	-	Sa.	
-		-	552-1	ⅢbM	完形	65.6	3.6	32.4	-3.6	22.1	2.3	2.0	0.2	60.6	-	Sa.	
-		-	506	ⅢbM	完形	65.7	3.7	34.2	-1.8	19.9	0.1	1.9	0.1	47.3	-	Sa.	
-		-	517	ⅢbM	完形	68.1	6.1	29.5	-6.5	20.5	0.7	2.3	0.5	54.7	-	Sa.	
-		-	514	ⅢbM	完形	68.9	6.9	34.6	-1.4	16.9	-2.9	2.0	0.2	50.4	-	Sa.	
Ⅱ-8-7		-	509	ⅢbM	完形	69.3	7.3	32.6	-3.4	20.3	0.5	2.1	0.3	47.7	-	Sa.	
Ⅱ-8-8		-	504	ⅢbM	略完形	78.8	16.8	66.8	30.8	13.7	-6.1	1.2	-0.6	103.4	-	Sa.	
完形平均値						62.0		36.0		19.8		1.8		53.8			
遺物総重量														753.7			

※14点

表Ⅱ-8 ⅢBB-01A出土礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-8-9	51-1-4	-	812	ⅢbM	完形	59.7	-11.6	24.0	-12.1	5.4	-5.7	2.5	0.4	6.7	-	Mud.	
Ⅱ-8-10	51-1-5	ⅢS019	3722 3723	ⅢbM	完形	82.8	11.6	48.2	12.1	16.8	5.7	1.7	-0.4	69.0	-	Sa.	
完形平均値						71.3		36.1		11.1		2.1		37.9			
遺物総重量														75.7			

※2点

側にやや大型の土坑（ⅢP-01）を検出した。住居跡との関連を考慮し覆土の状態等を比較検討したが、関連性は認められなかった。その脇にある土坑（ⅢP-03）については、東側から検出された土坑（ⅢP-02）に類似し、本住居跡に付随すると考え本項に掲載した。

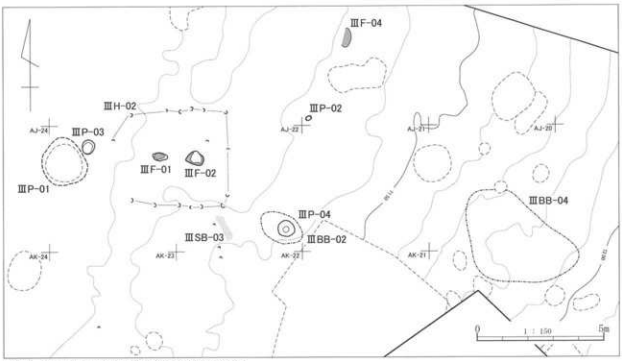
住居跡の南東外側に礫集中１ヵ所（ⅢSB-03）と獣骨集中（ⅢBB-02）を伴う土坑（ⅢP-04）、東側Ⅳ層が浅く掘り窪められた上に獣骨片が分布する獣骨集中（ⅢBB-04）を検出し、ⅢH-01同様、本住居跡と関連ある遺構として本項に掲載した。住居の炉跡と考えられるⅢF-01 と 02はほぼ東西に並んでおり、平面形を記録後、長軸方向に土壌観察用のトレンチを入れた。断面を写真撮影し、実測図作成後、土壌サンプルを採取した。柱穴は住居跡中心部に対応するよう半截し、断面写真撮影の後、実測図を作成した。完掘後、平面プランを記録し、全体の遺構群の写真撮影を行った。獣骨集中については輪郭を出し、酢酸ビニル系樹脂（水溶性ボンド）を塗布して形状の保持に努めた。全体の出土状態を写真撮影後、骨番号を付番して個別に写真撮影、微細図を作成後取り上げた。

付属炉（ⅢF-01･02）　ⅢF-01 に焼骨片は認められなかったが、焼土表面に被熱した泥岩（直径 1cm 以下）を含む黒色土層が存在する。その下の地山が被熱していることから、掘り直して使われたことが伺える。ⅢF-02 は上部に焼骨片を含む黒色土層が存在する。強い地山被熱層は2～3cm で、付帯黒色土は存在せず、Ⅲb･c 層がわずかに被熱を受けている。焼骨片は微細なものが多く、哺乳類と判別できるが部位は特定できなかった。

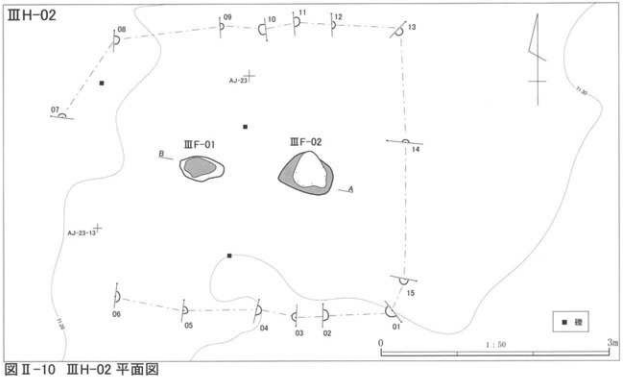
柱穴（ⅢH-02 HP01～15）　柱穴は住居跡の規模に比べるといずれも大型である。すべて打込みで直径は上端が 7～17cm、深さは 16～48cm を測る。HP01･04･06･08･10～14 は深さが 30cm を超え、住居跡の角部分と東側に大型の柱穴が多い。「外踏ん張り」と思える傾斜は明瞭には認められなかった。

土坑を伴う獣骨集中（ⅢP-04･ⅢBB-02）　住居跡の南東で検出した。周辺は撹乱がⅣ層上面まで及んでおり、南東側には撹乱坑が存在するため、獣骨集中の広がりはさらに大きくなると思われる。当初、小型の土坑の中に獣骨が入れられたものと解釈していたが、断面を確認するとⅢ層面では大きく広がっていたと考えられ、本土坑の規模ではなく、浅い大型の土坑が掘られ獣骨が遺棄されていたと想定できる。こうした事例は、上幌内モイ遺跡（町教委 2007b）でも確認できる。第Ⅳ章第２節の動物遺存体の分析から、本土坑と獣骨集中の獣骨はシカの上顎･下顎臼歯･角幹･角三叉部･頭骨（側頭骨）片･肋骨･大腿骨片との結果が得られており、頭部周辺の獣骨を意図的に遺棄していたことが伺える。ⅢBB-02 からはヒグマの距骨が１点出土している。後述のⅢBB-04 とは異なった種類の獣骨が検出され、ヒグマの遺棄する場所や部位の選択性が伺える。分析者の高橋氏は１点ではあるがヒグマの出土から、熊送りまでとは言えないまでも、熊送りの起源について一考を記されている（第Ⅳ章第２節参照）。

土坑を伴わない獣骨集中（ⅢBB-04）　住居跡の東側約 9m の位置に存在する。南側は撤去前の電柱設置区域であったので、倒壊を避けるために緩衝区域を広く取った。そのため、本獣骨集中の南側にさらに新たな獣骨集中が存在する可能性もある。上述したⅢBB-02 に伴うような明瞭な土坑は確認できなかったが、獣骨のほとんどがⅣ層上面で検出されており、浅い窪みがあったことが想定できる。本獣骨集中からはシカの上顎･下顎臼歯･肩甲骨･長管骨･上腕骨片等が出土している。

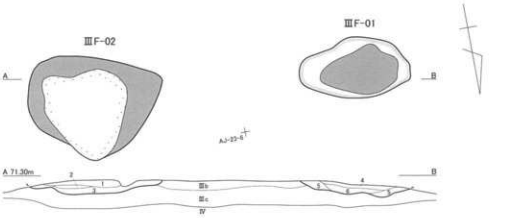


図Ⅱ-9 ⅢH-02及び関連遺構位置図



図Ⅱ-10 ⅢH-02平面図

ⅢF-01・02

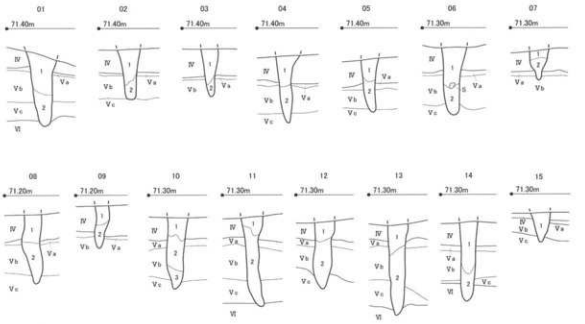


ⅢF-01・02

1. 10YR3/3　暗褐色　Ⅲb燃焼面層＝焼骨片
2. 5YR5/6　明赤褐色　Ⅲb地山被熱層(強い)
3. 7.5YR4/3　褐色　Ⅲb～c地山被熱層(弱い)
4. 7.5YR3/1　黒褐色　Ⅲb＝被熱した配石(φ10)
5. 7.5YR2/3　極暗褐色　付帯黒色土
6. 5YR5/6　明赤褐色　Ⅲb～Ⅲc地山被熱層(強い)

0　1：20　m

ⅢH-02.HP

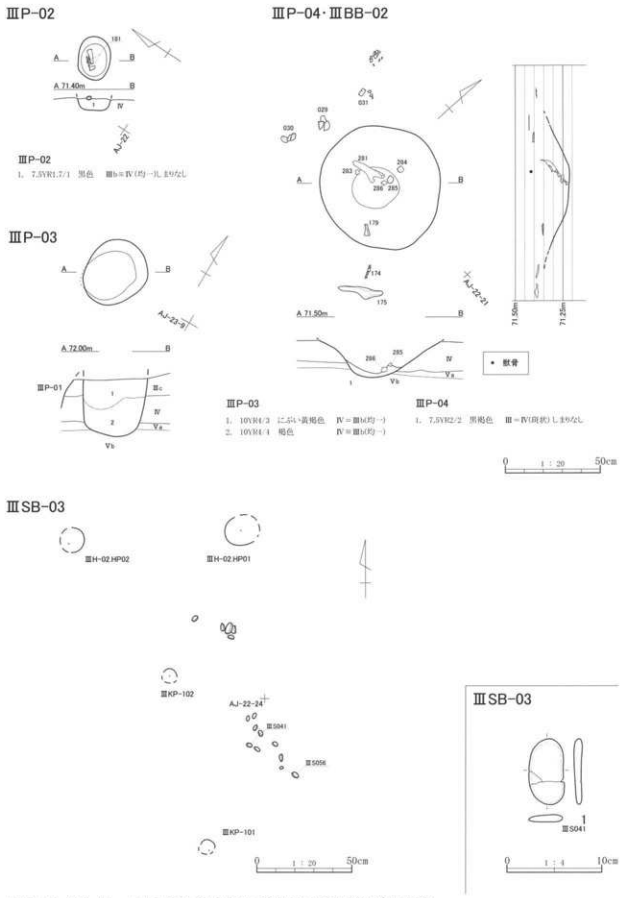


ⅢH-02.HP01～15

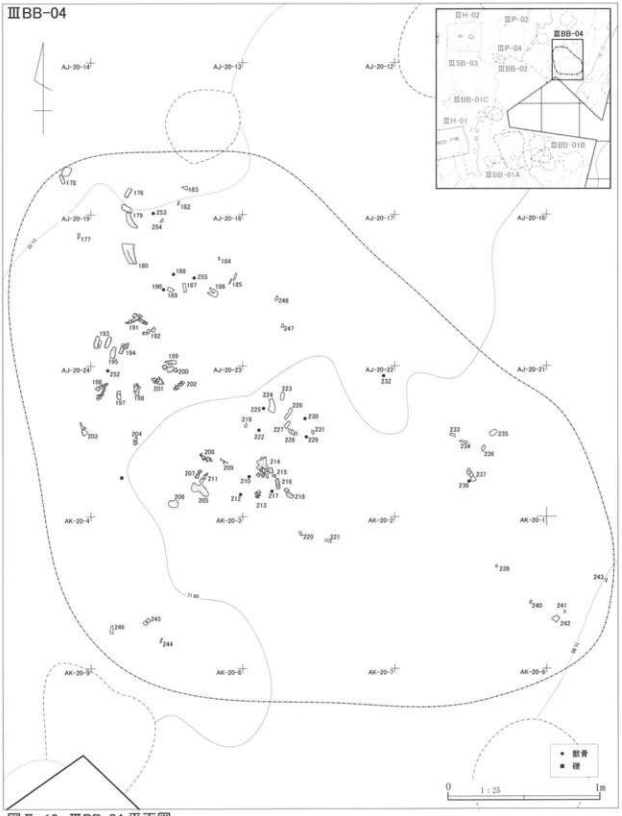
1. 7.5YR2/2　黒褐色　Ⅲ＝Ⅳ(均一)しまりなし
2. 7.5YR2/1　黒色　Ⅲb＝Ⅳ(均一)しまりなし
3. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb＝Ⅴc(均一)粘性あり

0　1：20　m

図Ⅱ-11　ⅢH-02 付属ⅢF・HP 平面及び断面図



図Ⅱ-12 ⅢP-02～04・ⅢBB-02・ⅢSB-03 平面・断面図及び出土礫



図Ⅱ-13　ⅢBB-04 平面図

表Ⅱ-9　ⅢH-02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm) 主体部 長軸	主体部 短軸	付属部 長軸	付属部 短軸	柱穴本数 主柱	柱穴本数 付属	柱穴本数 他	付属関連遺構
Ⅱ-10	8-1	ⅢH-02	AI・AJ -22・23	ⅢbM	N-91° E	450	370	-	-	14	-	-	ⅢF-01・02、ⅢP-02～04 ⅢSB-03、ⅢBB-02・04

表Ⅱ-10　ⅢH-02付属炉・関連遺構属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	規模(cm) 厚さ	炭・骨片	備考
Ⅱ-11	8-2	ⅢH-02	ⅢF-01	AJ-23	ⅢbM	楕円形	58	32	6	未被熱骨
	8-3		ⅢF-02	AJ-22・23	ⅢbM	不整形	70	55	8	-
Ⅱ-12	10-5・6	ⅢH-02 関連遺構	ⅢP-02	AI-21	Ⅳ	楕円形	22	18	6	未被熱骨
Ⅱ-12	-		ⅢP-03	AJ-23	ⅢbM	楕円形	18	14	68	-
Ⅱ-12	10-7・8		ⅢP-04	AJ-22	ⅢbM	円形	66	62	28	未被熱骨 ⅢBB-02と重複
Ⅱ-12	-		ⅢSB-03	AJ-22	ⅢbM	不整形	106	20	-	-
Ⅱ-12	10-8		ⅢBB-02	AJ-22	ⅢbM	不整形	20	18	-	未被熱骨 ⅢP-04と重複
Ⅱ-13	9-1・2		ⅢBB-04	AJ・AK -19・20	ⅢbM	不整形	475	262	-	未被熱骨

表Ⅱ-11　ⅢH-02柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm) 上端	規模(cm) 下端	規模(cm) 深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-11	-	HP01	17	0	37	1°	打込み
	8-4・5	HP02	11	3	27	2.5°	打込み
	-	HP03	9	0	25	5°	打込み
	-	HP04	13	0	35	1°	打込み
	8-6・7	HP05	9	0	28	5°	打込み
	-	HP06	13	0	36	0.5°	打込み
	-	HP07	10	0	16	4°	打込み
	-	HP08	9	0	36	3°	打込み

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm) 上端	規模(cm) 下端	規模(cm) 深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-11	-	HP09	7	0	22	2.5°	打込み
		HP10	11	0	38	3°	打込み
		HP11	12	0	48	5.5°	打込み
		HP12	11	0	35	1°	打込み
		HP13	11	0	48	1°	打込み
		HP14	9	0	42	1°	打込み
		HP15	10	0	16	1°	打込み

表Ⅱ-12　ⅢSB-03出土礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比 標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-12 -1	51-1 -6	ⅢS041	890 894	ⅢbL	完形	69.2	0.0	37.6	0.0	7.3	0.0	1.8	0.0	29.2	-	Sa.	

※1点

土坑（ⅢP-02・03）　直径20cm前後の小型の土坑が2基検出された。ⅢP-02はⅣ層上面で確認された。深さは10cmであるが、ⅢP-03の検出層位から考えると30cmを超える深さを有していたことが伺える。ⅢP-02からはシカの椎骨・胸椎骨・上腕骨・中手骨・踵骨・基節骨が検出されており、周囲の撹乱の状況を考えると、ⅢBB-04の一部であった可能性も否めない。

礫集中（ⅢSB-03）　ⅢH-02の南東隅に接して検出した。出土礫15点のうち、接合した1点を図版に掲載した。被熱していない。

出土遺物（図Ⅱ-12-1）　床面上面まで撹乱を受けており、住居跡に伴う遺物はⅢSB-03の礫と、獣骨集中から出土した獣骨のみである。

時　期　撹乱が床面近くにまで及び、遺物も検出されなかったため、明確な時期決定要素はないが、遺構の形態等から、中世アイヌ文化期に属するものと考えられる。　（宮塚）

ⅢH-03（図Ⅱ-14・15　図版 11・12-1～8・51-2-1）

位　置：AO・AP-24・25 区　　規　模：485×370 cm　　検出層位：ⅢbM

長軸方向：N-47°W　　付属遺構：ⅢF-22・23・25

確認・調査　AO-24・25 区のⅢb 層中位～下位を掘り下げ中に焼土が確認されたため、精査を行ったところ楕円形を呈する炉跡と判明したためⅢF-22 を付番した。更に、約 7cm 北面に焼骨片を微量に含む黒色土の下からⅢF-23・25 が検出され、各炉跡にトレンチを設定し土層断面の観察を行った。ⅢF-22・25 の長軸長が同一軸であることから、平地式住居跡であることを想定して調査を行った。その後、柱穴の検出を行ったところ、計 10 本の柱穴が検出された。壁面を構成する柱穴列の位置とⅢF-23 の位置がずれることから、異なる軸を持つ柱穴列の検出を繰り返し試みたが、周囲にⅢb 層の落込みは検出されなかった。柱穴断面の撮影・実測、住居跡の完掘写真を撮影し、調査を終了した。

付属炉（ⅢF-22・23・25）　燃焼面上部の焼骨片を含む黒色土を伴うⅢF-23 と被熱層にて確認された 22・25 の 3 ヵ所が検出された。ⅢF-23・25 の燃焼面検出層位からⅢb 層中位に帰属すると思われる。ⅢF-22 は炉跡検出の段階で被熱層まで掘り下げてしまったため、厳密な比較はできないが、ほぼ同一面に位置しており、同一時期に属すると思われる。3 ヵ所の内、ⅢF-25 の被熱層は層厚 10cm で非常に良好に形成されている。なお、ⅢF-22・23・25 の焼骨片が混じる燃焼面の土壌サンプルを採取したところ、アカザ属、キハダ属、ブドウ科の種子及び被熱したシカの四肢骨片が得られた。

柱穴（HP01～10）　柱穴は計 10 本検出された。主体部を構成する柱穴のみで、「セム」は確認されなかった。長軸の中心にそれぞれ柱穴が位置する。検出面からの深さは 18～45cm、平均 30cm である。断面の観察から、柱穴は打込みによるものと考えられ、垂直方向の柱穴が主体となる。また、ⅢH-03 の長軸方向はⅢH-01・02・04 とは異なる。

出土遺物（図Ⅱ-15-1）　1 はⅦB3 群に分類される甕の口縁部片で、矢羽根状の刻みが 2 段施文される。

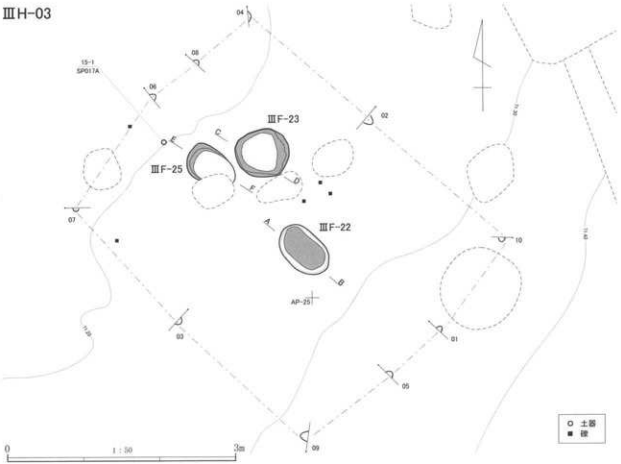
時　期　撹乱が床面近くにまで及び、遺物も検出されなかったため、明確な時期決定要素はないが、遺構の形態等から、中世アイヌ文化期に属するものと考えられる。（松井）

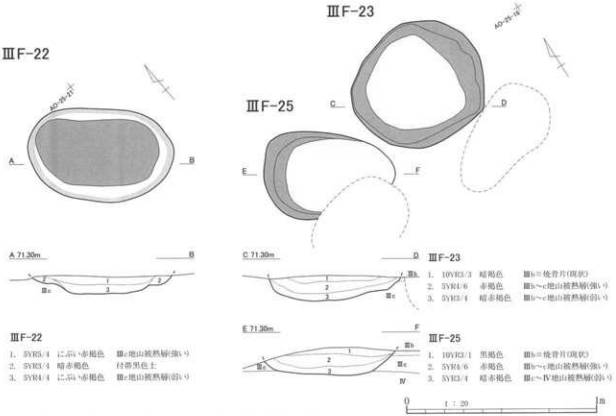
ⅢH-04（図Ⅱ-16～18　図版 12-9・13・14-1～8・51-2-2～6）

位　置：AH～AJ-24・25 区　　規　模：主体部(550)×535 cm　　検出層位：ⅢbM

長軸方向：N-17°W　　付属遺構：ⅢF-31・33

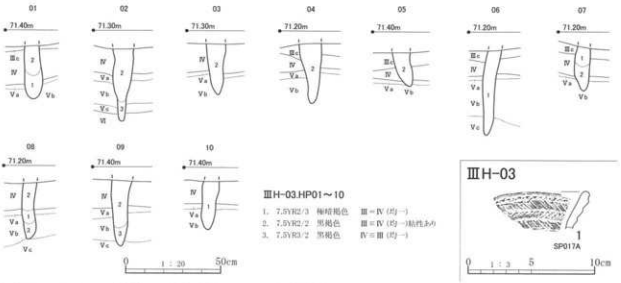
確認・調査　調査区中央部やや段丘崖寄りに位置する。住居跡西側の撹乱断面に焼土（ⅢF-31）を確認した。当初、この焼土は 2 つの焼土が連結したものと思われⅢF-32 を付番したが、精査の結果、撹乱坑の掘削によって焼土の一部が移動したものと考えられたため、原位置を留めているもののみを記載し、ⅢF-32 を欠番とした。ⅢF-32 として採取したサンプルはⅢF-31 として取り扱っている。さらに北東側を精査するともう 1 ヵ所の焼土（ⅢF-33）を検出した。焼土の検出レベルで水平に精査していくと、北東から南西に伸びる柱穴列、畑や家屋の造成でⅥ層上面まで削平されている部分でも柱穴列を検出した。住居跡の規模は、長軸方向で現存 550cm を測り、西側が大きく破壊されていることを考慮すると、本遺跡の中では大型の住居跡





図Ⅱ-14 ⅢH-03 平面図・付属ⅢF 平面及び断面図

ⅢH-03.HP



図Ⅱ-15　ⅢH-03 付属 HP 断面図･ⅢH-03 出土遺物

表Ⅱ-13　ⅢH-03属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm) 主体部 長軸	規模(cm) 主体部 短軸	規模(cm) 付属部 長軸	規模(cm) 付属部 短軸	柱穴 本数 主柱	柱穴 本数 付属	柱穴 本数 他	付属関連遺構
Ⅱ-14	11-1	ⅢH-03	AO･AP -24･25	ⅢbM	N-47° W	485	370	－	－	10	－	－	ⅢF-22･23･25

表Ⅱ-14　ⅢH-03付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名		グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	規模(cm) 厚さ	灰･骨片	備考
Ⅱ-14	11-2･4	ⅢH-03	ⅢF-22	AO-24･25	ⅢbM	楕円形	76	48	10	－	
	11-3･5		ⅢF-23	AO-25	ⅢbM	円形	70	67	13	骨	
	11-3･6		ⅢF-25	AO-25	ⅢbM	楕円形	68	46	14	骨	

表Ⅱ-15　ⅢH-03柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm) 上端	規模(cm) 下端	規模(cm) 深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-15	12-1･2	HP01	8	0	28	3°	打込み
	－	HP02	11	0	38	2°	打込み
	－	HP03	10	0	27	3°	打込み
	12-3･4	HP04	12	0	32	2°	打込み
	12-5･6	HP05	9	0	18	16°	打込み
Ⅱ-15	－	HP06	7	0	45	5°	打込み
	－	HP07	7	0	23	1°	打込み
	12-7･8	HP08	7	0	29	1°	打込み
	－	HP09	11	0	35	0°	打込み
	－	HP10	8	0	25	3°	打込み

表Ⅱ-16　ⅢH-03出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	調査区遺構名	層位	点数	部位	器面調整 口唇	器面調整 器表面	器面調整 内面	文様 口縁部等/文様帯	胎土(砂粒)	備考
Ⅱ-15-1	51-2-1	SP017 A	ⅦB3	ⅢH-03	ⅢbL	1	口縁	ミガキ	横ナデ	横ミガキ	横走沈線文＋刺み（矢羽根状）	微量	焼成良好・緻密

であったことが推定される。

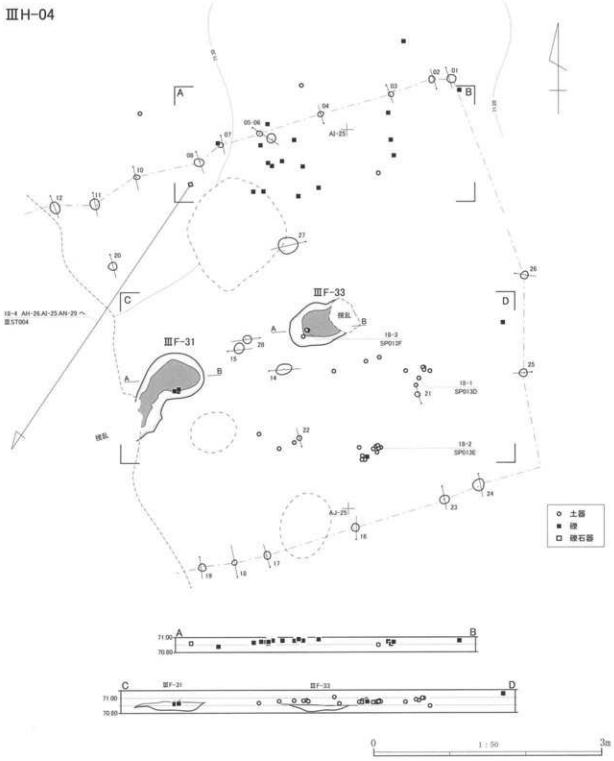
西側以外でも全体に撹乱が著しく、住居跡の堆積土壌断面図を作成するまでには至らなかったが、残存する焼土周辺の覆土から擦文土器と礫が検出された。焼土を住居跡の炉跡と考え、検出写真撮影後、平面形を記録した。焼土の長軸方向に通しのトレンチを設定しようとしたが、西側が撹乱部分にかかるため、個々にトレンチを入れた。断面写真撮影後、実測図を作成し、サンプルを採取中にⅢF-33の地山被熱層の中から土器片を検出した。柱穴については、住居跡の中心部に向かって傾斜の方向性が分かるように半截した。写真撮影の後に断面図を作成し、完掘後、平面プランを記録した。住居跡全体を精査し、完掘写真で撮影して調査を終了した。

付属炉（ⅢF-31・33）　いずれも付帯黒色土を伴い、ⅢF-31の西南側は付帯黒色土が広がるようではあるが、上述したように撹乱坑の掘削により焼土部分が移動したと考えられることから、原位置を留めていると考えられる焼土部分のみを図化した。ⅢF-33の地山被熱層中から3点の土器が出土している。土器は二次被熱し灰褐色を呈する。ⅢF-31のフローテーションサンプルから、魚類の鰭棘片・コイ科咽頭骨の他に部位不明の魚骨・哺乳類の骨片が、ⅢF-33からも魚類の鰭棘片・部位不明の哺乳類の骨片が検出されている。本遺跡のアイヌ文化期とは異なり、魚骨が多く出土し、明瞭なシカの骨片が出土していないことが注意される。

柱穴（HP01～08・10～12・14～28）　南西側が大きく撹乱されているため柱穴列の全容を示すことは出来なかった。また、南東側も畑や家屋の造成によって撹乱されているため、確認できた柱穴は下端のみである。すべて打込みで大型のものは直径28cm、最も深いものは61cmを測る（表Ⅱ-19）。大型で深い柱穴は住居跡の北東隅から反時計回りにHP01・08・11・20・19・23・24・25で、HP23・24・25は撹乱を受けている区域での検出であり、他の柱穴より確認面がおおよそ30cm低い。他に住居内側にHP14・15・27・28が見られる。HP20も含め、これらの柱穴は間仕切り的な、あるいは棟持柱的な存在とも考えられる。

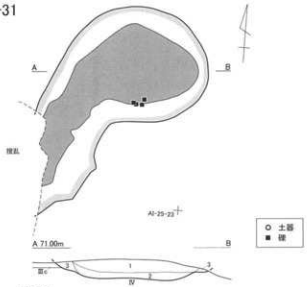
出土遺物（図Ⅱ-18）　1～3は擦文土器である。1は口縁部破片で、矢羽根状の刻みを持つ。2は胴部破片で貼付帯に馬蹄形押捺文を施している。3はⅢF-33の地山被熱層から出土したもので、斜位、縦位の沈線文が施される。いずれも内面は平滑に磨かれている。4はすり石。稜線の一部に擦り面と滑沢面がみられる。

時　期　炉跡の焼土上面や床面上から擦文土器片が出土していることから、住居跡の時期は擦文文化期と考えたいが、炉跡の焼土内から検出された土器が、明瞭に炉跡に伴うものか疑問点も残ることから、住居跡の時期は擦文～中世アイヌ文化期としたい。（宮塚）



図Ⅱ-16　ⅢH-04 平面及び遺物垂直分布図

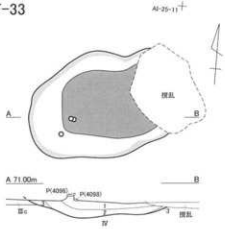
ⅢF-31



ⅢF-31

1. 5YR4/6　赤褐色　Ⅲc～Ⅳ地山被熱層強い/焼骨片含む
2. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅲc～Ⅳ地山被熱層弱い
3. 7.5YR3/2　黒褐色　付帯黒色土

ⅢF-33

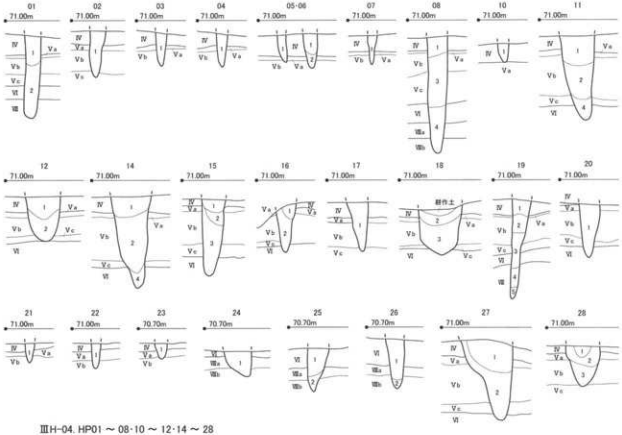


ⅢF-33

1. 5YR4/6　赤褐色　Ⅲc～Ⅳ地山被熱層強い
2. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅲc～Ⅳ地山被熱層弱い
3. 7.5YR3/2　黒褐色　付帯黒色土

0　1：20　m

ⅢH-04.HP

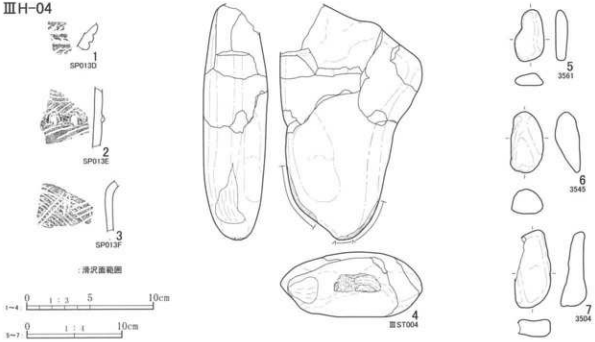


ⅢH-04. HP01 ～ 08·10 ～ 12·14 ～ 28

1. 7.5YR2/2　黒褐色　■＝Ⅳ(均一)しまりなし
2. 7.5YR3/3　暗褐色　■＝Ⅳ(均一)しまりなし
3. 7.5YR2/1　黒色　■＝Ⅳ(均一)しまりやや弱い
4. 7.5YR2/2　黒褐色　■＝Ⅳ(均一)しまり弱い
5. 7.5YR3/2　黒褐色　■＝Ⅳ(斑状)しまりなし

0　1：20　m

図Ⅱ-17　ⅢH-04 付属ⅢF・HP 平面及び断面図



図Ⅱ-18　ⅢH-04 出土遺物

表Ⅱ-17　ⅢH-04属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm) 主体部 長軸	規模(cm) 主体部 短軸	規模(cm) 付属部 長軸	規模(cm) 付属部 短軸	柱穴 本数 主柱	柱穴 本数 付属	柱穴 本数 他	付属関連遺構
Ⅱ-16	12-9	ⅢH-04	AH～AJ -24・25	ⅢbL.	N-17° W	(550)	535	-	-	19	7	-	ⅢF-31・33

表Ⅱ-18　ⅢH-04付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名		グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	規模(cm) 厚さ	灰・骨片	備考
Ⅱ-17	13-1・2	ⅢH-04	ⅢF-31	AI-25	ⅢbL.	不整形	(126)	70	7	-	
	13-3～6	ⅢH-04	ⅢF-33	AI-24・25	ⅢbL.	楕円形	(74)	56	12	-	

表Ⅱ-19　ⅢH-04柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm) 上端	規模(cm) 下端	規模(cm) 深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-17	13-7	HP01	9	0	43	0°	打込み
	13-8・9	HP02	8	0	24	3°	打込み
	13-10	HP03	6	0	17	0°	打込み
	14-1・2	HP04	6	0	17	0°	打込み
	-	HP05	5	0	14	10°	打込み
	-	HP06	8	0	18	4°	打込み
	-	HP07	5	0	15	1°	打込み
	14-3・4	HP08	11	0	61	0°	打込み
	-	HP10	6	0	10	5°	打込み
	14-5	HP11	19	0	45	7.5°	打込み
	-	HP12	18	0	24	5°	打込み
	-	HP14	21	0	48	3°	打込み
	-	HP15	12	0	40	3°	打込み
	-	HP16	11	0	24	0°	打込み
	-	HP17	12	0	24	5°	打込み
	-	HP18	23	0	24	3°	打込み
	14-6・7	HP19	10	0	52	6°	打込み
	-	HP20	11	0	28	0°	打込み
	-	HP21	5	0	10	1°	打込み
	14-8	HP22	5	0	13	4°	打込み
	-	HP23	7	0	8	2°	打込み
	-	HP24	15	0	14	21°	打込み
	-	HP25	11	0	23	7.5°	打込み
	-	HP26	10	0	26	2.5°	打込み
	-	HP27	28	0	43	8°	打込み
	-	HP28	18	0	21	1°	打込み

表Ⅱ-20　ⅢH-04出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	調査区/遺構名	層位	点数	部位	器面調整			文様		胎土(砂粒)	備考
								口唇	器表面	内面	口縁部等/文様帯			
Ⅱ-18-1	51-2-2	SP013 D	ⅦB3	ⅢH-04	ⅢbL	1	口縁	-	ナデ	ミガキ	横走沈線文 +刻み(矢羽根状)		多量	
Ⅱ-18-2	51-2-3	SP013 E	ⅦB3	ⅢH-04	KR	1	胴部上半	-	ミガキ	ミガキ	斜位・横位沈線文・貼付帯 +馬蹄形押捺文		中量	
Ⅱ-18-3	51-2-4	SP013 F	ⅦB3	ⅢF-33	Ⅲc	1	胴部上半	-	ナデ	ミガキ	縦位・斜位・沈線文		多量	二次被熱 赤色化

表Ⅱ-21　ⅢH-04出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-18-4	51-2-5	ⅢST 004	3503-1	すり石	C2	ⅢbU	AI-25	(190.0)	113.1	46.5	(1,055.0)	Sa.	
			3923			ⅢbM	AN-29						
			3976			ⅢbM	AH-26						
			4501			Ⅲc	AI-25						

表Ⅱ-22　ⅢH-04出土礫属性表

□は1表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
-	51-2-6	-	3458	ⅢbM	完形	27.8	-25.9	20.9	-8.9	7.2	-9.7	1.3	-0.5	4.1	-	Sa.	
-		-	3560	ⅢbL	略完形	36.1	-17.6	26.3	-3.5	11.3	-5.6	1.4	-0.4	13.9	-	Sa.	
-		-	3508	ⅢbL	完形	41.2	-12.5	28.8	-1.0	21.2	4.3	1.4	-0.4	28.3	-	Sa.	
-		-	3514	ⅢbL	完形	41.2	-12.5	24.9	-4.9	13.3	-3.6	1.7	-0.1	16.8	-	Sa.	
-		-	3540	ⅢbL	完形	46.9	-6.8	31.5	1.7	16.9	0.0	1.5	-0.3	31.3	-	Sa.	
-		-	3507-2	ⅢbL	略完形	50.4	-3.3	26.2	-3.6	24.6	7.7	1.9	0.1	36.3	-	Sa.	
Ⅱ-18-5		-	3561	ⅢbL	完形	53.0	-0.7	30.3	0.5	12.6	-4.3	1.7	-0.1	22.6	-	Sa.	
-		-	3510	ⅢbL	完形	54.0	0.3	34.4	4.6	16.2	-0.7	1.6	-0.2	36.5	-	Sa.	
-		-	3550	ⅢbL	完形	54.4	0.7	27.7	-2.1	20.2	3.3	2.0	0.2	32.6	-	Sa.	
-		-	3558	ⅢbL	完形	59.5	5.8	26.8	-3.0	10.4	-6.5	2.2	0.4	22.6	-	Sa.	
Ⅱ-18-6		-	3545	ⅢbU	完形	66.2	12.5	34.0	4.2	25.9	9.0	1.9	0.1	62.0	-	Sa.	
-		-	3544	ⅢbU	完形	67.9	14.2	31.4	1.6	15.9	-1.0	2.2	0.4	40.8	-	Sa.	
-		-	3509	ⅢbU	完形	68.9	15.2	37.7	7.9	15.4	-1.5	1.8	0.0	47.5	-	Sa.	
Ⅱ-18-7		-	3504	ⅢbU	略完形	84.1	30.4	35.7	5.9	25.6	8.7	2.4	0.6	77.5	-	Mud.	
完形平均直						53.7		29.8		16.9		1.8		33.8			
遺物総重量														472.8			

※14点

第2節　建物跡

今回検出した建物跡は2軒である。いずれも6本柱の建物跡であり、柱穴以外は確認できなかった。遺物も出土していない。

建物跡01（図Ⅱ-19　図版14-9・15-1～8）

位　置：AG-24・25区　　規　模：290×282 cm　　検出層位：Ⅳ

構　成：6本柱（ⅢKP-275～277・282・284・287）　　長軸方向：N-75° W

確認・調査　杭列跡02及びⅢH-04の付属遺構を調査中、AG-24・25区で柱穴列を検出した。平面形は長辺の中間の柱がやや内側に位置する長方形を呈する。

柱穴　半截し断面観察したところ、同規模の3本が2列に並んでおり、6本柱の建物跡と考えられた。建物跡01と付番し、断面撮影・実測図作成後完掘し、写真撮影・平面プランの記録を行った。柱穴は検出面の直径が10～15 cm、深さ28～50cmで、全て打込みである。柱穴の傾斜角にも変化は見られず、ほぼ垂直に打込まれていた。

時　期　遺物は出土しておらず、時期は不明であるが、幌内7遺跡他でアイヌ文化期の遺跡から同様の建物跡が検出されている（町教委 2010a）。

当初、ⅢH-04の北側に位置するため、ⅢH-04との関連性を考慮したが、主軸方向が異なり、むしろⅢH-02に近い。この点もアイヌ文化期とした所以である。　（服部）

建物跡02（図Ⅱ-19　図版15-9・16-1～8）

位　置：AE・AF-19・20区　　規　模：主体部367×212㎝　　検出層位：Ⅳ

構　成：6本柱（ⅢKP-298～301・304・305）　長軸方向：N-29.5° W

確認・調査　B区Ⅳ層上面で遺構確認調査中に、杭列跡02よりやや離れたAE-19・20、AF-19・20グリッドの位置で3本2列の柱穴列を確認した。このプランの配列は長方形を呈し、建物跡であることが想定された。プランを半截し断面観察を行ったところ、柱穴と確認し、建物跡02と付番した。

柱穴　全て検出がⅣ層上面であり、覆土はⅢ層主体である。掘り方理土は認められず、打込みである。規模は直径13～28㎝、深さ40～50㎝である。

時　期　出土遺物がなく、時期特定は難しいが建物跡01と同様、覆土からアイヌ文化期に帰属すると思われる。　（服部）

第3節　集中区

本節で集中区として掲載したものは、焼土及び土器・礫集中が同一層位で検出されるが、柱穴を伴わず周辺に比べ遺物分布密度が高く、ひとつの活動範囲として捉えたものである。今回検出した集中区は1ヵ所である。集中区1は住居跡群の南西、沢頭部に位置する。

集中区1（図Ⅱ-20～26　図版16-9・17・18-1～5・52）

位　置：AN～AO-29～30区　　規　模：1,010×500㎝

関連遺構：ⅢF-34　ⅢBB-08・09　ⅢB-01

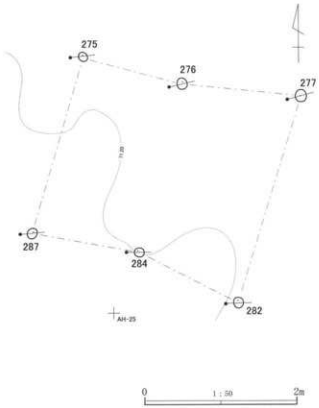
確認・調査　調査区南西部、現道西側を調査中に確認した。調査前は盛土により平坦であったが地山は深い沢状地形をなしていた。Ta-bテフラも厚く堆積しており、沢状地形の傾斜を利用して、西端には家畜のし尿処理施設が作られていた。

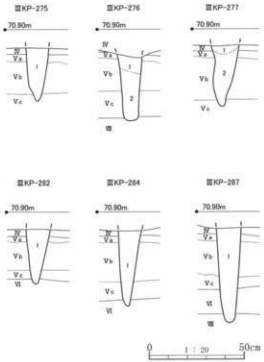
重機によって厚い盛土層を除去し、Ⅲ層上面で遺物を確認した。遺物は鉄製品も含め、土器・礫・獣骨片が混在しており東から西に向かって傾斜する沢頭部に多く見られたため、ジョレンで慎重にTa-b層を除去し、遺物の検出に務めた。また沢状地形の東側平坦面と南側緩斜面は、宅地造成によって大きく削平されており、Ⅶ層上面が露出していた。

遺構は焼土1ヵ所（ⅢF-34）、獣骨集中2ヵ所（ⅢBB-08・09）、遺物集中1ヵ所（ⅢB-01）を検出した。さらにⅢb層下位まで掘削し、全体の写真撮影を行った。図Ⅱ-20に示した平面図・遺物垂直分布図は、デジタル写真測量によって作成したものである。そのため、コンターは掘削面（Ⅲb層下位）を表示している。個々の遺構の断面撮影・実測図を作成し、サンプルを採取したのち、遺物の写真撮影と取り上げを行い、調査終了とした。

焼土（ⅢF-34）　沢状地形の南に面した斜面から焼土を1ヵ所検出した。地山被熱層の上に、灰・焼骨片・炭化物が検出された。フローテーション資料から、魚類の鰭棘・コイ科の咽頭骨・哺乳綱の部位不明の骨片が得られている（Ⅳ章第2節参照）。

建物跡01



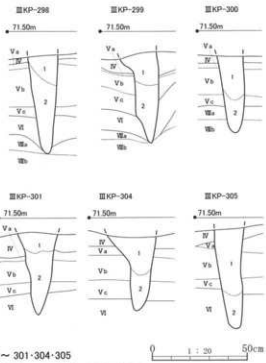


Ⅲ KP-275 ～ 277・282・284・287

1. 7.5YR2/1　黒色　Ⅲ＝Ⅳ(均一)ややしまりあり
2. 7.5YR2/2　黒褐色　Ⅲ＝Ⅳ(均一)しまりなし

建物跡 02

※Ⅲ層削平範囲のため
等高線は作成していない。



Ⅲ KP-298 ～ 301・304・305

1. 7.5YR2/1　黒色　Ⅲ＝Ⅳ(均一)ややしまりあり
2. 7.5YR2/2　黒褐色　Ⅲ＝Ⅳ(均一)しまりなし

図Ⅱ-19　建物跡 01・02 平面及び柱穴断面図

表Ⅱ-23　建物跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	柱穴本数 主柱穴	柱穴本数 他	付属遺構
Ⅱ-19	14-9	建物跡01	AG-24・25	Ⅳ	N-75° W	290	282	6	-	-
	15-9	建物跡02	AE・AF-19・20	Ⅳ	N-29.5° W	367	212	6	-	-

表Ⅱ-24　建物跡柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名		規模(cm) 上端	規模(cm) 下端	規模(cm) 深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-19	-	建物跡01	ⅢKP-275	13	0	28	0°	打込み
	15-1・2		ⅢKP-276	13	0	35	0°	打込み
	15-3・4		ⅢKP-277	14	0	33	2°	打込み
	15-5・6		ⅢKP-282	13	0	29	2°	打込み
	-		ⅢKP-284	13	0	40	1°	打込み
	15-7・8		ⅢKP-287	13	0	50	0°	打込み

挿図番号	図版番号	遺構名		規模(cm) 上端	規模(cm) 下端	規模(cm) 深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-19	16-1・2	建物跡02	ⅢKP-298	15	0	53	0°	打込み
	-		ⅢKP-299	20	0	48	7°	打込み
	16-3・4		ⅢKP-300	13	0	40	3°	打込み
	16-5・6		ⅢKP-301	28	0	43	0°	打込み
	-		ⅢKP-304	25	0	40	2.5°	打込み
	16-7・8		ⅢKP-305	15	0	53	5°	打込み

獣骨集中（ⅢBB-08・09）　沢頭部上半から、谷底に沿って2ヵ所の獣骨集中が検出された。ⅢBB-08は218×160cm、ⅢBB-09は184×74cmの範囲に、獣骨・礫（被熱含む）が沢底に沿うように散逸していた。あたかも、上方から投棄されたような出土状態であった。

ⅢBB-08のフローテーションサンプルからは、シカの歯冠破片・哺乳綱の部位不明骨片・魚類の鰭棘破片が、ⅢBB-09からはコイ科の椎骨・サケ科の椎骨破片・哺乳綱（シカ科ではない）の部位不明骨片が検出されている。ⅢH-04など、擦文文化期の遺構から検出される動物遺存体の組成に近い。サケ科の椎骨は上幌内1遺跡では初めて検出された。

遺物集中（ⅢB-01）　沢状地形南向きの斜面から中央部にかけて土器片・鉄器・獣骨片・礫石器・礫等が集中して検出したことからⅢB-01を付番して調査を進めた。遺物の分布範囲は484×385cmである。図Ⅱ-22に示したように、出土した擦文土器は等高線に直交するように沢の上部から下部にかけて接合しているため、遺物が沢に向かって遺棄された様相を示している。

ⅢB-01のハンドピックサンプルからはヒグマ上腕骨・哺乳綱長管骨・部位不明骨・シカ下顎臼歯・臼歯・橈骨・距骨が検出されている。魚類の骨片が見られないが、ヒグマの上腕骨が検出されており、獣骨集中ⅢBB-08・09とも異なった組成が見える。

出土遺物（図Ⅱ-24・25・26）　1・2は擦文土器。1は口縁部に短い刻みを配し、ⅢPB-02から出土した甕形土器（図Ⅱ-32-1・2）に類似する。内面には黒色処理が施されている。2は短く屈折する口縁部を持ち、内外面に口縁部は横方向、胴部は縦方向のヘラミガキが施されているが、外面のヘラミガキは下半部に集中し、口縁部・胴上半部ではヨコナデ・ハケメが残る。3は滑沢面を持つ火打石。三縁が打ち欠かれている。4・5はたたき石。側縁に敲打痕を残す。6・7は端部に敲打痕を残し、6は被熱している。8・9は反りのある小刀。明瞭な区を残す。9は先端部が折れ曲がっている。10は断面に複数の稜を有する棒状鉄製品。用途等は不明である。

礫についてはそれぞれの遺構から出土した主なものの実測図を図Ⅱ-25・26に示した。25-1～7・9～14いずれも小型の棒状礫である。25-8・15は板状礫。側縁の一部と稜線部分が被熱し、破砕している。図Ⅱ-26はⅢB-01から出土した礫を図示した。やや扁平な棒状礫が多い。被熱しているものが全体の30%を占める。28は割れた後に一部が被熱を受けている。

図示できなかったが、ⅢB-01から、丸めたカバ属樹皮の焼けたものが出土している。アイヌの民俗例にある「タッニカプ（松明）」に類似している。

性格・時期　本遺構は図Ⅱ-22に示したように、甕形土器（図Ⅱ-24-2）の出土状態から、「送り場」的な性格は考えられず、遺物を沢の斜面に投棄した場所と考えられる。時期は擦文文化期に属するものである。

（宮塚）

表Ⅱ-25　集中区1遺構属性表

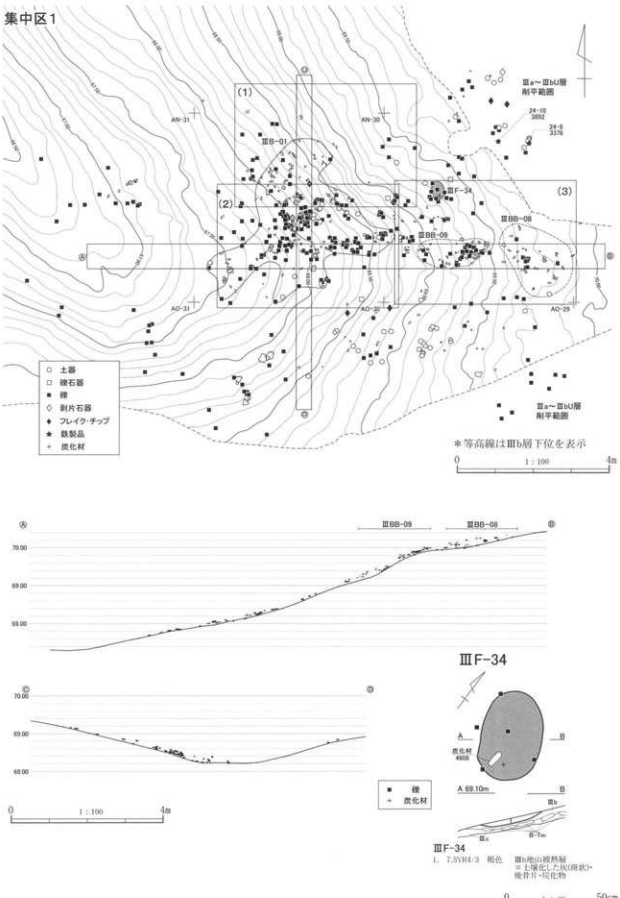
挿図番号	図版番号	遺構名		グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	短軸	厚さ	被熱の有無	炭・骨片の有無	備考
Ⅱ-21・22	17-1	集中区1	ⅢB-01	AN-30	ⅢbM	不整形	484	385	-	-	骨	-
Ⅱ-20・23	18-2・3		ⅢF-34	AN-29	ⅢbM	楕円形	46	34	3	有	骨	-
Ⅱ-23	17-4		ⅢBB-08	AN-28・29	ⅢbM	楕円形	218	160	-	有	骨	-
Ⅱ-23	18-1		ⅢBB-09	AN-29	ⅢbM	長楕円形	184	74	-	有	骨	-

表Ⅱ-26　集中区1出土土器属性表

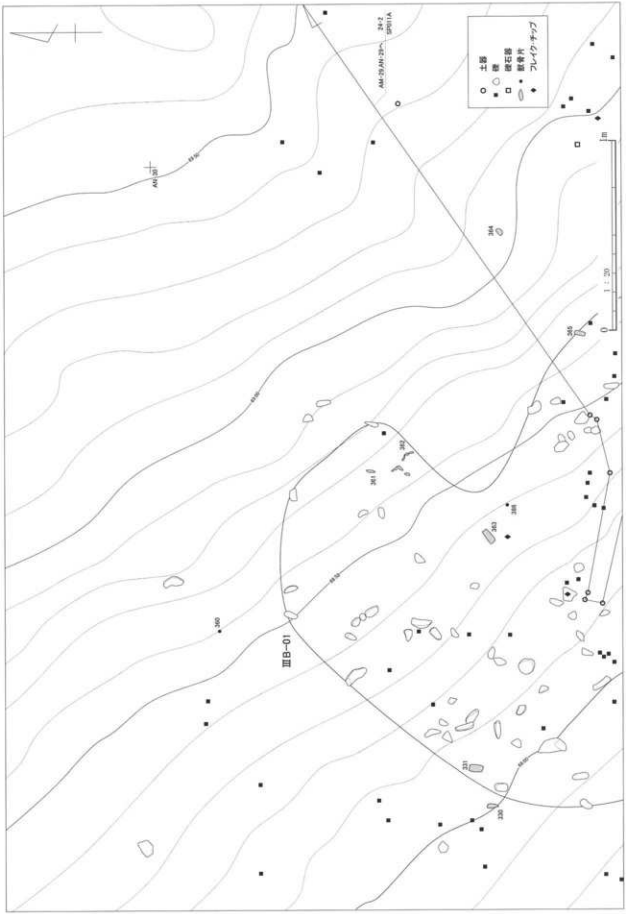
挿図番号	図版番号	個体名称	分類	調査区遺構名	層位	点数	部位	器面調整 口唇	器表面（口縁部/胴部/底部）	内面（口縁部/胴部/底部）	文様 口縁部等/文様帯	胎土(砂粒)	備考
Ⅱ-24-1	52-1-1	SP016A	ⅦB3	ⅢB-01	ⅢbL	1	口縁	ミガキ	横ナデ	横ミガキ（黒色処理）	刻み・斜行沈線文（矢羽根状）	少量	
					ⅢbM	1							
Ⅱ-24-2	52-1-2	SP011A	ⅦB3	ⅢB-01	ⅢbM	12	口縁～胴部下半	ミガキ	横ナデ/一部縦ハケメ→横ミガキ→縦ミガキ	横ミガキ/縦ミガキ（黒色処理）	無文	微量	成形粘土紐痕顕著
					ⅢbL	1							
				AM-29	ⅢbL	1							
				AN-29		1							

表Ⅱ-27　集中区1出土遺物属性表

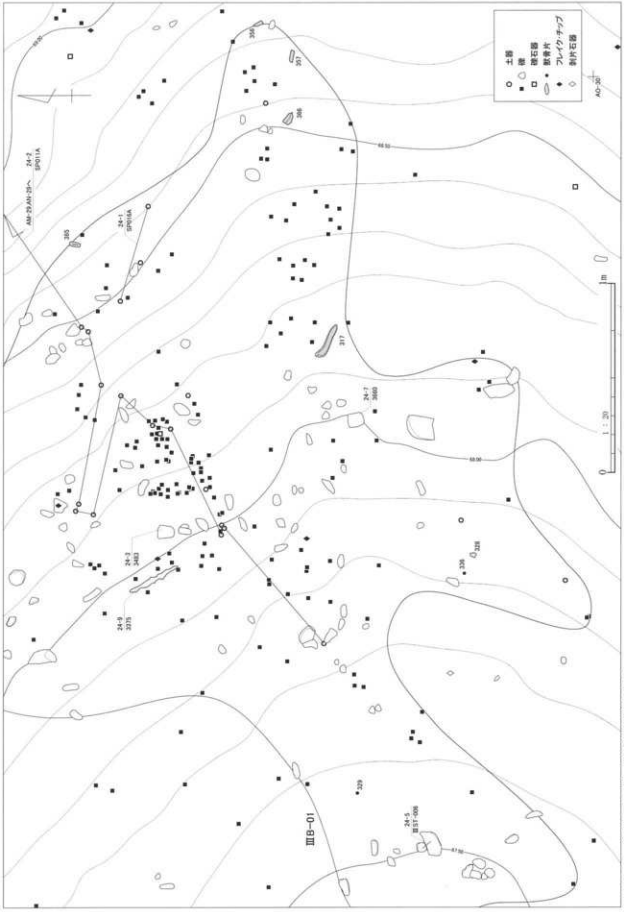
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構グリッド	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-24-3	52-1-3	-	3483	火打石	-	ⅢbM	ⅢB-01	92.1	78.4	30.6	312.0	Qu-Sch.	滑沢面有
Ⅱ-24-4	52-1-4	ⅢST003	3687	たたき石	ⅡA2	ⅢbM	ⅢBB-09	138.6	61.4	37.0	385.0	Sa.	-
			3689										
Ⅱ-24-5	52-1-5	ⅢST006	3589	たたき石	ⅡA2	ⅢbM	ⅢB-01	127.0	(60.0)	34.4	(450.0)	Sa.	被熱
			3590										
Ⅱ-24-6	52-1-6	-	3721	加工痕のある礫	-	ⅢbM	ⅢBB-08	(51.7)	36.2	18.1	(35.9)	Sa.	被熱
Ⅱ-24-7	52-1-7	-	3660	加工痕のある礫	-	ⅢbM	ⅢB-01	122.5	70.3	76.3	856.0	Sa.	-
Ⅱ-24-8	52-1-8	-	3376	小刀	-	ⅢbM	AN-29	274.0	17.3	6.7	111.3	Irn.	-
Ⅱ-24-9	52-1-9	-	3375	小刀	-	ⅢbM	ⅢB-01	303.7	29.2	6.8	133.0	Irn.	-
Ⅱ-24-10	52-1-10	-	3892	棒状鉄製品片	-	ⅢbM	AN-29	(19.8)	5.8	4.2	(0.6)	Irn.	-



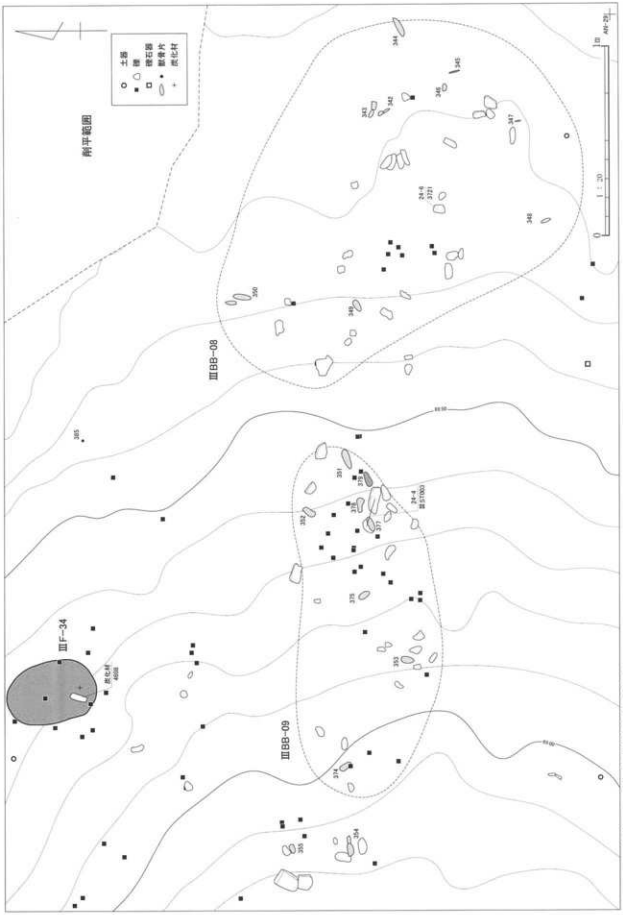
図Ⅱ-20　集中区1平面及び断面図



図Ⅱ-21　集中区Ⅰ拡大遺物分布図(1)

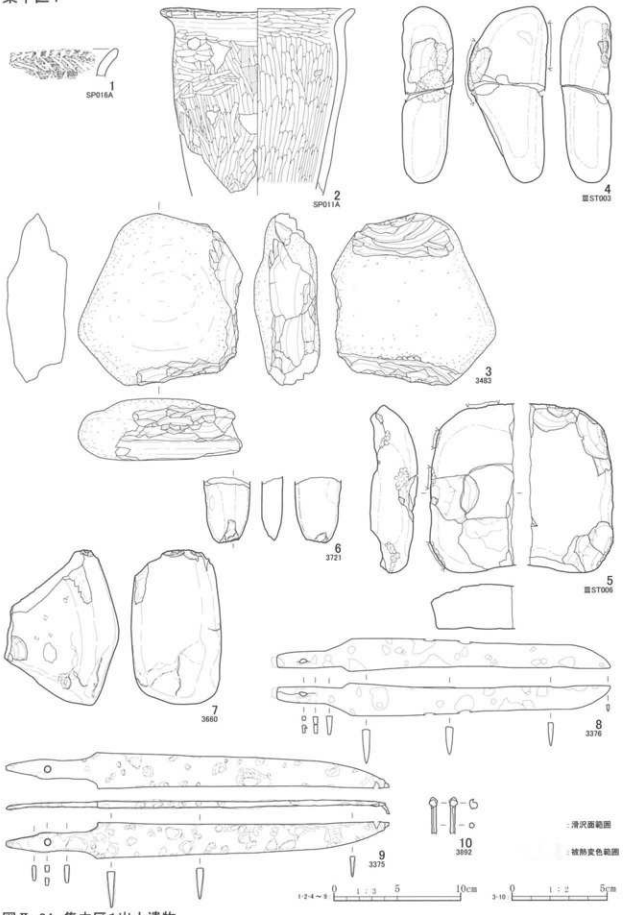


図Ⅱ-22 集中区1 拡大遺物分布図(2)

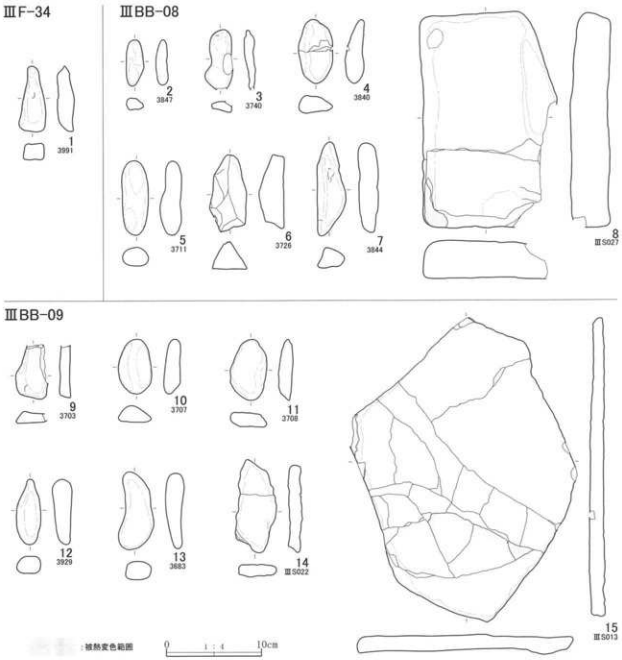


図Ⅱ−23　集中区１ 拡大遺物分布図(3)

集中区1

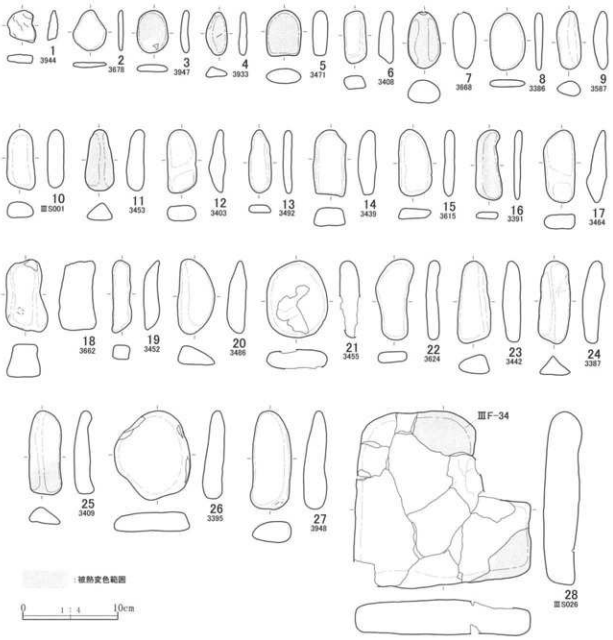


図Ⅱ-24　集中区1出土遺物



図Ⅱ-25　ⅢF-34・ⅢBB-08・09出土礫

集中区 1



図Ⅱ-26　集中区1出土礫

表Ⅱ-28　ⅢF-34出土礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-25-1	52-2-2	－	3991	ⅢbM	完形	67.0	25.8	27.0	7.1	18.6	5.7	2.5	0.7	43.0	○	Mud.	
－	52-2-3	－	6219	ⅢbM	完形	15.4	-25.8	12.7	-7.2	7.2	-5.7	1.2	-0.6	1.8	○	Mud.	
完形平均値						41.2		19.9		12.9		1.8		22.4			
遺物総重量														44.8			

※2点

表Ⅱ-29 ⅢBB-08出土礫属性表

□は1の表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
–		–	3730	ⅢbM	完形	26.6	−44.1	18.1	−19.4	6.9	−11.9	1.5	−0.5	3.7	–	Sa.	
–		–	3839	ⅢbM	完形	27.7	−43.0	26.0	−11.5	18.0	−0.8	1.1	−0.9	18.9	–	Gra.	
–		–	6218	ⅢbM	完形	29.2	−41.5	10.6	−26.9	7.1	−11.7	2.8	0.8	2.3	–	Mud.	
–		–	3736	ⅢbM	完形	33.9	−36.8	27.4	−10.1	10.7	−8.1	1.2	−0.8	6.7	–	Mud.	
–		–	3720	ⅢbM	完形	36.2	−34.5	34.1	−3.4	26.2	7.4	1.1	−0.9	46.9	–	Sa.	
Ⅱ-25-2		–	3847	ⅢbM	完形	48.6	−22.1	17.4	−20.1	12.2	−6.6	2.8	0.8	14.3	–	Sa.	
–		–	3845	ⅢbM	完形	60.5	−10.2	32.1	−5.4	19.4	0.6	1.9	−0.1	47.6	–	Sa.	
Ⅱ-25-3		–	3740	ⅢbM	略完形	63.1	−7.6	28.7	−8.8	11.9	−6.9	2.2	0.2	21.4	–	Mud.	
–		–	3732	ⅢbM	完形	67.2	−3.5	38.0	0.5	27.6	8.8	1.8	−0.2	95.2	–	Sa.	
–		–	3739	ⅢbM	完形	67.4	−3.3	30.0	−7.5	19.4	0.6	2.2	0.2	37.6	–	Sa.	
Ⅱ-25-4	52−2	–	3840	ⅢbM	完形	67.9	−2.8	35.9	−1.6	19.6	0.8	1.9	−0.1	53.6	–	Sa.	
–	−4	–	3718	ⅢbM	完形	70.9	0.2	34.3	−3.2	13.6	−5.2	2.1	0.1	44.1	–	Sa.	
–		–	3719	ⅢbM	完形	74.9	4.2	37.9	0.4	17.4	−1.4	2.0	0.0	61.1	–	Sa.	
–		–	3714	ⅢbM	略完形	77.1	6.4	43.0	5.5	15.9	−2.9	1.8	−0.2	58.5	–	Sa.	
Ⅱ-25-5		–	3711	ⅢbM	完形	78.2	7.5	27.4	−10.1	21.9	3.1	2.9	0.9	59.3	–	Sa.	
Ⅱ-25-6		–	3726	ⅢbM	完形	81.3	10.6	37.5	0.0	27.4	8.6	2.2	0.2	68.1	–	Mud.	
–		–	3841	ⅢbM	完形	82.8	12.1	51.2	13.7	24.2	5.4	1.6	−0.4	126.2	–	Sa.	
–		ⅢS019	3722 3723	ⅢbM	完形	87.0	16.3	51.0	13.5	15.0	−3.8	1.7	−0.3	69.0	–	Sa.	
Ⅱ-25-7		–	3844	ⅢbM	完形	98.2	27.5	28.9	−8.6	21.8	3.0	3.4	1.4	67.5	–	Mud.	
Ⅱ-25-8		ⅢS027	3741 3831 3843	ⅢbM	略完形	235.0	164.3	140.0	102.5	39.1	20.3	1.7	−0.3	2150.0	○	Sa.	
完形平均値						70.7		37.5		18.8		2.0		152.6			
遺物総重量														3052.0			

※20点

表Ⅱ-30 ⅢBB-09出土礫属性表

□は1の表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
–		–	6250	ⅢbM	完形	18.3	−56.4	13.4	−32.2	12.1	−6.2	1.4	−0.4	4.3	–	Qu.	
–		–	6227	ⅢbM	完形	26.7	−48.0	20.9	−24.7	7.2	−11.1	1.3	−0.5	5.2	–	Sa.	
–		–	3694	ⅢbM	完形	32.2	−42.5	14.2	−31.4	8.2	−10.1	2.3	0.5	4.0	–	Sa.	
–		–	6228	ⅢbM	完形	34.0	−40.7	23.8	−21.8	8.0	−10.3	1.4	−0.4	6.7	–	Ser.	
–		–	6237	ⅢbM	完形	34.4	−40.3	17.4	−28.2	6.7	−11.6	2.0	0.2	3.2	–	Mud.	
–		–	3684	ⅢbM	完形	49.5	−25.2	32.5	−13.1	27.0	8.7	1.5	−0.3	52.6	–	Sa.	
Ⅱ-25-9		–	3703	ⅢbM	完形	55.5	−19.2	34.8	−10.8	13.0	−5.3	1.6	−0.2	26.3	–	Sa.	
Ⅱ-25-10		–	3707	ⅢbM	完形	57.9	−16.8	34.1	−11.5	17.0	−1.3	1.7	−0.1	40.6	–	Sa.	
–		–	3700	ⅢbM	完形	58.3	−16.4	26.6	−19.0	21.8	3.5	2.2	0.4	43.8	–	Mud.	
–		–	3875	ⅢbM	略完形	59.8	−14.9	30.1	−15.5	23.7	5.4	2.0	0.2	50.8	–	Sa.	
–		–	3924	ⅢbM	略完形	60.5	−14.2	56.0	10.4	28.4	10.1	1.1	−0.7	88.6	–	Sa.	
–		–	3938	ⅢbM	完形	64.3	−10.4	27.7	−17.9	26.4	8.1	2.3	0.5	47.0	–	Sa.	
Ⅱ-25-11	52−2	–	3708	ⅢbM	完形	64.3	−10.4	37.6	−8.0	18.7	0.4	1.7	−0.1	49.9	–	Sa.	
–	−5	–	3681	ⅢbM	完形	67.1	−7.6	35.4	−10.2	25.9	7.6	1.9	0.1	66.2	–	Sa.	
–		ⅢS030	3876 3698	ⅢbM	完形	68.0	−6.7	33.1	−12.5	15.0	−3.3	2.1	0.3	38.8	–	Sa.	
Ⅱ-25-12		–	3929	ⅢbM	完形	69.1	−5.6	26.4	−19.2	21.0	2.7	2.6	0.8	44.6	–	Sa.	
–		–	3680	ⅢbM	完形	69.3	−5.4	28.2	−17.4	17.1	−1.2	2.5	0.7	52.0	–	Sa.	
–		–	3685	ⅢbM	完形	72.2	−2.5	36.2	−9.4	22.3	4.0	2.0	0.2	55.8	○	Sa.	
Ⅱ-25-13		–	3683	ⅢbM	完形	81.6	6.9	35.9	−9.7	20.2	1.9	2.3	0.5	66.9	–	Sa.	
Ⅱ-25-14		ⅢS022	3693 3715	ⅢbM	完形	99.0	24.3	42.6	−3.0	12.0	−6.3	2.3	0.5	76.2	○	Sa.	
–		–	3708	ⅢbM	完形	179.2	104.5	154.0	108.4	35.1	16.8	1.2	−0.6	1386.0	–	Sa.	
Ⅱ-25-15		ⅢS013	3873 3874 他9点	ⅢbM	略完形	322.0	247.3	243.0	197.4	16.2	−2.1	1.3	−0.5	1605.0	○	Sa.	
完形平均値						74.7		45.6		18.3		1.8		173.4			
遺物総重量														3814.5			

※22点

表Ⅱ-31　集中区1出土礫属性表

（注）－の表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
－		－	3458	Ⅲb	完形	27.8	−41.9	20.9	17.7	7.2	−10.5	1.3	−1.0	4.1	－	Sa.	
Ⅱ-26-1		－	3944	Ⅲb	完形	33.9	−35.8	25.9	−6.3	8.8	−8.9	1.3	−1.0	12.2	－	Qu.	
－		－	3416	Ⅲb	完形	37.2	−32.5	24.0	−8.2	11.9	−5.8	1.6	−0.8	13.4	－	Sa.	
－		－	3462	Ⅲb	完形	37.9	−31.8	33.3	1.1	6.0	−11.7	1.1	−1.2	8.6	－	Sa.	
Ⅱ-26-2		－	3678	Ⅲb	完形	41.9	−27.8	35.1	2.9	0.2	−17.5	1.2	−1.1	9.9	－	Sa.	
－		－	3446	Ⅲb	完形	42.5	−27.2	12.6	−19.6	12.9	−4.8	3.4	1.1	9.2	－	Sa.	
－		－	3568	Ⅲb	略完形	43.0	−26.7	26.2	−6.0	21.3	3.6	1.6	−0.7	28.0	－	Sa.	
－		－	3449	Ⅲb	完形	43.9	−25.8	43.5	11.3	16.1	−1.6	1.0	−1.3	37.2	－	Sa.	
Ⅱ-26-3		－	3947	Ⅲb	完形	44.7	−25.0	32.7	0.5	8.9	−8.8	1.4	−0.9	16.4	○	Sa.	
Ⅱ-26-4		－	3933	Ⅲb	完形	45.1	−24.6	21.8	−10.4	10.6	−7.1	2.1	−0.2	11.4	○	Sa.	
－		－	3418	Ⅲb	完形	45.2	−24.5	23.8	−8.4	11.9	−5.8	1.9	−0.4	18.9	－	Mud.	
Ⅱ-26-5		－	3471	Ⅲb	完形	47.2	−22.5	36.1	3.9	15.9	−1.8	1.3	−1.0	38.2	○	Sa.	
－		－	3586	Ⅲb	完形	47.5	−22.2	31.2	−1.0	22.7	5.0	1.5	−0.8	35.7	○	Sa.	
－		－	3392	Ⅲb	完形	50.3	−19.4	28.0	−4.2	8.4	−9.3	1.8	−0.5	13.4	－	Mud.	
－		－	3413	Ⅲb	完形	51.4	−18.3	28.8	−3.4	17.5	−0.2	1.8	−0.5	33.9	○	Sa.	
－		－	3667	Ⅲb	完形	54.0	−15.7	35.3	3.1	17.6	−0.1	1.5	−0.8	41.2	○	Sa.	
－		－	3405	Ⅲb	完形	54.2	−15.5	25.3	−6.9	16.9	−0.8	2.1	−0.2	21.5	－	Tu.	
－		－	3677	Ⅲb	略完形	54.5	−15.2	25.6	−6.6	21.5	3.8	2.1	−0.2	61.1	－	Sa.	
－		－	3400	Ⅲb	完形	54.5	−15.2	31.7	−0.5	18.6	0.9	1.7	−0.6	33.6	－	Mud.	
Ⅱ-26-6		－	3408	Ⅲb	完形	55.1	−14.6	23.8	−8.4	14.7	−3.0	2.3	0.0	27.9	－	Sa.	
－		－	3679	Ⅲb	略完形	55.5	−14.2	21.5	−10.7	19.5	1.8	2.6	0.3	48.2	－	Sa.	
－		－	3574	Ⅲb	完形	57.3	−12.4	27.5	−4.7	16.2	−1.5	2.1	−0.2	31.8	－	Sa.	
－		－	3497	Ⅲb	略完形	57.6	−12.1	29.2	−3.0	15.7	−2.0	2.0	−0.3	29.2	－	Sa.	
－		－	3495	Ⅲb	完形	57.6	−12.1	22.3	−9.9	15.4	−2.3	2.6	0.3	24.5	－	Sa.	
－		－	3402	Ⅲb	完形	58.2	−11.5	29.6	−2.6	15.8	−1.9	2.0	−0.3	27.8	－	Mud.	
－		－	3611	Ⅲb	完形	58.4	−11.3	29.2	−3.0	13.2	−4.5	2.0	−0.3	31.1	－	Sa.	
Ⅱ-26-7		－	3668	Ⅲb	完形	59.4	−10.3	34.6	2.4	24.5	6.8	1.7	−0.6	65.7	○	Sa.	
－		－	3428	Ⅲb	完形	59.5	−10.2	22.2	−10.0	19.4	1.7	2.7	0.4	31.8	○	Sa.	
－		－	3669	Ⅲb	完形	59.8	−9.9	29.9	−2.3	20.0	2.3	2.0	−0.3	45.1	－	Sa.	
Ⅱ-26-8		－	3386	Ⅲb	完形	60.5	−9.2	37.1	4.9	9.0	−8.7	1.6	−0.7	25.8	－	Sa.	
－		－	3390	Ⅲb	完形	61.0	−8.7	37.0	4.8	20.9	3.2	1.6	−0.7	63.6	－	Sa.	
－		－	3603	Ⅲb	完形	61.5	−8.2	30.6	−1.6	20.5	2.8	2.0	−0.3	51.2	－	Mud.	
Ⅱ-26-9		－	3587	Ⅲb	完形	61.8	−7.9	24.5	−7.7	15.0	−2.7	2.5	0.2	26.8	○	Sa.	
－	52−2	－	3407	Ⅲb	完形	62.8	−6.9	34.7	2.5	17.6	−0.1	1.8	−0.5	55.3	－	Sa.	
Ⅱ-26-10	−1	Ⅲ S001	3485 3496	Ⅲb	完形	63.4	−6.3	28.2	25.0	16.7	−1.0	2.2	−0.1	42.6	－	Sa.	
Ⅱ-26-11		－	3453	Ⅲb	完形	63.6	−6.1	29.9	−2.3	18.3	0.6	2.1	−0.2	42.5	○	Sa.	
－		－	3489	Ⅲb	完形	64.5	−5.2	24.5	−7.7	21.2	3.5	2.6	0.3	46.4	－	Sa.	
－		－	3613	Ⅲb	完形	64.5	−5.2	29.6	−2.6	15.8	−1.9	2.2	−0.1	40.1	－	Sa.	
－		－	3627	Ⅲb	完形	65.2	−4.5	23.5	−8.7	13.5	−4.2	2.8	0.5	26.4	－	Sa.	
－		－	3610	Ⅲb	完形	65.6	−4.1	26.7	−5.5	21.0	3.3	2.5	0.2	50.4	－	Sa.	
Ⅱ-26-12		－	3403	Ⅲb	完形	66.2	−3.5	30.2	−2.0	16.2	−1.5	2.2	−0.1	35.6	○	Sa.	
－		－	3630	Ⅲb	完形	66.3	−3.4	35.9	3.7	20.0	2.3	1.8	−0.5	56.3	－	Sa.	
Ⅱ-26-13		－	3492	Ⅲb	完形	66.7	−3.0	23.9	−8.3	8.7	−9.0	2.8	0.5	18.7	－	Mud.	
－		－	3640	Ⅲb	完形	66.7	−3.0	30.1	−2.1	13.9	−3.8	2.2	−0.1	40.4	－	Sa.	
－		－	3463	Ⅲb	完形	66.9	−2.8	27.1	−5.1	12.6	−5.1	2.5	0.2	31.2	－	Sa.	
－		－	3575	Ⅲb	完形	67.5	−2.2	28.4	−3.8	21.9	4.2	2.4	0.1	40.7	－	Sa.	
Ⅱ-26-14		－	3439	Ⅲb	完形	68.0	−1.7	33.7	1.5	18.6	0.9	2.0	−0.3	66.9	－	Sa.	
Ⅱ-26-15		－	3615	Ⅲb	完形	69.0	−0.7	33.7	1.5	10.9	−6.8	2.0	−0.3	36.4	－	Sa.	
－		－	3567	Ⅲb	完形	71.2	1.5	24.8	−7.4	19.1	1.4	2.9	0.6	44.5	－	Sa.	
－		－	3620	Ⅲb	略完形	71.6	1.9	30.0	−2.2	18.5	0.8	2.4	0.1	43.8	－	Sa.	
－		－	3499	Ⅲb	完形	71.8	2.1	30.9	−1.3	16.2	−1.5	2.3	0.0	49.0	－	Sa.	
－		－	3381	Ⅲb	完形	72.4	2.7	29.7	−2.5	17.2	−0.5	2.4	0.1	43.4	－	Sa.	
Ⅱ-26-16		－	3391	Ⅲb	完形	73.1	3.4	27.4	−4.8	7.3	−10.4	2.7	0.4	21.4	○	Sa.	
－		－	3482	Ⅲb	完形	73.9	4.2	16.8	−15.4	17.7	0.0	4.4	2.1	36.2	－	Mud.	
－		－	3476	Ⅲb	略完形	74.3	4.6	26.5	−5.7	15.4	−2.3	2.8	0.5	47.0	－	Sa.	
－		－	3602	Ⅲb	完形	74.4	4.7	27.0	−5.2	13.6	−4.1	2.8	0.5	38.6	－	Sa.	
Ⅱ-26-17		－	3464	Ⅲb	完形	76.2	6.5	31.4	−0.8	18.0	0.3	2.4	0.1	54.0	－	Sa.	
－		－	3622	Ⅲb	完形	76.2	6.5	26.6	−5.6	18.4	0.7	2.9	0.6	41.1		Sa.	
Ⅱ-26-18		－	3662	Ⅲb	完形	76.4	6.7	43.4	11.2	38.7	21.0	1.8	−0.5	177.5	－	Sa.	
Ⅱ-26-19		－	3452	Ⅲb	完形	76.5	6.8	19.5	−12.7	16.0	−1.7	3.9	1.6	35.3	－	Sa.	
－		－	3397	Ⅲb	完形	76.6	6.9	30.0	−2.2	23.1	5.4	2.6	0.3	52.2	－	Sa.	
－		－	3441	Ⅲb	完形	77.3	7.6	30.0	−2.2	18.5	0.8	2.6	0.3	44.8	－	Sa.	
－		－	3578	Ⅲb	完形	77.8	8.1	32.1	−0.1	20.8	3.1	2.4	0.1	63.5	－	Sa.	
－		－	3583	Ⅲb	完形	77.8	8.1	23.7	−8.5	19.0	−1.3	3.3	1.0	42.2	－	Sa.	
－		－	3626	Ⅲb	完形	78.1	8.4	28.9	−3.3	19.2	1.5	2.7	0.4	43.5	－	Sa.	
－		－	3616	Ⅲb	完形	78.1	8.4	32.7	0.5	24.5	6.8	2.4	0.1	65.6	－	Sa.	
－		－	3576	Ⅲb	完形	78.6	8.9	35.2	3.0	15.8	−1.9	2.2	−0.1	39.8	－	Mud.	
Ⅱ-26-20		－	3486	Ⅲb	完形	78.7	9.0	38.0	5.8	21.0	3.3	2.1	−0.2	69.0	－	Sa.	

表Ⅱ-31　集中区1出土礫属性表(続き)

□は( )の表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
–		–	3404	ⅢbM	完形	79.3	9.6	29.9	−2.3	17.7	0.0	2.7	0.4	48.6	–	Sa.	
–		–	3423	ⅢbM	完形	79.3	9.6	28.4	−3.8	29.6	11.9	2.8	0.5	71.4	–	Sa.	
–		–	3618	ⅢbM	完形	80.0	10.3	29.7	−2.5	18.4	0.7	2.7	0.4	50.4	–	Sa.	
–		–	3389	ⅢbM	完形	80.4	10.7	29.2	−3.0	14.8	−2.9	2.8	0.5	48.0	–	Sa.	
Ⅱ-26-21		–	3455	ⅢbM	略完形	80.6	10.9	64.3	32.1	22.4	4.7	1.3	−1.0	131.2	–	Sa.	
–		–	3425	ⅢbM	完形	80.9	11.2	29.6	−2.6	22.0	4.3	2.7	0.4	53.9	–	Mud.	
–		–	3594	ⅢbM	完形	82.7	13.0	38.2	6.0	23.7	6.0	2.2	−0.1	81.3	–	Sa.	
–		ⅢS015	3431 3465	ⅢbM	完形	83.5	13.8	30.8	−1.4	20.9	3.2	2.7	0.4	43.7	–	Mud.	
–		–	3488	ⅢbM	完形	84.6	8.2	33.0	0.8	20.3	1.6	2.6	0.3	71.3	–	Sa.	
–		–	3603	ⅢbM	完形	85.1	8.7	42.0	9.8	21.9	3.2	2.0	−0.3	93.6	–	Sa.	
Ⅱ-26-22		–	3624	ⅢbM	完形	85.1	8.7	35.4	3.2	12.6	−6.1	2.4	0.1	57.6	–	Sa.	
–		–	3443	ⅢbM	完形	85.5	9.1	27.4	−4.8	22.8	4.1	3.1	0.8	50.0	–	Sa.	
Ⅱ-26-23		–	3442	ⅢbM	完形	85.6	9.2	34.7	2.5	21.1	2.4	2.5	0.2	73.0	–	Sa.	
–		–	3628	ⅢbM	完形	86.1	9.7	30.2	−2.0	22.6	3.9	2.9	0.6	78.0	–	Sa.	
–		ⅢS091	3490 3634	ⅢbM	完形	86.5	10.1	32.3	0.1	15.6	−2.1	2.7	0.4	54.8	–	Sa.	
Ⅱ-26-24	52-2-1	–	3387	ⅢbM	完形	87.0	10.6	27.4	−4.8	25.0	7.3	3.2	0.9	62.7	–	Mud.	
–		–	3467	ⅢbM	完形	87.8	11.4	23.9	−8.3	18.5	0.8	3.7	1.4	37.1	–	Sa.	
–		–	3427	ⅢbM	完形	89.3	12.9	42.2	10.0	18.8	1.1	2.1	−0.2	89.7	–	Sa.	
Ⅱ-26-25		–	3409	ⅢbM	完形	89.6	13.2	32.7	0.5	17.2	−0.5	2.7	0.4	57.8	○	Sa.	
–		–	3619	ⅢbM	略完形	93.5	17.1	27.7	−4.5	19.4	1.7	3.4	1.1	45.3	–	Sa.	
Ⅱ-26-26		–	3395	ⅢbM	完形	94.6	18.2	81.6	49.4	21.7	4.0	1.2	−1.1	210.0	–	Sa.	
–		–	3388	ⅢbM	完形	96.2	19.8	28.8	−3.4	19.0	1.3	3.3	1.0	69.2	–	Sa.	
–		–	3648	ⅢbM	完形	97.4	21.0	35.5	3.3	17.0	−0.7	2.7	0.4	70.6	–	Sa.	
Ⅱ-26-27		–	3948	ⅢbM	完形	99.4	23.0	35.3	3.1	20.7	3.0	2.8	0.5	141.7	○	Sa.	
–		–	3623	ⅢbM	完形	111.2	34.8	30.5	−1.7	26.0	8.3	3.6	1.3	124.5	–	Sa.	
Ⅱ-26-28		ⅢS026	3401 3663 3731 3664 3990 3805 3807 4010 3797 3910	ⅢbM	略完形	185.0	108.6	184.0	151.8	31.6	13.9	1.0	−1.3	1850.0	○ – – ○ ○ ○ ○ ○ – ○	Sa.	ⅢH-09 ⅢF-34 ⅢF-34
完掘平均値						69.7		32.2		17.7		2.3		68.4			
遺物総重量														6426.1			

※94点

第4節　土坑

今回調査した土坑は6基であるが、住居跡等他の遺構と関連があると考えられるものは、それぞれの遺構の項で記述した。よって、本項では単独で検出した3基について記述する。

ⅢP-01（図Ⅱ-27　図版18-6・7）

位　置：AJ-23・24区　　規　模：186×170×38cm　　平面形：楕円形　　検出層位：Ⅲc

確認・調査　A1区Ⅲ層において、Ⅲc層の精査中、ⅢH-02と同じAJ-23区で楕円形と小さな円形の落ち込み（ⅢP-03）を確認した。十字にベルトを設定し調査したところ、Ⅴ層上位で坑底面を検出した。ⅢP-01として付番し、ベルトを残して調査した。断面の写真撮影・実測図を作成して、ベルト部分を掘削し平面の記録を行い、調査を終了した。遺物は出土していない。

形態　楕円形のプランを呈し、Ⅴ層上位まで掘り込み、やや凹凸のある坑底面を形成している。壁面は3方が垂直に立ち上がるが北側はやや開く。

堆積状態　覆土はⅢ、Ⅳ層が主体である。1～3 は上層で粘性に富む黒色土が主体である。4～6 は Ta-c をブロック状に多く含む。7･8 は黒褐色、極暗褐色土で Ta-c を斑状に含む。

時期・性格　遺物が出土していないため不明である。　(服部)

ⅢP-05（図Ⅱ-27　図版 19-1～3）

位　置：AG-22　　規　模:36×32×8cm　　平面形：円形　　検出層位：Ⅳ

確認・調査　B1 区Ⅳ層において未被熱の獣骨 5 点を検出し、その下位に黒色土の落ち込みを確認したためセクションを設定し半截した。土層断面で壁の立ち上がりが認められたためⅢP-05 と付番した。底面からも獣骨が出土している。遺存状態が悪く、酢酸系ビニル樹脂（水溶性ボンド）を塗布して遺物出土状態の写真撮影を行い、実測図を作成した後、獣骨を取り上げた。

形態　平面形はほぼ円形で坑底面は平坦。立ち上がりは明瞭である。

堆積状態　覆土は単層の 1 層のみで、Ⅲ層黒色土を主体にⅣ層 Ta-c を均一に含む。単層であることから、人為的な埋戻しの可能性もある。

出土遺物　覆土上位からハンドピック法で未被熱のシカ中足骨･下顎臼歯、覆土のフローテーションサンプルからシカの基節骨遠位端の一部･哺乳綱部位不明骨片が検出されている。

時期・性格　当該区域は畑の造成によって削平されているが、わずかに窪んでいたため本遺構が残ったものと考えられる。畑地造成時の削平前にはⅢH-02 の付属遺構であるⅢP-04･ⅢBB-02 と同様に本遺構の周辺に獣骨が散逸していたと思われる。時期は先述のⅢH-02 同様、中世アイヌ文化期と思われる。　(服部)

ⅢP-06（図Ⅱ-27　図版 19-4～6）

位　置：AH-19　　規　模:29×14×4cm　　平面形：楕円形　　検出層位：Ⅳ

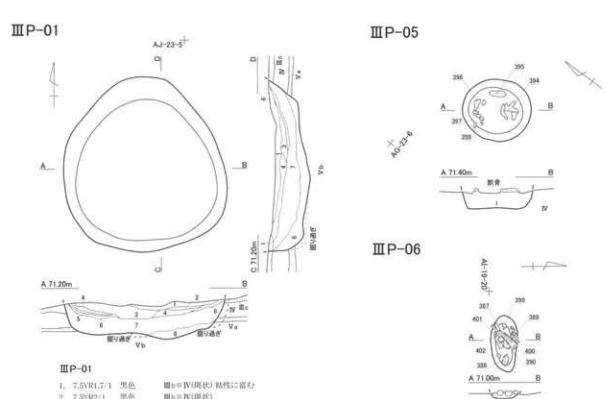
確認・調査　B1 区Ⅳ層において未被熱の獣骨 8 点を検出し、その下位に黒色土の落ち込みを確認したため、セクションを設定し半截した。断面の写真撮影後、実測、完掘した。

形態　平面形は長楕円形で、坑底面は水平で、壁面の立ち上がりは緩い。

堆積状態　覆土は単層の 1 層のみで、Ⅲ層黒色土を主体にⅣ層 Ta-c を均一に含む。

出土遺物　坑底面近くの土坑中央部に密集した状態で、未被熱の獣骨が出土している。獣骨はシカの中手･中足骨、臼歯歯冠片、距骨等が出土した。

時期・性格　獣骨を伴う土坑で、ⅢH-02 の付属遺構であるⅢP-04･ⅢBB-02 に類似していることから中世アイヌ文化期と思われる。獣骨の密集した出土状態から本土坑内への一括廃棄の可能性もある。このような土坑ないしは生活面層位から下がった標高値で密集した獣骨の出土例は、厚幌 1 遺跡のⅢBB-06（町教委 2004）や上幌内モイ遺跡ⅢBB-14（町教委 2007）があり、時期的な一括性が想定され、先述のⅢP-05 とは異なる性格の土坑と思われる。　(服部)



図Ⅱ-27 ⅢP-01・05・06 平面及び断面図

表Ⅱ-32 ⅢP属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	短軸	深さ	被熱の有無	炭・骨片の有無	備考
Ⅱ-27	18-6・7	ⅢP-01	AJ-23・24	Ⅲc	楕円形	186	170	38	−	−	
	19-1～3	ⅢP-05	AG-22	Ⅳ	円形	36	32	8	−	覆土上位 未被熱獣骨	
	19-4～6	ⅢP-06	AH-19	Ⅳ	楕円形	29	14	4	−	覆土上位 未被熱獣骨	

第5節 焼土

住居付属炉や集中区間連遺構として捉えられない単独の焼土は計14ヵ所で大半がA区で検出された。Ⅲb層中位で検出した焼土及び灰層の残存状態から6ヵ所をアイヌ文化期とし、Ⅲb層下位で検出した焼土5ヵ所を擦文文化期とした。その他撹乱等により被熱層上半が削平され、層位が明確に判別できなかった焼土が3ヵ所である。採取した土壌サンプルは、フローテーション処理後、微細遺物を選別した。

擦文文化期

ⅢF-04（図Ⅱ-28　図版19-7・8）

AI-21区周辺で表土・火山灰除去を行ったところ、耕作による削平範囲に被熱層が検出された。残存範囲の平面図を記録し、セクションを設定した。断面観察の結果、周囲の基本層序と、被熱層の検出層位から擦文文化期とした。土層断面図を実測後、灰層から土壌サンプルを採取し

調査終了とした。フローテーションの結果、ブドウ科の種子が得られている（第Ⅳ章第3節参照）。

ⅢF-21（図Ⅱ-28　図版21-3･4）

AQ-24区のⅢb層下位～Ⅲc層上面の掘り下げ時に、被熱層が検出された。トレンチを設定したところ、暗褐色の被熱層が確認された。被熱層内に焼骨片等がみられたが微細で種別等を判読することは不可能であった。

ⅢF-28（図Ⅱ-29　図版21-7･8）

T-19区Ⅲb層下位～Ⅲc層掘り下げ時に、被熱層を検出した。被熱範囲が不明瞭であったため、半截して断面確認を行った。平面は残存した範囲のみ図示した。根による撹乱を一部受けていたが、土壌化した灰層が斑状にわずかに残っており、土壌サンプルを採取することができた。フローテーションの結果、ウルシ科の種子、クルミ属が得られた（第Ⅳ章第3節参照）。

ⅢF-29（図Ⅱ-29　図版22-1･2）

V-20区のⅢb層下位の掘り下げ時に、被熱層が検出された。平面形は不整形であるが、107×92cmと本遺跡内で最も長大である。2層には炭化材や焼骨片が混じっており、根によって押し込まれたものと思われる。フローテーションの結果、タデ科、ブドウ科の種子、クルミ属が得られた（第Ⅳ章第3節参照）。

ⅢF-30（図Ⅱ-29　図版22-3）

AC-18区のⅢb層中位～下位の掘り下げ時、12×9cmの小規模な被熱層を検出した。Ⅲc層にはⅢPB-03（縄文文化期初頭）が確認されたため、土器を含むラインでセクションを設定した。断面ではⅢbとⅢc層の間にB-Tmが観察された。

中世アイヌ文化期

ⅢF-05（図Ⅱ-28　図版20-1･2）

AP-21区のⅢb層中位掘り下げ時、不整形の被熱層を検出した。上部に燃焼面は認められず、焼骨片や炭化材は確認されなかった。

ⅢF-06（図Ⅱ-28　図版20-3･4）

AN-25区のⅢb層中位の掘り下げ時、焼骨片や炭化材を多量に含むⅢb層の範囲が検出された。土層確認用のベルトを設定し精査を行った結果、下位には弱く被熱した層が確認された。

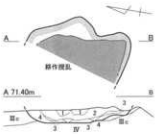
ⅢF-13･14（図Ⅱ-28　図版20-5～7）

AN-23区Ⅲb層上位から中位の掘り下げ時、被熱層を検出した。周囲の精査を行ったところ、Ⅲb層中に焼骨片を微量に含む範囲が確認され、下位に被熱層を検出した。この北西側に同一軸の焼土を検出したため、ⅢF-13･14と付番し、トレンチで断面確認を行った。同一軸方向から、平地式住居跡が想定された。焼土を台状に残し、Ⅲc上面までを掘り下げ柱穴の検出につとめたが、Ⅲb層の落ち込みは確認されなかった。ⅢF-13の土壌サンプルのフローテーションで、ヒエ属、シソ属の種子が得られた（第Ⅳ章第3節参照）。

ⅢF-24（図Ⅱ-28　図版21-5･6）

AP-25区Ⅲb層中位の掘り下げ時、土壌化した灰層と被熱層を検出した。フローテーションの結果、アカザ属の種子が得られた（第Ⅳ章第3節参照）。

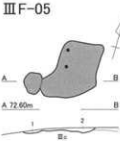
ⅢF-04



ⅢF-04

1. 7.5YR5/3 にぶい褐色　風層＝Ⅲb地土(現状)＝焼骨片
2. 7.5YR6/8 橙色　Ⅲc地山被熱層(強い)
3. 7.5YR7/4 にぶい橙色　Ⅲc地山被熱層(弱い)
4. 7.5YR2/1 黒色　付帯黒色土

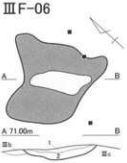
ⅢF-05



ⅢF-05

1. 5YR4/4 にぶい赤褐色　Ⅲc地山被熱層(強い)
2. 7.5YR3/4 暗褐色　Ⅲb～Ⅲc地山被熱層(弱い)

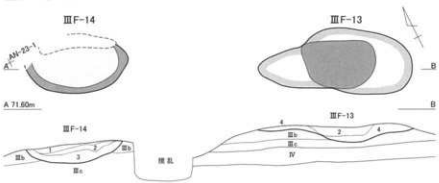
ⅢF-06



ⅢF-06

1. 5YR5/6 明赤褐色　焼成面層Ⅲb被熱(強い)～焼骨片
2. 5YR4/3 にぶい赤褐色　Ⅲc地山被熱層(弱い)

ⅢF-13・14



ⅢF-13・14

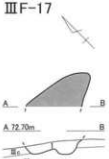
1. 10YR3/2 黒褐色　Ⅲb＝焼骨片
2. 5YR4/6 赤褐色　Ⅲb地山被熱層(強い)＝焼骨片
3. 5YR4/6 赤褐色　Ⅲb～Ⅲc地山被熱層(弱い)
4. 7.5YR3/4 暗褐色　付帯黒色土

ⅢF-15

ⅢF-15

1. 5YR6/6 橙色　Ⅲc地山被熱層(強い)
2. 7.5YR4/4 褐色　Ⅲc地山被熱層(弱い)

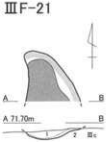
ⅢF-17



ⅢF-17

1. 7.5YR5/6 明褐色　Ⅲc～Ⅳ地山被熱層(強い)

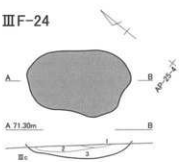
ⅢF-21



ⅢF-21

1. 7.5YR5/6 明褐色　Ⅲc地山被熱層(強い)＝焼骨片
2. 7.5YR3/2 黒褐色　付帯黒色土

ⅢF-24



ⅢF-24

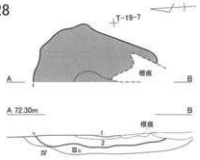
1. 7.5YR5/4 にぶい褐色　焼成面層
2. 7.5YR5/6 明褐色　Ⅲc地山被熱層(強い)
3. 7.5YR3/3 暗褐色　Ⅲc地山被熱層(弱い)

0　1：20　m

■ 礫
● 獣骨片

図Ⅱ-28　ⅢF-04～06・13～15・17・21・24 平面及び断面図

ⅢF-28



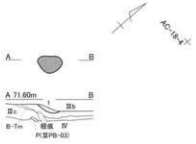
ⅢF-28

1. 5YR6/6　橙色　　Ⅲb地山被熱層(強い)＝灰層(斑状)
2. 5YR3/4　暗赤褐色　　Ⅲc地山被熱層(弱い)

ⅢF-29

1. 5YR6/4　にぶい橙色　　Ⅲb地山被熱層(弱い)
2. 7.5YR3/3　暗褐色　　Ⅲb～Ⅲc地山被熱層(弱い)＝焼骨片＝炭化材
3. 5YR4/3　にぶい赤褐色　　Ⅲc地山被熱層(弱い)焼による撹乱の影響

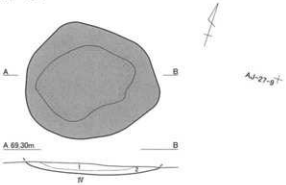
ⅢF-30



ⅢF-30

1. 5YR6/4　にぶい橙色　Ⅲb地山被熱層(強い)

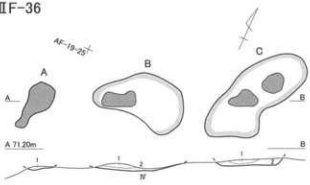
ⅢF-35



ⅢF-35

1. 5YR4/4　にぶい赤褐色
Ⅲc地山被熱層(強い)＝灰層(斑状)・焼骨片
2. 7.5YR2/3　極暗褐色
Ⅲc地山被熱層(弱い)

ⅢF-36



ⅢF-36

1. 7.5YR3/3　暗褐色　　Ⅲc地山被熱層＝焼骨片・炭化物
2. 7.5YR2/2　黒褐色　　付帯黒色土

図Ⅱ-29　ⅢF-28～30･35･36 平面及び断面図

表Ⅱ-33 ⅢF属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	短軸	厚さ	灰・骨片の有無	備考
Ⅱ-28	19-7・8	ⅢF-04	AI-21	ⅢbL	不明	55	(26)	7	灰・骨	耕作撹乱により西側遺失
	20-1・2	ⅢF-05	AP-21	ⅢbM	不整形	38	30	3	-	
	20-3・4	ⅢF-06	AN-25	ⅢbL	不整形	46	45	6	骨	
	20-5・6	ⅢF-13	AN-23	ⅢbL	不整形	81	34	8	-	
	20-5・7	ⅢF-14	AN-23	ⅢbL	楕円形	(48)	(31)	10	骨	
	20-8・9	ⅢF-15	AR-26	Ⅲb	不整形	65	39	7	-	
	21-1・2	ⅢF-17	AV-24	Ⅲb	不明	(38)	(23)	8	-	南西側遺失
	21-3・4	ⅢF-21	AQ-24	ⅢbL	不明	(27)	(29)	5	骨	南側遺失
	21-5・6	ⅢF-24	AP-25	ⅢbM	楕円形	55	35	7	灰	
Ⅱ-31	23-2・3	ⅢF-26	AN-27	ⅢbL	楕円形	75	50	8	-	ⅢPB02関連
Ⅱ-29	21-7・8	ⅢF-28	T-19	ⅢbL	不明	(69)	(31)	6	灰	西側遺失
	22-1・2	ⅢF-29	V-20	ⅢbL	不整形	107	92	11	骨	
	22-3	ⅢF-30	AC-18	ⅢbL	楕円形	12	9	2	-	
	22-4・5	ⅢF-35	AJ-27	ⅢbM	円形	71	62	6	灰・骨	
	22-6・7	ⅢF-36A	AF-19	Ⅲb	不整形	27	14	2	骨	
	22-6・7	ⅢF-36B	AF-19	Ⅲb	不整形	48	24	4	骨	
	22-6・7	ⅢF-36C	AF-19	Ⅲb	不整形	64	27	6	骨	

擦文～中世アイヌ文化期

ⅢF-15（図Ⅱ-28　図版 20-8・9）

AR-26 区のⅢc 層掘り下げ時、被熱層を検出した。Ⅲb 層及び被熱層は削平を受けている。

ⅢF-17（図Ⅱ-28　図版 21-1・2）

AV-24 区Ⅲc 層掘り下げ時、被熱層を検出した。ⅢF-17 の周囲はⅢb 層が削平を受けていたため、上面の残存状態が不明である。

ⅢF-35（図Ⅱ-29　図版 22-4・5）

AJ-27 区Ⅲc 層～Ⅳ層の掘り下げ時、土壌化した灰と被熱層の範囲を検出した。上面は削平のため時期は不明だが、より上層の遺構であったと思われる。1・2 層の灰層や焼骨片は、削平時に混入したものと思われる。土壌サンプルのフローテーションの結果、アサ属、アカザ属、キハダ属、ブドウ科、ミズキ属の種子とクルミ属の果皮が得られた（第Ⅳ章第 3 節参照）。

ⅢF-36A・B・C（図Ⅱ-29　図版 22-6・7）

AF-19 区Ⅲc～Ⅳ層の掘り下げ時、被熱層を 3 ヵ所検出した。上層が削平のため各焼土の位置関係は不明であるが、各ブロックとして掲載した。（松井）

第 6 節　遺物集中

今回の調査では、土器集中 4 ヵ所、礫集中 1 ヵ所、鉄器集中を 1 ヵ所検出した。

1. 土器集中

ⅢPB-01（図Ⅱ-30　図版 22-8・53-1）

位　置：AP-30　　規　模：29×25cm　　検出層位：ⅢbL

調査区南西部、尾根から沢状地形の北へ向かう斜面から Ta-b 除去段階に検出した。ⅢPB-01 と付番し、出土状態の写真撮影を行った。周囲に B-Tm が散見されたため、断面図を作成し土器との層位関係を確認した。B-Tm は土器の下位、1～2cm に位置している。

出土遺物（図Ⅱ-30）　1は底部から胴下半部にかけての同一個体の破片で、口縁部・胴部上半の破片は存在しない。内外面ともヘラミガキが施され、内面は黒色処理がなされている。擦文文化期後期に属する。

ⅢPB-02（図Ⅱ-31・32　図版23-1～3・53-2～18・54-1）

位　置：AN-26・27　　規　模：306×157cm　　検出層位：ⅢbM・L　　付属遺構：ⅢF-26

調査区中央、現道の道路脇で検出した。北側一部は道路下に伸びていた。当該区域はTa-b・Ⅲa層が削平されており、撹乱層を除去すると土器片・礫が検出された。ⅢPB-02と付番し出土状態の写真撮影を行った。遺物はⅢb層中位から下位にかけて出土し、B-Tmより上層に位置する。遺物の輪郭を竹串等で出していたところ、土器・礫の下から焼土（ⅢF-26）を検出した。全体をデジタル写真測量し微細図を作成した。遺物の一部を取り上げ、焼土にトレンチを入れ、断面を観察した。遺物はすべて焼土の上から出土していた。断面の写真撮影、断面図を作成し、土壌サンプルを採取した。

出土した土器は破片によって色調が異なるため、二次被熱の土器も混在する。

焼土（ⅢF-26）　焼土粒・炭化材片を伴う付帯黒色土の上部に被熱層があり、燃焼面は根によって一部撹乱を受けている。規模は75×50cm、焼土の厚さは8cm。

出土遺物（図Ⅱ-32）　土器は7個体を図示した。1は内湾気味に立ち上がる口縁部から膨らみのある胴部を経て張り出す底部に移行する器形の甕形土器である。口縁部に矢羽根状の刻みを施文し、胴部は縦位の3本組の沈線文で区画し、その中に同じく3本組みの沈線文で菱形を構成している。さらに菱形の対角線上に縦位に2本組の沈線の中に刻みを入れる区画と、2本組みの縦位に施文した沈線文の両側に綾杉文上の刻線文を入れる区画を交互に配している。2・3・4は同一個体。口縁部に矢羽根状の沈線を1条横位に巡らし、やや膨らむ胴部は1と同様、3本組の沈線文で菱形区画を構成している。胴部に貼付帯を巡らし、馬蹄形圧痕文を施す。5・6は同一個体。6はやや厚い器壁を持ち内面は黒色処理がなされている。7・8も同一個体の鉢形土器である。短く屈曲する口縁部に矢羽根状の刻みを巡らす。9～12は同一個体の高坏。胴部に1と同様菱形構成の沈線文を配する。口縁部・脚部ともヘラミガキが施される。9は脚部端に1条の沈線を巡らす。13～15は9～12と別個体の高坏形土器。体部に矢羽根状の沈線文が見られ、脚部には1条の沈線が巡る。16は砥石の破片。図示した1面に砥面を残す。17は加工痕のある礫。端部に敲打痕と剥離痕を残す。

時期・性格　本遺構は擦文文化期後期に属する遺物集中であり、土器の一部に割れた後に被熱しているものがあること、焼土が存在することなどから、土器他の「送り場」的な性格が想定される。

ⅢPB-03（図Ⅱ-33・34-1・2　図版23-4・54-2）

位　置：AC-18　　規　模：126×101cm　　検出層位：Ⅲc

調査区中央よりやや北側、段丘縁辺部から検出された。B区は縁辺部を除いて、畑の造成によって大半がⅥ・Ⅶ層まで削平されており、段丘縁辺部にのみⅢ層が残存する。本遺構はその中でも、段丘崖から離れた位置に出土した。段丘面から東の丘陵部に差し掛かる位置で、沢状に若干窪んでおり、さらにⅢc層主体であったため上層削平を免れたと思われる。Ⅲc層下位の遺構確認調査中に出土し、南側に隣接するⅢF-30とB-Tm層との層位的関係から、ⅢF-30と

は時期が異なる。1 個体の土器が潰れた状態で出土したが、ほかの個体の破片も少量混在している。

出土遺物（図Ⅱ-34-1・2）　1 は口縁部が内湾する深鉢形土器で、口唇部に刻みを付け口縁部から胴部にかけて LR 縦走縄文を施文。2 は口唇部に刻み付け口縁部以下は RL 斜行縄文が施される。内面は 1・2 共に横方向のケズリ。

時期・性格　遺構の性格は不明。時期は続縄文文化期前期前葉に比定される。

ⅢPB-04（図Ⅱ-33・34-3　図版 23-5・55-1）

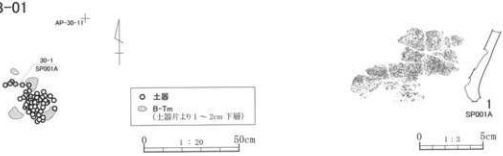
位　置：R・S-18・19　　規　模：252×172cm　　検出層位：ⅢbL

調査区の北側、B 区と C 区の境付近の段丘崖近くでⅢ層調査中に検出した。精査した結果、土器のまとまりが認められたためⅢPB-04 と付番した。前述したように B 区は大半が畑の造成によって削平されており、わずかに残った段丘縁辺部から検出されたものである。南にⅢSB-04、ⅢF-28 を検出するが関連性は見られなかった。出土状態を撮影し、層位的な断面観察の後、デジタル写真測量によって微細図を作成し、遺物を取り上げた。

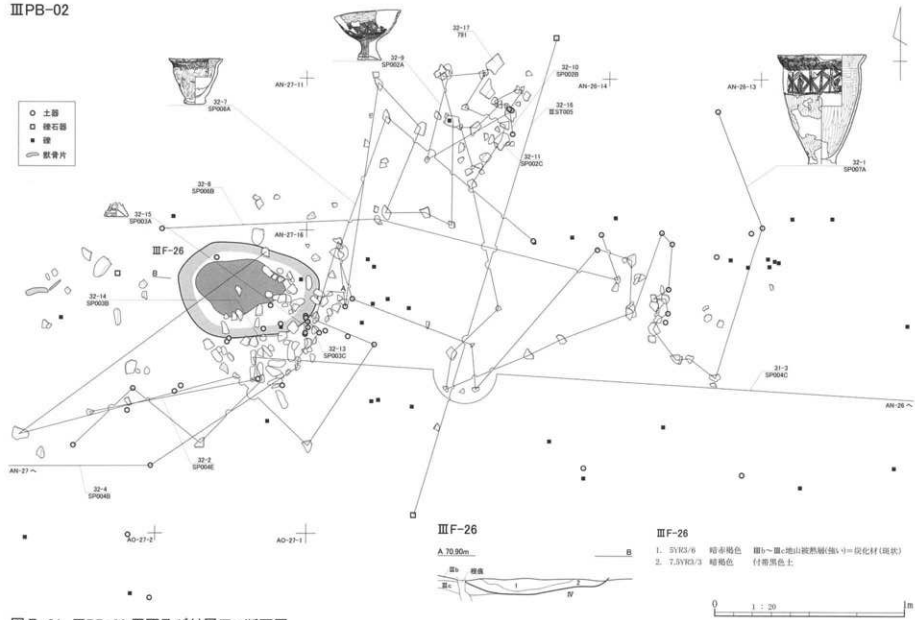
出土遺物（図Ⅱ-34-3）　口縁が大きく開く器形で、口縁部には刻みが 3 段施され、矢羽根状をなす。胴部は 3 条の横走する沈線によって 2 段に区切られ、その間を縦・斜め方向の鋸歯状・樹状文・縦位沈線文と刻みで充填している。中段の横走沈線文の上にはボタン状貼付文の上に斜位の刻み、下段の貼付帯上には連続する馬蹄形圧痕文がみられる。施文されていない箇所は縦のハケメ調整が残る。下段の貼付文下位には斜位沈線文が施文され、胴下半部はハケメ調整のままである。内面はハケメ調整の上に、口縁部では横方向の、胴部では縦方向のヘラミガキが施される。

時期・性格　時期は擦文文化期後期にあたり、電柱緩衝地帯に伸びている可能性もあるので、遺構の性格は現在のところ不明とする。　（宮塚）

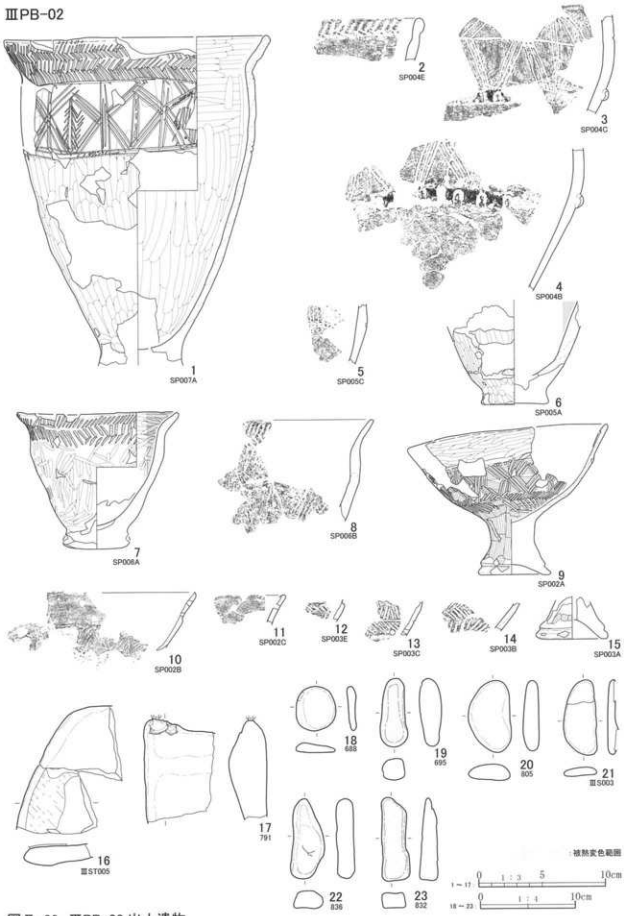
ⅢPB-01



図Ⅱ-30　ⅢPB-01 平面図及び出土土器

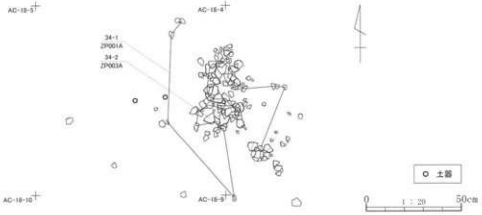


図Ⅱ-31　ⅢPB-02 平面及び付属ⅢF 断面図

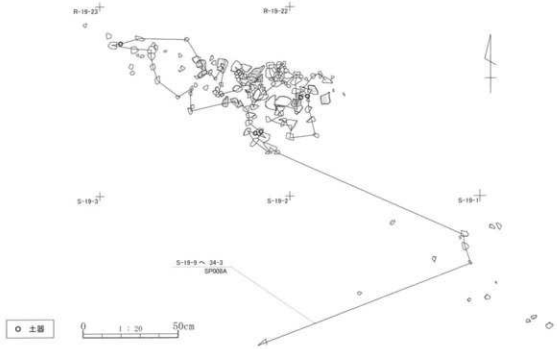


図Ⅱ-32 ⅢPB-02 出土遺物

ⅢPB-03



ⅢPB-04



図Ⅱ-33　ⅢPB-03·04 平面図

表Ⅱ-34　ⅢPB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			被熱の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-30	22-8	ⅢPB-01	AP-30	Ⅲb1.	不整形	29	25	－	－	
Ⅱ-31	23-1	ⅢPB-02	AN-26·27	ⅢbM·L	不整形	306	157	－	有	ⅢF-26被熱礫共伴
Ⅱ-33	23-4	ⅢPB-03	AC-18	Ⅲc	不整形	126	101	－	－	
Ⅱ-33	23-5	ⅢPB-04	R·S-18·19	ⅢbL	不整形	252	172	－	－	

ⅢPB-03

ⅢPB-04

図Ⅱ-34　ⅢPB-03·04 出土土器

表Ⅱ-35　ⅢPB出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	調査区遺構名	層位	点数	部位	器面調整			文様	胎土(砂粒)	備考
								口唇	器表面(口縁部/胴部/底部)	内面	口縁部等/文様帯		
Ⅱ-30-1	53-1	SP001 A	ⅦB3	ⅢPB-01	ⅢbL	9	胴下半～底	－	縦ミガキ/側面・横ミガキ	縦ミガキ(黒色処理)	－	中量	
Ⅱ-32-1	53-2	SP007 A	ⅦB3	ⅢPB-02	ⅢbL	51	口縁～底	－	横ナデ/ヘラナデ(縦)/ヘラナデ(横)	口縁・ヘラナデ(横)/胴部・縦ミガキ	斜位沈線文(矢羽根状)/横走沈線文・斜位・縦位沈線文・刻み・円形刺突文	少量	補修孔1 対破砕後の被熱痕跡
					ⅢbM	1							
Ⅱ-32-2	53-3	SP004 E	ⅦB3	ⅢPB-02	ⅢbL	3	口縁	ミガキ	横ナデ	横ミガキ	刻み(矢羽根状)/斜位沈線文	多量	焼成良好・堅緻
Ⅱ-32-3	53-4	SP004 C	ⅦB3	ⅢPB-02	ⅢbL	8	胴	－	ナデ/胴下半・横ミガキ	横ミガキ	横走・斜位・縦位沈線文・貼付帯＋馬蹄形圧痕文	多量	焼成良好・堅緻
Ⅱ-32-4	53-5	SP004 B	ⅦB3	ⅢPB-02	ⅢbL	12	胴	－	胴上半・ナデ/胴下半・横ミガキ	横ミガキ	斜位沈線文・貼付帯＋馬蹄形圧痕文	多量	焼成良好・堅緻
				AN-29	ⅢbM	1							
Ⅱ-32-5	53-6	SP005 C	ⅦB3	ⅢPB-02	ⅢbL	2	胴	－	縦ミガキ	縦ミガキ(黒色処理)	縦位沈線文・刻み(矢羽根状)	少量	
Ⅱ-32-6	53-7	SP005 A	ⅦB3	ⅢPB-02	ⅢbL	12	胴下半～底	－	縦ミガキ/ミガキ	縦ミガキ(黒色処理)	－	少量	底部側面張り出し・上げ底状
Ⅱ-32-7	53-8	SP006 A	ⅦB3	ⅢPB-02		22	口縁～底	ミガキ	横ミガキ/縦ミガキ	横ミガキ(黒色処理)	刻み(矢羽根状)	少量	底部側面張り出し・底面縁辺部撫れ
				AN-26	ⅢbL	1							
				ⅢSB-04		1							
Ⅱ-32-8	53-9	SP006 B	ⅦB3	ⅢPB-02	ⅢbL	9	口縁～胴下半	ミガキ	横ミガキ/縦ミガキ	弱い横ミガキ(黒色処理)	刻み(矢羽根状)	少量	外傾接合
				ⅢSB-04	ⅢbL	1							
				AN-27	ⅤbL	1							
Ⅱ-32-9	53-10	SP002 A	ⅦC4	ⅢPB-02	ⅢbL	8	口縁～底	横ミガキ	横ミガキ/体部・横ハケメ 脚部・縦ハケメ	不明(剥落)	無文帯/刻み・斜位沈線文・矢羽根状・横位沈線文/横走沈線	少量	
Ⅱ-32-10	53-11	SP002 B	ⅦC4	ⅢPB-02	ⅢbL	7	口縁～胴上半	横ミガキ	口縁・横ミガキ/胴部上半・横ハケメ	不明(剥落)	無文帯/斜位沈線文	少量	補修孔2
Ⅱ-32-11	53-12	SP002 C	ⅦC4	ⅢPB-02	ⅢbL	3	口縁	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	無文帯	少量	補修孔1
Ⅱ-32-12	53-13	SP003 E	ⅦC4	ⅢPB-02	ⅢbL	1	体部上縁	－	横ハケメ	不明(剥落)	斜位沈線文	少量	
Ⅱ-32-13	53-14	SP003 C	ⅦC4	ⅢPB-02	ⅢbL	2	体部	－	横ハケメ	不明(剥落)	鋸歯状・斜位・横走沈線文	少量	補修孔1
Ⅱ-32-14	53-15	SP003 B	ⅦC4	ⅢPB-02	ⅢbL	2	体部	－	横ハケメ	ミガキ	斜位沈線文	少量	
Ⅱ-32-15	53-16	SP003 A	ⅦC4	ⅢPB-02	ⅢbL	3	脚底部	－	縦ハケメ	不明(剥落)	横走沈線文	少量	
Ⅱ-34-1	54-2-1	ZP001 A	Ⅵ A1b	ⅢPB-03	Ⅲc	39	口縁～胴下半	横ナデ	ナデ	横ケズリ(部分的)	刻み-/RL縦走縄文	中量	
Ⅱ-34-2	54-2-2	ZP003 A	Ⅵ A1b	ⅢPB-03	Ⅲc	1	口縁	横ナデ	ナデ	横ケズリ(部分的)	刻み-/RL斜行縄文	中量	
Ⅱ-34-3	55-1-1	SP008 A	ⅦB3	ⅢPB-04	ⅢbL	97	口縁～胴下半	ミガキ	横ナデ/縦ハケメ・横ハケメ＋弧状ハケメ	横ハケメ＋横ミガキ/横ハケメ＋縦ミガキ	刻み(3段・矢羽根状)/鋸状・櫛状文・縦位沈線文・刻み＋ボタン状貼付文・横走沈線文・貼付帯＋馬蹄形押捺文・斜位沈線文	多量	
				S-19		1							

表Ⅱ-36　ⅢPB-02出土礫石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構グリッド	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-32-16	53-17	ⅢST005	790 883	砥石	－	ⅢbL	ⅢPB-02	(119.1)	(64.1)	21.8	(165.2)	Sa.	
Ⅱ-32-17	53-18	－	791	加工原のある礫	－	ⅢbL	ⅢPB-02	(79.8)	(55.9)	288.8	(165.2)	Sa.	

表Ⅱ-37　ⅢPB-02出土礫属性表

（ ）表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
－	54-1-1	－	408	ⅢbM	完形	27.2	−47.4	21.1	−12.2	4.8	−16.7	1.3	−1.0	2.7	－	Mud.	
Ⅱ-32-18		－	688	ⅢbM	完形	46.5	−28.1	42.0	8.7	11.0	−10.5	1.1	−1.2	26.1	－	Sa.	
－		－	851	ⅢbL	完形	63.6	−11.0	32.8	−0.5	15.0	−6.5	1.9	−0.4	41.4	－	Sa.	
－		－	395	ⅢbM	完形	63.8	−10.8	33.3	0.0	19.7	−1.8	1.9	−0.4	59.8	○	Sa.	
－		－	393	ⅢbM	完形	66.8	−7.8	27.6	−5.7	25.9	4.4	2.4	0.1	42.5	○	Mud.	
－		－	843	ⅢbL	完形	68.9	−5.7	27.3	−6.0	28.1	6.6	2.5	0.2	78.5	○	Sa.	
－		－	391	ⅢbM	完形	68.9	−5.7	57.0	23.7	16.0	−5.5	1.2	−1.1	75.2	－	Sa.	
－		－	410	ⅢbM	略完形	69.1	−5.5	34.0	0.7	17.5	−4.0	2.0	−0.3	47.3	○	Sa.	
－		－	801	ⅢbL	完形	70.6	−4.0	27.6	−5.7	27.5	6.0	2.6	0.3	57.2	○	Sa.	
Ⅱ-32-19		－	695	ⅢbL	完形	72.1	−2.5	28.6	−4.7	23.5	2.0	2.5	0.2	61.3	○	Sa.	
－		－	394	ⅢbM	完形	73.5	−1.1	26.1	−7.2	25.7	4.2	2.8	0.5	66.0	○	Sa.	
－		－	860	ⅢbL	完形	75.7	1.1	31.7	−1.6	30.8	9.3	2.4	0.1	116.4	○	Sa.	
Ⅱ-32-20		－	805	ⅢbL	完形	75.9	1.3	43.6	10.3	16.6	−4.9	1.7	−0.6	71.2	－	Sa.	
－		ⅢS040	841 4864 4867 4868	ⅢbL	略完形	77.7	3.1	32.2	−1.1	21.4	−0.1	2.4	0.1	43.8	○	Mud.	
Ⅱ-32-21		ⅢS003	781 804	ⅢbL	略完形	79.4	4.8	36.0	2.7	10.0	−11.5	2.2	−0.1	31.4	－	Sa.	
－		－	392	ⅢbM	完形	81.7	7.1	34.2	0.9	21.1	−0.4	2.4	0.1	87.8	○	Sa.	
－		－	864	ⅢbL	完形	82.2	7.6	35.5	2.2	20.2	−1.3	2.3	0.0	73.0	○	Sa.	
－		－	863	ⅢbL	略完形	82.2	7.6	34.3	1.0	31.2	9.7	2.4	0.1	89.5	○	Sa.	
－		－	838	ⅢbL	完形	83.3	8.7	33.6	0.3	22.6	1.1	2.5	0.2	71.9	○	Sa.	
－		－	842	ⅢbL	完形	82.6	8.0	33.1	−0.2	31.5	10.0	2.5	0.2	120.4	○	Sa.	
－		ⅢS060	797 867	ⅢbL	略完形	83.5	8.9	31.1	−2.2	24.5	3.0	2.7	0.4	50.4	○	Mud.	
Ⅱ-32-22		－	836	ⅢbL	完形	83.7	9.1	32.7	−0.6	20.4	−1.1	2.6	0.3	73.8	○	Sa.	
－		－	837	ⅢbL	完形	84.2	9.6	31.8	−1.5	25.1	3.6	2.6	0.3	104.1	○	Sa.	
Ⅱ-32-23		－	832	ⅢbL	完形	87.2	12.6	29.0	−4.3	17.6	−3.9	3.0	0.7	67.2	○	Sa.	
－ － －		ⅢS007	409 411 859	ⅢbM	略完形	91.8	17.2	32.1	−1.2	23.5	2.0	2.9	0.6	83.5	○	Sa.	
－		－	840	ⅢbL	完形	96.2	21.6	37.9	4.6	27.3	5.8	2.5	0.2	79.9	○	Mud.	
完形平均値						74.6		33.3		21.5		2.3		66.2			
遺物総重量														1722.3			

※26点

2. 礫集中

他の遺構に付随する礫集中を除き、単独で検出された礫集中は1ヵ所のみである。

ⅢSB-04（図Ⅱ-35　図版24-1・2・55-2-1）

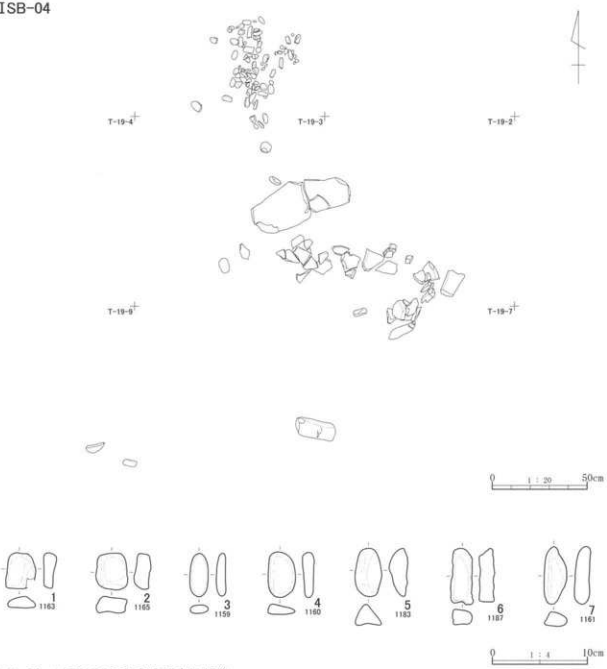
位　置：S・T-19　　規　模：239×202cm　　検出層位：ⅢbL

ⅢPB-04の南に位置する。Ⅲb層調査中に礫の集中を確認した。ⅢSB-04と付番し、全体の検出に努めた。中央に大型の礫を配し、南北に棒状礫と小型の扁平な礫が分布している。範囲を確認した後で出土状態の写真撮影を行い、デジタル写真測量によって微細図を作成した。

出土遺物（図Ⅱ-35-1～7）　棒状礫のみ掲載した。被熱しているものはみられなかった。

時期・性格　時期は北側の同一層位にⅢPB-04が存在することから、擦文文化期後期に比定される。（宮塚）

ⅢSB-04



図Ⅱ-35　ⅢSB-04 平面図及び出土礫

表Ⅱ-38　ⅢSB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			被熱の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-35	24-1・2	ⅢSB-04	S・T-19	ⅢbL	不整形	239	202	－	－	

表Ⅱ-39　ⅢSB-04出土礫属性表

（　）は　）表記のこと

掃図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
－	55-2-1	－	1167	ⅢbL	完形	29.3	−20.4	25.7	−2.2	17.5	0.3	1.1	−0.8	18.1	－	Mud.	
Ⅱ-35-1		－	1163	ⅢbL	略完形	38.3	−11.4	29.7	1.8	13.5	−3.7	1.3	−0.6	17.4	－	Mud.	
Ⅱ-35-2		－	1165	ⅢbL	完形	38.5	−11.2	32.7	4.8	18.3	1.1	1.2	−0.7	33.0	－	Sa.	
－		－	1169	ⅢbL	完形	40.1	−9.6	27.9	0.0	11.8	−5.4	1.4	−0.5	22.0	－	Sa.	
－		－	1195	ⅢbL	略完形	41.0	−8.7	26.0	−1.9	16.6	−0.6	1.6	−0.3	22.2	－	Sa.	
－		－	1189	ⅢbL	略完形	42.7	−7.0	22.5	−5.4	17.8	0.6	1.9	0.0	22.6	－	Sa.	
－		－	1186	ⅢbL	略完形	43.6	−6.1	26.4	−1.5	15.4	−1.8	1.7	−0.2	19.2	－	Sa.	
－		－	1192	ⅢbL	略完形	43.6	−6.1	24.8	−3.1	12.5	−4.7	1.8	−0.1	18.5	－	Sa.	
－		－	1194	ⅢbL	略完形	45.3	−4.4	24.2	−3.7	19.3	2.1	1.9	0.0	23.8	－	Mud.	
Ⅱ-35-3		－	1159	ⅢbL	完形	45.6	−4.1	19.6	−8.3	9.7	−7.5	2.3	0.4	12.9	－	Sa.	
－		－	1162	ⅢbL	完形	46.8	−2.9	24.9	−3.0	19.3	2.1	1.9	0.0	27.5	－	Mud.	
－		－	1166	ⅢbL	完形	47.5	−2.2	28.6	0.7	14.8	−2.4	1.7	−0.2	22.5	－	Sa.	
Ⅱ-35-4		－	1160	ⅢbL	完形	48.5	−1.2	28.4	0.5	13.3	−3.9	1.7	−0.2	23.2	－	Sa.	
－		－	1178	ⅢbL	完形	48.7	−1.0	34.2	6.3	18.6	1.4	1.4	−0.5	42.3	－	Sa.	
－		－	1185	ⅢbL	略完形	50.3	0.6	22.6	−5.3	16.8	−0.4	2.2	0.3	25.3	－	Sa.	
－		－	1191	ⅢbL	略完形	50.4	0.7	28.2	0.3	10.8	−6.4	1.8	−0.1	20.9	－	Sa.	
Ⅱ-35-5		－	1183	ⅢbL	完形	51.6	1.9	26.4	−1.5	21.9	4.7	2.0	0.1	30.1	－	Mud.	
－		－	1180	ⅢbL	完形	53.3	3.6	23.6	−4.3	15.4	−1.8	2.3	0.4	20.8	－	Sa.	
－		－	1174	ⅢbL	完形	54.2	4.5	21.8	−6.1	17.3	0.1	2.5	0.6	29.3	－	Sa.	
－		－	1158	ⅢbL	完形	55.3	5.6	38.2	10.3	18.9	1.7	1.4	−0.5	47.0	－	Sa.	
－		－	1197	ⅢbL	略完形	55.9	6.2	42.7	14.8	35.3	18.1	1.3	−0.6	115.8	－	Sa.	
－		－	1155	ⅢbL	完形	56.5	6.8	53.1	25.2	30.9	13.7	1.1	−0.8	104.0	－	Sa.	
Ⅱ-35-6		－	1187	ⅢbL	完形	58.8	9.1	23.9	−4.0	16.6	−0.6	2.5	0.6	35.9	－	Sa.	
Ⅱ-35-7		－	1161	ⅢbL	完形	60.1	10.4	22.6	−5.3	16.1	−1.1	2.7	0.8	26.1	－	Sa.	
－		－	1171	ⅢbL	略完形	63.3	13.6	24.7	−3.2	12.5	−4.7	2.6	0.7	20.8	－	Mud.	
－		ⅢS004	1168	ⅢbL	完形	83.1	33.4	21.5	−6.4	17.3	0.1	3.9	2.0	44.4	－	Sa.	
－			1173														
完形平均値						49.7		27.9		17.2		1.9		32.5			
遺物総重量														844.7			

※26点

3．鉄器集中

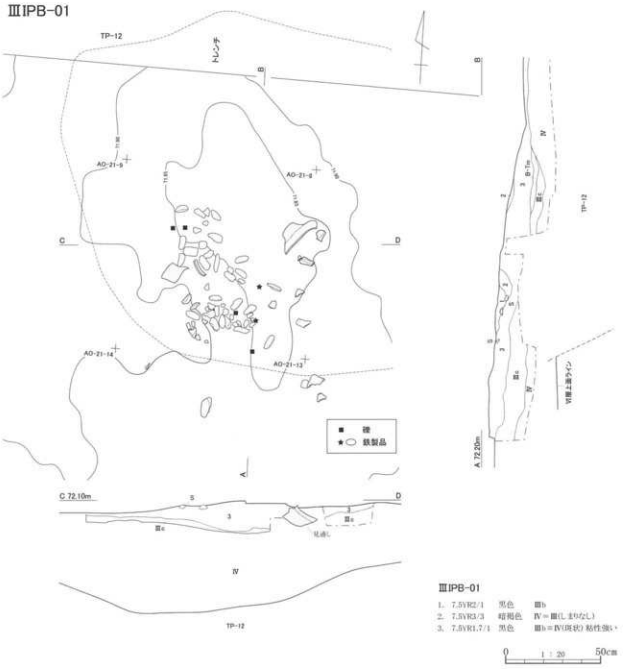
ⅢIPB-01（図Ⅱ-36・37　図版24-3～5・55-3）

位　置：A0-21　　規　模：128×110cm　　検出層位：ⅢbM（一部棒状礫はⅢbU）

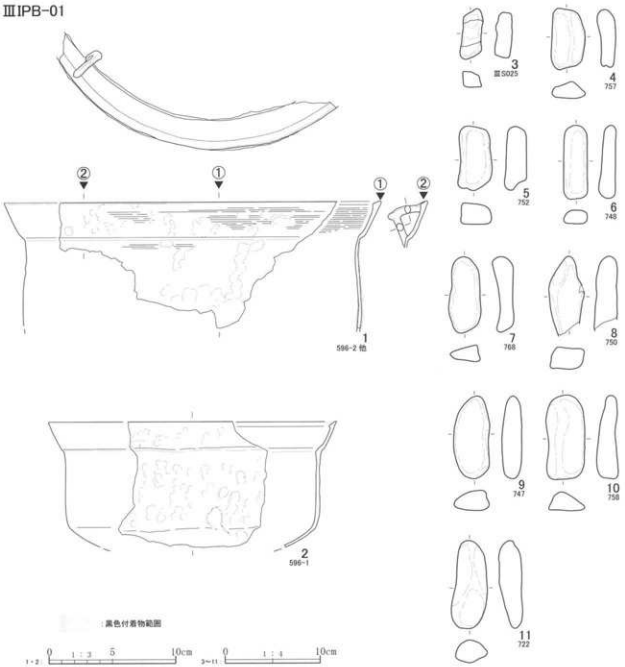
調査区中央部からやや南、段丘平坦面から丘陵に移る傾斜地から鉄鍋破片の集中を検出した。Ta-b除去中に浅い窪みを確認し、鉄鍋の破片が出土したため周囲を精査し、遺物分布範囲を確定してから、中央部に十文字にトレンチを入れた。浅い窪みは、縄文時代の遺構の落ち込みであることが想定できた。

精査の結果、2個体以上の鉄鍋破片と棒状礫がまとまって出土し、棒状礫は部分的ではあるがまとまりがみられた。トレンチ調査から遺物の分布域と出土層位を確定し、遺物出土状態の写真撮影を行い、断面撮影・実測図を作成した。平面図はデジタル写真測量によって微細図を作成した後、遺物を取り上げた。断面実測線上にかかる鉄鍋は、断面形を記録するのではなく分かりやすいように透視図を作成した。

出土遺物（図Ⅱ-37）　1・2は内耳鉄鍋である。1の内耳は三角形状に付けられており、内側に突起を持つ。薄い器壁（2～3mm）の胴部から屈曲し直線的に立ち上がる口縁部に移行する器形で、幅のやや広い折り返し部をもつ。口縁部と胴部の一部には鋳型の「ロクロ挽き」整形痕と思われる平行線が残されている。復元した直径は297.7mmである。胴下半部から底部を欠く。接合する破片はみられなかった。2は1に比べややや小型の鉄鍋で、復元した直径は227.9mmである。底部を欠き、ほかの鉄鍋破片とは接合できなかった。1よりやや厚い器壁（2～4mm）の



図Ⅱ-36　ⅢIPB-01 平面及び断面図



図Ⅱ-37 ⅢIPB-01 出土遺物

表Ⅱ-40 ⅢIPB-01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			被熱の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-36	24-3・4	ⅢIPB-01	AO-21	ⅢbM	不整形	128	110	-	-	TP~12埋没後のくぼみ

表Ⅱ-41　ⅢPB-01出土鉄鍋属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構グリッド	計測値(mm) 口径	器高	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-37-1	55-3-1 -1・1-2	-	596-2 596-3A 596-3B 596-3C 596-5 596-6 596-7 712	鉄鍋	-	ⅢbM	ⅢPB-01	297.7	(99.5)	2.3	(231.0)	Irn.	鋳型ロクロ挽き痕残存
Ⅱ-37-2	55-3-2	-	596-1	鉄鍋	-	ⅢbM	ⅢPB-01	227.9	(98.6)	3.2	(204.0)	Irn.	

胴部から内湾気味に開く口縁部に移行する器形を有する。「ロクロ挽き」整形痕は認められない。鉄鍋のほかに棒状礫が33点出土している。いずれも未被熱である。

時期・性格　時期は中世アイヌ文化期に比定され、14～15 世紀代の鉄鍋と考えられる。「ロクロ挽き」整形痕を考えると若干古くなりそうである（越田 2004）。

鉄鍋はすべて破片で出土しているが、1・2 ともに完形に復元できないことや、同一地点に複数の個体が出土する状態から、鉄鍋の破片を集めた「送り」の場所であったと考えられる。

（宮塚）

4. 獣骨集中

単独で検出した獣骨集中２ヵ所を記載する。

ⅢBB-03（図Ⅱ-38　図版 24-6・55-2-3・4）

位　置：AB-24 区　　規　模：39×17 cm　　検出層位：ⅢbM

確認・調査　B2 区の段丘縁辺部Ⅲ層残存範囲において、Ⅲb 層の調査中、AB-24 区で黒色土の落ち込みと獣骨集中を確認した。獣骨は中足骨・中手骨・大腿骨の一部が並べて置かれたような状態で検出された。獣骨取り上げ後下位の黒色土プランを半截したが、土坑を伴わないと判断し、調査を終了した。

動物遺存体の分析からは、哺乳綱部位不明長管骨、シカ中手骨・中足骨・橈骨・大腿骨・椎骨などが検出されている（第Ⅳ章第２節参照）。

ⅢBB-07（図Ⅱ-38　図版 24-7）

位　置：AL-30 区　　規　模：79×26 cm　　検出層位：ⅢbU

確認・調査　A1 区沢部南西向き斜面において、Ⅲ層包含層を調査中、AL-30 区で被熱した獣骨を検出した。その後ⅢBB-07 として獣骨を取り上げたが、他に遺構に伴う遺物は出土せず調査を終了した。

動物遺存体の分析からは、哺乳綱部位不明骨、頭蓋破片、シカ角幹・上顎臼歯・歯槽の一部が検出されている（第Ⅳ章第２節参照）。

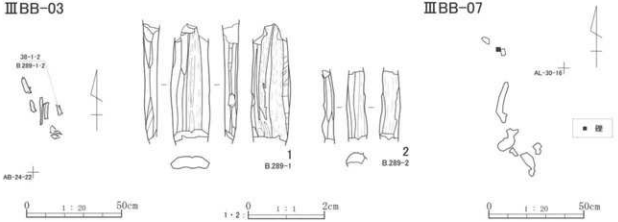
（服部）

表Ⅱ-42 ⅢPB-01出土礫属性表

■は　　内の表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-37-3		Ⅲ S025	719 769	ⅢbM	完形	54.4	-27.4	21.6	-11.7	17.3	-4.0	2.5	0.0	25.5	-	Mud.	
Ⅱ-37-4		-	757	ⅢbM	完形	64.2	-17.6	35.0	1.7	18.1	-3.2	1.8	-0.7	43.3	-	Sa.	
-		-	755	ⅢbM	略定形	66.1	-15.7	36.4	3.1	20.6	-0.7	1.8	-0.7	57.7	-	Mud.	
Ⅱ-37-5		-	752	ⅢbM	完形	67.9	-13.9	34.5	1.2	23.6	2.3	2.0	-0.5	84.6	-	Sa.	
-		Ⅲ S023	753 754	ⅢbL	完形	71.0	-10.8	36.4	3.1	16.4	-4.9	2.0	-0.5	65.3	-	Sa.	
-		Ⅲ S031	767 771	ⅢbL	略定形	72.2	-9.6	22.2	-11.1	21.7	0.4	3.3	0.8	50.1	-	Mud.	
-		Ⅲ S047	737 760	ⅢbL	略定形	73.6	-8.2	25.7	-7.6	23.1	1.8	2.9	0.4	52.7	-	Sa.	
-		-	747	ⅢbM	完形	87.2	5.4	37.2	3.9	22.0	0.7	2.3	-0.2	90.0	-	Mud.	
-		-	722	ⅢbM	完形	92.4	10.6	35.2	1.9	25.0	3.7	2.6	0.1	81.1	-	Mud.	
Ⅱ-37-6		-	748	ⅢbM	完形	76.2	-5.6	24.8	-8.5	17.8	-3.5	3.1	0.6	51.0	-	Mud.	
-		-	742	ⅢbM	完形	77.6	-4.2	32.1	-1.2	18.0	-3.3	2.4	-0.1	56.2	-	Sa.	
-		-	749	ⅢbM	完形	77.7	-4.1	33.4	0.1	16.2	-5.1	2.3	-0.2	62.1	-	Mud.	
-		-	764	ⅢbM	略定形	79.1	-2.7	35.4	2.1	21.6	0.3	2.2	-0.3	70.6	-	Sa.	
-		-	740	ⅢbM	完形	79.2	-2.6	40.6	7.3	18.2	-3.1	2.0	-0.5	69.5	-	Mud.	
Ⅱ-37-7	55-2	-	768	ⅢbM	略定形	80.0	-1.8	33.4	0.1	23.4	2.1	2.4	-0.1	72.3	-	Sa.	
-	-2	-	759	ⅢbM	完形	81.4	-0.4	31.3	-2.0	19.0	-2.3	2.6	0.1	62.1	-	Sa.	
-		-	739	ⅢbM	完形	82.3	0.5	23.0	-10.3	29.6	8.3	3.6	1.1	89.8	-	Mud.	
-		-	744	ⅢbM	完形	82.3	0.5	35.4	2.1	16.7	-4.6	2.3	-0.2	53.5	-	Sa.	
-		-	766	ⅢbM	完形	83.0	1.2	37.5	4.2	18.2	-3.1	2.2	-0.3	69.2	-	Mud.	
-		-	756	ⅢbM	完形	84.0	2.2	37.3	4.0	19.9	-1.4	2.3	-0.2	77.1	-	Sa.	
-		-	734	ⅢbM	完形	84.2	2.4	36.3	3.0	21.0	-0.3	2.3	-0.2	72.1	-	Sa.	
-		-	751	ⅢbM	完形	84.6	2.8	27.1	-6.2	24.3	3.0	3.1	0.6	54.5	-	Sa.	
Ⅱ-37-8		-	750	ⅢbM	略定形	83.5	1.7	36.0	2.7	25.2	3.9	2.3	-0.2	81.6	-	Mud.	
-		-	735	ⅢbM	完形	85.5	3.7	39.0	5.7	16.2	-5.1	2.2	-0.3	69.5	-	Sa.	
-		-	770	ⅢbM	完形	86.5	4.7	33.1	-0.2	23.3	2.0	2.6	0.1	72.7	-	Sa.	
Ⅱ-37-9		-	747	ⅢbM	完形	87.2	5.4	37.2	3.9	22.0	0.7	2.3	-0.2	90.0	-	Mud.	
-		-	724	ⅢbM	完形	89.8	8.0	34.9	1.6	25.6	4.3	2.6	0.1	59.1	-	Mud.	
Ⅱ-37-10		-	758	ⅢbM	完形	90.2	8.4	38.4	5.1	22.2	0.9	2.3	-0.2	99.7	-	Sa.	
-		Ⅲ S024	738 743 745-1	ⅢbM	略定形	91.6	9.8	33.7	0.4	22.2	0.9	2.7	0.2	68.3	-	Mud.	
Ⅱ-37-11		-	722	ⅢbM	完形	92.4	10.6	35.2	1.9	25.0	3.7	2.6	0.1	81.1	-	Mud.	
-		-	762	ⅢbM	完形	96.2	14.4	25.8	-7.5	24.6	3.3	3.7	1.2	72.7	-	Sa.	
-		-	746	ⅢbM	完形	96.6	14.8	30.2	-3.1	20.1	-1.2	3.2	0.7	64.5	-	Mud.	
-		-	761	ⅢbM	完形	98.1	16.3	43.6	10.3	25.9	4.6	2.3	-0.3	110.3	-	Sa.	
完形平均値						81.8		33.3		21.3		2.5		69.1			
遺物総重量														2279.8			

※33点



図Ⅱ-38 ⅢBB-03・07 平面図及び出土遺物

表Ⅱ-43　ⅢBB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			被熱	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-38	24-6	ⅢBB-03	AB-24	ⅢbM	不整形	39	17	－	－	
Ⅱ-38	24-7	ⅢBB-07	AL-30	ⅢbU	不整形	79	26	－	－	

表Ⅱ-44　ⅢBB-03出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-38-1	55-2-3	－	B.289-1	骨角器未成品	－	ⅢbM	ⅢBB-03	(31.0)	10.0	4.4	(0.9)	B.	加工痕残存中手骨・欠
Ⅱ-38-2	55-2-4	－	B.289-2	骨角器未成品	－	ⅢbM	ⅢBB-03	(18.0)	(5.6)	(4.4)	(0.2)	B.	加工痕残存破片

第7節　杭列跡

3条の杭列跡を検出した。

杭列跡01（図Ⅱ-39　図版25・26-1～8）

位　置：AT-23・AU-23・24・AV-24・25区　　規　模：1,290×520㎝　　検出層位：Ⅲc～Ⅳ

本　数：90本　　長軸方向：N-48° E

確認・調査　AT-23区のⅣ層上面で遺構確認調査中、1条の杭列跡を検出した。オニキシベ4遺跡及びショロマ1遺跡でも検出された杭列跡と同様の遺構と判断し（町教委 2014・2015）、延長線上を精査したところ、さらに杭跡を検出した。全体写真を撮影後、ⅢKP-01～56を付番し半截した。当初は北東-南西方向に続く直線的な杭列を想定していたが、南側の調査を進めるうちに南へ90度折れ曲がる杭列と、それに続く東へ90度折れ曲がる杭列が検出された。杭列はコの字状に折り返しのある形態であり、全体では段丘の低い部分に向かってすぼまる、ろう斗形の平面形をなすことが分かった。追加部分の全体写真を撮影後、半截した結果、全体で90本が杭穴と確認された。断面写真撮影と実測図の作成については、代表的なものだけ19本記録し、殆どは平面のみの記録としている。完了写真撮影後、調査を終了した。なお、杭列上ではないがごく近傍に検出された5本の杭跡も掲載している。

杭跡　各杭跡は確認面での直径が4～19㎝で19本中14本が直径4～8㎝前後である。深さはⅣ層までが3本、Ⅳ層とⅤ層の境界付近まで打ち込まれているものが12本、Ⅴ層まで達しているものが4本である。それぞれの傾きは19本中15本が0～5°の範囲に収まっている。

杭列跡の形態　標高の低い部分がコの字状に閉じ、西から東に向かって開くろう斗形の平面形をなす。南側先端は撹乱のため正確な全体の形状は不明である。また、残存部分の形態は杭列跡02と相似する。北側先端が中途で途切れることや東側の山側に向かって開いていることから単に境界や柵として用いられたのではなく、オニキシベ4遺跡において杭列跡が狩猟に用いられていたのではないかとの指摘（町教委 2014）も含め、狩猟用の「囲い罠」と考えたい。なお、コの字状に閉じた部分からろう斗形に開く平面形は、現代のシカ用囲い罠の最奥部形状に類似する（北海道環境科学研究センター 2006）。現代の類例から推測すると、上幌内1遺跡で検出した杭列の開放部分は、立木を利用していた可能性がある。現在の囲い罠では最奥部の幅は約1.2mであり、上幌内1遺跡のものよりやや狭い。

時　期　周辺からは遺物が出土しておらず、最も近い遺構はⅢF-17であるが、関連性は低い

と思われる。時期は杭跡の覆土から、Ⅲb 層上位から打ち込まれたと考えられ、アイヌ文化期の所産と考えられる。（服部）

杭列跡 02（図Ⅱ-40・41　図版 26-9・27・28-1～8）

位　置：AG-21・AH-19～21 区　　規　模：1,540×615 ㎝　　検出層位：Ⅲc・Ⅳ

本　数：117 本　　長軸方向：N-61° W

確認・調査　B 区Ⅳ層上位で遺構確認調査中、杭列を検出した。当初東側の台地裾部から段丘縁辺に向かう直線的な杭列跡と判断したが、杭列跡 01 と同様に西側の段丘中央部で南西に折れ曲がり、さらに南東に折れ曲がる杭列であった。杭列の南端は A 区の畑によって深く撹乱された区域に及んでおり、Ⅳ層の残っている畝間を精査したが、杭跡は検出できなかった。全体では段丘の低い部分に向かってすぼまるろう斗形の平面形をなし、杭列跡 01 と類似した形態をする。

杭跡と思われる黒色土の落ち込みはⅣ層上面で約 200 本検出したが、すべてを半截し、断面の観察から、表に示した 117 本を杭跡と判断した。さらに、杭列が西に伸びると判断し、段丘縁辺部まで精査したが、後述する杭列跡 03 までの間は杭跡がまばらで、杭列跡 02 と 03 は連続しないと判断した。断面写真撮影と断面実測図の作成を行い、完掘して平面プランを実測した。完掘写真撮影後、調査を終了した。なお、杭列上ではないがごく近傍に検出された杭跡も図示している。

杭跡　各杭跡は確認面での直径が 4～20cm で 117 本のうち、10cm を越える直径をもつものはわずかに 7 本である。深さはⅥ層まで達するものがわずかに 1 本で、大半はⅤ層中で止まっている。覆土はⅢ層主体であり、Ⅲb 層上位から打ち込まれたとすれば、撹乱によるⅢ層欠失分約 20cm 前後を加えると、杭は 40cm 前後打ち込まれていたと思われる。杭の傾きは疎らで最大 34° を測るものがあるが、一定の方向に傾くといった傾向はみられなかった。

杭列跡の形態　杭列跡 01 と類似し、標高の低い部分がコの字状を呈し、東に向かって開くろう斗型の形態である。コの字状の部分の短辺の部分には杭列跡 01 と異なり、杭跡は確認できなかった。杭列跡 01 同様南側は撹乱によって全体の形状は確認出来ない。

時　期　杭列跡 01 同様、アイヌ文化期の所産と考えたい。

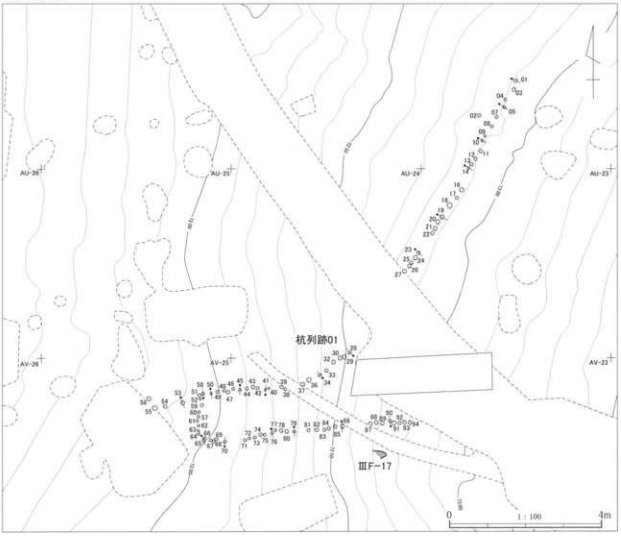
杭列跡 03（図Ⅱ-42　図版 28-9・29）

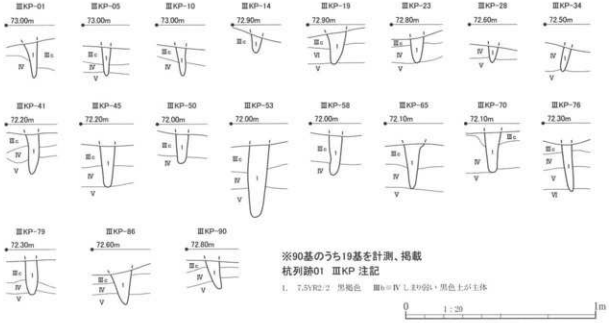
位　置：AE-23・24・AF-22・23・AG-22 区　　規　模：1,365×310 ㎝　　検出層位：Ⅳ

本　数：30 本　　長軸方向：N-50° W

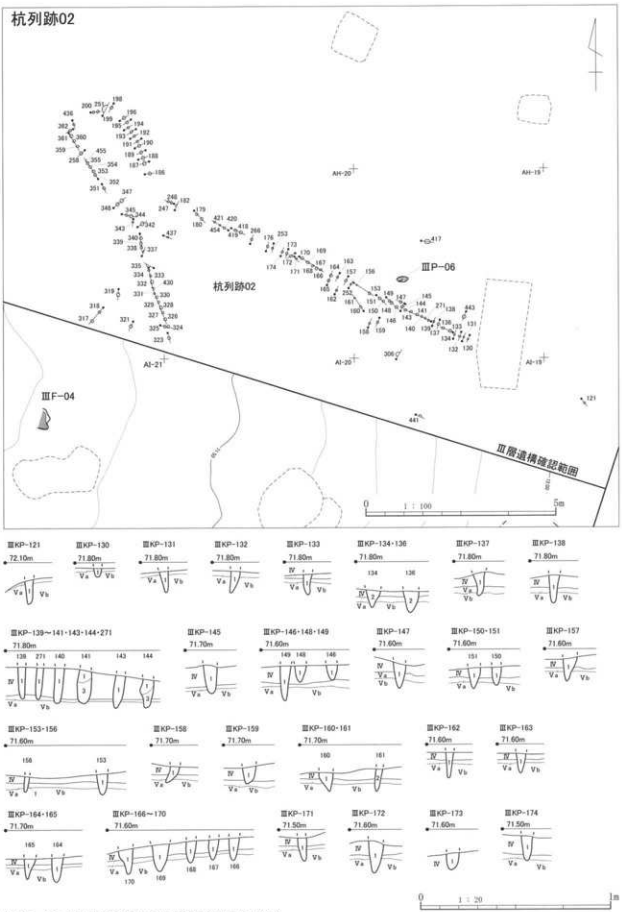
確認・調査　当初、杭列跡 02 が西に伸びると考えて調査したが、連続して杭穴が認められないため別遺構として取り扱った。半截して杭跡と確認できたものの平面形を図Ⅱ-42 に図示した。AE-23・24 区では北西から南東方向に直線的に伸びる杭跡は密であるが、AF-22・23 区に杭列跡を看取できるが、AE-24 区以外は杭列跡 01・02 のように杭は密に打ち込まれていない。

杭列跡01

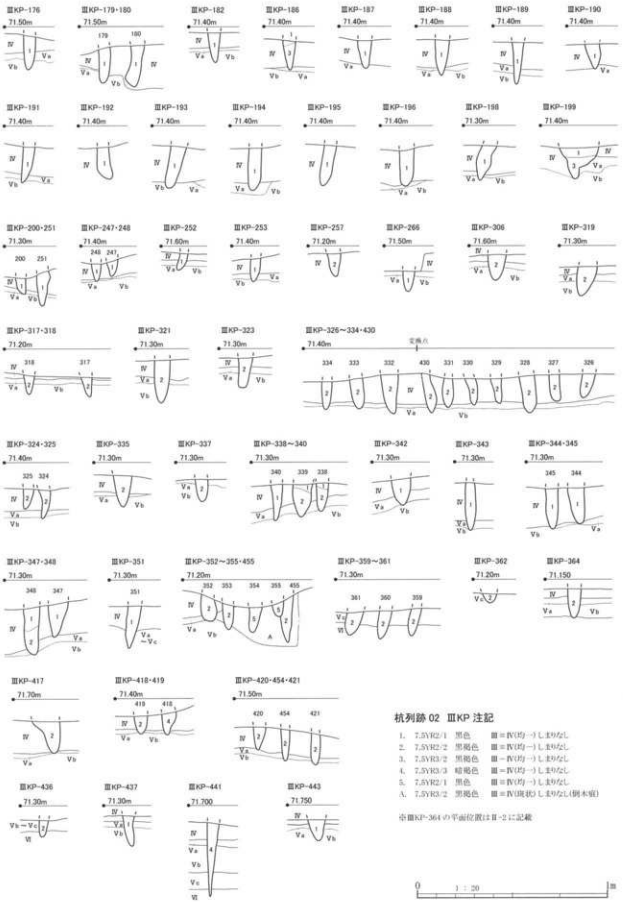




図Ⅱ-39　杭列跡01 平面及び杭穴断面図



図Ⅱ-40 杭列跡02 平面及び杭穴断面図(1)



杭列跡 02 ⅢKP 注記

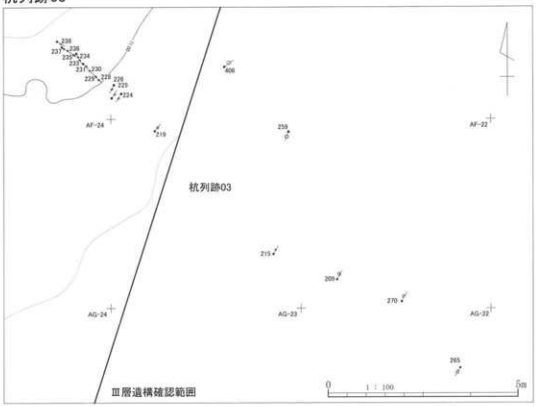
1. 7.5YR2/1 黒色　■＝Ⅳ(均一)しまりなし
2. 7.5YR2/2 黒褐色　■＝Ⅳ(均一)しまりなし
3. 7.5YR3/2 黒褐色　■＝Ⅳ(均一)しまりなし
4. 7.5YR3/3 暗褐色　■＝Ⅳ(均一)しまりなし
5. 7.5YR2/1 黒色　■＝Ⅳ(均一)しまりなし
A. 7.5YR3/2 黒褐色　■＝Ⅳ(現状)しまりなし(倒木痕)

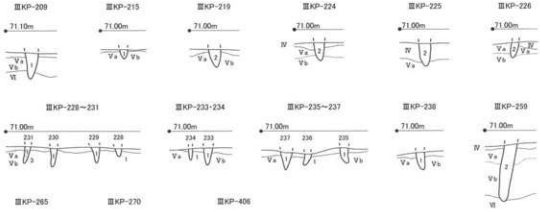
※Ⅲ KP-364 の平面位置はⅡ-2 に記載

0　1：20　m

図Ⅱ-41　杭列跡02 杭穴断面図(2)

杭列跡03





杭列跡03 ⅢKP注記

1. 7.5YR2/1 黒色 Ⅲ＝Ⅳ(均一)
2. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅲ＝Ⅳ(均一)しまりなし
3. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅲ＝Ⅳ(均一)
4. 7.5YR2/1 黒色 Ⅲ＝Ⅳ(均一)しまりなし

1：20

図Ⅱ-42 杭列跡03 平面及び杭穴断面図

表Ⅱ-45　杭列跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	平面形	条数	柱穴数	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	備考
Ⅱ-39	25	杭列跡01	AT-23 AU-23・24 AV-24・25	Ⅲc・Ⅳ	N-48° E	漏斗型	1条	90	1,290	520	表Ⅱ-46は19基のみ属性表掲載
Ⅱ-40・41	26-9 27-1	杭列跡02	AG-21 AH-19～21	Ⅲc・Ⅳ	N-61° W	漏斗型	1条	117	1,540	615	
Ⅱ-42	28-9 29-1	杭列跡03	AE-23・24 AF-22・23 AG-22	Ⅳ	N-50° W	－	1条	20	1,365	310	

杭跡　極端に深いもの（ⅢKP-259・406）と浅いものがあり、全てが同一時期に存在したとは考えにくい。

杭列跡の形態　直線的な杭列跡で、杭列跡01・02のような性格をもつものではない。

時　期　杭跡の断面観察から、覆土はⅢ層主体であり、アイヌ文化期の所産と考えられる。

第8節　道跡

A2区沢部から道跡と思われる遺構を検出した。

道跡（図Ⅱ-43・44　図版30）

位　置：AM-32・AN-28～32区　　規　模：2,050×52 cm　　検出層位：Ⅲc・Ⅳ

長軸方向：N-73° W

確認・調査　道跡はA2区沢部の最深部よりやや北側の斜面に残されており、段丘の上部から沢を降りていくような、黒ずんだ浅い溝状のくぼみをⅣ層上面で確認した。この沢は最下位にⅨ層がみられ、Ta-d 層は認められない。Ⅸ層の上位はⅤ層が被覆しており、Ta-d 降下後に形成された沢であると考えられる。宅地・道路等の造成で埋め立てられていたため、調査当初は沢の存在に気付かず、Ta-b 層の除去段階で沢の存在を確認した。Ta-d 層除去時に、遺物が散見されたので、集中区1（ⅢB-01）他の遺構名を付番して調査を進めた。

道跡はⅢB-01・ⅢBB-08・09の遺物を取り上げた後、Ⅳ層上面を調査中に確認できた。ⅢB-01・ⅢBB-08・09の遺物は、沢の上部で道跡の確認面より5～10cm上位から、沢の下部で道跡の確認面より10～15cm上位から検出している。調査した範囲の最下部、コンクリート擁壁に沿った断面Cでは、Ⅳ・Ⅴa層がみられず、浅く窪んでいた。この窪み部分には、炭化材片を含む、Ⅲ・Ⅳ層を主体とした堆積がみられ、Ⅴ層と考えられる黒色土は存在しないので、Ⅳ層堆積以降の浸食による沢状地形が形成されたと考えられる。

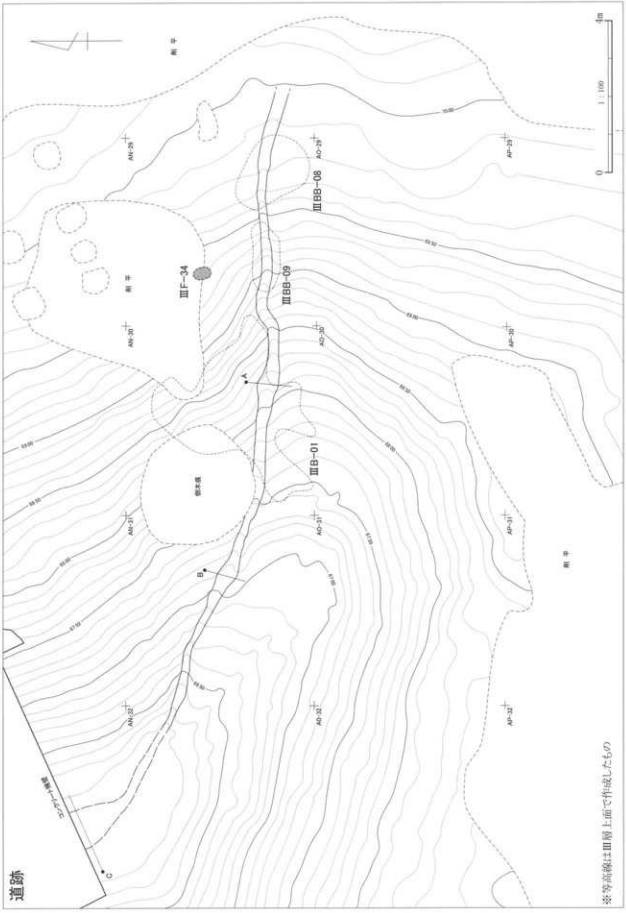
当初1本の痕跡ではなく、沢の南側や東側にもそれらしい痕跡を検出したが、トレンチを入れ断面観察の結果、自然の沢状地形と判断し、除外した。

時期・性格　沢状地形は、西側が宅地の造成等で大きく撹乱されており、谷頭部の様相ははっきりとは把握できないが、AN・AO-29区周辺から急激に傾斜しており、道跡は最深部のやや北側、傾斜地を斜めに下りてゆくようにつけられている。人工的な痕跡は認められないが、Ⅳ層が部分的に削剥していることやⅣ層上面が黒ずんでいることなどから、Ⅳ層からⅢb 層の間で形成されたものと思われる。道跡の上位から出土した遺物は擦文文化期に属するため、遺物が出土した時点では確認できなかった道跡は擦文文化期に帰属すると考えられる。　（宮塚）

表Ⅱ-46　杭列跡01～03杭穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	規模(cm) 上端	下端	深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-39	-	KP-01	AT-23	7	0	18	4	打込み
Ⅱ-39	-	KP-05	AT-23	5	0	15	0	打込み
Ⅱ-39	-	KP-10	AT-23	5	0	15	3	打込み
Ⅱ-39	-	KP-14	AT-23	6	0	9	4	打込み
Ⅱ-39	-	KP-19	AU-23	10	0	16	6	打込み
Ⅱ-39	26-1	KP-23	AU-23	7	0	13	3	打込み
Ⅱ-39	-	KP-28	AU-24	5	0	8	3	打込み
Ⅱ-39	-	KP-34	AU-24	4	0	12	14	打込み
Ⅱ-39	-	KP-41	AV-24	7	0	21	1	打込み
Ⅱ-39	26-2	KP-45	AV-24	8	0	21	0	打込み
Ⅱ-39	26-3-1	KP-50	AV-25	7	0	15	3	打込み
Ⅱ-39	-	KP-53	AV-25	10	0	36	3	打込み
Ⅱ-39	-	KP-58	AV-25	7	0	24	4	打込み
Ⅱ-39	26-5-6	KP-65	AV-25	10	0	24	2	打込み
Ⅱ-39	26-7	KP-70	AV-24	19	2	21	1	打込み
Ⅱ-39	26-8	KP-76	AV-24	5	0	25	4.5	打込み
Ⅱ-39	-	KP-79	AV-24	6	0	18	1.5	打込み
Ⅱ-39	-	KP-86	AV-24	12	0	17	8	打込み
Ⅱ-39	-	KP-90	AV-24	7	0	15	14	打込み
Ⅱ-40	-	KP-121	AH-18	5	0	13	2	打込み
Ⅱ-40	27-2-3	KP-130	AH-19	4	0	4	1	打込み
Ⅱ-40	-	KP-131	AH-19	5	0	11	6	打込み
Ⅱ-40	-	KP-132	AH-19	5	0	12	13	打込み
Ⅱ-40	-	KP-133	AH-19	5	0	11	4	打込み
Ⅱ-40	-	KP-134	AH-19	8	0	9	3	打込み
Ⅱ-40	-	KP-136	AH-19	8	0	11	3	打込み
Ⅱ-40	-	KP-137	AH-19	6	0	12	3	打込み
Ⅱ-40	-	KP-138	AH-19	6	0	15	1	打込み
Ⅱ-40	27-4-5	KP-139	AH-19	4	0	17	2	打込み
Ⅱ-40	-	KP-140	AH-19	5	0	18	4	打込み
Ⅱ-40	-	KP-141	AH-19	6	0	17	1	打込み
Ⅱ-40	-	KP-143	AH-19	5	0	17	8	打込み
Ⅱ-40	-	KP-144	AH-19	6	0	15	6	打込み
Ⅱ-40	-	KP-271	AH-19	3	0	17	3	打込み
Ⅱ-40	-	KP-145	AH-19	7	0	15	5	打込み
Ⅱ-40	-	KP-146	AH-19	6	0	8	4	打込み
Ⅱ-40	-	KP-148	AH-19	6	0	9	0	打込み
Ⅱ-40	27-6-7	KP-149	AH-19	6	0	18	0	打込み
Ⅱ-40	-	KP-147	AH-19	7	0	8	0	打込み
Ⅱ-40	-	KP-150	AH-19	5	0	10	1	打込み
Ⅱ-40	-	KP-151	AH-19	6	0	11	0	打込み
Ⅱ-40	-	KP-157	AH-20	8	0	12	7	打込み
Ⅱ-40	-	KP-153	AH-19	6	0	11	0	打込み
Ⅱ-40	-	KP-156	AH-19	3	0	8	4	打込み
Ⅱ-40	-	KP-158	AH-19	5	0	10	34	打込み
Ⅱ-40	-	KP-159	AH-19	7	0	9	6	打込み
Ⅱ-40	-	KP-160	AH-20	7	0	10	10	打込み
Ⅱ-40	-	KP-161	AH-20	3	0	12	17	打込み
Ⅱ-40	-	KP-162	AH-20	4	0	13	2	打込み
Ⅱ-40	-	KP-163	AH-20	5	0	10	0	打込み
Ⅱ-40	-	KP-164	AH-20	6	0	13	0	打込み
Ⅱ-40	-	KP-165	AH-20	6	0	11	8	打込み
Ⅱ-40	-	KP-166	AH-20	5	0	12	2	打込み
Ⅱ-40	-	KP-167	AH-20	5	0	11	1.5	打込み
Ⅱ-40	-	KP-168	AH-20	5	0	11	1.5	打込み
Ⅱ-40	-	KP-169	AH-20	9	0	14	2	打込み
Ⅱ-40	-	KP-170	AH-20	8	0	13	6	打込み
Ⅱ-40	-	KP-171	AH-20	5	0	12	5	打込み
Ⅱ-40	-	KP-172	AH-20	8	0	17	3	打込み
Ⅱ-40	-	KP-173	AH-20	7	0	9	8	打込み
Ⅱ-40	-	KP-174	AH-20	6	0	13	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-176	AH-20	7	0	13	4	打込み
Ⅱ-41	-	KP-179	AH-20	6	0	18	2	打込み
Ⅱ-41	-	KP-180	AH-20	7	0	22	3	打込み
Ⅱ-41	-	KP-182	AH-20	7	0	16	3	打込み
Ⅱ-41	-	KP-186	AH-21	7	0	15	2	打込み
Ⅱ-41	-	KP-187	AH-21	8	0	15	4	打込み
Ⅱ-41	27-8-9	KP-188	AH-21	8	0	19	2	打込み
Ⅱ-41	-	KP-189	AH-21	6	0	22	3	打込み
Ⅱ-41	-	KP-190	AH-21	7	0	13	4	打込み
Ⅱ-41	-	KP-191	AH-21	6	0	19	8	打込み
Ⅱ-41	-	KP-192	AH-21	6	0	57	14	打込み
Ⅱ-41	-	KP-193	AH-21	8	0	23	15	打込み
Ⅱ-41	-	KP-194	AH-21	7	0	22	3.5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-195	AH-21	6	0	22	10	打込み
Ⅱ-41	-	KP-196	AH-21	8	0	19	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-198	AH-21	8	0	19	16	打込み
Ⅱ-41	-	KP-199	AH-21	20	0	16	8	打込み

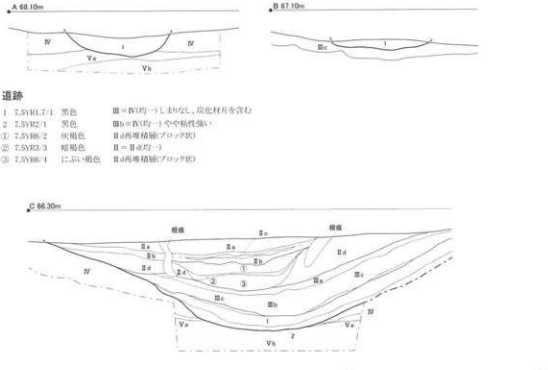
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	規模(cm) 上端	下端	深さ	傾き(度)	タイプ
Ⅱ-41	-	KP-200	AH-21	5	0	8	16	打込み
Ⅱ-41	-	KP-251	AH-21	7	0	17	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-247	AH-20	6	0	8	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-248	AH-20	5	0	9	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-252	AH-20	4	0	9	18.5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-253	AH-20	5	0	12	4	打込み
Ⅱ-41	-	KP-257	AH-21	7	0	12	9	打込み
Ⅱ-41	-	KP-266	AH-20	6	0	11	1	打込み
Ⅱ-41	-	KP-306	AH-19	10	0	13	3.5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-319	AH-21	6	0	16	18	打込み
Ⅱ-41	-	KP-317	AH-21	6	0	10	8	打込み
Ⅱ-41	-	KP-318	AH-21	6	0	16	1.5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-321	AH-21	8	0	22	3	打込み
Ⅱ-41	-	KP-323	AH-20	8	3	16	6	打込み
Ⅱ-41	-	KP-326	AH-20	7	0	13	16	打込み
Ⅱ-41	-	KP-327	AH-20	6	0	14	9	打込み
Ⅱ-41	-	KP-328	AH-20	8	0	19	5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-329	AH-20	6	0	13	9	打込み
Ⅱ-41	-	KP-330	AH-20	5	0	14	8	打込み
Ⅱ-41	-	KP-331	AH-21	4	0	15	0	打込み
Ⅱ-41	28-1-2	KP-332	AH-21	9	0	21	7	打込み
Ⅱ-41	-	KP-333	AH-21	7	0	16	7	打込み
Ⅱ-41	-	KP-334	AH-21	5	0	14	4	打込み
Ⅱ-41	-	KP-430	AH-20	4	0	21	8	打込み
Ⅱ-41	-	KP-324	AH-20	6	0	15	5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-325	AH-20	4	0	11	5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-335	AH-21	10	0	16	1	打込み
Ⅱ-41	-	KP-337	AH-21	7	0	12	9	打込み
Ⅱ-41	-	KP-338	AH-21	6	0	15	9	打込み
Ⅱ-41	-	KP-339	AH-21	10	0	17	2	打込み
Ⅱ-41	-	KP-340	AH-21	6	0	19	4	打込み
Ⅱ-41	-	KP-342	AH-21	10	0	14	7	打込み
Ⅱ-41	-	KP-343	AH-21	5	0	25	0	打込み
Ⅱ-41	28-3-4	KP-344	AH-21	9	0	19	6	打込み
Ⅱ-41	-	KP-345	AH-21	7	0	21	7	打込み
Ⅱ-41	-	KP-347	AH-21	11	0	17	7	打込み
Ⅱ-41	-	KP-348	AH-21	9	0	25	5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-351	AH-21	7	0	22	8	打込み
Ⅱ-41	-	KP-352	AH-21	7	3	13	18	打込み
Ⅱ-41	-	KP-353	AH-21	6	0	13	3	打込み
Ⅱ-41	-	KP-354	AH-21	7	0	13	6	打込み
Ⅱ-41	-	KP-355	AH-21	6	0	7	11	打込み
Ⅱ-41	-	KP-455	AH-21	6	0	23	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-359	AH-21	5	0	15	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-360	AH-21	6	0	15	13	打込み
Ⅱ-41	-	KP-361	AH-21	9	0	12	14	打込み
Ⅱ-41	-	KP-362	AH-21	7	0	5	5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-364	AH-21	7	0	16	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-417	AH-19	14	0	18	59	打込み
Ⅱ-41	-	KP-418	AH-20	8	0	11	4	打込み
Ⅱ-41	-	KP-419	AH-20	7	0	9	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-420	AH-20	7	0	12	5	打込み
Ⅱ-41	28-5-6	KP-454	AH-20	5	0	16	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-421	AH-20	5	0	16	0	打込み
Ⅱ-41	-	KP-436	AH-21	5	0	9	6	打込み
Ⅱ-41	-	KP-437	AH-20	5	0	15	8	打込み
Ⅱ-41	28-7-8	KP-441	AH-19	6	0	38	5	打込み
Ⅱ-41	-	KP-443	AH-19	8	1	11	8	打込み
Ⅱ-42	29-2-3	KP-209	AF-22	5	0	13	1	打込み
Ⅱ-42	-	KP-215	AF-23	3	0	5	3	打込み
Ⅱ-42	-	KP-219	AF-23	4	0	9	7	打込み
Ⅱ-42	29-4-5	KP-224	AE-23	4	0	10	6	打込み
Ⅱ-42	-	KP-225	AE-23	5	0	12	5	打込み
Ⅱ-42	-	KP-226	AE-23	5	0	8	10	打込み
Ⅱ-42	-	KP-228	AE-24	2	0	4	8	打込み
Ⅱ-42	-	KP-229	AE-24	2	0	8	4	打込み
Ⅱ-42	-	KP-230	AE-24	2	0	10	15	打込み
Ⅱ-42	29-6-7	KP-231	AE-24	2	0	9	10	打込み
Ⅱ-42	-	KP-233	AE-24	3	0	9	0	打込み
Ⅱ-42	-	KP-234	AE-24	2	0	6	0	打込み
Ⅱ-42	-	KP-235	AE-24	3	0	9	0	打込み
Ⅱ-42	-	KP-236	AE-24	2	0	6	12	打込み
Ⅱ-42	-	KP-237	AE-24	3	0	8	11	打込み
Ⅱ-42	29-8-9	KP-238	AE-24	3	0	9	5	打込み
Ⅱ-42	-	KP-259	AF-23	7	0	15	1	打込み
Ⅱ-42	-	KP-265	AG-22	5	0	20	9	打込み
Ⅱ-42	-	KP-270	AF-22	6	0	11	3	打込み
Ⅱ-42	-	KP-406	AE-23	8	0	34	2	打込み



※等高線はⅢ層上面で作成したもの

図Ⅱ-43　道跡平面図

道跡



図Ⅱ-44 道跡断面図

表Ⅱ-47 道跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	平面形	条数	規模(cm) 長軸	短軸	深さ
Ⅱ-43・44	30	道跡	AM-32・AN-28～32	Ⅲc・Ⅳ	N-73° W	-	1条	2050	52	10

第9節 包含層出土遺物

1. 土器（図Ⅱ-45-1～8 図版56-1～8）

1は口縁部直下に幅広の横走沈線が2条認められ、沈線間には刻みが施される。内面は横方向に弱いミガキ。2は斜位沈線文が施される胴部上半の破片。内面は横方向のミガキ。3は無文の口縁部から胴部下半までの破片で、口縁部に幅広の横走沈線文が施される。口唇部は丸状、内面は横方向のミガキ。4の口唇部は丸状、内面は横方向のミガキが顕著である。口縁部に矢羽根状の刻み、胴部はハケメで縦方向に調整されている。5～8は坏で、5は無文でミガキが施されている。6は口唇部に向かって薄くなり口唇は尖状を呈する。内外面ともに横方向にミガキ、底部変換点に鋸歯状の沈線文が施される。7は口縁部破片、縦方向のハケメ上に表面は縦方向、内面は横方向のミガキが施される。8は脚台部破片、表面は縦方向、内面は横方向のミガキ、台部側縁に横走沈線文・刻みが施され、上下2列で矢羽根状をなす。（宮塚）

2. 剥片石器（図Ⅱ-45-9･10　図版 56-9･10）

9 は A2b に分類される石鏃で、Ⅲc 層出土のため、続縄文文化期に帰属すると思われる。裏面には素材面が残存しており、断面形はカマボコ形となる。10 は石核と分類した。原石を半割した後、上面右側と左側面側から剥離されている。擦文文化期の包含層から黒曜石製石器は出土していないことから、儀礼的な意味で持ちこまれ、剥離されたものと思われる。やや粗い転礫面をもち、原産地分析の結果、所山産と同定された。時期差があるものの、上幌内モイ遺跡集中区 1･2、ⅢGP-03、ヲチャラセナイ遺跡集中区 5（町教委 2007･2014）で破砕状態等での出土事例が確認され、全て道東の原産地で転礫面を有す。（松井）

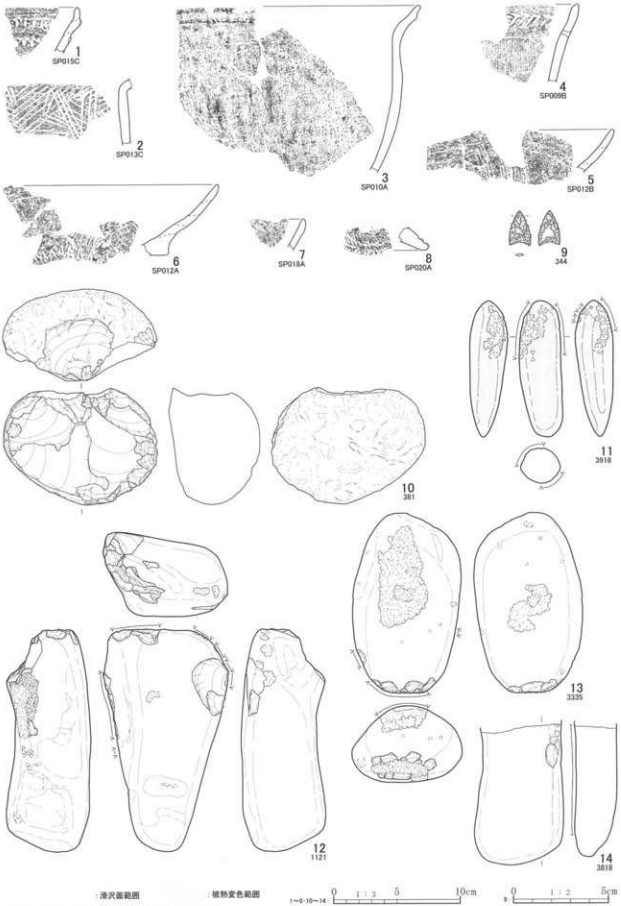
3. 礫石器（図Ⅱ-45-11～14･46-15･16　図版 56-11～16）

本項では、Ⅲ層の遺構外から出土した礫石器を一括して掲載している。出土層位及び周辺出土の遺物から 12 は擦文文化期、11･13～16 はアイヌ文化期と考える。11～14 はたたき石である。11 は棒状礫を素材に上端部周辺が使用され、単位の明瞭な粗い敲打痕が残る。全面が被熱している。12 は左側面、上面の使用が顕著である。1,000g を超えるため、基準上は台石に分類されるが、敲打痕の位置を考慮してたたき石とした。13 は正面中央部と下端部の使用が顕著である。比較的細かな敲打痕で、単位は明瞭ではない。これは対象物の柔らかさなどに起因すると思われる。14 は正面右半部に滑沢面が残されている。右側面の敲打痕はこれを切る。15 は台石である。正面中央部を中心に細かな敲打痕が残る。16 は加工痕のある礫である。正面が剥離された後、裏面が剥離される。石材は全て砂岩である。（松井）

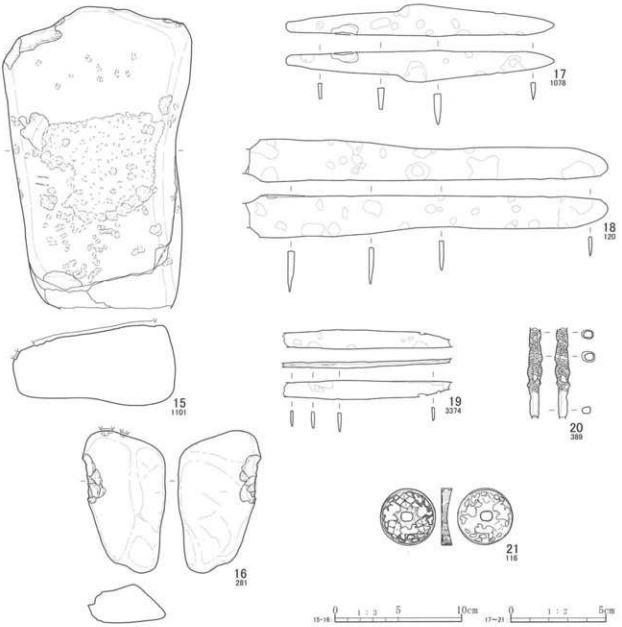
4. 金属製品（図Ⅱ-46-17～21　図版 56-17～21）

17 は平棟平造で刃区をもつ。棟は直線状で、切先付近でやや尖る。茎に対して刀身が短く、研ぎ直されたものと思われる。18 は平棟平造で、茎を欠くが、残存部分から両区であることがわかる。刃部の厚さは棟部で 2.0mm 前後。刃縁は中央部で約 1 mm 内湾し、切先は丸状である。19 は刀身のみで、切先と茎の一部を欠損する。20 は断面方形の棒状鉄製品に、太さ約 1mm の紐が巻き付けられたもの。紐は錆に置換し、撚りが観察できる。金属部分の太さが約 5mm で紐を巻きつけた部分では 8mm を計る。紐巻きの厚さは 1.5mm 程度と推測され、紐が交差していることから、上下から 2～3 回繰り返して巻かれていると思われる。両端が欠損しており、上端は紐巻きが続いていたものと思われる。21 は銅製で中央に隅丸長方形の目釘孔をもつ目貫。菱形内を沈線文で区画された文様が 3 ヵ所に配置され、その他の部分では、枝葉模様が透かし彫りで表現される。側面に研磨による調整擦痕が幅 3～4mm の単位で見られる。緑青が剥離した箇所で、金色の金属部分が観察される。目貫は上幌内モイ遺跡 2 点（町教委 2007）と恵庭市カリンバ 4 遺跡 1 点（恵庭市教育委員会 2001）、余市町栄町 1 遺跡（関根 2014）などで報告されている。これらの金属製品は出土層位から全てアイヌ文化期のものと考えられる。

（松井）



図Ⅱ-45 Ⅲ層包含層出土遺物(1)



図Ⅱ-46　Ⅲ層包含層出土遺物(2)

表Ⅱ-48 Ⅲ層包含層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	調査区遺構名	層位	点数	部位	器面調整			文様	胎土(砂粒)	備考
								口唇	器表面(口縁部/胴部/底部)	内面(口縁部/胴部/底部)	口縁部等/文様帯		
Ⅱ-45-1	56-1	SP015 C	ⅦB3	AV-22	ⅢbM	1	口縁	弱いミガキ	ナデ	弱い横ミガキ	刻み(3段)	極多量	焼成粗悪
Ⅱ-45-2	56-2	SP013 C	ⅦB3	AI-22	ⅢbU	1	胴上半	-	ナデ	横ミガキ(黒色処理)	斜位沈線文	中量	
Ⅱ-45-3	56-3	SP010 A	ⅦB1	U-19	ⅢbL	6	口縁～胴下半	ミガキ	横ナデ/縦ハケメ→縦ミガキ	横ミガキ/縦ミガキ	横走沈線(幅広)/無文	少量	輪積み痕跡有
Ⅱ-45-4	56-4	SP009 B	ⅦB3	AR-31	ⅢbL	1	口縁～胴上半	ミガキ	横ナデ/縦ハケメ	横ミガキ/縦ミガキ(黒色処理)	刻み(矢羽根状)	多量	補修孔1 焼成良好 緻密
Ⅱ-45-5	56-5	SP012 B	ⅦC3	AO-29	ⅢbM	5	口縁～体下半	ミガキ	横ミガキ/縦ハケメ→横ミガキ	横ミガキ/斜位ミガキ(黒色処理)	無文	中量	一部の破片風化
Ⅱ-45-6	56-6	SP012 A	ⅦC3	ⅢB-01 AO-29	ⅢbM	1 5	口縁～底	ミガキ	横ミガキ/縦ハケメ→横ミガキ・ナデ/ミガキ	横ミガキ/放射状ミガキ	無文/高台部側面・鋸歯状沈線文	中量	口縁部輪積み痕跡顕著
Ⅱ-45-7	56-7	SP018 A	ⅦC	U-19	ⅢbL	1	口縁	ナデ	縦ハケメ→縦ミガキ	横ミガキ	無文	中量	
Ⅱ-45-8	56-8	SP020 A	ⅦC4	AI-24	ⅢbL	1	脚台部	-	縦ミガキ	横ミガキ	台部側面・横走沈線文＋刻み(矢羽根状)	多量	

表Ⅱ-49 Ⅲ層包含層出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構/グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-45-9	56-9	-	344	石鏃	A2b	Ⅲc	AL-24	18.2	11.5	2.6	0.5	Obs.	-
Ⅱ-45-10	56-10	-	381	石核	-	ⅢbL	AU-22	85.9	66.1	48.1	302.0	Obs.	原産地同定 AS-5
Ⅱ-45-11	56-11	-	3918	たたき石	ⅠB3	ⅢbM	AN-29	107.2	33.4	27.8	130.0	Sa.	被熱
Ⅱ-45-12	56-12	-	1121	たたき石	ⅡB2	ⅢbL	T-19	175.0	99.1	62.3	1,225.0	Sa.	-
Ⅱ-45-13	56-13	-	3335	たたき石	ⅢB	ⅢbU	AO-32	143.4	83.3	57.7	820.0	Sa.	-
Ⅱ-45-14	56-14	-	3818	たたき石	Ⅴ	ⅢbM	AN-29	(102.6)	67.4	32.5	(375.0)	Sa.	滑沢面有
Ⅱ-46-15	56-15	-	1101	台石	-	ⅢbM	Y-20	235.0	151.0	63.1	2,800.0	Sa.	被熱
Ⅱ-46-16	56-16	-	281	加工痕のある礫	-	ⅢbM	AU-23	118.5	63.0	29.3	215.0	Sa.	-
Ⅱ-46-17	56-17	-	1078	刀子	-	ⅢbM	Z-22	141.1	16.6	4.9	22.5	Irn.	-
Ⅱ-46-18	56-18	-	120	刀子	-	ⅢbM	AQ-31	(190.0)	22.4	4.5	(43.2)	Irn.	茎欠損 4片に分割
Ⅱ-46-19	56-19	-	3374	刀子	-	ⅢbM	AM-30	(86.6)	10.3	2.4	(61.3)	Irn.	-
Ⅱ-46-20	56-20	-	389	棒状鉄製品	-	ⅢbM	AV-24	(46.8)	(8.3)	6.1	(3.6)	Irn.	紐巻残存
Ⅱ-46-21	56-21	-	116	目貫	-	ⅢbM	AQ-30	29.7	29.3	6.5	3.5	Cu.	鍍金あり

第Ⅲ章　Ⅴ層の調査

平成26年度に実施した上幌内1遺跡の調査で、縄文時代の竪穴住居跡（VH）1軒、土坑（VP）1基、Tピット（TP）45基、土器集中（VPB）13ヵ所、礫集中（VSB）4ヵ所、石斧類集中1ヵ所を検出した。

上幌内1遺跡は、T_1・T_2面上にあり、遺構の大半はT_2面上に残されていた。上幌内1遺跡では、平成25年度に調査したショロマ1遺跡でみられたような洪水堆積層はなく、Ⅶa・b層（降下軽石層）の上にⅤ・Ⅵ層が堆積している。T_1面と考えられる調査区南側の低位段丘面ではⅦ層が存在せず、Ⅴ・Ⅵ層が直接、段丘堆積物の粘土質シルト層を覆っていた。

Ⅴ層上面のコンターをみると、上位のT_3面は厚真川に沿った縁辺部が若干高くなり、東側の斜面との間に浅い谷が入るようにみえる。遺跡の北半部は畑の造成によって、南半部中央は宅地造成等の掘削によってⅦ層まで撹乱されている箇所が多かった。

遺構は、調査区北側に竪穴住居跡1軒を検出した他は、主な遺構としてTピットがあり、等高線に沿って数基が列状をなす箇所もある。遺物は縄文時代早期から後期のものが出土しているが、土器は早期のものが最も多く、次いで中期が調査区南側から多く検出している。早期の土器は後半期のものに限られ、段丘縁辺部から出土している。Ⅴ層から出土した遺物は土器1,712点、礫石器245点、剥片石器73点、土製品1点、石製品2点、石斧石器群削片5点、フレイク・チップ類851点、礫968点、木製品2点の総計3,859点である。（宮塚）

第1節　竪穴住居跡

住居跡は1軒（VH-01）、調査区の北端で検出した。土器が出土しなかったので明確な時期は示すことはできないが、共伴した石器から縄文時代中期に属するものと思われる。

VH-01（図Ⅲ-3～5　図版31～33-1～8・57-1-1～7）

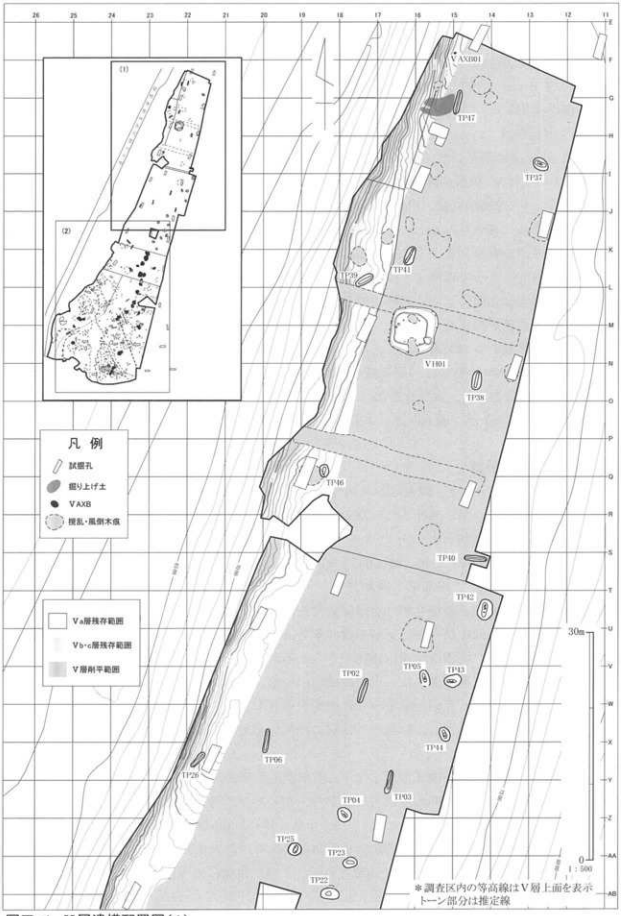
位　置：L・M-15・16区　　規　模：637×607cm　　検出層位：Ⅵ

長軸方向：N-10°E　　平面形：隅丸方形　　付属遺構：PT-01・HP-01～04・08～24

確認・調査　上幌内1遺跡北側は遺構確認調査区域であったが段丘縁辺部付近はⅢ層から残存している。Ⅵ層上面を精査中にⅤ層の浅い落ち込みを検出したため、十字に土層観察用のベルトを残し掘削した。明瞭な床面は確認できなかったが、Ⅶb層が水平に削平されている面を確認し、壁に向かって掘り進めた。南西部壁際に一部、モルタルのようなⅦa層を起源とする火山灰と腐植土が混在した固い層もみられ壁面を確認した。焼土は確認できず、炉石として使われたような被熱礫も出土していない。住居の掘り上げ土も周辺が畑の造成による削平を受けており確認できなかった。

形態　ほぼ正方形に近い隅丸方形をなす。南側壁面が突出する。西壁から50cm、東壁から約100cm、南北の壁から80～90cm離れた位置から、浅いベンチ構造が認められている。

堆積状況　上述したように覆土は浅い。1～5層はⅤ・Ⅵ・Ⅶb層を起源としており、最下層の6・7層はⅤ層を主体としている。壁際の6層から炭化材片が少量検出された。この6層の上にⅥ層にⅦb層が斑状に混じる5層が確認された。5層は東側にのみ検出された。炭化材片は3層からも出土しているが極少量である。



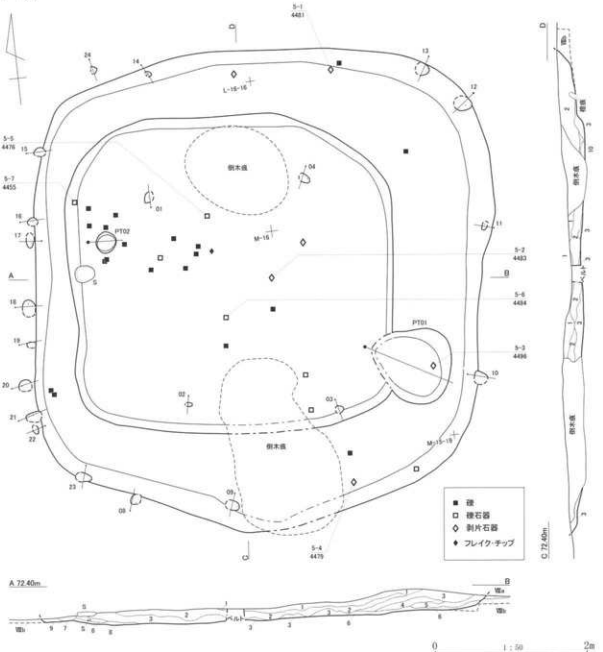
図Ⅲ−1　Ⅴ層遺構配置図(1)

図Ⅲ-2　Ⅴ層遺構配置図(2)

表Ⅲ-1　縄文時代遺構群一覧表

遺構名	帰属時期	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	グリッド	層位	付属遺構	備　考
VH-01	－	637	607	L・M-15・16	Ⅵ	PT01～03B・01～04・06～24	隅丸方形 ベンチ有り
VP-01	－	120	56	AQ-30・31	VbM	－	旧TP-01 形態上り土坑に変更
TP-02	－	332	80	V-17	Ⅵ	－	－
TP-03	－	308	72	X・Y-16	Ⅵ	－	－
TP-04	－	196	172	Y・Z-17	Ⅵ	KP02～06	－
TP-05	－	216	116	V-15	Ⅵ	KP01～06	－
TP-06	－	316	64	W・X-19	Ⅵ	－	－
TP-07	中期後～後期前	212	216	AH・AI-21	VbU	－	掘り上げ土検出
TP-08	－	212	60	AJ-21	Ⅵ	－	－
TP-09	中期後～後期前	194	152	AL-22	VbU	KP01～03・06	掘り上げ土検出
TP-10	中期後～後期前	238	152	AM-23	VbU	－	掘り上げ土検出
TP-11	中期後～後期前	228	168	AM・AN-24	VbU	KP01～03	掘り上げ土検出
TP-12	中期後～後期前	260	188	AO-21	VbU	KP03・04・05・07	掘り上げ土検出
TP-13	中期後～後期前	(220)	(144)	AR・AS-24	VbU	KP01・02	掘り上げ土検出
TP-14	中期後～後期前	240	148	AT・AU-24・25	VbU	KP01・02	掘り上げ土検出
TP-15	中期後～後期前	252	164	AU・AV-25	VbU	－	掘り上げ土検出
TP-16	中期後～後期前	228	156	AQ-23・24	VbU	KP01・02	
TP-17	－	200	136	AB・AC-18	Ⅵ	－	－
TP-18	－	252	165	AT・AU-25・26	Ⅵ	－	－
TP-19	－	200	152	AC-19	Ⅵ	KP01・04・06	逆茂木2点出土
TP-20	－	164	130	AD-19	Ⅵ		－
TP-21	－	220	136	AB-17・18	Ⅵ	KP01・02・04	－
TP-22	－	240	(144)	AA・AB-17・18	Ⅵ	－	－
TP-23	－	186	144	AA-17	Ⅵ	－	－
TP-24	－	345	91	AC-23	Ⅵ	－	－
TP-25	－	168	168	Z-18・19	Ⅵ	KP02～04	－
TP-26	－	246	72	X-21	Ⅵ	－	－
TP-27	－	140	126	AM-21	Ⅵ	KP02	－
TP-28	－	220	136	AM-20・21	Ⅵ	KP03～07	－
TP-29	中期後～後期前	(195)	(196)	AJ-28	VbU	KP01～05・07・08・11・12	掘り上げ土検出
TP-30	中期後～後期前	202	162	AE・AF-20・21	VbU	－	掘り上げ土検出、Ta-a下位火山灰層より自然木出土
TP-31	中期後～後期前	200	200	AE-20	VbU	－	掘り上げ土検出
TP-32	中期後～後期前	186	164	AH-21	VbU	－	掘り上げ土検出
TP-33	中期後～後期前	176	152	AG-22	VbU	－	掘り上げ土検出
TP-34	－	142	116	AG-20・21	Ⅵ	－	－
TP-35	－	316	64	AD-22	Ⅵ	－	－
TP-36	－	341	124	AP-31・32	Ⅵ	－	－
TP-37	－	212	156	H-12	Ⅵ	KP01～08・10	－
TP-38	－	252	120	N-14	Ⅵ	－	－
TP-39	－	256	104	K-17	Ⅵ	－	－
TP-40	－	282	70	S-14	Ⅵ	－	－
TP-41	－	256	126	J・K-15・16	Ⅵ	KP01～06	－
TP-42	－	272	196	T-13・14	Ⅵ	KP01～04・06～11	－
TP-43	－	232	164	V-14・15	Ⅵ	KP01～03・05・06・08～10	－
TP-44	－	190	132	W-15	Ⅵ	KP02～04	－
TP-46	－	(166)	(124)	P・Q-18	Ⅵ	－	－
TP-47	－	320	76	F・G-14・15	Ⅵ	－	掘り上げ土検出
VPB-01	後期前	152	90	AS-30	VbU	－	－
VPB-02	中期後	64	40	AM-25	VbM	－	－
VPB-03	中期後	62	38	AN-27	VbM	－	－
VPB-04	早期後	58	42	AQ-26・27	VbL	－	－
VPB-05	早期後	68	52	AP・AQ-26	VbL	－	－
VPB-06	早期後	128	50	AP-26	VbL	－	－
VPB-07	早期後	68	30	AV-27	Ⅵ	－	－
VPB-08	早期後	212	116	AO-25	Ⅵ	－	－
VPB-09	中期前	58	22	AE-25	VbL	－	－
VPB-10	中期前	80	54	AF-25	VbL	－	－
VPB-11	早期後	422	256	AN・AO-32	Ⅵ	－	－
VPB-12	早期後	328	198	AN-32・33	Ⅵ	－	－
VPB-13	後期前	25	14	AS-32	Vb	－	－
VSB-02	－	110	94	AO-24	VbL	－	－
VSB-03	－	1,600	710	AT・AU-25～27 AV-24～26	Vc	－	－
VSB-04	早期後	122	86	AN-25	Vc	－	－
VSB-05	－	98	70	AT-27	Ⅵ	－	－
VXB-01	後期初頭	36	24	E-14	VbU	－	石斧未成品9点出土

VH−01



VH−01

1. 10YR4/4　褐色　Ⅵ＝Ⅴ+Ⅶb(斑状)
2. 7.5YR3/3　暗褐色　Ⅴ＝Ⅵ+Ⅶ(均一)+FC
3. 7.5YR4/4　褐色　Ⅵ＝Ⅶb(斑状)＝炭化材片
4. 7.5YR3/4　暗褐色　Ⅴ＝Ⅳ＝Ⅶb(斑状)
5. 7.5YR4/4　褐色　Ⅵ＝Ⅶb(斑状)
6. 7.5YR3/3　暗褐色　Ⅴ＝Ⅵ+Ⅶ(均一)＝炭化材片+FC
7. 10YR4/2　灰黄褐色　Ⅴ＝Ⅵ(均一)
8. 7.5YR4/6　褐色　Ⅶb＝Ⅵ(ブロック状)
9. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅴ＝Ⅵ＝Ⅶb(均一)
10. 7.5YR3/4　暗褐色　Ⅴ＝Ⅶb(均一)

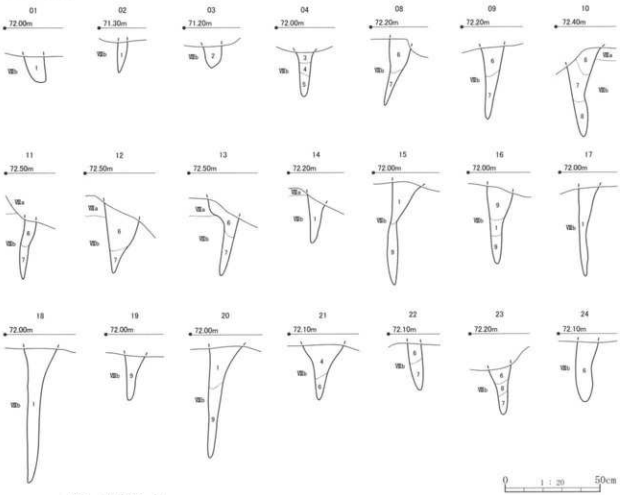
図Ⅲ−3　VH−01 平面及び断面図

ⅤH-01.PT

PT01-02

1. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴ＝Ⅵ＝Ⅷb(均一)

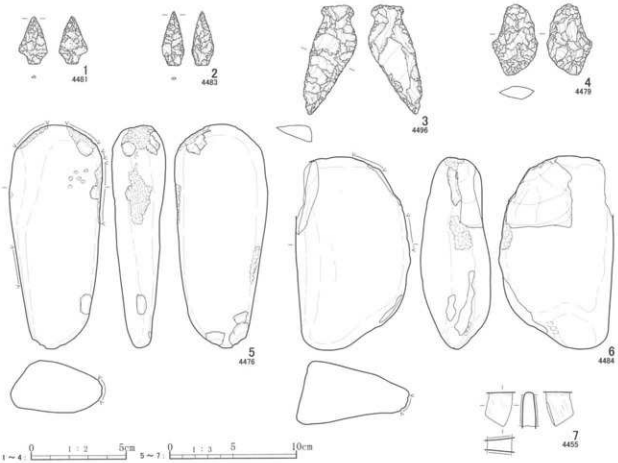
ⅤH-01.HP



HP01～04・HP08～24

1. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅵ＝Ⅷb(均一)
2. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅷb(均一)し まりなし
3. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴ＝Ⅷb(均一)
4. 7.5YR4/3 褐色 Ⅷb＝Ⅴ(均一)
5. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅷb(均一)
6. 7.5YR4/3 褐色 Ⅴ＝Ⅷb(均一)
7. 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅴ＝Ⅷb(均一)
8. 5YR4/4 にぶい・赤褐色 Ⅷb＝Ⅴ
9. 7.5YR2/3 極暗褐色 Ⅴ＝Ⅷb(し まりなし)

図Ⅲ-4 ⅤH-01 付属 PT・HP 断面図



図Ⅲ-5　VH-01 出土石器

付属遺構　主柱穴と思われる HP01～04 と、浅い PT01・02、壁柱穴と思われる HP08～24 を検出した。HP01～04 は深さも均一ではなく主柱穴とするには規模が小さいと思われるが、壁柱穴が主柱穴に比べ規模が大きく深いため、壁立ちの住居であるならば補助的な柱として使用されていた可能性が考えられる。

遺物出土状態　遺物は住居跡中央から北西側にかけて多く分布している。内訳は剥片石器 6 点、礫石器 5 点、礫 20 点、フレイク・チップ 5 点で、土器片は出土していない。出土層位は 3 層主体であるが、床面直上の遺物は図示した 7 の砥石片のみである。その他の遺物は覆土の中位から下位にかけて出土する。

出土遺物（図Ⅲ-5-1～7）　1・2 はポイント A 類。明瞭な柄部を残す 1 の鏃身部は図示した右側・裏面から剥離、柄部は錯交剥離によって整形されている。尖頭部中央の断面は凸レンズ状をなす。2 は尖頭部・柄部ともに錯交剥離。3 はつまみ付きナイフ。図示した右側・裏面にも整形のための剥離痕を残す。刃部の調整は全て裏側から行われている。つまみ部表面に岩屑面を残す。4 はポイント類転用のナイフ・スクレイパーD に分類される。刃部・柄部ともに錯交剥離によって整形されているが、表面右側縁は極端な弧状をなす。5・6 はたたき石。5 は側縁と頂部に敲打痕を残す。6 は側縁と頂部に敲打痕と頂部からの剥離痕を残す。7 は砥石片。両面とも砥面は若干窪みを残す。

（宮塚）

表Ⅲ-2　VH-01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
Ⅲ-3	31・32-1・2	VH-01	L・M-15・16	Ⅵ	N-10° E	637	607	432	410	30	

表Ⅲ-3　VH-01付属土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名		グリッド	層位	平面形確認面/坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
							長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-4	-	VH-01	PT01	M-15	Ⅷb	不整形/楕円形	(110)	100	(95)	55	8	N-57° E	1.25	1.63	-	
Ⅲ-4	-		PT02	L-16	Ⅷb	円形/円形	27	27	25	20	8	N-85° E	1.00	1.25	-	

表Ⅲ-4　VH-01柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ
			上端	下端	深さ		
Ⅲ-4	-	HP01	10	3	15	24°	打込み
	-	HP02	5	0	36	6°	打込み
	-	HP03	10	0	11	2°	打込み
	-	HP04	9	0	23	2°	打込み
	32-3・4	HP08	13	0	30	15°	打込み
	32-5・6	HP09	12	0	38	3.5°	打込み
	-	HP10	20	0	45	1°	打込み
	-	HP11	6	0	3	7°	打込み
	-	HP12	21	0	32	7°	打込み
	32-7・8	HP13	19	0	35	3°	打込み
	-	HP14	11	0	23	4°	打込み
Ⅲ-4	-	HP15	14	0	54	7°	打込み
	32-9・10	HP16	14	0	46	4°	打込み
	33-1・2	HP17	11	0	46	4°	打込み
	33-3・4	HP18	15	0	67	5°	打込み
	33-5・6	HP19	11	0	23	7°	打込み
	33-7・8	HP20	18	0	29	4°	打込み
	-	HP21	22	0	29	4°	打込み
	-	HP22	7	0	25	7°	打込み
	-	HP23	12	0	24	5°	打込み
	-	HP24	11	0	31	2°	打込み

表Ⅲ-5　VH-01出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構/グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-5-1	57-1-1	-	4481	ポイント類	A3b	3	VH-01	25.3	14.9	4.9	1.5	Obs.	
Ⅲ-5-2	57-1-2	-	4483	ポイント類	A4	3	VH-01	28.5	11.6	5.9	1.5	Obs.	
Ⅲ-5-3	57-1-3	-	4496	ナイフ・スクレイパー類	A1	3	VH-01	60.6	22.6	8.0	9.2	Obs.	帯広地分析所山 AS-1
Ⅲ-5-4	57-1-4	-	4479	ナイフ・スクレイパー類	D	2	VH-01	37.5	23.6	8.0	6.5	Obs.	ポイント類転用
Ⅲ-5-5	57-1-5	-	4476	たたき石	Ⅰ A3	2	VH-01	177.5	65.5	41.3	666.0	Sa.	
Ⅲ-5-6	57-1-6	-	4484	たたき石	Ⅱ B2	3	VH-01	150.0	79.6	54.2	(780.0)	Sa.	
Ⅲ-5-7	57-1-7	-	4455	砥石片	-	2	VH-01	(27.4)	(19.2)	10.7	(7.8)	Sa.	

第２節　土坑

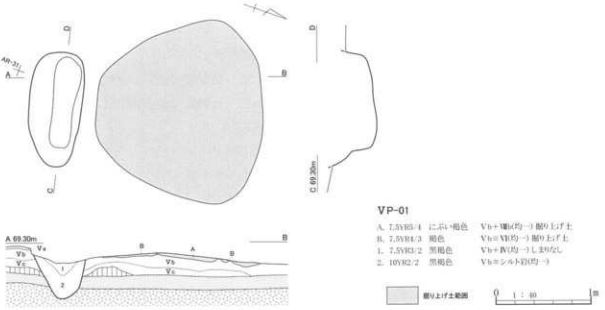
VP-01（図Ⅲ-6　図版 33-9･10）

位　置：AQ-30･31 区　　規　模：120×56cm　　掘り上げ土：195×178cm

検出層位：VbM　　平面形：隅丸長方形　　長軸方向　N-76° E

確認・調査　A1 区Ⅴ層包含層調査中に、掘り上げ土を検出した。精査したところ、隅丸長方形の落ち込みを確認した。Ｔピットであると想定し、番号を付番し調査を進めたが、底が浅く小型の形状であるため土坑とし、VP-01 を改めて付番した。隅丸長方形の小型で、坑底面は東側に若干傾斜する。掘り上げ土は北側に広がり、最大厚 5cm、Ⅴ層主体でⅧb 層を均一に含む。遺物は出土していない。（宮塚）

VP-01



図Ⅲ-6　VP-01 平面及び断面図

表Ⅲ-6　VP属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	調査層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅲ-6	33-9･10	VP-01	AQ-30･31	VbM	長楕円形 /隅丸長方形	120	56	96	22	42	N-76° E	2.14	4.36	

第3節　Tピット

上幌内1遺跡で調査したTピットは45基（01・45は欠番）で、殆どは段丘上の平坦面で検出され、深さ60cm以上あるものをTピットとした。特筆すべき事項については個別に記載する。

確認・調査　Tピットは基本的にⅥ層上面もしくはⅧ層上面においてVb 層主体の落ち込みとして検出した後、短軸方向に半截し、土層断面の撮影・実測を行った。ただし本遺跡では、Vb 層上位にⅧ層主体の掘り上げ土が明瞭に残存していたTピットが数基あり、掘り上げ土平面形を記録した後、Ⅵ層まで掘り下げTピットの平面形を検出した。Tピット相互で掘り上げ土の流入が見られた場合、新旧関係を観察するためのベルトを設定し、土層断面の実測を行った。その後、完掘し、平面形の撮影・記録、及びエレベーションの記録を行い調査終了とした。

形態分類　Tピットの形態分類は坑底面平面形の長短比及び杭穴の有無を基準とする『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』（苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1987）での分類案を基に、長短比数値に若干の変更を加えた厚幌1遺跡（町教委 2004）での分類を補足し、細分を含め8タイプに分けた。

A型：長短比が8以上で、長さに比して幅が狭い溝状のタイプ

A1a 型　長軸が2m以上のもの（杭穴なし）　A1b 型　長軸が2m以上のもの（杭穴あり）

A2a 型　長軸が2m未満のもの（杭穴なし）　A2b 型　長軸が2m未満のもの（杭穴あり）

B型：長短比が4以上、8未満のもので、長楕円形のタイプ

B1 型　杭穴がないもの　B2 型　杭穴があるもの

C型：長短比が4未満のもので、楕円形から円形に近いタイプ

C1 型　杭穴がないもの　C2 型　杭穴があるもの

形態　分類ごとの検出数はA1a 型8基（TP-02・03・06・24・35・36・40・47）、B1 型5基（TP-17・26・32・38・39）、B2 型3基（TP-14・28・41）、C1 型12基（TP-07・08・10・15・18・20・22・23・30・31・33・34）、C2 型15基（TP-04・05・09・11～13・16・19・21・25・27・37・42・43・44）、坑底面の掘り過ぎや撹乱により分類不能が2基（TP-29・46）である。C1 型とC2 型が主体的に確認された。

TピットはⅧ層を掘り込んでおり、Ⅷ層が降下軽石層のため、確認面平面形は構築時より大きく崩落変形しているものと思われる。坑底面短軸長は、A1a 型が 16～32cm、平均 22cm。B1 型が30～38cm、平均33cm。B2 型が28～36cm。平均32cm。C1 型が40cm～56cm、平均50cm。C2 型では40～68cm、平均51cmを測る。C2 型が若干大きくなるが、B1・B2・C1・C2 型は短軸長の分布域が重複し、形態が漸移的に変化したと考えられる。A1a 型とB1・B2・C1・C2 型では概ね短軸30cmを境に分かれそうである。深さは56～136cm、平均96cmである。

壁がオーバーハングするものはTP-03・24・47で確認され、端部片側は垂直に近い。その他はすべて垂直もしくは広がるように立ち上がる。

杭跡をもつものは、19 基である（TP-04・05・09・11～14・16・19・21・25・27～29・37・41～44）。杭跡は坑底面で確認し、杭底はⅨ層に達するものも認められる。確認面で直径 2～11cm、深さは4～41cmである。配列は概ねTピットの長軸に沿っている。杭は垂直に打ち込まれているものが殆どであるが、若干傾いているものも確認された。

堆積状態　基本的な堆積状態は、上位にⅤ層主体土が、中位～下位にはⅧ層主体の壁面崩落土がⅤ層主体土と互層をなして堆積していた。また、坑底面の直上には 2～3cm の黒色土が堆積していた。土層断面確認時に、壁面を一部掘り過ぎてしまったTピットについては、断面図に掘り過ぎと記載した。坑底面はⅧ層下位・Ⅸ層上面であることが多く、A1a 型のみⅨ層中位まで達していた。

堆積状態で特筆すべきものとして、Vb 層上位にⅧ層主体の掘り上げ土が確認されたものが、A1a 型で 1 基（TP-47）、B2 型で 1 基（TP-14）、C1 型で 7 基（TP-07・10・15・30～33）、C2 型が 4 基みられた（TP-09・11～13）。掘り上げ土はTピット確認面周辺もしくは、覆土上位に流れ込む形で堆積し、1 つのTピットに 1～2 ヵ所付随する。平面形は不整形で、層厚は 4～22cm である。ただし、A1a 型の TP-47 周辺で確認された掘り上げ土は、周囲に該当する遺構がなかったことから TP-47 に共伴すると捉えたが、積極的に伴うとの根拠には欠ける。従って、掘り上げ土は楕円形のTピットに特徴的であると考えられる。

また、TP-19 の壁面調査中に、Ⅷ層とⅨ層の間から泥炭層を確認した。そこから自然木が出土し、分析の結果、広葉樹であるノリウツギとトネリコ属と判定された（第Ⅳ章第 5 節参照）。

出土遺物（図Ⅲ-29　図版 57-1-8・9）　TP-19 KP01 で検出した逆茂木を図示した。1 は逆茂木の先端部、2 は逆茂木上半部の一部である。切削痕が明瞭に残存している。1 と 2 は 1 本の逆茂木と考えられるが、接合しなかった。ノリウツギと同定された（第Ⅳ章第 5 節参照）。

分布・配列　Tピットの分布配列は、形態、長軸方向、遺構間の距離から以下の組み合わせが考えられる。

① TP-13・16（以下、南から順に記載する）

② TP-9・11・10

③ TP-07・32

④ TP-30・31

⑤ TP-20・19

⑥ TP-22・23

以上は C1・C2 型での組み合わせである。一部で杭の有無による異なる分類がセットになるが、遺構間の距離がほぼ等間隔であることなどから、C1 や C2 型が 2 基 1 対で分布することは、ヲチャラセナイ遺跡でも確認されている（町教委 2013）。

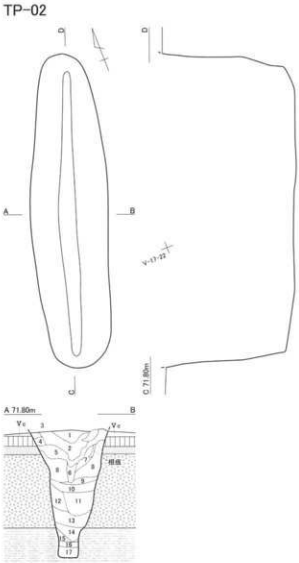
⑦ TP-39・41

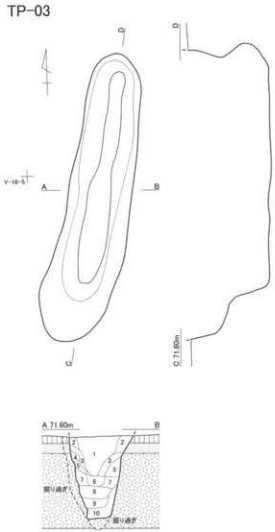
以上は A1a 型の組み合わせである。この 1 例のみ考えられた。ショロマ 1 遺跡や 2 遺跡と比較して、本遺跡の A1a 型の特徴は段丘縁辺部に多く存在しないことや列状の配列が確認されないことである（町教委 2015a・b）。

個別記載

45 基のTピットは 5 類型に分けられるが、ここでは、特徴的な以下の 5 基について遺構番号順に概述する。

A1a 型：TP-47　　B2 型：TP-41　　C1 型：TP-10・TP-15　　C2 型：TP-19





TP-02

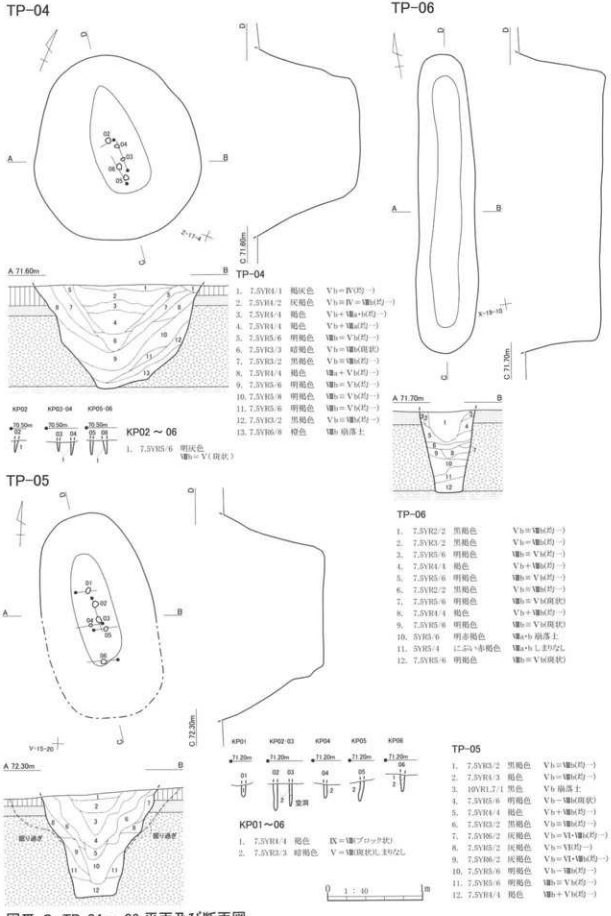
1. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅴb＝Ⅶb(均一)
2. 10YR1.7/1 黒色 Ⅴb 崩落土
3. 10YR5/2 灰黄褐色 Ⅴb－Ⅳ(均一)
4. 7.5YR5/3 にぶい褐色 Ⅶa+b＝Ⅵ(斑状)
5. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅴb＝Ⅶb(均一)
6. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴb＝Ⅶb(均一)しまりなし
7. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴb＝Ⅶb(均一)しまりあり
8. 7.5YR4/4 褐色 Ⅶb＝Ⅴb(均一)
9. 7.5YR4/1 褐灰色 Ⅶa＝Ⅴb(斑状)
10. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅶb＝Ⅴb(均一)
11. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅶb＝Ⅴb(均一)
12. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅶb＝Ⅴb(ブロック状)
13. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅶb＝Ⅴb(均一)
14. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅶb＝Ⅴb(均一)
15. 7.5YR5/3 にぶい褐色 Ⅶb＝Ⅸ(均一)
16. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴc＝Ⅶb(均一)
17. 7.5YR5/3 にぶい褐色 Ⅶb＝Ⅴc(ブロック状)

TP-03

1. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴb＝Ⅶb(均一)
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 Ⅴb＝Ⅳ(均一)
3. 7.5YR4/4 褐色 Ⅶb＝Ⅴb(斑状)
4. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴb＋Ⅶb(均一)
5. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅶb＝Ⅴb(均一)
6. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴb＝Ⅶb(均一)
7. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴb＝Ⅶb(均一)
8. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅶb＝Ⅴb(均一)
9. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅶb＝Ⅴb(均一)
10. 5YR5/4 にぶい赤褐色 Ⅶa+b 崩落土

0 1：40 3m

図Ⅲ－7 TP-02･03 平面及び断面図



TP-04

1. 7.5YR4/1　褐灰色　Vb＝Ⅳ(均一)
2. 7.5YR4/2　灰褐色　Vb＝Ⅳ＝Ⅲa(均一)
3. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅲa＋b(均一)
4. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅲa(均一)
5. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Ⅴb(均一)
6. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅲb(現状)
7. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
8. 7.5YR4/4　褐色　Ⅲa＋Vb(均一)
9. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Vb(均一)
10. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅲb＝Vb(均一)
11. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Vb(均一)
12. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
13. 7.5YR6/8　橙色　Ⅲb 崩落土

KP02～06

1. 7.5YR5/6　明赤色　Ⅲb＝Ⅴ(現状)

TP-06

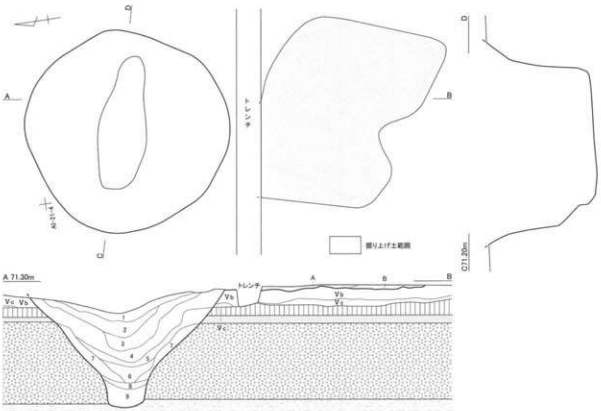
1. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
2. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
3. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Vb(均一)
4. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅲb(均一)
5. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Vb(均一)
6. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
7. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Vb(現状)
8. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅲb(均一)
9. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Vb(現状)
10. 5YR3/6　明赤褐色　Ⅲa＋b 崩落土
11. 5YR5/4　にぶい赤褐色　Ⅲa＋b しまりなし
12. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Vb(現状)

TP-05

1. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
2. 7.5YR4/3　褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
3. 10YR1.7/1　黒色　Vb 崩落土
4. 7.5YR5/6　明褐色　Vb＝Ⅲb(現状)
5. 7.5YR4/4　褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
6. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
7. 7.5YR6/2　灰褐色　Vb＝Ⅵ＋Ⅲb(均一)
8. 7.5YR5/2　灰褐色　Vb＝Ⅵ(均一)
9. 7.5YR6/2　灰褐色　Vb＝Ⅵ＋Ⅲb(均一)
10. 7.5YR5/6　明褐色　Vb＝Ⅲb(均一)
11. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅲb＝Vb(均一)
12. 7.5YR4/4　褐色　Ⅲb＋Vb(均一)

図Ⅲ-8　TP-04 ～ 06 平面及び断面図

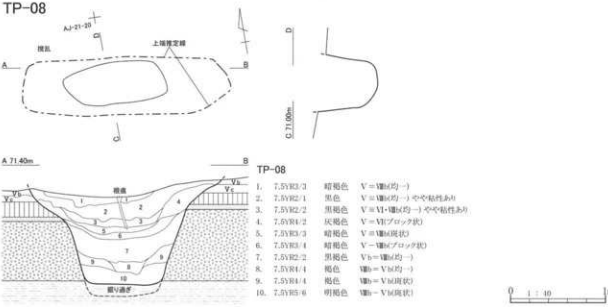
TP-07



TP-07

A.	7.5YR5/6	明褐色	Ⅷb＝Ⅴb(均一) 掘り上げ土
B.	7.5YR3/4	暗褐色	Ⅷb＝Ⅴb(均一) 掘り上げ土
1.	7.5YR5/2	灰褐色	Ⅴb＝Ⅵ＝Ⅷb(均一)
2.	7.5YR4/2	灰褐色	Ⅴb＝Ⅵ+Ⅷb(均一)
3.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴb＝Ⅷb(均一)
4.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴb＝Ⅷb(均一)
5.	7.5YR4/3	褐色	Ⅷa+b＝Ⅴb(均一)
6.	7.5YR4/3	褐色	Ⅷb＝Ⅴb(斑状)
7.	7.5YR6/6	橙色	Ⅷb 崩落土
8.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴb＝Ⅷb(均一)
9.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＝Ⅴb(均一)

TP-08

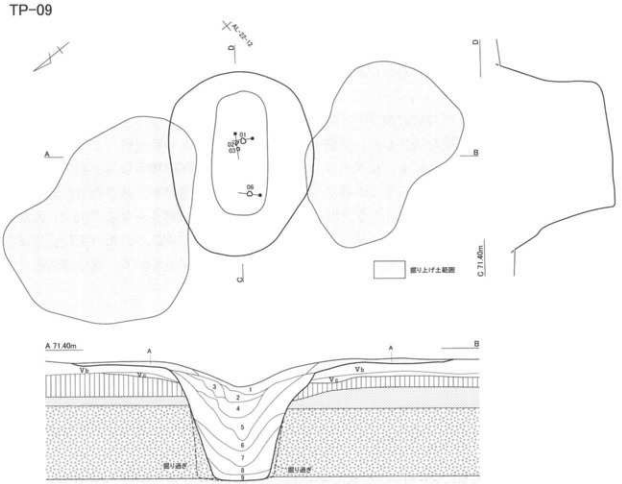


TP-08

1.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅴ＝Ⅷb(均一)
2.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅷb(均一) やや粘性あり
3.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅵ+Ⅷb(均一) やや粘性あり
4.	7.5YR4/2	灰褐色	Ⅴ＝Ⅵ(ブロック状)
5.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅴ＝Ⅷb(斑状)
6.	7.5YR3/4	暗褐色	Ⅴ－Ⅷb(ブロック状)
7.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴb＝Ⅷb(均一)
8.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＝Ⅴb(均一)
9.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＝Ⅴb(斑状)
10.	7.5YR5/6	明褐色	Ⅷb＝Ⅴb(斑状)

0 1:10 m

図Ⅲ-9 TP-07･08 平面及び断面図



図Ⅲ-10　TP-09 平面及び断面図

TP-10（図Ⅲ-11　図版 36-7･8）

C1 型に属する。AM-23 区のⅣ層火山灰除去時にⅤ層の窪みと、両側に付随する高まりを検出した。倒木痕とも思われたが、Ⅴa 層除去後にⅦb 層主体土が不整形に広がる範囲を 2 ヵ所確認した。Ｔピットの掘り上げ土と想定されたので、範囲を記録後、掘り上げ土を含めて半截した。断面では、掘り上げ土の一部が TP-10 の覆土に流れ込んでいるのが確認された。隣接する TP-11 の掘り上げ土との関連はみられなかった。

本年度の調査では、火山灰除去段階でＴピットの窪みと掘り上げ土を確認できたものが多く、掘り上げ土の検出層位がⅤb 層上位であることから、Ｔピットの構築時期を縄文時代中期～後期初頭と想定した。

TP-15（図Ⅲ-15　図 38-5・6）

C1 型に属する。AU・AV-25 区の重機による撹乱層掘削時、楕円形のⅤ層の落ち込みとⅧb 層主体の掘り上げ土を検出した。Tピットと判断し、輪郭を記録した後、半截した。開口部は崩落のため大きく開き、周囲の包含層から礫が落ち込んでいた。

TP-19（図Ⅲ-17　図版 39-3～7）

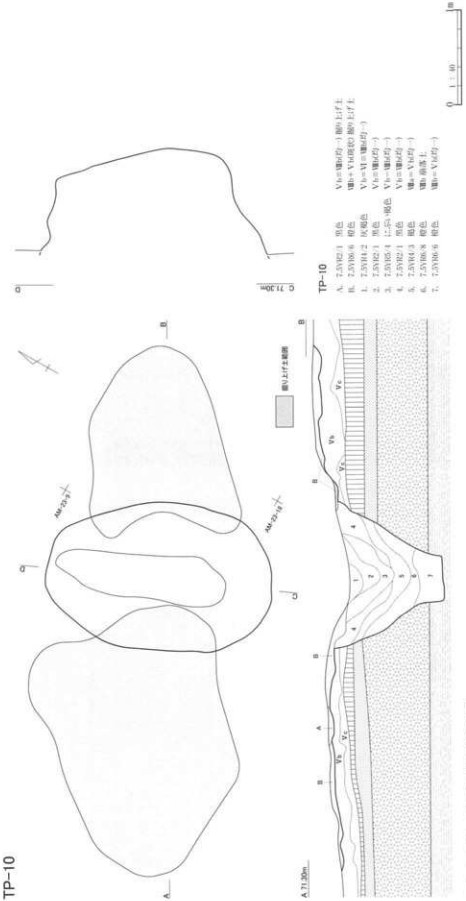
C2 型に属する。AC-19 区のⅥ層掘り下げ時に、楕円形のⅤ層の落ち込みを検出した。半截したところ、覆土下位に杭跡を確認した。完掘撮影後、杭穴の検出と半截を行った。杭穴は 3 本確認された。杭穴を半截した結果、逆茂木の一部を検出した。壁面のⅧ層より下層のⅨ層上位から暗褐色の泥炭層を確認し、層中に木片が含まれていた。泥炭層は新千歳空港遺跡群や苫東地区の発掘調査で「Ⅲ黒層」に相当すると思われ、Ta-d 降下以前の植生を知る目的で、泥炭層の花粉分析を行ったところ、ゼンマイ属と単溝型のシダ植物花粉が確認された（第Ⅳ章第 4 節参照）。杭穴の覆土はⅧ層主体土で、しまりは全くない。先端が尖っており、杭は打込みである。

TP-41（図Ⅲ-25　図版 45-12・46-1～3）

B2 型に属する。J・K-15・16 区の重機による耕作土除去後、Ⅵ層上面に長楕円形のⅤ層落ち込みを確認した。半截し、断面を確認したところ、坑底面近くのⅨ層からは崩落しておらず、その上位で広い範囲にわたるⅧ層崩落土を確認した。同様の状態は TP-39 などでも見られる事から、斜面付近では、他地点よりも浸透する地下水が多いことなどが多量の壁崩落を招く原因と思われる。6 本の杭穴が確認され、Tピットの長軸方向に並び、壁面の立ち上がり部分に位置する。

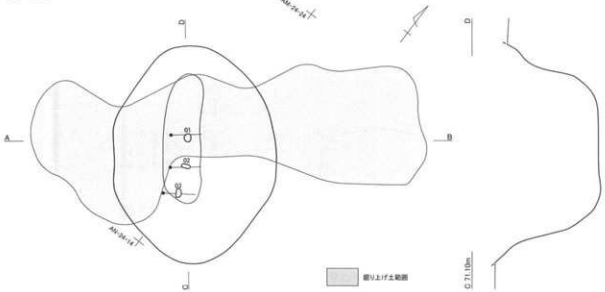
TP-47（図Ⅲ-28　図版 47-7-10）

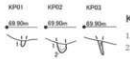
A1a 型に属する。F・G-14・15 区の耕作土を重機によって除去した後、Ⅵ層上面掘削時に長楕円形のⅤ層落ち込みを検出した。半截し、断面撮影、実測後完掘した。坑底面はⅨ層をわずかに掘り込む。完掘写真撮影後、TP-47 から約 3m 地点のⅤ層残存範囲の壁面Ⅴb 層上位に厚さ 12cm のⅧ層を主体土とする掘り上げ土を確認した。周囲に遺構がないことから TP-47 の掘り上げ土と考えられた。掘り上げ土と合わせて完掘写真を撮影し、調査を終了した。（松井）



図Ⅲ-11　TP-10 平面及び断面図

TP-11





KP01 ～ 03

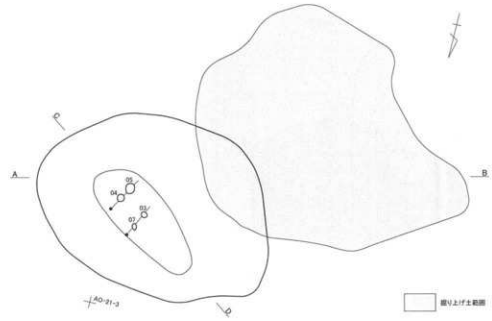
1. 7.5YR1/3 褐色 Ⅴ＝Ⅶb(現状)
2. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅴ－Ⅶb＋Ⅸ(現状)

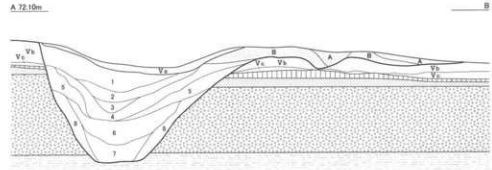
TP-11

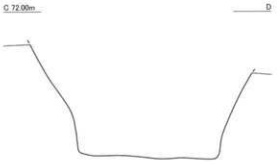
A. 7.5YR2/3 極暗褐色 Ⅵ＝Ⅴ・Ⅶb 盛り上げ土
B. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅵ＝Ⅶb 盛り上げ土
1. 10Y3/3 暗褐色 Ⅴc＝Ⅶ(均一)
2. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴc＝Ⅶ(均一)
3. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅴc＝Ⅶ(均一)
4. 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅴc＝Ⅴb・Ⅶ(均一)
5. 10Y3/4 暗褐色 Ⅵ＝Ⅶa(現状)
6. 7.5YR3/4 暗褐色 Ⅶa＝Ⅶb・Ⅳ(現状)
7. 7.5YR4/6 褐色 Ⅶb＝Ⅴ(均一)
8. 5YR2/3 極暗赤褐色 Ⅶb－Ⅴ(均一)
9. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅶb＝Ⅴ(均一)
10. 5YR4/6 赤褐色 Ⅶb＝Ⅴ(均一)
11. 5YR5/4 にぶい赤褐色 Ⅶb 崩落土
12. 5YR3/1 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶb(均一)
13. 5YR4/6 赤褐色 Ⅶb＝Ⅴ(均一)

図Ⅲ-12 TP-11 平面及び断面図

TP−12







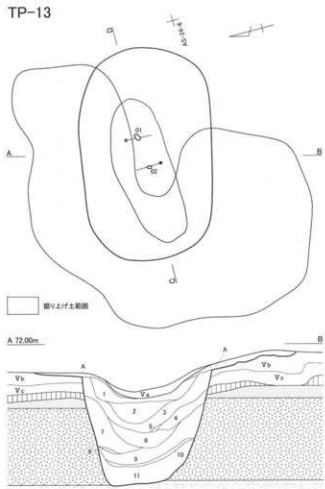
TP−12

A.	7.5YR5/6	明褐色	Ⅶb＝Vb(均一)盛り上げ土
B.	7.5YR7/6	橙色	Ⅶb＝Ⅶ(均一)盛り上げ土
1.	7.5YR2/1	黒色	Vb＝Ⅶa(均一)
2.	7.5YR2/2	黒褐色	Vb＝Ⅶa(均一)
3.	7.5YR2/1	黒色	Vb＝Ⅶa(均一)
4.	7.5YR1.7/1	黒色	Vb＝Ⅶa(均一)
5.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅶb＝Vb(均一)
6.	7.5YR4/4	褐色	Ⅶa・b＝Vb(均一)
7.	7.5YR4/6	褐色	Ⅶb＝Vb(均一)粘性あり
8.	7.5YR6/6	橙色	Ⅶb 崩落土

KP03 ～ 05・07

1. 7.5YR2/3　極暗褐色　Vb＝Vc＝Ⅶ(均一)

図Ⅲ−13　TP−12 平面及び断面図

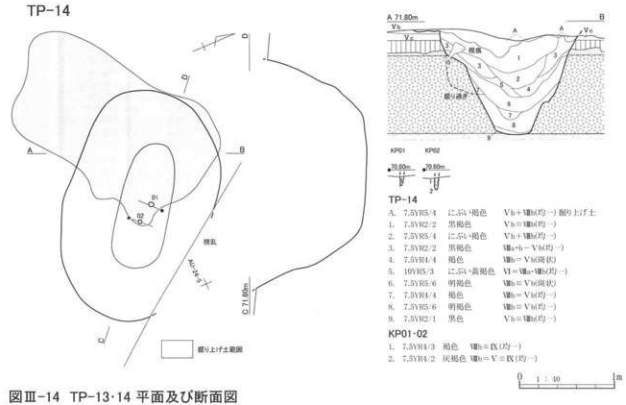


TP-13

A. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb＝Vc 掘り上げ土
1. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Vb＋Ⅷb(現状)
2. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb＝Ⅷb(現状)
3. 7.5YR1.7/1 黒色 Vb＝Ⅷb(均一)
4. 7.5YR3/3 暗褐色 Vb＝Ⅷb(現状)
5. 7.5YR2/2 黒褐色 Vb＝Ⅷb(均一)
6. 7.5YR4/2 灰褐色 V＝Ⅷa+b(現状)
7. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb＝Vc(現状)
8. 10YR3/1 黒褐色 Vb＝Ⅷb(均一)
9. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb 崩落土
10. 7.5YR4/3 にぶい褐色 Ⅷb＝Vc(均一)
11. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb＝Ⅸ(現状)

KP01・02

1. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb＝Ⅸ(均一)



TP-14

A. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Vb＋Ⅷ(均一) 掘り上げ土
1. 7.5YR2/2 黒褐色 Vb＝Ⅷ(均一)
2. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Vb＋Ⅷ(均一)
3. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅷa+b＝Ⅵ(均一)
4. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb＝Ⅵ(現状)
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色 Ⅵ＝Ⅷa+Ⅷb(均一)
6. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb＝Ⅵ(現状)
7. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb＝Ⅵ(均一)
8. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb＝Ⅵ(均一)
9. 7.5YR2/1 黒色 Vb＝Ⅷ(均一)

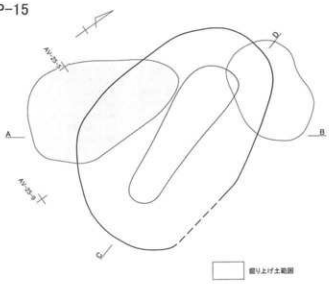
KP01・02

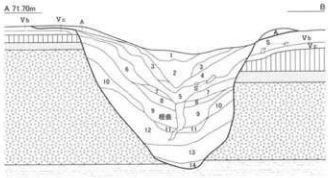
1. 7.5YR4/3 褐色 Ⅷb＝Ⅸ(均一)
2. 7.5YR4/2 灰褐色 Ⅷb＝Ⅴ＝Ⅸ(均一)

0 1：40 m

図Ⅲ-14 TP-13・14 平面及び断面図

TP-15

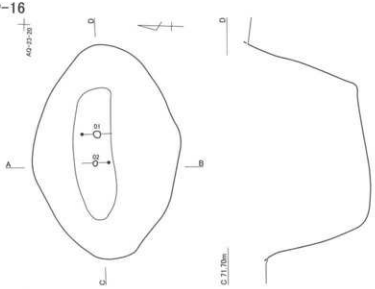


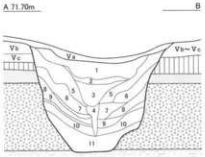


TP-15

A	7.5YR5/4	にぶい褐色	Vb＋Ⅷa(均一) 盛り上げ土
1	7.5YR4/2	灰褐色	Vb＝Ⅳ＝Ⅷb(均一)
2	7.5YR4/3	褐色	Vb＝Ⅷa・b(現状)
3	7.5YR6/6	橙色	Ⅷb＝Vb(現状)
4	7.5YR3/2	黒褐色	Vb＝Ⅷb(均一)
5	7.5YR3/2	黒褐色	Vb＝Ⅷa・b(均一)
6	7.5YR5/3	にぶい褐色	Ⅷa＝Vb(均一)
7	7.5YR6/6	橙色	Ⅷb＝Vb(均一)
8	7.5YR5/6	明褐色	Ⅷa・b＝Vb(均一)
9	7.5YR5/6	明褐色	Ⅷa・b＝Vb(現状)
10	7.5YR7/8	黄橙色	Ⅷb 崩落土
11	7.5YR5/3	にぶい褐色	Ⅷa・b＝Vb(均一)
12	7.5YR7/8	黄橙色	Ⅷb 崩落土
13	7.5YR5/6	明褐色	Ⅷa・b＝Vb(均一)
14	7.5YR6/4	にぶい橙色	Ⅷb＝Vb(均一)

TP-16





KP01・02

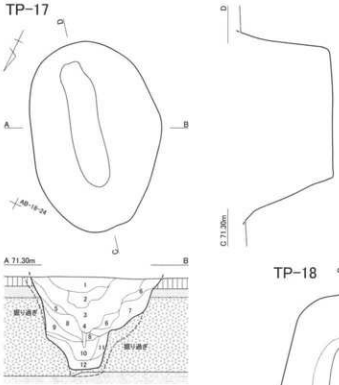
1. 2.5Y5/6　黄褐色　Ⅷb＝Ⅸ しまりなし

TP-16

1.	7.5YR2/2	黒褐色	Vb→Ⅷb(現状)
2.	7.5YR2/2	黒褐色	Vb＝Ⅷb(現状)
3.	7.5YR3/2	黒褐色	Vb→Ⅷb(現状)
4.	7.5YR2/2	黒褐色	Vb＝Ⅷb(現状)
5.	7.5YR2/2	黒褐色	Vb＝Ⅵ＝Ⅷb(均一)
6.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＝Vb(均一)
7.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＝Vb(現状)
8.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅷb＝Vb(均一)
9.	7.5YR3/4	暗褐色	V→Ⅷ(ブロック状)
10.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅷb＝Vb(現状)
11.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＝Vb(均一)

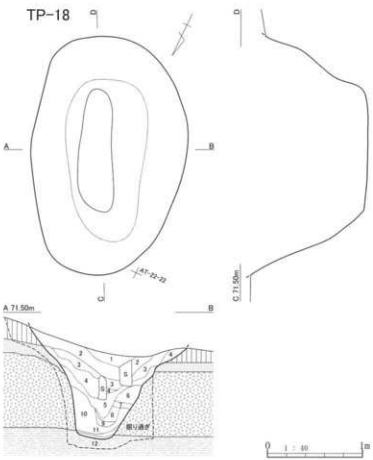
0　1：40　m

図Ⅲ-15　TP-15・16 平面及び断面図



TP-17

1.	7.5YR3/2 黒褐色	Vb＝Ⅶa(灼一)
2.	7.5YR4/4 褐色	Vb＝Ⅶa(現状)
3.	7.5YR2/1 黒色	Vb＝Ⅶa(灼一)
4.	7.5YR3/2 黒褐色	Vb＝Ⅶa(灼一)しまりなし
5.	7.5YR4/2 灰褐色	VI＝Vb(現状)
6.	7.5YR3/2 黒褐色	Vb＝Ⅶb(現状)
7.	5YR3/4 暗赤褐色	Ⅶa+b 崩落土
8.	7.5YR3/3 暗褐色	Ⅶa＝Vb(灼一)
9.	7.5YR5/6 明褐色	Ⅶb＝Vb(灼一)
10.	7.5YR3/2 黒褐色	Vb＝Ⅶb(現状)
11.	7.5YR4/4 褐色	Ⅶb＝Vb(灼一)
12.	7.5YR5/6 明褐色	Ⅶb＝Vb(灼一)

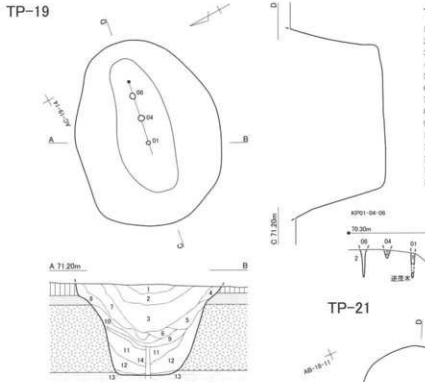


TP-18

1.	7.5YR3/2 黒褐色	V＝VI・Ⅶb(灼一)しまりなし
2.	7.5YR2/2 黒褐色	V＝Ⅶb(灼一)
3.	7.5YR3/3 暗褐色	V＝Ⅶb(灼一)粘性あり
4.	7.5YR4/3 褐色	V＝Ⅶb(φ10｜灼一)粘性あり
5.	7.5YR5/6 明褐色	Ⅶb＝V・VI(現状)粘性あり
6.	7.5YR4/4 褐色	Ⅶb＝V(現状)粘性あり
7.	7.5YR4/6 褐色	Ⅶb＝V・VI(現状)
8.	5YR3/5 暗赤褐色	Ⅶb＝V(現状)粘性あり
9.	7.5YR4/6 褐色	Ⅶa＝V(現状)
10.	5YR3/5 暗赤褐色	Ⅶb＝V(現状)粘性あり
11.	7.5YR4/6 褐色	Ⅶb＝V(灼一)粘性あり
12.	7.5YR3/4 暗褐色	V＝Ⅶb(灼一)粘性あり

図Ⅲ-16 TP-17・18 平面及び断面図

TP-19



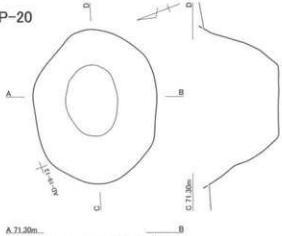
TP-19

1. 7.5YR4/1　褐灰色　Va＝Ⅳ(均一)
2. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷa(均一)
3. 7.5YR4/3　褐色　Vb＝Ⅷb(現状)
4. 7.5YR4/2　灰褐色　Ⅵ－Vb(均一)
5. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷa+b＝Vb(均一)
6. 7.5YR5/4　にぶい褐色　Vb＋Ⅷb(均一)
7. 10YR1.7/1　黒色　Vb
8. 7.5YR5/4　にぶい褐色　Vb＝Ⅷb(現状)
9. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅷb(現状)
10. 7.5YR5/4　にぶい褐色　Vb＋Ⅷb(均一)
11. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb＋Vb(現状)
12. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅷb＝Vb(現状)
13. 10YR1.7/1　黒色　Vb＝Ⅷb(均一)
14. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅷb(均一)しまりなし
逆茂木痕

KP01-04-06

1. 7.5YR5/3　にぶい褐色　Ⅸ＝Ⅷb(φ5～10)
2. 7.5YR4/4　褐色　Ⅸ＋Ⅷ(ブロック状)

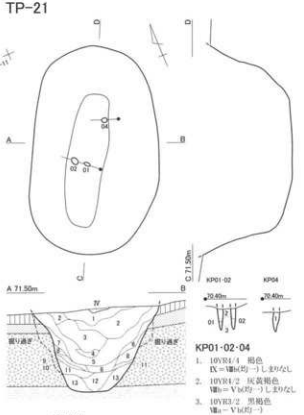
TP-20



TP-20

1. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷa(均一)
2. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷa+b＝Vb(現状)
3. 7.5YR5/3　にぶい褐色　Ⅵ＝Ⅷa+b(現状)
4. 7.5YR3/1　黒褐色　Vb＝Ⅷa+b(均一)
5. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷa+b＝Vb(現状)
6. 7.5YR5/2　灰褐色　Ⅵ＝Ⅷa(現状)
7. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅷa+b(均一)
8. 7.5YR5/1　褐灰色　Ⅵ－Ⅷa(現状)
9. 5YR5/3　にぶい赤褐色　Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)
10. 7.5YR3/3　暗褐色　Ⅴ＝Ⅷa(現状)
11. 5YR5/4　にぶい赤褐色　Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)
12. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴ＝Ⅷa(現状)
13. 5YR5/3　にぶい赤褐色　Ⅷa+b＝Ⅴ(ブロック状)
14. 5YR4/4　にぶい赤褐色　Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)
15. 5YR3/1　暗赤褐色　Ⅷb 崩落土

TP-21



KP01-02-04

1. 10YR4/4　褐色　Ⅸ＝Ⅷb(均一)しまりなし
2. 10YR4/2　灰黄褐色　Ⅷb＝Vb(均一)しまりなし
3. 10YR3/2　黒褐色　Ⅷa－Ⅴ(均一)

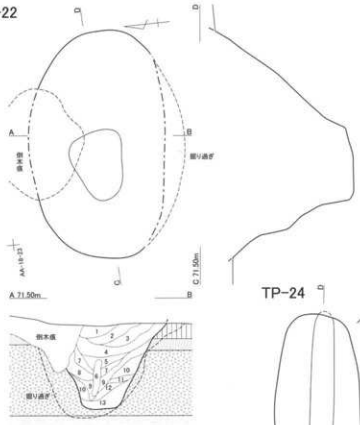
TP-21

1. 10YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅳ(均一)
2. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅷa+b(均一)
3. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅷb(現状)　掘り上げ上流れ込み
4. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＋Ⅷb(現状)しまりなし
5. 10YR1.7/1　黒色　Vb 崩落土
6. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷb(均一)
7. 10YR4/4　褐色　Ⅵ＝Vb＝Ⅷa(現状)
8. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷa+b＝Ⅳ(均一)
9. 7.5YR5/3　にぶい褐色　Ⅵ＝Vb＝Ⅷa(現状)
10. 5YR1/8　赤褐色　Ⅷb 崩落土
11. 7.5YR4/3　褐色　Vb＝Ⅷb(現状)
12. 7.5YR3/3　暗褐色　Ⅷa＝Ⅴ(均一)
13. 7.5YR4/6　褐色　Ⅷb 崩落土しまりなし

0　1：40　m

図Ⅲ-17　TP-19 ～ 21 平面及び断面図

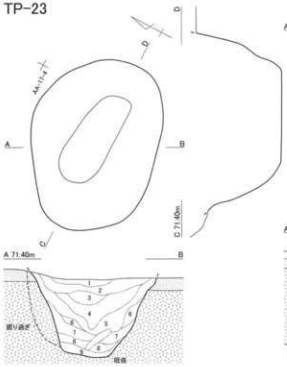
TP-22



TP-22

1. 7.5YR3/1 黒褐色　Vb＝Ⅷa(d均一)
2. 7.5YR3/3 暗褐色　Vb＝Ⅷa(現状)
3. 7.5YR4/2 灰褐色　Vb＝Ⅷ(現状)
4. 7.5YR2/1 黒色　Vb＝Ⅷa-b(d均一)
5. 7.5YR3/3 暗褐色　Vb＝Ⅷa-b(現状)
6. 7.5YR2/1 黒色　V＝Ⅷa-b(現状)しまりなし
7. 7.5YR2/1 黒色　Vb＝Ⅷa-b(d均一)
8. 5YR5/4 にぶい赤褐色　Ⅷb＝Ⅷa＝Ⅴ(ブロック状)
9. 7.5YR3/3 暗褐色　Ⅴ＝Ⅷa-b(d均一)
10. 5YR5/6 明赤褐色　Ⅷb 崩落土
11. 7.5YR3/3 暗褐色　Ⅴ＝Ⅷa-b(d均一)
12. 5YR5/6 明赤褐色　Ⅷb＝Ⅷa(ブロック状)
13. 5YR6/6 橙色　Ⅷb＝Ⅸ(現状)

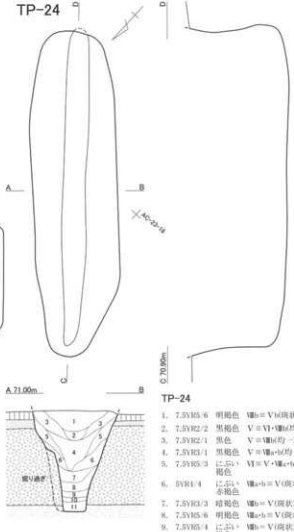
TP-23



TP-23

1. 7.5YR2/1 黒色　Vb＝Ⅷa(d均一)
2. 7.5YR2/2 黒褐色　Vb＝Ⅷa-b(d均一)
3. 7.5YR3/3 暗褐色　Vb＝Ⅷa(現状)
4. 7.5YR3/2 黒褐色　Vb＝Ⅷa＝Ⅷb(d均一)
5. 7.5YR3/3 暗褐色　Ⅵ＝Ⅷa-b(現状)
6. 7.5YR4/3 褐色　Ⅷb＝Ⅵ(現状)
7. 5YR4/4 にぶい赤褐色　Ⅷb＝Ⅷa＝Ⅴ(ブロック状)
8. 5YR4/2 灰褐色　Ⅷb＝Ⅷa(ブロック状)
9. 7.5YR66/4 にぶい橙色　Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)

TP-24



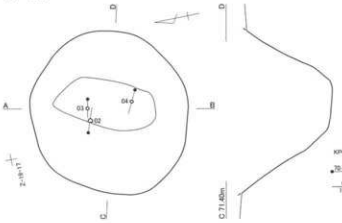
TP-24

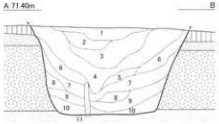
1. 7.5YR5/6 明褐色　Ⅷb＝Ⅴb(現状)盛り上げ土
2. 7.5YR2/2 黒褐色　Ⅴ＝Ⅵ・Ⅷ(d均一)
3. 7.5YR2/1 黒色　Ⅴ＝Ⅷ(d均一)しまりあり
4. 7.5YR3/1 黒褐色　Ⅴ＝Ⅷa-b(d均一)しまりあり
5. 7.5YR5/3 にぶい褐色　Ⅵ＝Ⅴ・Ⅷa-b(現状)
6. 5YR4/4 にぶい赤褐色　Ⅷa-b＝Ⅴ(現状)
7. 7.5YR3/3 暗褐色　Ⅷb＝Ⅴ(現状)
8. 7.5YR5/6 明褐色　Ⅷa-b＝Ⅴ(現状)
9. 7.5YR5/4 にぶい褐色　Ⅷb＝Ⅴ(現状)
10. 10YR6/6 明黄色　Ⅷb 崩落土
11. 10YR3/3 暗褐色　Ⅴ＝Ⅸ(現状)

0　1：40　m

図Ⅲ-18　TP-22 ～ 24 平面及び断面図

TP-25





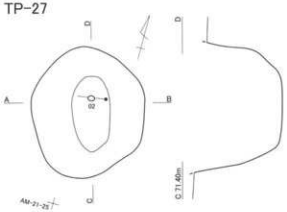
TP-25

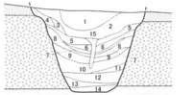
1. 7.5YR4/4　褐色　　Vb＝Ⅷa+b(均一)
2. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅷa(均一)
3. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷa(現状)
4. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅷa(現状)
5. 7.5YR4/4　褐色　　Vb＝Ⅷa(現状)
6. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅷa(均一)
7. 7.5YR5/4　に.ぶい.褐色　Ⅷb＝Ⅵ(均一)
8. 7.5YR4/4　褐色　　Vb＝Ⅷa(均一)
9. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅷa+b＝Ⅵ(均一)
10. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷa＋b 崩落土
11. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＋Ⅷa(現状)しまりなし 逆茂木痕

KP02 ～ 04

1. 7.5YR3/2　黒褐色　V＝Ⅷa(現状)

TP-27





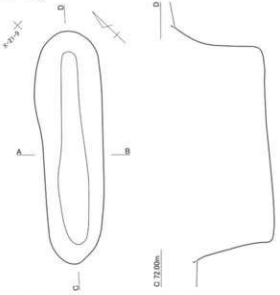
KP02

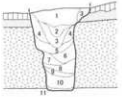
1. 10YR3/2　灰黄褐色
Ⅸ＝Ⅷa+b(均一)しまりなし

TP-27

1. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb＝Ⅷa+b(均一)
2. 10YR1.7/1　黒色　Vb 崩落土
3. 10YR4/2　灰黄褐色　Vb＝Ⅵ(均一)
4. 10YR5/2　灰黄褐色　Vb＝Ⅵ(均一)
5. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅷa(均一)
6. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb 崩落土
7. 7.5YR4/4　褐色　Ⅵ＋Ⅷa(均一)
8. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb＝Ⅵ(現状)
9. 7.5YR4/4　褐色　Ⅵ＋Ⅷa(均一)
10. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb 崩落土
11. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅷa(均一)
12. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb＝Ⅵ(現状)
13. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅷa(現状)
14. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb＝Ⅵ(現状)
15. 7.5YR1.7/1　黒色　Ⅴ＝Ⅷa(均一)しまりなし 逆茂木痕

TP-26



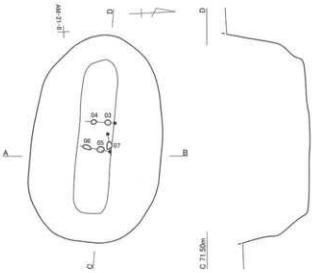


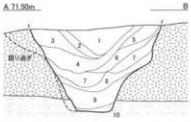
TP-26

1. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅷa(均一)
2. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅵ+Ⅷa(均一)
3. 7.5YR4/3　褐色　Vb＝Ⅵ+Ⅷa(均一)
4. 7.5YR5/4　に.ぶい.褐色　Vb＝Ⅷa+b(現状)
5. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb＝Ⅵ(現状)
6. 5YR5/4　に.ぶい.赤褐色　Ⅷb 崩落層
7. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb＝Ⅷa(現状)
8. 5YR4/4　に.ぶい.赤褐色　Ⅷb＝Ⅵ(ブロック状)
9. 7.5YR2/3　極暗褐色　Vb＝Ⅷa(均一)
10. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅷb＝Ⅵ(ブロック状)
11. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷa(現状)

図Ⅲ-19　TP-25 ～ 27 平面及び断面図

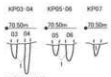
TP-28





TP-28

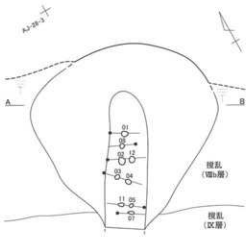
1.	7.5YR3/2	黒褐色	Vb＝Ⅷa(現状)
2.	7.5YR2/2	黒褐色	Vb＝Ⅷb(均一)
3.	7.5YR3/3	暗褐色	Vb＝Ⅷb(ブロック状)
4.	7.5YR3/1	黒褐色	Vb＝Ⅷa＝Ⅷb(均一)
5.	5YR4/3	にぶい赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)
6.	7.5YR3/2	黒褐色	Vb＝Ⅷb(均一)
7.	5YR4/6	赤褐色	Ⅷb＝Ⅵ(ブロック状)
8.	5YR3/3	暗赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)
9.	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)
10.	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ⅸ＝Ⅷb-Ⅴ(現状)

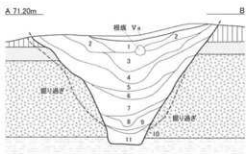


KP03～07

1. 10YR5/2 灰黄褐色 Ⅸ＝Ⅷa+Ⅵ(均一)しまりなし

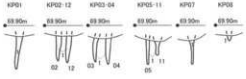
TP-29





TP-29

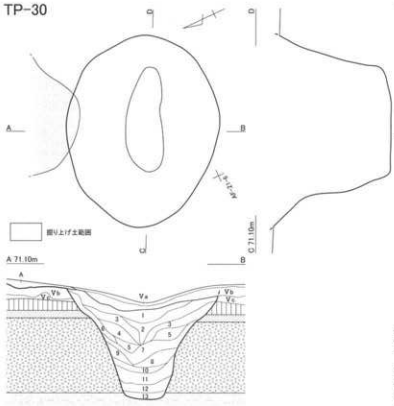
1.	7.5YR2/1	黒色	Vb＝Ⅷa+Ⅵ(均一)
2.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅴ＝Ⅵ＝Ⅷa(均一)
3.	7.5YR2/3	極暗褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)しまりあり
4.	7.5YR4/4	褐色	Ⅵ＝Ⅴ+Ⅷa(均一)
5.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅵ＝Ⅷa+Ⅵ(現状)
6.	7.5YR5/6	明褐色	Ⅷa+b＝Ⅵ(互層)
7.	5YR3/6	暗赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ-Ⅵ(均一)
8.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅴ＝Ⅷa(現状)しまりなし
9.	5YR3/6	暗赤褐色	Ⅷb＝Ⅵ-Ⅷa(互層)
10.	7.5YR4/3	褐色	Ⅴ＝Ⅷa(現状)
11.	5YR4/6	赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)



KP01～05・07・08・11・12

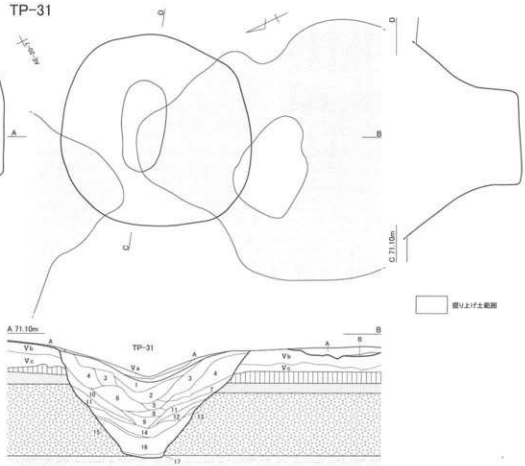
1. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷ＝Ⅸ(現状)

図Ⅲ-20 TP-28・29 平面及び断面図



TP-30

A.	7.5YR4/4	褐色	Ⅲb＝Ⅴ(ブロック状) 掘り上げ土
1.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
2.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
3.	7.5YR4/3	褐色	Ⅲb＝Ⅴ(均一)
4.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
5.	7.5YR4/3	褐色	Ⅴ＝Ⅵ＋Ⅲa(均一)
6.	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ⅲb＝Ⅴ(ブロック状)
7.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
8.	7.5YR3/4	暗褐色	Ⅲb＝Ⅴ(均一)
9.	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ⅲb 崩落土
10.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(ブロック状)
11.	7.5YR3/4	にぶい褐色	Ⅲb＝Ⅴ(ブロック状)
12.	7.5YR4/3	褐色	Ⅲb＝Ⅴ＋Ⅸ(現状)
13.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅸ＝Ⅴ＋Ⅲb(現状)

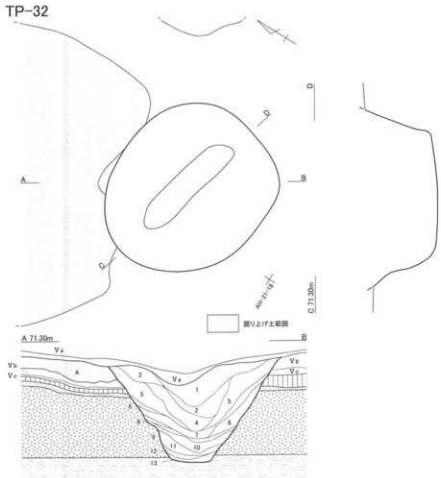


TP-31

A.	7.5YR4/4	褐色	Ⅲb＝Ⅴ(ブロック状) 掘り上げ土
B.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅲa・Ⅲb＝Ⅴ(現状) 掘り上げ土
1.	7.5YR2/3	極暗褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
2.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
3.	7.5YR4/4	褐色	Ⅲb＝Ⅴ(現状)
4.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅵ(均一)
5.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲb(均一)
6.	7.5YR4/4	褐色	Ⅲb(ブロック状)＝Ⅴ
7.	7.5YR4/2	灰褐色	Ⅲa＝Ⅴ(均一)
8.	7.5YR3/1	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
9.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
10.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
11.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
12.	7.5YR3/1	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
13.	7.5YR4/3	褐色	Ⅲb＝Ⅴ(現状)
14.	5YR3/3	暗赤褐色	Ⅲb＝Ⅴ(均一)
15.	7.5YR3/1	黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
16.	5YR3/3	暗赤褐色	Ⅲb＝Ⅴ(均一)
17.	5YR5/4	にぶい赤褐色	Ⅲb＝Ⅴ(ブロック状)

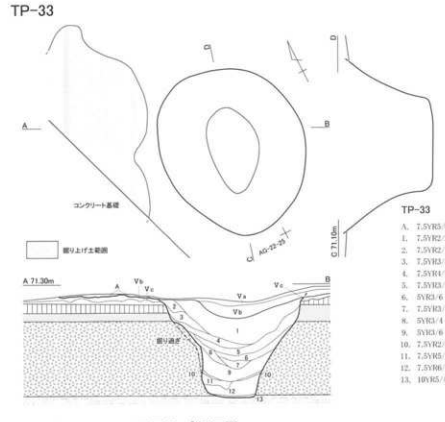
0　1：40　m

図Ⅲ-21　TP-30・31 平面及び断面図



TP-32

A.	5YR1/4	にぶい赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(ブロック状)掘り上げ土
1.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
2.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅴ＝Ⅷa(現状)
3.	5YR5/6	明赤褐色	Ⅷb 掘り上げ土
4.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＋Ⅴ(ブロック状)掘り上げ土
5.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
6.	7.5YR4/3	褐色	Ⅵ＝Ⅷa(現状)
7.	7.5YR2/3	極暗褐色	Ⅴ＝Ⅵ・Ⅷa(均一)
8.	7.5YR3/4	暗褐色	Ⅵ＝Ⅷa(現状)
9.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅵ・Ⅷa(均一)
10.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＋Ⅴ(ブロック状)
11.	5YR1/4	にぶい赤褐色	Ⅷb 崩落層
12.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅷb＝Ⅸ(現状)
13.	7.5YR5/2	灰黄褐色	Ⅸ＝Ⅷb(現状)



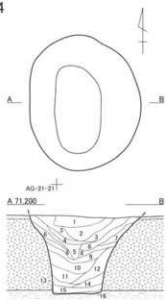
TP-33

A.	7.5YR3/6	明褐色	Ⅷ＋Ⅵ＝Ⅴ(現状)掘り上げ土
1.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
2.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
3.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅴ＝Ⅵ・Ⅷa(均一)
4.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷa＝Ⅴ(均一)
5.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅴ＝Ⅵ・Ⅷa-b(均一)
6.	5YR3/6	暗赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(現状)
7.	7.5YR3/1	黒褐色	Ⅴ＝Ⅷa(現状)
8.	5YR3/4	暗赤褐色	Ⅷa-b＝Ⅴ(現状)
9.	5YR3/6	暗赤褐色	Ⅷb 崩落層
10.	7.5YR2/3	極暗褐色	Ⅴ＝Ⅷa-b(現状)
11.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅷb＝Ⅸ(現状)
12.	7.5YR6/4	にぶい橙色	Ⅵ＝Ⅷb(現状)
13.	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ⅸ＝Ⅴ(現状)

0　1：10　m

図Ⅲ-22　TP-32・33 平面及び断面図

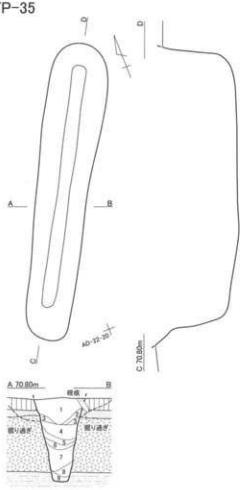
TP-34



TP-34

1.	5YR3/3	暗赤褐色	Ⅶa 削り上げ上流れ込み	10.	7.5YR4/4	褐色	Ⅶb＝Ⅶa(現状)
2.	5YR3/4	暗赤褐色	Ⅶb 削り上げ上流れ込み	11.	5YR1/4	仄ふい赤褐色	Ⅶb＝Ⅶa(現状)
3.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅵ＝Ⅶa(灰)→	12.	5YR3/6	暗赤褐色	Ⅶb＝Ⅶa＝Ⅴ(現状)
4.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅶ(灰)→	13.	5YR1/4	仄ふい赤褐色	Ⅶb＝Ⅶa(現状)
5.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅵ＝Ⅶa(灰)→	14.	5YR3/6	暗赤褐色	Ⅶb＝Ⅶa＝Ⅴ(現状)
6.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅵ＝Ⅶa(灰)→	15.	5YR1/4	仄ふい赤褐色	Ⅶb＝Ⅶa(現状)
7.	5YR3/3	暗赤褐色	Ⅶa 崩落土	16.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅶa(灰)→
8.	7.5YR4/4	褐色	Ⅶb＝Ⅶa(現状)				
9.	7.5YR4/3	褐色	Ⅶb＝Ⅶ＝Ⅵ(現状)				

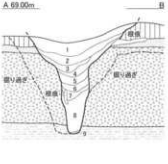
TP-35



TP-35

1.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅶa-b(灰)→
2.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅵ 崩落土
3.	5YR5/6	明赤褐色	Ⅶb＝Ⅴ(現状)
4.	7.5YR2/3	極暗褐色	Ⅴ＝Ⅶa(灰)→
5.	7.5YR3/4	暗褐色	Ⅴ－Ⅶb(現状)
6.	5YR4/6	赤褐色	Ⅶb＝Ⅶa(現状)
7.	5YR4/2	灰褐色	Ⅶb－Ⅶa(現状)
8.	5YR3/2	暗赤褐色	Ⅶb＝Ⅶa＝Ⅸ(現状)
9.	5YR5/1	褐灰色	Ⅸ＝Ⅴ＝Ⅶa-b(現状)

TP-36



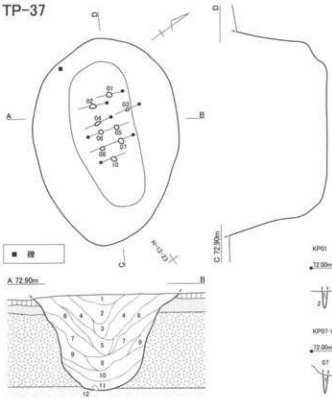
TP-36

1.	7.5YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅶa(灰)→
2.	7.5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅶa-b(灰)→
3.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅵ＝Ⅶa-b(現状)
4.	5YR4/4	仄ふい赤褐色	Ⅶb＝Ⅵ(ブロック状)
5.	7.5YR4/2	灰褐色	Ⅴ＝Ⅵ＝Ⅶa-b(ブロック状)
6.	5YR5/4	仄ふい赤褐色	Ⅶb＝Ⅶa(ブロック状)
7.	7.5YR3/3	暗褐色	Ⅴ＝Ⅶa-b(現状)
8.	5YR6/4	仄ふい橙色	Ⅶb＝Ⅶa(ブロック状)
9.	7.5YR3/4	暗褐色	Ⅴ＝Ⅶb 結性あり

0　1：40　m

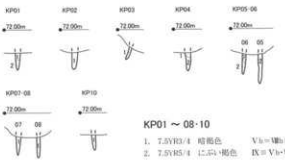
図Ⅲ-23　TP-34 ～ 36 平面及び断面図

TP-37



TP-37

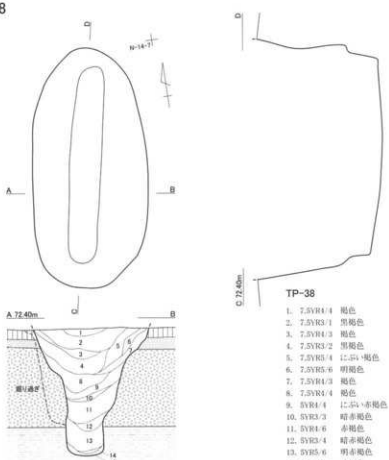
1. 7.5YR5/6 明褐色 VI＝V(均一)
2. 7.5YR3/3 暗褐色 Vb＝VIIa+b(斑状)
3. 7.5YR4/4 褐色 Vb＝VIIa+b(斑状)
4. 5YR5/4 にぶい赤褐色 VIIb＝VIIa(ブロック状) 掘り上げ土流れ込み
5. 7.5YR4/4 褐色 Vb＝VIIa+b(斑状)
6. 7.5YR3/3 暗褐色 Vb＝VIIa+b(斑状)
7. 7.5YR5/3 にぶい褐色 VIIa＝VIIa(互層)
8. 7.5YR5/4 にぶい褐色 VIIb＝VIIa(ブロック状)
9. 5YR5/6 明赤褐色 VIIb 地盤土
10. 5YR5/4 にぶい赤褐色 VIIb＝VIIa(ブロック状)
11. 7.5YR2/2 黒褐色 V＝VIIa+b(ブロック状)
12. 7.5YR3/1 黒褐色 V＝VIIb(均一) 浸食木跡しまりなし



KP01 ～ 08・10

1. 7.5YR3/4 暗褐色 Vb＝VIIb＝IX
2. 7.5YR5/4 にぶい褐色 IX＝Vb+VIIb

TP-38



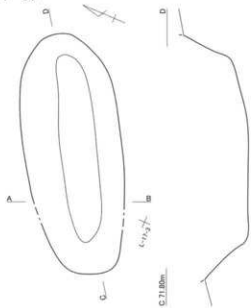
TP-38

1. 7.5YR4/4 褐色 Vb＋VIIa+b(均一) 掘り上げ土流れ込み
2. 7.5YR3/1 黒褐色 Vb＝VIIa+b(均一)
3. 7.5YR4/3 褐色 Vb＝VIIa+b(ブロック状)
4. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb＝VIIa+b(均一)
5. 7.5YR3/4 にぶい褐色 VI＝VIIa+b(斑状)
6. 7.5YR5/6 明褐色 VI＝VIIa(ブロック状)
7. 7.5YR4/3 褐色 Vb＝VIIa+b(斑状)
8. 7.5YR4/4 褐色 V＝VI＝VIIa+b(斑状)
9. 5YR4/4 にぶい赤褐色 VIIb ＝VIIa(ブロック状)
10. 5YR3/3 暗赤褐色 VIIb＝V(ブロック状)
11. 5YR4/6 赤褐色 VIIb(ブロック状)
12. 5YR3/4 暗赤褐色 VIIb＝V・VIIa(ブロック状)
13. 5YR5/6 明赤褐色 VIIb＝IX(斑状)
14. 7.5YR3/3 暗褐色 V＝VIIa(斑状)
15. 5YR4/4 にぶい赤褐色 VIIb＝IX(斑状)

0 1：40 m

図Ⅲ-24 TP-37・38 平面及び断面図

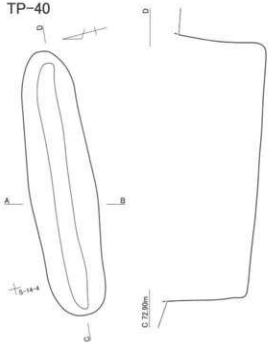
TP-39



TP-39

1.	7.5YR2/2 黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
2.	7.5YR2/3 極暗褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
3.	7.5YR3/2 黒褐色	Ⅴ＝Ⅲa・Ⅲb(均一)
4.	7.5YR3/3 暗褐色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
5.	7.5YR2/1 黒色	Ⅴ＝Ⅲa(均一)
6.	7.5YR3/3 暗褐色	Ⅴ＝Ⅲa・b(均一)

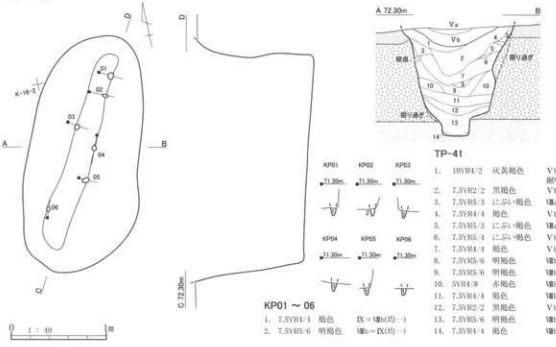
TP-40



TP-40

1.	7.5YR2/2 黒褐色	Ⅴb＝Ⅲa・b(均一)
2.	7.5YR4/4 褐色	Ⅵ＝Ⅲa(現状)
3.	7.5YR3/2 黒褐色	Ⅴb＝Ⅵ(現状)
4.	7.5YR5/6 明褐色	Ⅵ＝Ⅲa・b(現状)
5.	7.5YR3/3 暗褐色	Ⅴb＝Ⅲa・b(現状)
6.	5YR4/4 にぶい赤褐色	Ⅲb＝Ⅴ(均一)
7.	5YR3/3 暗赤褐色	Ⅲb 崩落土
8.	7.5YR5/3 にぶい褐色	Ⅴc＝Ⅲa＝Ⅲb(現状)
9.	5YR8/3 暗赤褐色	Ⅲb＝Ⅲa(均一)
10.	7.5YR2/2 黒褐色	Ⅴ＝Ⅲb(均一)

TP-41



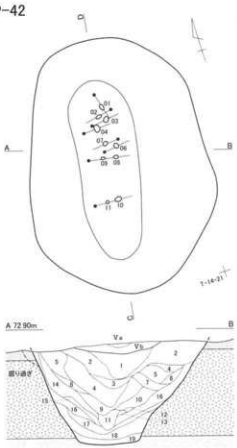
TP-41

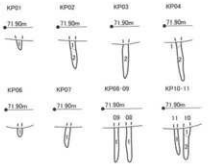
1.	10YR4/2 灰黄褐色	Ⅴb＝Ⅵ(均一) 掘り上げ土流れ込み
2.	7.5YR2/2 黒褐色	Ⅴb＝Ⅲa(均一)
3.	7.5YR5/3 にぶい褐色	Ⅲa+b＝Ⅵ(均一)
4.	7.5YR4/4 褐色	Ⅴb＋Ⅲa(均一)
5.	7.5YR5/3 にぶい褐色	Ⅲa+b＝Ⅵ(均一)
6.	7.5YR5/4 にぶい褐色	Ⅴb＝Ⅲa・Ⅲb(均一)
7.	7.5YR4/4 褐色	Ⅴb＋Ⅲa(均一)
8.	7.5YR5/6 明褐色	Ⅲb＝Ⅵ(現状)
9.	7.5YR5/6 明褐色	Ⅲb＝Ⅵ(均一)
10.	5YR4/8 赤褐色	Ⅲb＝Ⅵ(ブロック状)
11.	7.5YR4/4 褐色	Ⅲb＋Ⅴb(均一)
12.	7.5YR2/2 黒褐色	Ⅴb＝Ⅲa(均一)
13.	7.5YR5/6 明褐色	Ⅲb＝Ⅴb(均一)
14.	7.5YR4/4 褐色	Ⅲb＋Ⅴb(均一)

KP01 ～ 06

1.	7.5YR4/4 褐色	Ⅸ＝Ⅲa(均一)
2.	7.5YR5/6 明褐色	Ⅲb＝Ⅸ(均一)

図Ⅲ-25　TP-39 ～ 41 平面及び断面図



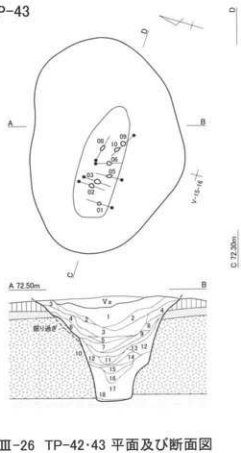


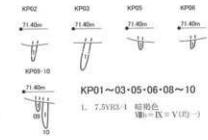
KP-01 ～ 04·06 ～ 11

1. 7.5YR4/4 褐色 Ⅶb＝Ⅴ・Ⅸ(均一)
2. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴ＝Ⅶb(均一)

TP-42

1. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶa(極微量 均一)
2. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
3. 7.5YR4/3 褐色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
4. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅶb＝Ⅴ(斑状)
5. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
6. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅵ＝Ⅴ(均一)
7. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴ＝Ⅶb(均一)
8. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
9. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅵ＋Ⅶa(均一)
10. 7.5YR4/2 灰褐色 Ⅵ＝Ⅴ・Ⅶa(均一)
11. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
12. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ 崩落土
13. 5YR3/6 暗赤褐色 Ⅶb 崩落土
14. 7.5YR4/2 灰褐色 Ⅵ＝Ⅴ・Ⅶa(均一)
15. 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶ(均一)
16. 7.5YR4/3 褐色 Ⅶa＝Ⅶa(互層)
17. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
18. 5YR3/4 暗赤褐色 Ⅶbブロック状)＝Ⅴ
19. 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ＝Ⅶb・Ⅸ(均一)





KP01～03·05·06·08～10

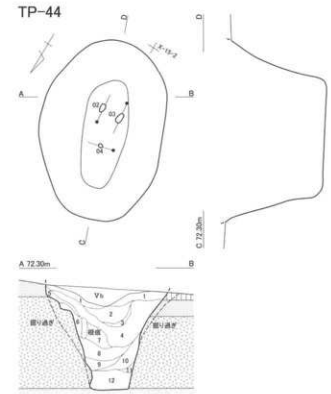
1. 7.5YR3/4 暗褐色 Ⅶb＝Ⅸ＝Ⅴ(均一)

TP-43

1. 7.5YR1.7/1 黒色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)粘性あり
2. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶb(均一)
3. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶa・Ⅶb(均一)
4. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
5. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
6. 7.5YR3/4 暗褐色 Ⅵ＝Ⅶb(均一)
7. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶa＝Ⅶb(均一)
8. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅵ＝Ⅶa(均一)
9. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ＝Ⅶa(均一)
10. 5YR3/2 暗赤褐色 Ⅶb＝Ⅴ(斑状)
11. 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶb(均一)
12. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅶb＝Ⅴ(斑状)
13. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅵ＝Ⅶb(互層)
14. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅵ＝Ⅶa(斑状)
15. 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅴ＝Ⅶa・Ⅶb(斑状)
16. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴ－Ⅶa・Ⅶb(斑状)
17. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅶb 崩落層
18. 5YR3/2 暗赤褐色 Ⅶb＝Ⅴ(均一)

0 1：40 m

図Ⅲ-26 TP-42·43 平面及び断面図

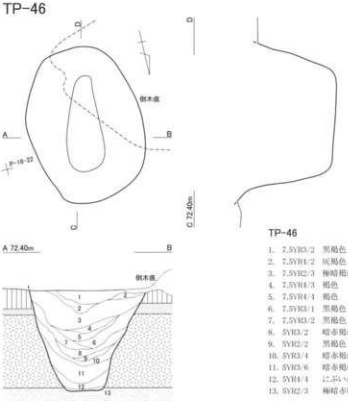


TP-44

1.	7.5YR3/2	黒褐色	Vb＝Ⅷa(均一)
2.	7.5YR2/2	黒褐色	Vb＝Ⅷa(均一)
3.	7.5YR4/4	褐色	Vb＋Ⅷa(均一)
4.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅷb＝Ⅴa(均一)
5.	7.5YR5/3	暗褐色	Vb＝Ⅷa(均一)
6.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ⅷb＝Ⅴb(均一)
7.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＋Ⅴb(均一)
8.	7.5YR5/6	明褐色	Ⅷb＝Ⅴb(均一)
9.	7.5YR4/4	褐色	Ⅷb＋Ⅴb(均一)
10.	7.5YR5/6	明褐色	Ⅷb＝Ⅴb(現状)
11.	10YR1.7/1	黒色	Vb 崩落土
12.	7.5YR4/4	褐色	Vb＋Ⅷa(現状)

KP02 ～ 04

1.	10YR3/2	黒褐色	Ⅸ＝Ⅴ＝Ⅷb(均一)
2.	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ⅸ し まりなし
3.	7.5YR4/4	褐色	Ⅸ＝Ⅷb＝Ⅴ(均一)
4.	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ⅷb＝Ⅸ(均一)

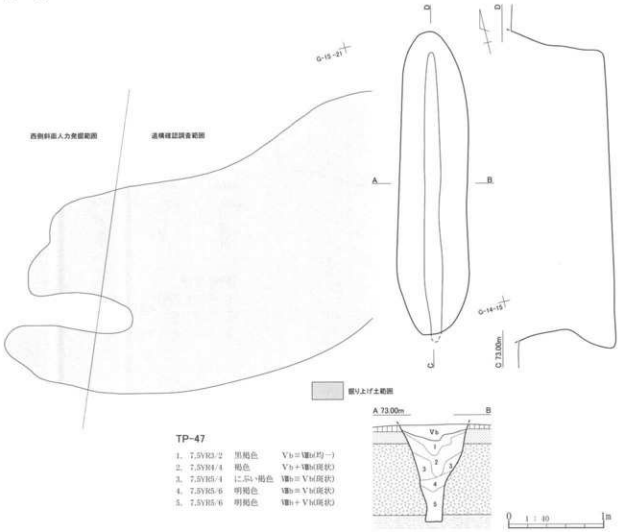


TP-46

1.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅵ・Ⅷa(均一)
2.	7.5YR1/2	灰褐色	Ⅴ＝Ⅵ＝Ⅷa(均一)
3.	7.5YR2/3	極暗褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
4.	7.5YR4/3	褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
5.	7.5YR4/4	褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
6.	7.5YR3/1	黒褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
7.	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)
8.	5YR3/2	暗赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(現状)
9.	5YR2/2	黒褐色	Ⅴ＝Ⅷa(現状)
10.	5YR3/4	暗赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ・Ⅵ(現状)
11.	5YR3/6	暗赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(互層)
12.	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ⅷb＝Ⅴ(互層)
13.	5YR2/3	極暗赤褐色	Ⅴ＝Ⅷa(均一)

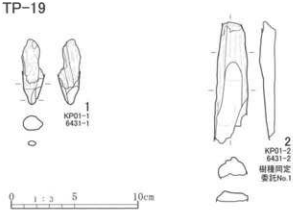
図Ⅲ-27　TP-44・46 平面及び断面図

TP-47



図Ⅲ-28 TP-47 平面及び断面図

TP-19



図Ⅲ-29 Ｔピット出土遺物

表Ⅲ-7　TP属性表

挿図番号	図版番号	道構名	分類	グリッド	平面形 調査面/坑底面	調査面層位	調査面規模(cm) 長軸	調査面規模(cm) 短軸	坑底面規模(cm) 長軸	坑底面規模(cm) 短軸	深さ(cm)	長軸方向	杭跡	調査面長短比	坑底面長短比
Ⅲ-7	34-1・2	TP-02	A1a	V-17	長楕円形/溝状	Ⅵ	332	80	300	16	136	N-18° E	-	4.15	18.75
Ⅲ-7	34-3・4	TP-03	A1a	X・Y-16	長楕円形/溝状	Ⅵ	308	72	224	28	87	N-12° E	-	4.28	8.00
Ⅲ-8	34-5・6	TP-04	C2	Y・Z-17	円形/楕円形	Ⅵ	196	172	116	52	108	N-36° W	5	1.14	2.23
Ⅲ-8	34-10・11	TP-05	C2	V-15	楕円形/楕円形	Ⅵ	216	116	116	40	108	N-20° W	6	1.86	2.90
Ⅲ-8	35-1・2	TP-06	A1a	W・X-19	長楕円形/溝状	Ⅵ	316	64	264	32	84	N-7° E	-	4.94	8.25
Ⅲ-9	35-3・4	TP-07	C1	AH・AI-21	円形/楕円形	VbU	212	216	140	52	100	N-72° W	-	0.98	2.69
Ⅲ-9	35-5		掘り上げ土	AI-21	不整形		204	(204)	-	-	4	-	-	-	-
Ⅲ-9	35-6~8	TP-08	C1	AJ-21	楕円形/楕円形	Ⅵ	212	60	108	44	92	N-74° W	-	3.53	2.45
Ⅲ-10	36-1・2	TP-09	C2	AL-22	楕円形/楕円形	VbU	194	152	132	60	104	N-50° W	4	1.28	2.20
Ⅲ-10	36-3・4		掘り上げ土	AK・AL-22	不整形		240	172	-	-	8	-	-	-	-
				AL-22			204	140	-	-	9	-	-	-	-
Ⅲ-11	36-7・8	TP-10	C1	AM-23	楕円形/楕円形	VbU	238	152	180	52	96	N-21° W	-	1.57	3.46
Ⅲ-11	—		掘り上げ土	AM-23	不整形		288	200	-	-	12	-	-	-	-
				AM-23・24			212	160	-	-	8	-	-	-	-
Ⅲ-12	36-9・10	TP-11	C2	AM・AN-24	楕円形/楕円形	VbU	228	168	136	40	100	N-37° W	3	1.36	3.40
Ⅲ-12	37-1		掘り上げ土	AM・AN-24	不整形		416	128	-	-	6	-	-	-	-
Ⅲ-13	37-5・6	TP-12	C2	AO-21	不整形/楕円形	VbU	260	188	136	56	100	N-69° W	4	1.38	2.43
Ⅲ-13	—		掘り上げ土	AO-21	不整形		310	230	-	-	19	-	-	-	-
Ⅲ-14	37-9	TP-13	C2	AR・AS-24	- /楕円形	VbU	220	144	156	60	94	N-85° E	2	1.44	2.60
Ⅲ-14	37-10		掘り上げ土	AR・AS-24	不整形		360	252	-	-	8	-	-	-	-
Ⅲ-14	38-1・2	TP-14	B2	AT・AU-24・25	楕円形/長楕円形	VbU	240	148	136	32	98	N-49° W	2	1.62	4.25
Ⅲ-14	—		掘り上げ土	AT・AU-25	不整形		228	144	-	-	20	-	-	-	-
Ⅲ-15	38-5・6	TP-15	C1	AU・AV-25	楕円形/楕円形	VbU	252	164	168	52	120	N-16° W	-	1.54	3.23
Ⅲ-15	—		掘り上げ土	AU-25	楕円形		168	104	-	-	5	-	-	-	-
				AU・AV-25			111	75	-	-	7	-	-	-	-
Ⅲ-15	38-7・8	TP-16	C2	AG-23・24	楕円形/楕円形	Vc	228	156	136	40	100	N-85° E	2	1.46	3.40
Ⅲ-16	38-11・12	TP-17	B1	AB・AC-18	楕円形/長楕円形	Ⅵ	200	136	135	32	96	N-39° W	-	1.47	4.22
Ⅲ-16	39-1・2	TP-18	C1	AT・AU-25・26	楕円形/楕円形	Ⅵ	252	165	140	55	109	N-63° W	-	1.53	2.55
Ⅲ-17	39-3・4	TP-19	C2	AC-19	楕円形/楕円形	Ⅵ	200	152	146	60	96	N-80° W	3	1.32	2.43
Ⅲ-17	39-8・9	TP-20	C1	AD-19	楕円形/楕円形	Ⅵ	164	130	76	56	80	N-74° W	-	1.26	1.36
Ⅲ-17	39-10 40-1	TP-21	C2	AB-17・18	楕円形/楕円形	Ⅵ	220	136	141	41	86	N-26° E	3	1.62	3.44
Ⅲ-18	40-4・5	TP-22	C1	AA・AB-17・18	楕円形/楕円形	Ⅵ	240	(144)	76	56	88	N-82° W	-	(1.67)	1.36
Ⅲ-18	40-6・7	TP-23	C1	AA-17	楕円形/楕円形	Ⅵ	186	144	104	44	82	N-79° W	-	1.29	2.36
Ⅲ-18	40-8・9	TP-24	A1a	AC-23	楕円形/溝状	Ⅵ	345	91	(337)	26	106	N-43° W	-	3.79	9.11
Ⅲ-19	40-10 41-1	TP-25	C2	Z-18・19	円形/楕円形	Ⅵ	168	168	107	51	91	N-22° E	3	1.00	2.10
Ⅲ-19	41-4・5	TP-26	B1	X-21	楕円形/長楕円形	Ⅵ	246	72	204	32	87	N-44° E	-	3.42	6.38

表Ⅲ-7 TP属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	分類	グリッド	平面形 調査面/坑底面	調査面層位	調査面規模(cm) 長軸	調査面規模(cm) 短軸	坑底面規模(cm) 長軸	坑底面規模(cm) 短軸	深さ(cm)	長軸方向	杭跡	調査面長短比	坑底面長短比
Ⅲ-7	34-1・2	TP-02	A1a	V-17	長楕円形/溝状	Ⅵ	332	80	300	16	136	N-18° E	-	4.15	18.75
Ⅲ-7	34-3・4	TP-03	A1a	X・Y-16	長楕円形/溝状	Ⅵ	308	72	224	28	87	N-12° E	-	4.28	8.00
Ⅲ-8	34-5・6	TP-04	C2	Y・Z-17	円形/楕円形	Ⅵ	196	172	116	52	108	N-36° W	5	1.14	2.23
Ⅲ-8	34-10・11	TP-05	C2	V-15	楕円形/楕円形	Ⅵ	216	116	116	40	108	N-20° W	6	1.86	2.90
Ⅲ-8	35-1・2	TP-06	A1a	W・X-19	長楕円形/溝状	Ⅵ	316	64	264	32	84	N-7° E	-	4.94	8.25
Ⅲ-9	35-3・4	TP-07	C1	AH・AI-21	円形/楕円形	VbU	212	216	140	52	100	N-72° W	-	0.98	2.69
Ⅲ-9	35-5		掘り上げ土	AI-21	不整形		204	(204)	-	-	4	-	-	-	-
Ⅲ-9	35-6～8	TP-08	C1	AJ-21	楕円形/楕円形	Ⅵ	212	60	108	44	92	N-74° W	-	3.53	2.45
Ⅲ-10	36-1・2	TP-09	C2	AL-22	楕円形/楕円形	VbU	194	152	132	60	104	N-50° W	4	1.28	2.20
Ⅲ-10	36-3・4		掘り上げ土	AK・AL-22	不整形		240	172	-	-	8	-	-	-	-
				AL-22			204	140	-	-	9	-	-	-	-
Ⅲ-11	36-7・8	TP-10	C1	AM-23	楕円形/楕円形	VbU	238	152	180	52	96	N-21° W	-	1.57	3.46
Ⅲ-11	—		掘り上げ土	AM-23	不整形		288	200	-	-	12	-	-	-	-
				AM-23・24			212	160	-	-	8	-	-	-	-
Ⅲ-12	36-9・10	TP-11	C2	AM・AN-24	楕円形/楕円形	VbU	228	168	136	40	100	N-37° W	3	1.36	3.40
Ⅲ-12	37-1		掘り上げ土	AM・AN-24	不整形		416	128	-	-	6	-	-	-	-
Ⅲ-13	37-5・6	TP-12	C2	AO-21	不整形/楕円形	VbU	260	188	136	56	100	N-69° W	4	1.38	2.43
Ⅲ-13	—		掘り上げ土	AO-21	不整形		310	230	-	-	19	-	-	-	-
Ⅲ-14	37-9	TP-13	C2	AR・AS-24	- /楕円形	VbU	220	144	156	60	94	N-85° E	2	1.44	2.60
Ⅲ-14	37-10		掘り上げ土	AR・AS-24	不整形		360	252	-	-	8	-	-	-	-
Ⅲ-14	38-1・2	TP-14	B2	AT・AU-24・25	楕円形/長楕円形	VbU	240	148	136	32	98	N-49° W	2	1.62	4.25
Ⅲ-14	—		掘り上げ土	AT・AU-25	不整形		228	144	-	-	20	-	-	-	-
Ⅲ-15	38-5・6	TP-15	C1	AU・AV-25	楕円形/楕円形	VbU	252	164	168	52	120	N-16° W	-	1.54	3.23
Ⅲ-15	—		掘り上げ土	AU-25	楕円形		168	104	-	-	5	-	-	-	-
				AU・AV-25			111	75	-	-	7	-	-	-	-
Ⅲ-15	38-7・8	TP-16	C2	AQ-23・24	楕円形/楕円形	Vc	228	156	136	40	100	N-85° E	2	1.46	3.40
Ⅲ-16	38-11・12	TP-17	B1	AH・AC-18	楕円形/長楕円形	Ⅵ	200	136	135	32	96	N-39° W	-	1.47	4.22
Ⅲ-16	39-1・2	TP-18	C1	AT・AU-25・26	楕円形/楕円形	Ⅵ	252	165	140	55	109	N-63° W	-	1.53	2.55
Ⅲ-17	39-3・4	TP-19	C2	AC-19	楕円形/楕円形	Ⅵ	200	152	146	60	96	N-80° W	3	1.32	2.43
Ⅲ-17	39-8・9	TP-20	C1	AD-19	楕円形/楕円形	Ⅵ	164	130	76	56	80	N-74° W	-	1.26	1.36
Ⅲ-17	39-10・40-1	TP-21	C2	AB-17・18	楕円形/楕円形	Ⅵ	220	136	141	41	86	N-26° E	3	1.62	3.44
Ⅲ-18	40-4・5	TP-22	C1	AA・AB-17・18	楕円形/楕円形	Ⅵ	240	(144)	76	56	88	N-82° W	-	(1.67)	1.36
Ⅲ-18	40-6・7	TP-23	C1	AA-17	楕円形/楕円形	Ⅵ	186	144	104	44	82	N-79° W	-	1.29	2.36
Ⅲ-18	40-8・9	TP-24	A1a	AC-23	楕円形/溝状	Ⅵ	345	91	(337)	26	106	N-43° W	-	3.79	9.11
Ⅲ-19	40-10・41-1	TP-25	C2	Z-18・19	円形/楕円形	Ⅵ	168	168	107	51	91	N-22° E	3	1.00	2.10
Ⅲ-19	41-4・5	TP-26	B1	X-21	楕円形/長楕円形	Ⅵ	246	72	204	32	87	N-44° E	-	3.42	6.38

表Ⅲ-8　TP杭穴属性表

挿図番号	図版番号	道構名		規模(cm) 上端	下端	深さ	傾き(度)	タイプ	備考
Ⅲ-8	-		KP02	4	0	12	3°	打込み	
Ⅲ-8	34-7	TP 04	KP03	2	0	9	2°	打込み	
Ⅲ-8	-		KP04	2	0	13	1°	打込み	
Ⅲ-8	34-8		KP05	3	0	15	0°	打込み	
Ⅲ-8	34-9		KP06	4	0	15	7°	打込み	
Ⅲ-8	-		KP01	5	0	12	2°	打込み	
Ⅲ-8	34-12-13		KP02	5	0	28	2°	打込み	
Ⅲ-8	34-14	TP 05	KP03	3	0	24	0°	打込み	
Ⅲ-8	-		KP04	3	0	14	3°	打込み	
Ⅲ-8	34-15		KP05	4	0	20	7°	打込み	
Ⅲ-8	34-16		KP06	5	0	18	2°	打込み	
Ⅲ-10	-		KP01	4	0	16	0°	打込み	
Ⅲ-10	36-5	TP 09	KP02	2	0	18	0°	打込み	
Ⅲ-10	36-5		KP03	3	0	19	0°	打込み	
Ⅲ-10	36-6		KP06	5	0	12	0°	打込み	
Ⅲ-12	37-2	TP 11	KP01	4	0	6	13°	打込み	
Ⅲ-12	37-3		KP02	9	0	10	3°	打込み	
Ⅲ-12	37-4		KP03	5	0	14	11°	打込み	
Ⅲ-13	-		KP03	4	0	8	1°	打込み	
Ⅲ-13	37-7	TP 12	KP04	8	0	13	3°	打込み	
Ⅲ-13	37-7		KP05	11	0	16	1°	打込み	
Ⅲ-13	37-8		KP07	4	0	10	2°	打込み	
Ⅲ-14	37-11	TP 13	KP01	6	0	10	4°	打込み	
Ⅲ-14	37-12		KP02	4	0	18	8°	打込み	
Ⅲ-14	38-3	TP 14	KP01	4	0	10	9°	打込み	
Ⅲ-14	38-4		KP02	4	0	12	2°	打込み	
Ⅲ-15	38-9	TP 16	KP01	8	0	14	0°	打込み	
Ⅲ-15	38-10		KP02	4	0	14	0°	打込み	
Ⅲ-17	39-5	TP 19	KP01	4	0	26	2°	打込み	
Ⅲ-17	39-6		KP04	6	0	8	0°	打込み	
Ⅲ-17	39-7		KP06	6	0	28	1°	打込み	
Ⅲ-17	40-2	TP 21	KP01	6	0	22	3°	打込み	
Ⅲ-17	40-3		KP02	6	0	22	4°	打込み	
Ⅲ-17	-		KP04	7	0	20	5°	打込み	
Ⅲ-19	41-2	TP 25	KP02	4	0	6	0°	打込み	
Ⅲ-19	41-3		KP03	3	0	4	0°	打込み	
Ⅲ-19	-		KP04	6	0	4	0°	打込み	
Ⅲ-19	41-8	TP 27	KP02	8	0	20	5°	打込み	
Ⅲ-20	42-1-2		KP03	6	0	14	6°	打込み	
Ⅲ-20	42-3・4	TP 28	KP04	6	0	32	2°	打込み	
Ⅲ-20	42-5・6		KP05	6	0	12	4°	打込み	
Ⅲ-20	-		KP06	8	0	16	2°	打込み	
Ⅲ-20	42-7・8		KP07	8	0	12	7°	打込み	
Ⅲ-20	42-11-12		KP01	7	0	35	7°	打込み	
Ⅲ-20	-		KP02	6	0	26	2°	打込み	
Ⅲ-20	-		KP03	5	0	25	3°	打込み	
Ⅲ-20	-	TP 29	KP04	5	0	27	1°	打込み	
Ⅲ-20	42-13		KP05	4	0	26	1°	打込み	
Ⅲ-20	-		KP07	5	0	26	1°	打込み	
Ⅲ-20	-		KP08	4	0	6	2°	打込み	
Ⅲ-20	42-13		KP11	6	0	15	2°	打込み	
Ⅲ-20	-		KP12	5	0	28	4°	打込み	
Ⅲ-24	-		KP01	6	0	18	1°	打込み	
Ⅲ-24	-		KP02	6	0	18	5°	打込み	
Ⅲ-24	45-2	TP 37	KP03	4	0	14	18°	打込み	
Ⅲ-24	45-3		KP04	6	0	18	0°	打込み	
Ⅲ-24	-		KP05	4	0	40	1°	打込み	
Ⅲ-24	-		KP06	4	0	22	5°	打込み	
Ⅲ-24	45-4		KP07	5	0	18	5°	打込み	
Ⅲ-24	45-5		KP08	4	0	22	1°	打込み	
Ⅲ-24	-		KP10	4	0	16	5°	打込み	
Ⅲ-25	-		KP01	5	0	8	1°	打込み	
Ⅲ-25	46-2		KP02	5	0	8	2°	打込み	
Ⅲ-25	-	TP 41	KP03	5	0	8	9°	打込み	
Ⅲ-25	46-3		KP04	5	0	8	8°	打込み	
Ⅲ-25	-		KP05	4	0	8	1°	打込み	
Ⅲ-25	-		KP06	5	0	7	7°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP01	8	0	10	6°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP02	6	0	30	7°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP03	6	0	36	2°	打込み	
Ⅲ-26	46-6・7		KP04	5	0	41	9°	打込み	
Ⅲ-26	-	TP 42	KP06	5	0	8	2°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP07	5	0	21	4°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP08	5	0	37	3°	打込み	
Ⅲ-26	46-8・9		KP09	5	0	38	1°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP10	3	0	28	6°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP11	7	0	33	2°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP01	4	0	8	1°	打込み	
Ⅲ-26	46-12		KP02	5	0	16	8°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP03	6	0	30	3°	打込み	
Ⅲ-26	-	TP 43	KP05	5	0	9	2°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP06	5	0	6	2°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP08	6	0	28	5°	打込み	
Ⅲ-26	46-13		KP09	4	0	10	0°	打込み	
Ⅲ-26	-		KP10	4	0	28	0°	打込み	
Ⅲ-27	47-3	TP 44	KP02	8	0	36	5°	打込み	
Ⅲ-27	-		KP03	10	0	28	5°	打込み	
Ⅲ-27	47-4		KP04	4	0	32	11°	打込み	

表Ⅲ-9　TP出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構/グリッド	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-29-1	57-1-8	-	6431-1	逆茂木	-	2	TP-198KP01	(51.0)	15.0	(15.0)	2.5	W	-
Ⅲ-29-2	57-1-9	-	6431-2	逆茂木	-	2	TP-198KP01	(96.0)	(24.0)	(12.0)	7.9	W	樹種同定 ノウウツギ

第4節　遺物集中

1. 土器集中

VPB-01（図Ⅲ-30・33-1・2　図版48-1・57-2-1・2）

位　置：AS-30区　　層　位：VbU　　規　模：152×90cm

調査・確認　調査区南端A1区の火山灰除去中に検出した。西側に伸びる段丘の尾根上に位置する。当初、2つに分かれて土器集中が存在するかと思われたが、同一個体と判断出来る資料も出てきたため、1ヵ所の土器集中とした。土器以外は礫が1点出土している。縄文時代後期前葉の時期に位置付けられる。

出土遺物（図Ⅲ-33-1・2）1は口縁部に2条の縄線文をもつ。胴部と内面にRL縄文が施された後に撫で付けられ、一部縄文が潰れている。2は底部破片で、1に比べるとやや粗い縄文が底面にも施される上に撫で付けられている。Ⅳ群B1類、タプコプ（新）式に属する。

VPB-02（図Ⅲ-30・33-3　図版48-2・57-2-3）

位　置：AM-25区　　層　位：VbM　　規　模：64×40cm

確認・調査　道道から宅地への進入路下から検出した。道路造成の撹乱はⅣ層までで、直接本土器集中に影響は及んでいないが、土圧により小さな破片が多かった。1個体単独の土器集中である。

出土遺物（図Ⅲ-33-3）2ヵ所の山形突起をもち、底はやや上げ底である。突起部には山形貼付文の上に指頭による圧痕が施される。口唇部にも指頭圧痕がみられる。胴部には斜行縄文が施文されている。Ⅲ群B2類、柏木川式に属する。

VPB-03（図Ⅲ-30・33-4　図版48-3・57-2-4）

位　置：AN-27区　　層　位：VbM　　規　模：62×38cm

確認・調査　上述した進入路脇から検出した。出土地点は、段丘面から沢への落ち口にあたり、本土器集中の西側は沢に向かって大きく傾斜している。1個体単独の土器集中である。

出土遺物（図Ⅲ-33-4）4ヵ所の突起をもち、上面観はやや方形を呈する。口唇部と、突起下の棒状貼付文の両側に縦位の押引文、口縁部から胴上半部にかけて横位の押引文を施す。押引文以下は横走気味のRL斜行縄文で埋められる。Ⅲ群B2類、柏木川式に属する。

VPB-04（図Ⅲ-30・34-5　図版48-4・58-5）

位　置：AQ-26・27区　　層　位：VbL　　規　模：58×42cm

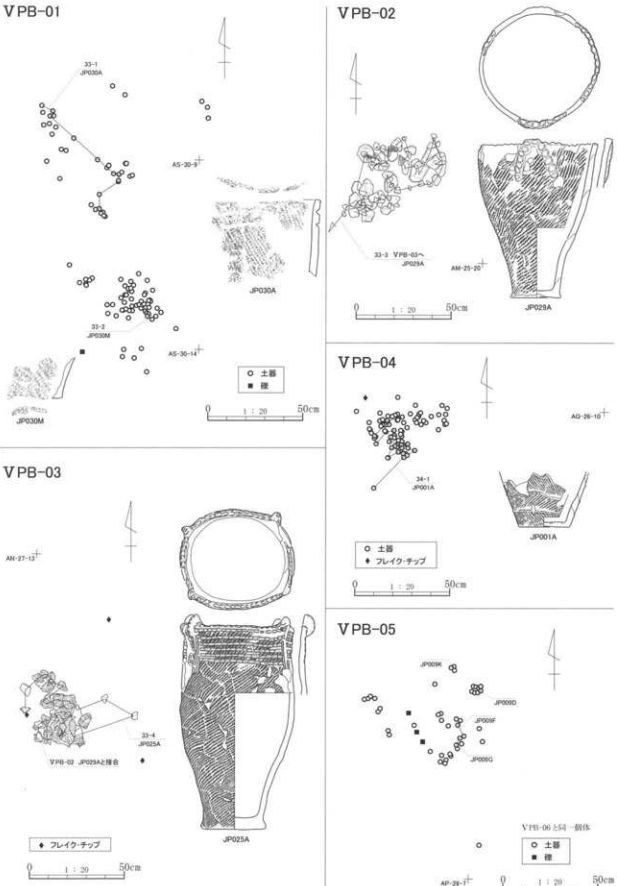
確認・調査　西側は宅地造成によって大きな段差ができているが、段丘面から沢に移行する傾斜地の肩部に位置していたと思わる。胴下半部から底部にかけての破片のみが残っていた。胴上半部以上が欠落した可能性がある。時期は縄文時代早期後葉に属する。

出土遺物（図Ⅲ-34-5）平底から胴部下半部へ直線的に立ち上がる器形で、細い隆起線文の上に異原体羽状縄文が施され、内面は磨かれている。中茶路式土器に属する。

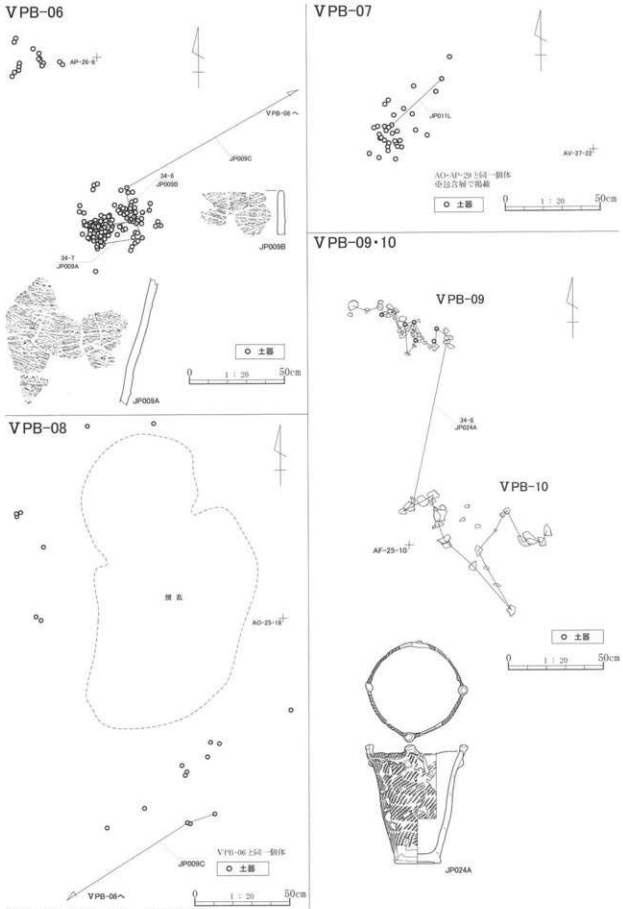
VPB-05（図Ⅲ-30　図版48-5・6）

位　置：AP・AQ-26区　　層　位：VbL　　規　模：68×52cm

確認・調査　本集中の南西側にはVPB-04・06、北東側にはVPB-08が出土し、周囲には縄文時代早期後葉の土器集中が群をなして検出された。住居等の関連性を考慮して精査したが、土器集中間に関連は認められず、床面と考えられるような堅い面や焼土は検出しなかった。



図Ⅲ-30　VPB-01 ～ 05 平面図



図Ⅲ-31　VPB-06 ～ 10 平面図

上述した段丘面から沢部に至る傾斜肩部からやや平坦面に移行する箇所に位置する。土器の他に3点の礫が共伴した。

出土遺物　破片は小片で図示することはできなかったが、微隆起線文の上に羽状構成の撚糸文が施された東釧路Ⅳ式土器である。

VPB-06（図Ⅲ-31・34-6・7　図版48-5・7・58-6・7）

位　置：AP-26区　　層　位：VbL　　規　模：128×50cm

確認・調査　上述した一群の土器集中の一部である。時期は縄文時代早期後葉。

出土遺物（図Ⅲ-34-6・7）口縁部と胴部破片が出土している。口縁部から胴部までを接合することはできなかった。丸状の口唇部から直線的に外反する胴部に移行する。微隆起線文の上に羽状構成の撚糸文が横位に施される東釧路Ⅳ式土器である。

VPB-07（図Ⅲ-31　図版48-8）

位　置：AV-27区　　層　位：Ⅵ　　規　模：68×30cm

確認・調査　調査区の南端で、対岸には沢を挟んで上幌内2遺跡を望む地点で出土した。扇状地形の傾斜部に当たり、東と西側に大きな撹乱孔があり、その間のⅥ層上面から検出された。時期は縄文時代早期後葉である。

出土遺物　小片のみで、図示することはできなかった。羽状の撚糸文が施される東釧路Ⅳ式土器である。

VPB-08（図Ⅲ-31　図版49-1）

位　置：AO-25区　　層　位：Ⅵ　　規　模：212×116cm

確認・調査　上述した縄文時代早期後葉の土器集中群の一部である。Ⅵ層上面を調査中に検出した。中央部に撹乱があり、その周辺から土器がまばらに検出された。VPB-05・06と同一個体であったため、一括して記載している。

出土遺物　小片のみで図示することはできなかった。羽状の撚糸文が施される東釧路Ⅳ式土器である。

VPB-09（図Ⅲ-31・34-8　図版49-2・3・58-8）

位　置：AE-25区　　層　位：VbL　　規　模：58×22cm

確認・調査　調査区中央部の平坦面から西側段丘斜面にかけて、VPB-10と近接して検出された。VPB-10との接合資料もあるが、他の土器の破片も若干含まれており、VPB-09は斜面部、VPB-10は平坦部に位置したことから、個々に記録した。VPB-10と合わせて写真撮影を行い、微細図を作成し、遺物を取り上げた。縄文時代中期に属する。

出土遺物（図Ⅲ-34-8）　4ヵ所の円柱状小突起をもつ深鉢型土器。突起下にボタン状の貼付文を有し、胴部は結節回転文・結束第1種斜行縄文で埋められている。内面にはミガキが見られる。Ⅲ群A2b類に属する。

VPB-10（図Ⅲ-31　図版49-2・4・58-8）

位　置：AF-25区　　層　位：VbL　　規　模：80×54cm

確認・調査　VPB-09の南側、Vb層下位で検出したが斜面にかかり土砂が流失している可能性もあるので、帰属層位はVb層中位以上と思われる。

出土遺物　ほとんどが図Ⅲ-34-8の土器片である。VPB-09より大型の破片が多い。

VPB-11（図Ⅲ-32・34-9～23　図版 49-5・58-9～23）

位　置：AN・AO-32 区　　層　位：Ⅵ　　規　模：422×256cm

確認・調査　VPB-12 と同様に、A2 区沢状地形の包含層調査中に検出した。当該区域はⅤ層が流失しており、Ⅳ層除去時とⅥ層中から遺物が出土した。当初、二つの大きなブロックに分かれた分布を示しているようにみえたため、2 ヵ所に分けて記録したが、遺物の接合関係を見ると広範囲に接合しており、斜面に沿って遺物が移動していることが分かった。写真撮影し、デジタル写真測量によって微細図を作成した。時期は縄文時代早期後葉に属する。

出土遺物（図Ⅲ-34-9～23）　文様構成から 6 種類の土器片が検出されている。VPB-12 と接合する資料が多いため、合せて記述する。9・11・12 は隆起線文の上に LR 縄文と LR 撚糸文（羽状構成）が施文されるもの。13・14 の外面は羽状構成の撚糸文、内面口縁部に撚糸文 LR が施される。10 は微隆起線の間に短縄文が施文される。15・17・18・19 は羽状構成の撚糸文のみのもの。16 は無文で縦方向のヘラケズリが施される。20 は RL 斜行縄文と結節回転文が施文されている。9・10 は中茶路式、11～20 は東釧路Ⅳ式土器の範疇に含まれるが、11 は東釧路Ⅳ式土器の中でも古い様相を見せると思われる。他に礫石器が 3 点出土した。全てたたき石である。21・22 は腹面に敲打痕を残す。21 の一部と 22 には細長い範囲に敲打痕がみられる。23 は腹面にも敲打痕がみられるが、素材の端部に明瞭な敲打痕を残す。いずれもVPB-11 から出土している。

VPB-12（図Ⅲ-32　図版 49-6・58-9～23）

位　置：AN-32・33 区　　層　位：Ⅵ　　規　模：328×198cm

確認・調査　VPB-11 とはわずかに窪む沢状地形を隔てて北に存在する。沢部にも遺物は集中するが、尾根部に比べ量は少ない。流失したものと思われる。

出土遺物　VPB-11 にまとめて掲載した。

VPB-13（図Ⅲ-32　図版 49-7）

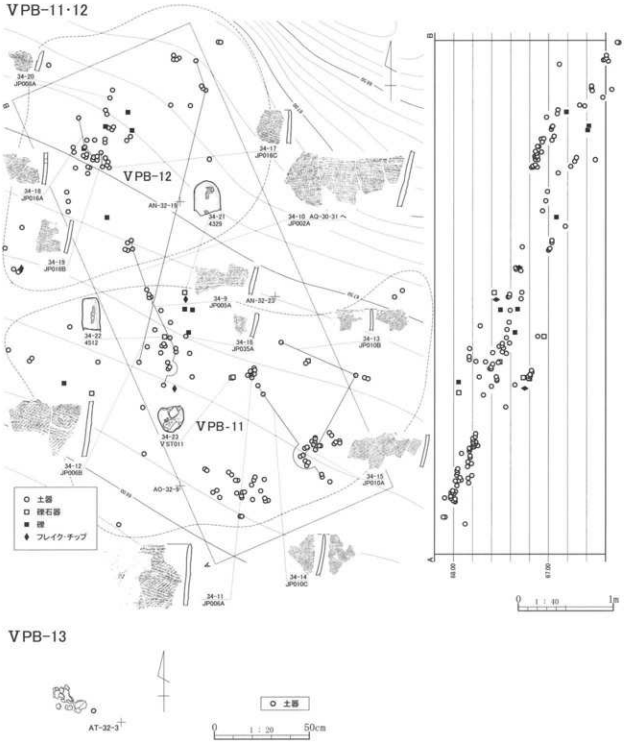
位　置：AS-32 区　　層　位：Ⅴb　　規　模：25×14cm

確認・調査　T_2段丘面の傾斜の下、T_1面の進入路で検出した。道路造成の際の盛土を除去し、Ⅴ層を調査中に 1 個体分の土器集中を検出した。写真撮影・微細図作成後、遺物を取り上げた。

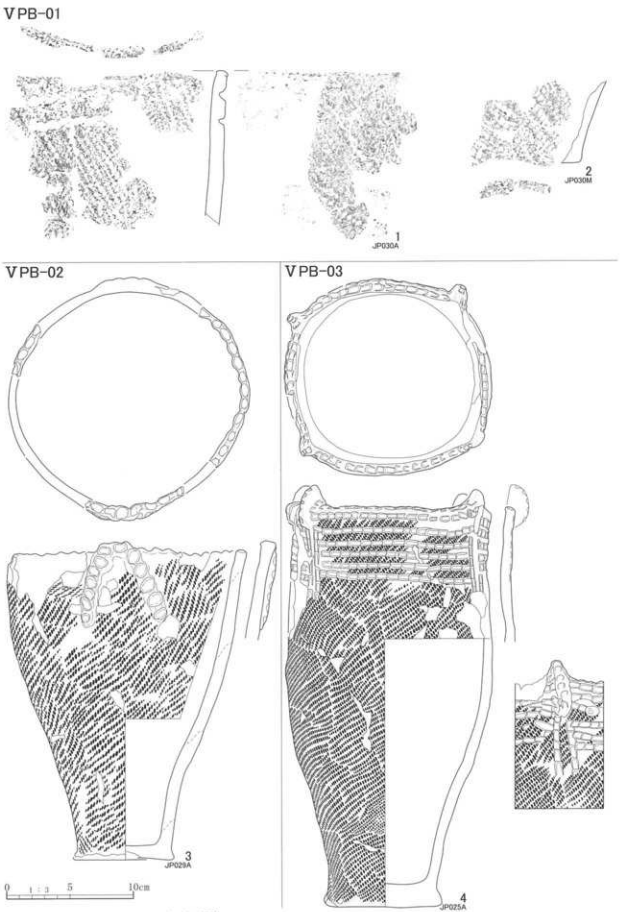
時期は縄文時代後期前葉に属する。

出土遺物　小破片で磨滅が著しく図示できなかったが、タプコプ（新）式に属する。

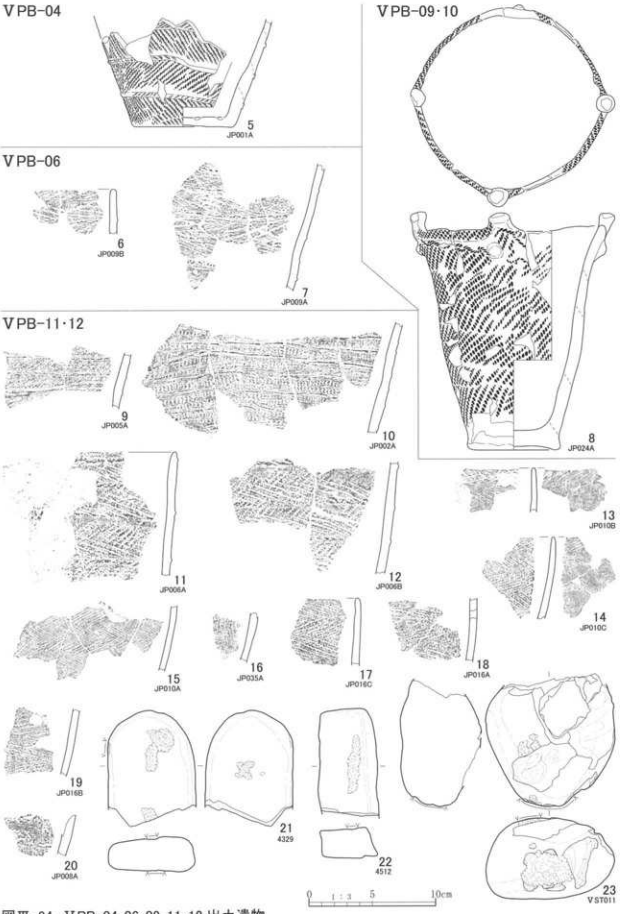
（宮塚）



図Ⅲ-32　ⅤPB-11・12 平面及び断面図・ⅤPB-13 平面図



図Ⅲ-33 VPB-01 ～ 03 出土土器



図Ⅲ-34　ⅤPB-04·06·09·11·12 出土遺物

2. 礫集中

VSB-02（図Ⅲ-35　図版 49-8）

位　置：A0-24 区　　層　位：Vbl.　　規　模：110×94cm

確認・調査　A2 区包含層調査中に検出した。大型の破砕した礫と周辺に小型の破片が散乱していた。周辺を精査し、写真撮影の後、微細図を作成し、遺物を取り上げた。

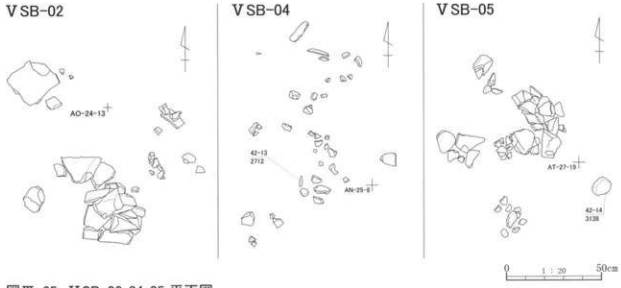
出土遺物　礫以外は出土していない。

VSB-03（図Ⅲ-36～41・42-10～12　図版 50-1～3・59）

位　置：AT・AU-25～27・AV-24～26 区　　層　位：Vc　　規　模：1,600×710cm

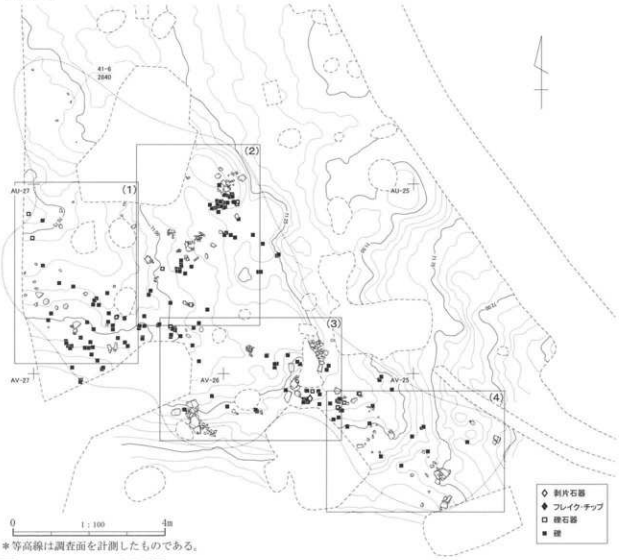
確認・調査　上幌内1遺跡の南側に浅い沢状地形が残り、段丘縁辺部では大きく広がる。VSB-03 はこの沢状地形に沿って分布する。南端と西端は撹乱によって途切れているが、遺物は希薄で、現存する範囲がほぼ本遺構の範囲であると推測される。下位にTピットが 2 基あり、その落ち込みに流れ込むように遺物が集中していた。精査した結果、炉跡等は確認できず、沢状地形に沿って、遺物が散逸していた。

出土遺物（図Ⅲ-41・42-10～12）　1 は焼成粘土塊で、部分的に手づくね跡を残す。2 は石錐。2 ヵ所に機能を持つと思われるが、1 ヵ所は先端が欠けている。3 はつまみ付ナイフ。刃部の剥離は素材の主剥離面から行われており、左側縁の一部は素材の側縁をそのまま利用している。4・5 は緑色泥岩製の石斧及び未成品。5 は剥離痕のみで研磨されていない。6 はたたき石。側縁と一部腹部に敲打痕を残す。7 は北海道式石冠。頂部の両面には礫面を残す。8 は滑沢面のある礫。現存するほぼ全面に滑沢面が残る。9 は台石。表面一部に敲打痕がみられる。10～12 は加工痕のある礫。10 は側縁稜線上に、11 は端部に剥離痕を残し、11 には側縁稜線部に敲打痕が見られる。12 は扁平な素材の縁辺部を打ち欠いた礫である。



図Ⅲ-35　VSB-02・04・05 平面図

ⅤSB-03



＊等高線は調査面を計測したものである。

図Ⅲ-36　ⅤSB-03 平面図

ⅤSB-04（図Ⅲ-35・42-13　図版 50-4・60-1-13）

位　置：AN-25 区　　層　位：Ⅴc　　規　模：122×86cm

確認・調査　A2 区の沢頭部東側の段丘平坦面で検出した。周囲から中期後葉のⅤPB-02・03、早期後葉のⅤPB-08 を検出しているが、本集中から縄文時代早期後葉に特徴的な石鏃が出土しており、同時期の礫集中と思われる。

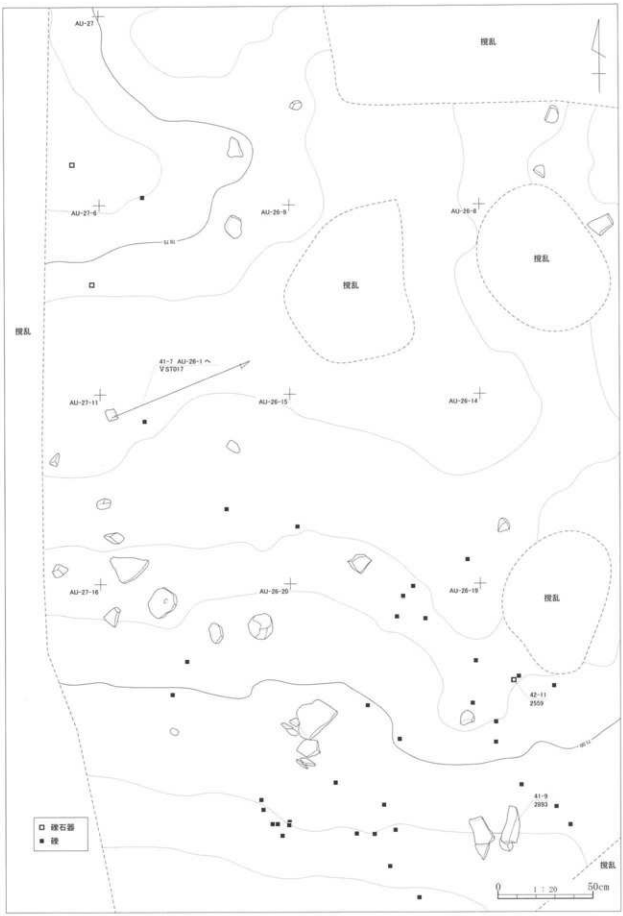
出土遺物（図Ⅲ-42-13）13 は扁平な作りで長軸長が 5cm 以上あることから基準上、石槍に分類されるが、器厚などから石鏃の機能を有すると思われる。

ⅤSB-05（図Ⅲ-35・42-14　図版 50-5・60-1-14）

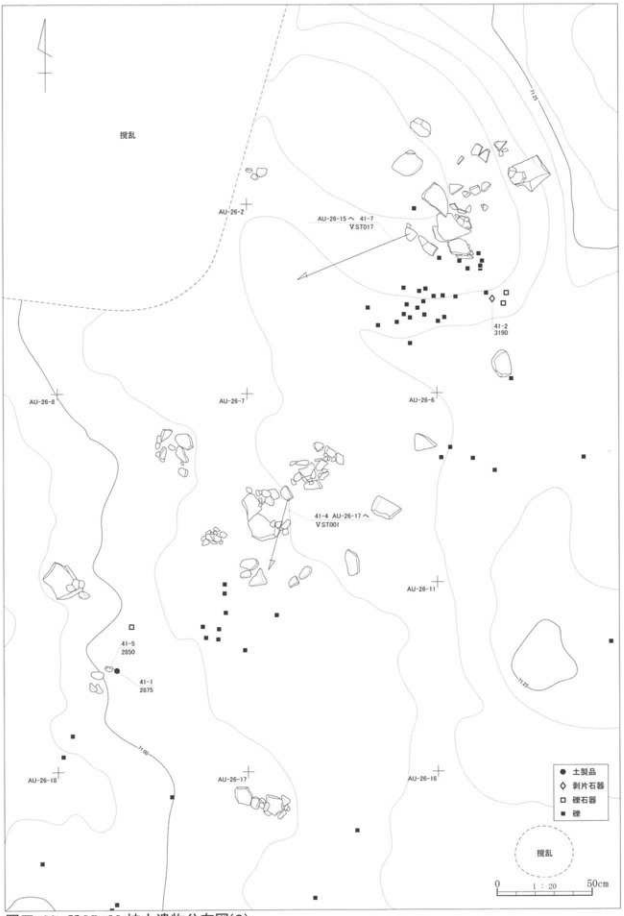
位　置：AT-27 区　　層　位：Ⅵ　　規　模：98×70cm

確認・調査　ⅤSB-03 の西側、撹乱坑を挟んだ位置に存在するが、接合資料等はなく関連性は低いと思われる。

出土遺物（図Ⅲ-42-14）14 は腹部に敲打痕、側縁部に剥離痕を残すたたき石である。（宮塚）

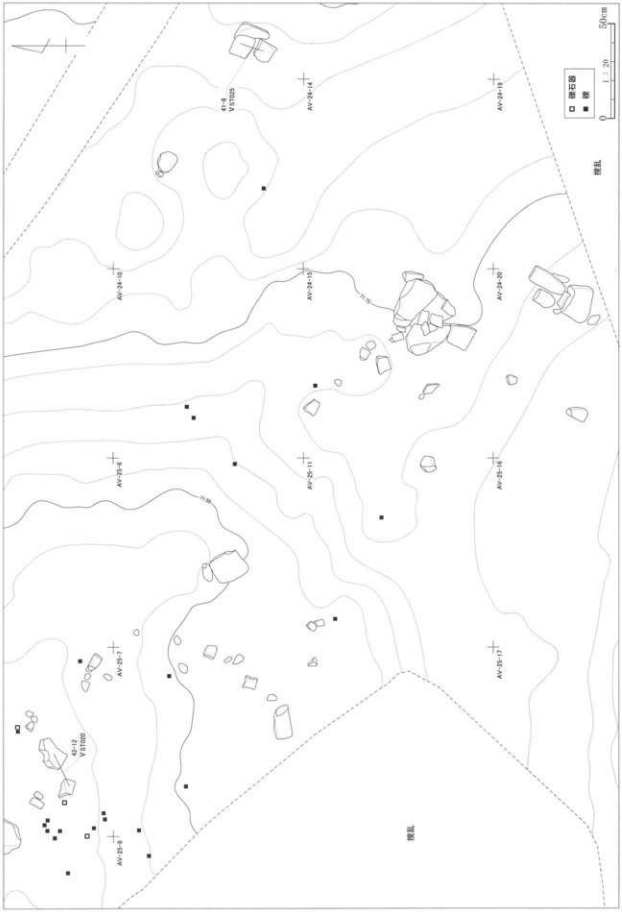


図Ⅲ-37　VSB-03 拡大遺物分布図(1)

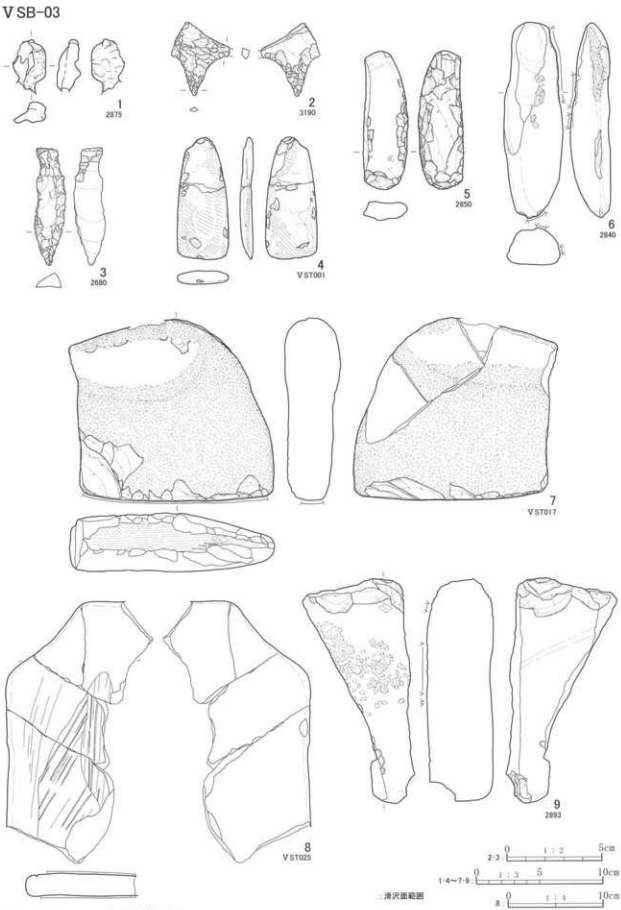


図Ⅲ-38　ⅤSB-03 拡大遺物分布図(2)

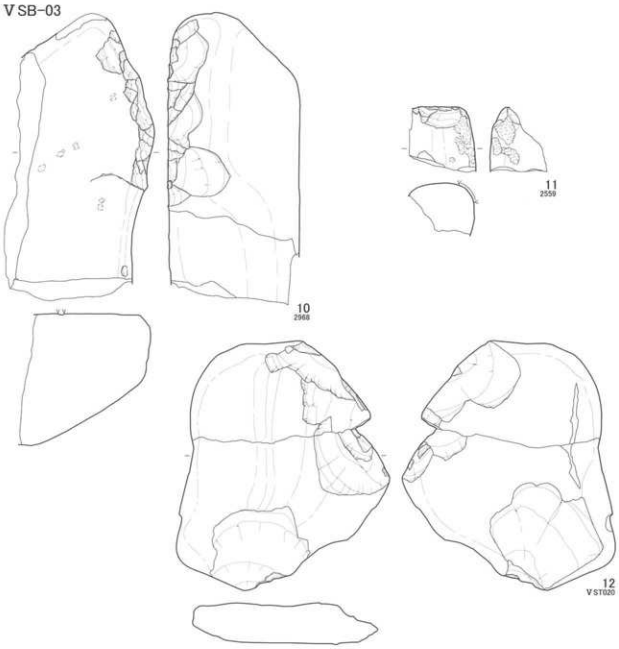
撹乱
AV-25-14
AV-25-15
AV-25-5
AV-25
AV-26-4
41-10
2000
41-3
2000
41-3
2000
41-4
2000
AV-26-4
11.0
11.5
11.6
11.7
11.8
11.9
12.0
12.1
12.2
12.3
12.4
12.5
12.6
12.7
12.8
12.9
13.0
13.1
13.2
13.3
13.4
13.5
13.6
13.7
13.8
13.9
14.0
14.1
14.2
14.3
14.4
14.5
14.6
14.7
14.8
14.9
15.0
15.1
15.2
15.3
15.4



図Ⅲ-40　VSB-03 拡大遺物分布図(4)



図Ⅲ-41　VSB 出土遺物（1）



図Ⅲ-42　ⅤSB 出土遺物(2)

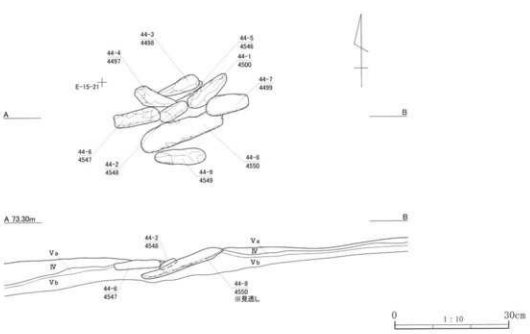
3．石斧集中

ⅤAXB-01（図Ⅲ-43・44　図版 50-6・60-2）

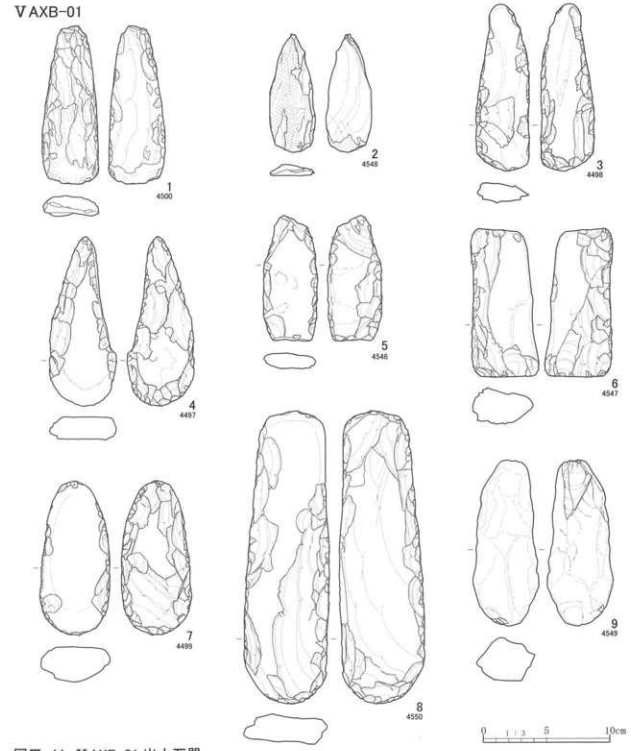
位　置：E-14・15 区　　層　位：ⅤbU　　規　模：36×24cm

確認・調査　調査区北端、Ⅳ層除去中に検出した。遺物はⅤb 層上位で出土し、Ⅳ層を含む撹乱層で覆われていた。土層観察用のベルトを残し調査した。遺物は部分的に重なり、段丘縁辺部に向かって傾斜して出土した。周辺から他の遺物は検出されず、遺物が抜き取られたような痕跡も見られなかった。全体を精査し、出土状態の写真撮影を行い、微細図を作成した。断面に掛かる遺物が少ないので、一部の遺物は透視図で図化した。本集中は 9 点中 1 点のみ刃部が作出されているため完成品とし、それ以外は未成品である。石質等から時期は縄文時代後期初頭に属するものと思われる。

出土遺物（図Ⅲ-44）　3～7 は緑色泥岩、1・2・8 は片岩、9 は凝灰質泥岩である。1 は横長の剥片を素材とし、表面は左右側縁からの成形剥離面、裏面には素材剥片の剥離面を大きく残している。刃部の為両面とともに研磨され、刃縁には使用による刃毀れ様の微細剥離もみられる。2 は削片を素材とし、表面はほぼ全面に研磨調整が施され、裏面は横長の素材剥離面が大きく残るが、下端部に研磨調整が施されている。左側縁部にも研磨が施され、右側縁は裏面からの剥離成形により全体が石斧形状に成形されているものの、刃縁には平坦な研磨調整が施されており、刃部の完成形態には至っていない。3 は比較的扁平な棒状礫を素材としている。両側縁及び下端部は細かな剥離によって整形され、基部は素材転礫面を残す。4 は両面に転礫面を残す扁平な棒状礫を素材とし、表面右側は大きな折損面を残す。縁辺部に剥離痕がめぐり、下半部は表面からの剥離によって、石斧の刃部様となっている。5 は表面に礫面、裏面にはやや磨滅した節理面を有する剥片状の扁平礫を素材としている。縁辺部の剥離整形によって短冊形を呈している。表裏面ともに研磨痕は認められない。刃部様の部位は作出されていない。6 は表



図Ⅲ-43　ⅤAXB-01 平面及び断面図



図Ⅲ-44　ⅤAXB-01 出土石器

裏面と左右上下端の全側縁に転礫面を有する角柱状の転礫を素材とし、器厚を有する右側縁に剥離整形を施し、厚さを減じている。刃部様の部位は作出されていない。7 は比較的扁平な棒状礫を素材としている。周辺から細かな剥離によって整形されている。裏面下端部は大きな剥離により器厚を減じ、刃部様に整形されている。8 は本集中で最大長のもので、長軸 230mm を測る。表面に転礫面、裏面は右側縁の一部に転礫面が残るものの、素材礫面として節理面を大きく残す剥片素材。整形はほぼ全周にわたって比較的細かな剥離整形がなされている。下端部は両面からの剥離によって半円形の刃部様に整形されているが、研磨痕は認められない。9 は古い剥離面を全面に残す棒状の転礫を素材礫とし、両端部に僅かに剥離痕が見られる。素材礫から類推すると、水流の速い上流域の転礫と思われる。

石斧類集中の構成遺物からは、1 のみに使用痕が認められる完成品であるが、他の未成品からは、扁平な棒状礫や横長の剥片を素材礫としていることが読み取れる。これらの石材は、厚真川流域での産出は極少量に限られ、長軸 10cm 以上の転礫は皆無に等しい。このことから、本集中は鵡川、沙流川流域などで採取し、既に磨製石斧を完成品としてイメージし、一次加工された未成品類を一括搬入された資料である可能性を指摘したい。（宮塚）

表Ⅲ-10　VPB・VSB・VAXB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	被熱の有無	備考
Ⅲ-30	48-1	VPB-01	AS-30	VbU	不整形	152	90	-	
Ⅲ-30	48-2	VPB-02	AM-25	VbM	楕円形	64	40	-	
Ⅲ-30	48-3	VPB-03	AN-27	VbM	楕円形	62	38	-	
Ⅲ-30	48-4	VPB-04	AQ-26・27	VbL	不整形	58	42	-	
Ⅲ-30	48-5・6	VPB-05	AP・AQ-26	VbL	不整形	68	52	-	
Ⅲ-31	48-5・7	VPB-06	AP-26	VbL	長楕円形	128	50	-	
Ⅲ-31	48-8	VPB-07	AV-27	VI	不整形	68	30	-	
Ⅲ-31	49-1	VPB-08	AO-25	VI	楕円形	212	116	-	
Ⅲ-31	49-2・3	VPB-09	AE-25	VbL	不整形	58	22	-	
Ⅲ-31	49-2・4	VPB-10	AF-25	VbL	不整形	80	54	-	
Ⅲ-32	49-5	VPB-11	AN・AO-32	VI	不整形	422	256	-	
Ⅲ-32	49-6	VPB-12	AN-32・33	VI	楕円形	328	198	-	
Ⅲ-32	49-7	VPB-13	AS-32	Vb	楕円形	25	14	-	
Ⅲ-35	49-8	VSB-02	AO-24	VbL	不整形	110	94	-	
Ⅲ-36～40	50-1～3	VSB-03	AT・AU-25～27 AV-24～26	Vc	不整形	1,600	710	-	
Ⅲ-35	50-4	VSB-04	AN-25	Vc	不整形	122	86	-	
Ⅲ-35	50-5	VSB-05	AT-27	VI	不整形	98	70	-	
Ⅲ-43	50-6	VAXB-01	E-14	VbU	楕円形	36	24	-	完成品1点・未成品8点

表Ⅲ-11　VPB出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様		胎土(砂粒等)	備考
								口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面			
Ⅲ-33-1	57-2-1	JP030 A	ⅣB1	VPB-01	VbU	12	口縁～胴上半	平縁-やや外反-隅丸角状/直立	RL縄文-縄線文(破線状)-RL縄文(施文後ナデ)/RL縄文(施文後ナデ)		多量(平行組織発達)	
Ⅲ-33-2	57-2-2	JP030 M	ⅣB1	VPB-01	VbU	4	底部	やや外傾-隅丸角状-平坦	RL斜行縄文(施文後ナデ)/RL縄文(施文後ミガキ)		多量(平行組織発達)	内面剥落
Ⅲ-33-3	57-2-3	JP029 A	ⅢB2	VPB-02	VbM	68	口縁～底部	平縁-山形突起(2ヶ所)-隅丸角状/直立～外反/やや外傾-張り出し-やや上げ底	指頭圧痕-山形貼付文+指頭圧痕-LR斜行縄文		砂粒中量・繊維少量	
				VPB-03		1						
Ⅲ-33-4	57-2-4	JP025 A	ⅢB2	VPB-03	VbM	69	口縁～底部	平縁-山形突起-直立-隅丸角状/やや膨らむ/外傾-張り出し-平底	押引文-棒状貼付文+押引文-突起下縦位押引文+横位押引文-LR斜行縄文(横走気味)		砂粒中量・繊維中量	
				VPB-02	VbM	1						
Ⅲ-34-5	58-5	JP001 A	ⅠB3	VPB-04	VbL	28	底部	外傾-角状-平底	隆起線文・異原体羽状縄文-ミガキ		中量	
				AI-25	VbL	1						
Ⅲ-34-6	58-6	JP009 B	ⅠB4	VPB-06	VbL	5	口縁部	平縁-丸状/直立	隆起線文・LR縄文+LR撚糸文羽状構成		中量	
Ⅲ-34-7	58-7	JP009 A	ⅠB4	VPB-06	VbL	10	胴部	外傾	隆起線文・LR縄文+LR撚糸文羽状構成		中量	
Ⅲ-34-8	58-8	JP024 A	ⅢA2b	VPB-01	VbU	1	口縁～底部	平縁-小突起(円柱状)-やや外反-外側ぎ切出し状(実状)/直立/張り出す-隅丸角状-上げ底	ボタン状貼付文(突起下)-結節回転文/結束第1種斜行縄文/横ミガキ-ミガキ		中量・繊維微量	
				VPB-09	VbL	25						
				VPB-10	VbL	25						
				AE-25	Va	1						
Ⅲ-34-9	58-9	JP005 A	ⅠB3	VPB-11	Ⅵc	3	口縁部	平縁-尖状/直立	隆起線文・LR縄文+LR撚糸文羽状構成		多量	
					Ⅵ	3						
Ⅲ-34-10	58-10	JP002 A	ⅠB3	VPB-12	Ⅵ	2	胴部	直線的外傾	微隆起線文・短縄文		中量	
				AQ-31		1						
				AQ-30	VbU	1						
Ⅲ-34-11	58-11	JP006 A	ⅠB4(古)	VPB-11	Ⅵ	5	口縁部	平縁-尖状/直立	隆起線文・LR縄文+LR撚糸文羽状構成		多量	
Ⅲ-34-12	58-12	JP006 B	ⅠB4	VPB-11	Ⅵ	1	胴部	直線的外傾	隆起線文・LR縄文+LR撚糸文羽状構成		多量	
				VPB-12	Ⅵ	2						
Ⅲ-34-13	58-13	JP010 B	ⅠB4	VPB-11	Ⅵc	3	口縁部	波状縁・内湾気味に直立-角状(実状)	撚糸文羽状構成-撚糸文LR		少量	
Ⅲ-34-14	58-14	JP010 C	ⅠB4	VPB-11	Ⅵc	3	口縁部	波状縁・内湾気味に直立-角状(実状)	撚糸文羽状構成-撚糸文LR		少量	
Ⅲ-34-15	58-15	JP010 A	ⅠB4	VPB-11	Ⅵc	4	胴部	外傾	撚糸文羽状構成		少量	
Ⅲ-34-16	58-16	JP035 A	ⅠB4	VPB-11	Ⅵ	1	胴部下半	外傾	無文(縦ケズリ)		中量	
Ⅲ-34-17	58-17	JP016 C	ⅠB4	VPB-12	Ⅵc	1	口縁部	平縁-丸状/直立	撚糸文羽状構成		砂粒(石英結晶)多量・雲母微量	富良野盆地系
Ⅲ-34-18	58-18	JP016 A	ⅠB4	VPB-12	Ⅵc	3	胴部上半	やや外傾～直立	撚糸文羽状構成		砂粒(石英結晶)多量・雲母微量	富良野盆地系
Ⅲ-34-19	58-19	JP016 B	ⅠB4	VPB-12	Ⅵc	1	胴部上半	外傾	撚糸文羽状構成		砂粒(石英結晶)多量・雲母微量	富良野盆地系、補修孔1
					Ⅵ	1						
Ⅲ-34-20	58-20	JP008 A	ⅠB4	VPB-12	Ⅵ	1	胴部下半	外傾	RL斜行縄文+結節回転文		少量	

表Ⅲ-12　VPB・VSB・VAXB出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	遺構/グリッド	層位	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-34-21	58-21	-	4329	たたき石	ⅠA3	VPB-11	Vc	(90.1)	66.0	27.6	(256.0)	Sa.	
Ⅲ-34-22	58-22	-	4512	たたき石	ⅠB1	VPB-11	Ⅵ	(84.1)	43.8	21.4	(150.3)	Sa.	
Ⅲ-34-23	58-23	VST011	4513 4514	たたき石	ⅢB	VPB-11	Ⅵ	(101.2)	101.6	64.1	(740.0)	Sa.	
Ⅲ-41-1	59-1	-	2875	焼成粘土塊	-	VSB-03	VbM	(43.5)	(26.9)	16.7	(9.9)	Clay	
Ⅲ-41-2	59-2	-	3190	石錐	B	VSB-03	VbM	38.8	30.0	10.4	7.3	Obs.	
Ⅲ-41-3	59-3	-	2680	ナイフ・スクレイパー類	B	VSB-03	VbM	61.9	15.5	6.9	8.1	Si.	
Ⅲ-41-4	59-4	VST001	2682 2841	石斧	A1a	VSB-03	VbM	96.7	40.5	91.0	60.4	Gr-Mud.	
Ⅲ-41-5	59-5	-	2850	石斧	B	VSB-03	VbM	108.0	32.0	14.9	97.0	Gr-Mud.	
Ⅲ-41-6	59-6	-	2840	たたき石	ⅠB2	VSB-03	VbM	150.6	40.6	31.2	236.0	Sa.	
Ⅲ-41-7	59-7	VST017	3191 2838	すり石	C1	VSB-03	VbM	150.4	140.5	44.2	(134.0)	Sa.	
Ⅲ-41-8	59-8	VST025	2858 2857	滑沢面のある礫	-	VSB-03	VbM	(270.5)	(109.1)	26.6	(1,180.0)	Sa.	
Ⅲ-41-9	59-9	-	2893	台石	-	VSB-03	VbM	170.5	77.0	45.5	750.0	Sa.	
Ⅲ-42-10	59-10	-	2968	加工痕のある礫	-	VSB-03	VbM	(220.5)	(140.0)	111.4	(3,100.0)	Sa.	
Ⅲ-42-11	59-11	-	2559	加工痕のある礫	-	VSB-03	VbM	(46.3)	(50.2)	(35.7)	(110.0)	Sa.	
Ⅲ-42-12	59-12	VST020	2996 2600	加工痕のある礫	-	VSB-03	VbM	190.5	137.9	31.9	1,300.0	Sa.	被熱
Ⅲ-42-13	60-1-13	-	2712	ポイント類	A1	VSB-04	Vc	53.8	10.6	3.5	2.2	Obs.	
Ⅲ-42-14	60-1-14	-	3138	たたき石	ⅡB3	VSB-05	VbM	103.5	70.0	52.1	550.0	Sa.	
Ⅲ-44-1	60-2-1	-	4500	石斧	A	VAXB-01	VbU	123.6	43.7	13.1	99.0	Sch.	
Ⅲ-44-2	60-2-2	-	4548	石斧	B	VAXB-01	VbU	93.5	35.7	7.1	34.0	Sch.	未成品・剥片素材縁辺に研磨
Ⅲ-44-3	60-2-3	-	4498	石斧	B	VAXB-01	VbU	131.2	42.3	15.3	113.6	Gr-Mud.	未成品
Ⅲ-44-4	60-2-4	-	4497	石斧	C	VAXB-01	VbU	133.1	51.0	16.7	173.5	Gr-Mud.	未成品・稜に擦れ
Ⅲ-44-5	60-2-5	-	4546	石斧	C	VAXB-01	VbU	97.0	42.4	12.6	82.7	Gr-Mud.	未成品
Ⅲ-44-6	60-2-6	-	4547	石斧	C	VAXB-01	VbU	117.3	51.7	29.1	264.0	Gr-Mud.	未成品
Ⅲ-44-7	60-2-7	-	4499	石斧	C	VAXB-01	VbU	119.3	54.6	27.9	252.0	Gr-Mud.	未成品
Ⅲ-44-8	60-2-8	-	4550	石斧	C	VAXB-01	VbU	230.0	64.5	22.7	560.0	Sch.	未成品
Ⅲ-44-9	60-2-9	-	4549	石斧	D	VAXB-01	VbU	132.2	49.4	33.7	292.0	Mud.	未成品・石材同定No.8 蛇紋質定岩

第5節　包含層出土遺物

1．土器（図Ⅲ-45・46　図版61・62）

Ⅰ群B3類土器（1）

中茶路式土器相当。やや太めの微隆起線文が施された胴部下半の資料。地文にはRL斜行縄文が施されている。

Ⅰ群B4類土器（2～11）

東釧路Ⅳ式土器相当。全体で未掲載の個体資料も含め9個体分が出土している。いずれも撚糸文を特徴とし、3～5・8～11には自縄自巻の軸縄原体が僅かに観察できる。

Ⅲ群A2類土器（12～21）

円筒土器上層式の後半期のサイベ沢Ⅶb式土器相当。12は台形状の口縁部突起片で、平行沈線文と中央部に貫通孔がある。13は口唇部断面形が三角形状に肥厚し、斜位の刻みがある。14～16は同一個体片で14の口縁部片には小規模な台形状突起がある。15は胴部上半の文様帯で、

突起下から2条1対の区画文が施され、16の区画帯内部には弧線文が充填される。地文は結束第1種羽状縄文で、内面はミガキ調整。17～19も同一個体片で棒状突起や折り返し状の口唇部にLR原体による縄の刻みが施され、内面は入念なミガキ調整である。20は焼成、胎土共に粗雑な土器であるが、地文縄文と内面にミガキ調整が施されていることから本群に分類した。

Ⅲ群B2類土器（22～28）

柏木川式土器相当。5個体が出土し、うち3個体を掲載した。22～24は同一個体片で、頭部の括れ部分に横槓する貼付帯と小突起から垂下する貼付帯が施されている。口唇部は隅丸角状を呈し、縄線文が施されている。口縁部区画帯内には3条の平行沈線文が充填されている。25～27も同一個体片で、器形や口唇部形態は前述の個体とほぼ同一である。地文縄文はLR原体により横走気味の斜行縄文が施されている。いずれの個体も胎土に少量の繊維を含む。

Ⅳ群A1類土器（29）

余市式土器相当。図示した1個体のみが出土した。LRとRL原体の横位回転の斜行する重複施文の胴部片。胎土には砂粒をやや多く含む。

Ⅴ群B類土器（30･31）

縄文時代晩期前葉の土器。30は鉢形土器の口縁部片と思われる。口唇部は角状に調整され、器面にはRL斜行縄文が施されている。31は鉢形土器の底部片。やや上げ底気味であるものの、底部中央が緩く突出する。底面にも地文縄文のLR縄文が施されている。

2. 剥片石器（図Ⅲ-47　図版63）

ポイント類（1～10）

計23点出土した。1～6はA類の石鏃、7～10はB類の石槍・石銛である。1･2は細身、薄手のもので、基部平面形が平らである。1は撹乱からの出土であり、2は明確に共伴する土器は確認できなかったが、縄文早期後葉に属すると思われる。3は薄手の無茎石鏃で、基部がわずかにくぼむ。4･5は明瞭な茎部をもつもので、鏃身部形態によって細分した。4は片面調整である。5は鏃身部側縁が内湾する。6は茎部と鏃身部の境界が不明瞭なものである。左右非対称形で、茎部が厚い。片面調整で、断面形は二等辺三角状をなす。7･8は明瞭な茎部をもち、基部が平らである。8は逆刺部分が明瞭で、茎部側縁は若干の抉り調整がなされる。9は尖頭部と茎部の境の不明瞭なもので、下端部が欠損している。側縁はやや鋸歯状に調整されており、正面左側縁は裏面から、右側縁は表面から最終的な調整がなされる。10は正面左側縁下部と裏面の右側縁下部と左側縁上部には、連続的な微細剥離がみられる。この調整は次の段階の剥離を行うための打面作出であると考えられる。全て黒曜石製で、10については原産地分析の結果、赤井川？産と推定された（第Ⅳ章第6節参照）。

石錐（11～13）

計4点出土した。11は素材の形態を大きく残す。2ヵ所の機能部をもつが、先端が欠損している。正面右側縁は若干磨滅している。12は両面が剥離痕に覆われているもので、柄部と機能部の区別が明瞭である。先端は素材の軸に対し、やや斜行する。13は両端に機能部をもつ。片面調整で断面が正三角をなす。全て黒曜石製である。

ナイフ・スクレイパー類（14～20）

計9点出土した。14は比較的小型の剥片を素材とし、つまみが作出されている。刃部左側縁には使用によると思われる微細な剥離痕がみられる。15は片面調整で、両側縁に微細剥離がみられる。16は両面調整で、尖状の刃部を持つ。17はつまみ付きナイフの未成品である。裏面右側縁は表面から連続的に剥離され、打面を作出している。同様の製作工程は、縄文早期末葉～前期初頭の「松原型」のつまみ付きナイフに類似する（秦 1992）。未成品の出土事例は、函館市磨光A遺跡（南茅部町教育委員会 1994）や蛯子川2遺跡（戸井町教育委員会 1995）、豊浦町の高岡1遺跡（北海道埋蔵文化財センター 1995）などで確認されている。18・19はラウンド・スクレイパーで、18は左側縁に刃部が作出される。19は端部と右側縁の一部に刃部が作出される。表面には岩屑面がみられる。20はサイド・スクレイパーで、右側縁に刃部が作出され、微細な剥離がみられる。左側縁は未調整である。

UF・RF類（21～24）

計18点出土した。21は主に剥片の上下から調整が行われ、平面形は方形を呈する。表面右側縁に若干磨滅がみられる。22は横長剥片の下端に、23は左側縁に、24は両側縁に連続的な微細剥離がみられる。15・17が頁岩製で、14・16・18～24は黒曜石製である。18・19・22～24は全てAL-26区にて一括出土しており、同一時期の遺物と思われる。19・22は原産地分析の結果、赤井川産と同定された（第Ⅳ章第6節参照）。

石核（25）

計3点出土した。25の表面は上端と右側縁下部に、裏面は左側縁と右側縁下部から剥離されている。石材は頁岩で、若干粗粒な石質や褐色を呈する風化面の色調から厚真川やショロマ川で採取される石質であると思われる。（松井）

3. 礫石器（図Ⅲ-48～51　図版64・65）

石斧（26～28）

計14点出土した。26は撥形で片刃を呈す。剥離後、研磨されているが、窪んだ部分には剥離痕が残る。また、基部端には礫面がわずかに残る。表面の刃部先端には刃こぼれ状の剥離がみられる。27は短冊形で、両刃を呈す。剥離後、ほぼ全面が研磨されているが、裏面には剥離痕が、基部付近には素材の節理面が残る。正面の刃部先端には、使用痕と思われる線条痕と微細な剥離痕がみられる。28は基部が欠損したもの。斜刃で両刃を呈す。擦り切り痕を残し敲打後、全面研磨されている。胴部は研磨による線条痕が明瞭で調整が若干粗いのに対し、刃部先端付近の研磨は入念で光沢がみられる。全て緑色泥岩製である。

たたき石（29～38）

計69点出土した。29～33は縦長の扁平礫を素材とする。29・30の表裏面中央部に敲打痕がみられる。29の裏面は敲打後、研磨されており、線条痕が明瞭に残る。研磨による礫の磨滅・変形は極わずかである。31・32は中央部と側縁に敲打痕がみられる。31の敲打痕は浅く、あまり明瞭ではない。裏面や側縁の使用はごくわずかである。32は両腹面の上下に敲打痕がみられる。正面の敲打痕はやや疎らであるが、裏面には明瞭な窪みが形成され、使用がより顕著である。33は方形で扁平な礫を素材とし、正面に3ヵ所の敲打痕が残る。下部の敲打痕に比べると、

上部側 2 つの敲打痕は明瞭で、使用が顕著である。34～36 は不整形で厚みのある礫を素材としている。34 は両面中央部に敲打による非常に明瞭な窪みが形成されている。敲打痕は縦位に広がっている。35 は断面が三角形となる礫で、側縁稜 2 ヵ所が使用されている。正面よりも側縁稜の敲打痕が深い。36 は断面が潰れた三角形状の礫を素材とし、側縁稜に敲打痕がみられる。敲打に伴う剥離が頂部から側縁部に残る。37 は両面の中央部に浅い敲打痕がみられる。全て砂岩製である。38 は側面に敲打痕と剥離痕が残されている。

すり石（39～41）

計 23 点出土した。39 は断面三角形の礫の側縁稜 2 面に幅 5㎜ 前後の擦り面とわずかに敲打痕がみられる。また、裏面には敲打痕がみられる。明確に共伴する土器は出土していないが、縄文早期後葉の「穀擦り石」に類似する。40 は断面方形の礫の側縁稜に幅 10～15㎜ の擦り面がみられ、両端部にはわずかに敲打痕もみられる。41 は扁平例の側縁稜に幅 5～20㎜ の擦り面がみられる。連続的に剥離が行われ、擦り面の幅は部分的に狭い。

砥石（42・43）

計 9 点出土した。42 は厚さ 68㎜ の礫片の中央部に不整形な使用面がみられ、僅かに溝状に窪む。43 は 3 面の使用で、線条痕はあまりみられない。正面中央部に敲打痕がみられ、裏面右側縁には連続的な剥離がみられる。44 は両面に使用面をもち、細かい線条痕が若干みられる。

滑沢面のある礫（45）

計 1 点出土した。45 は正面上部寄りに滑沢面が広がり、平坦面から側縁稜にかけて使用している。重量から、設置して使用する作業台と考えられる。

線条痕のある礫（46）

計 2 点出土した。46 の線状痕は幅、深さ共に 1 ㎜ 未満であるが、明瞭で正面の方が若干深い。

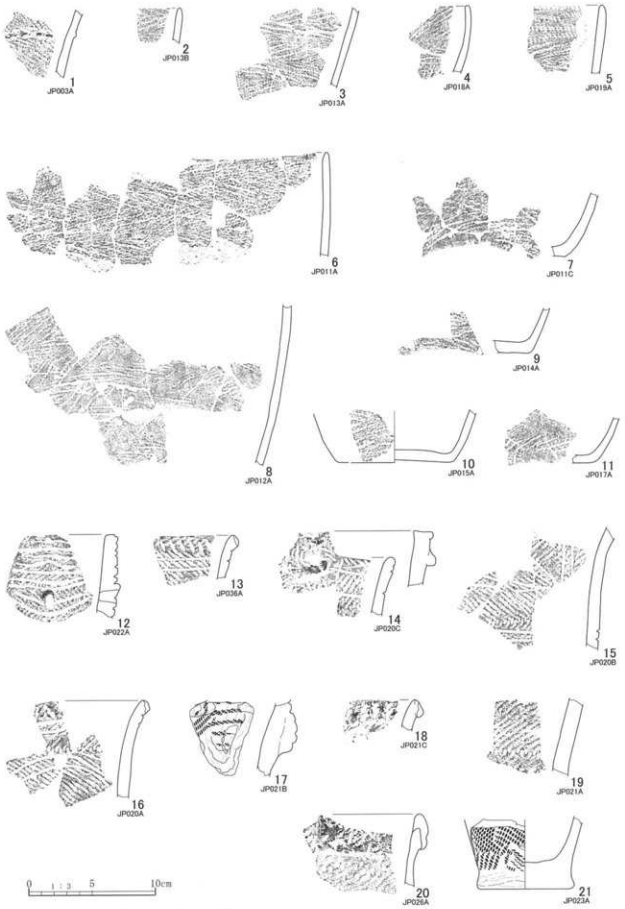
石皿・台石（47・48）

計 18 点出土した。47 は中央部に敲打痕がみられる。断面形は裏側が尖る逆三角形で、不安定な形態である。石器の重量や短軸から手持ちのたたき石として使用するとは考えられないため、浅い掘り込み等に設置しての使用方法が想定される。48 は大型の台石である。正面には疎らに敲打痕がみられる。

加工痕のある礫（49）

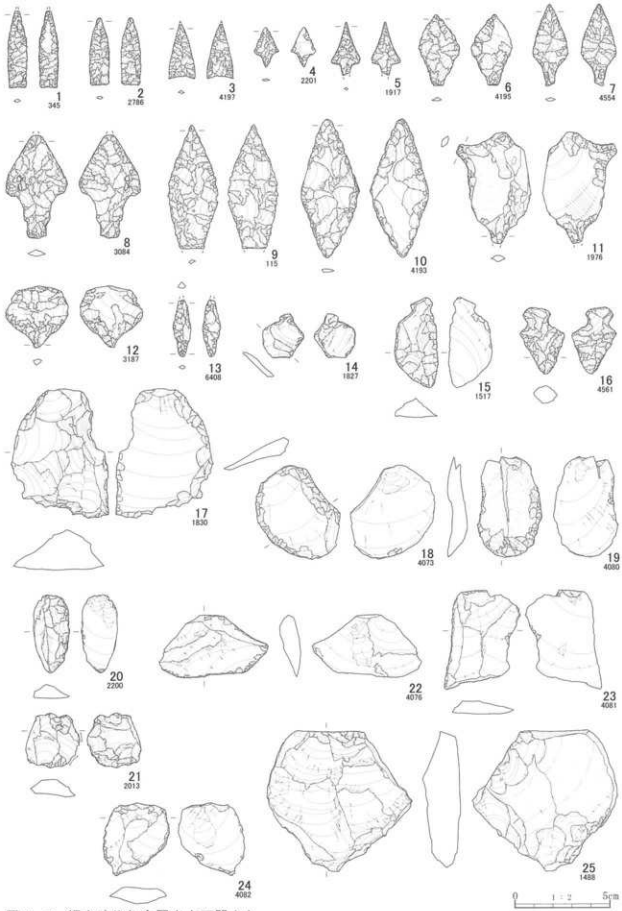
計 3 点出土した。49 は大型の礫の右側縁に裏面から、比較的大きな剥離が連続的に行われている。

（松井）

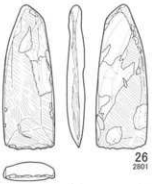


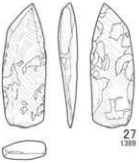
図Ⅲ-45 縄文時代包含層出土土器(1)

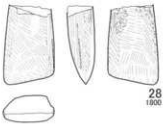
図Ⅲ-46　縄文時代包含層出土土器(2)

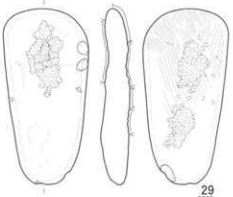


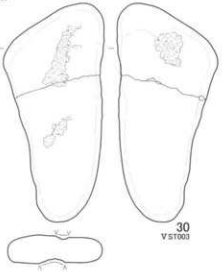
図Ⅲ-47 縄文時代包含層出土石器(1)

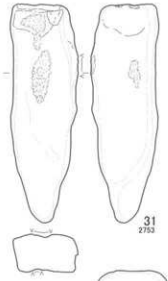

26
2801

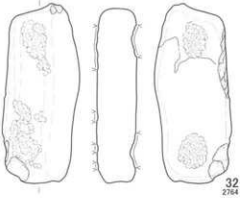

27
1389


28
1600

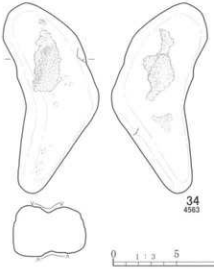

29
2203


30
ⅤST003

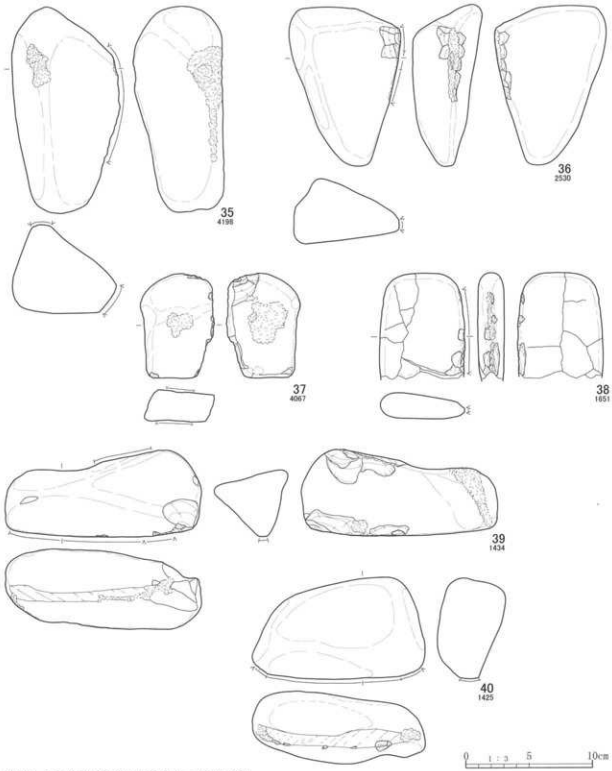

31
2753


32
2764

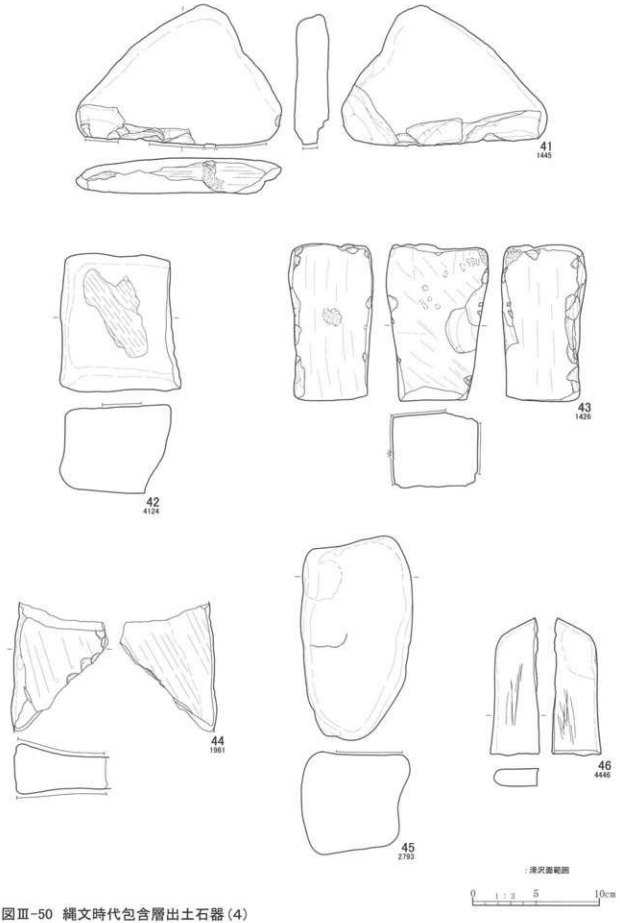
33
1507


34
4563

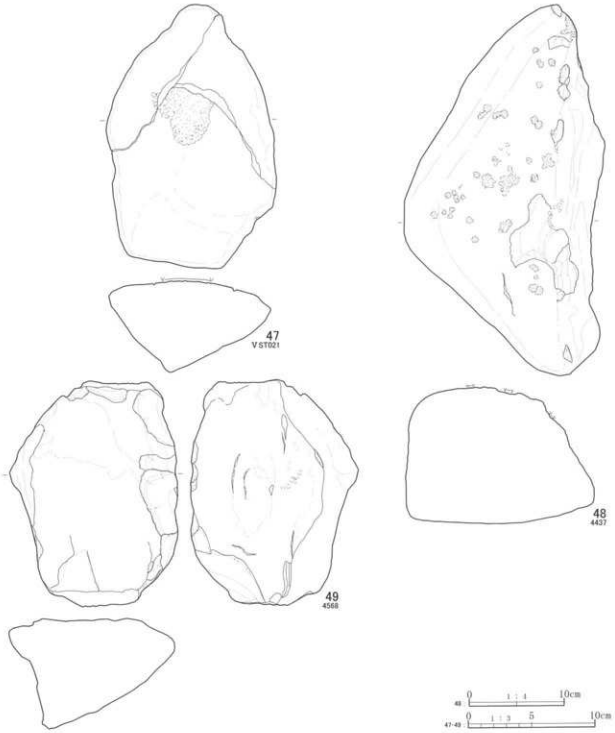
0
1/3
5
10cm



図Ⅲ-49 縄文時代包含層出土石器(3)



図Ⅲ-50　縄文時代包含層出土石器(4)



図Ⅲ-51 縄文時代包含層出土石器(5)

表Ⅲ-13　縄文時代包含層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	道構名/グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土(砂粒等)	備考
								口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面		
Ⅲ-45-1	61-1	JP003 A	ⅠB3	AP-30	Ⅵ	1	胴部下半	外傾(外反気味)	陸起線文・RL縄文	砂粒中量	
Ⅲ-45-2	61-2	JP013 B	ⅠB4	AR-30	Ⅵ	1	口縁部	平縁-角状(尖状)	撚糸文(羽状構成)	砂粒中量	
Ⅲ-45-3	61-3	JP013 A	ⅠB4	AQ-31	Ⅵ	6	胴部	外傾	RL撚糸文(水平区画帯)+LR撚糸文(斜行充填)	砂粒多量	
Ⅲ-45-4	61-4	JP018 A	ⅠB4	AQ-29	Ⅴc	2	口縁部	平縁・内湾-丸状	撚糸文(羽状構成)	砂粒多量・石英結晶粒少量	富良野盆地系
Ⅲ-45-5	61-5	JP019 A	ⅠB4(新)	AV-22	Ⅴc	1	口縁部	平縁-角状(尖状)	短縄文・撚糸文(2条1対・羽状構成)	砂粒多量	
Ⅲ-45-6	61-6	JP011 A	ⅠB4	AP-29	Ⅵ	16	口縁部	直立(内湾気味)-角状(尖状)	撚糸文(羽状構成)	砂粒中量	粘土帯接合面で破損
Ⅲ-45-7	61-7	JP011 C	ⅠB4	AO-29 AP-29	Ⅵ	2 7	底部	外傾(内湾気味)-丸状-平底(上げ底気味)	ミガキ+撚糸文(羽状構成)-ミガキ	砂粒少量	
Ⅲ-45-8	61-8	JP012 A	ⅠB4	AP-30 AQ-30 AQ-31	Ⅵ	8 1 2	胴部	直立～外傾(内湾気味)	撚糸文(羽状構成)	砂粒中量	器表面風化磨滅
Ⅲ-45-9	61-9	JP014 A	ⅠB4	AQ-30 AP-30	Ⅵ	1 1	底部	外傾-隅丸角状-平底	撚糸文(羽状構成)	砂粒中量	
Ⅲ-45-10	61-10	JP015 A	ⅠB4	AQ-31 AS-32 TP-01	ⅤbM Ⅴc Ⅵ ⅤB 1	1 1 1 1 1	底部	外傾-隅丸角状-平底(上げ底気味)	撚糸文(羽状構成)-ミガキ	多量・石英結晶粒中量	富良野盆地系
Ⅲ-45-11	61-11	JP017 A	ⅠB4	AR-30	ⅤbL	1	底部	外傾(内湾気味)-隅丸角状-平底	LR撚糸文	多量・石英結晶粒中量・雲母微量	富良野盆地系
Ⅲ-45-12	61-12	JP022 A	ⅢA2b	AS-31	ⅤbM	1	口縁部	台形状突起	銀歯状沈線文(平縁部)-平行・弧状沈線文+貫通孔-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅲ-45-13	61-13	JP036 A	ⅢA2b	AQ-31	ⅤbM	1	口縁部	平縁・外反-外削ぎ切出し状	LR斜行縄文・刻み(斜位)/平行沈線文(2条1対)+RL斜行縄文-ミガキ	砂粒中量	
Ⅲ-45-14	61-14	JP020 C	ⅢA2b	VPB-01B AP-31	ⅤbU	1 1	口縁部	平縁・外反-外削ぎ切出し状	台形状小突起+貼付文(横位弧状)・縄刻み(斜位)/沈線文(突起垂下+弧状)+結束第1種羽状縄文-ミガキ顕著	砂粒中量・赤色岩粒微量	
Ⅲ-45-15	61-15	JP020 B	ⅢA2b	AQ-31 AQ-32	Ⅴc ⅤbM ⅤbL	1 1 1	口縁部～胴部上半	やや外傾～外反	平行沈線文(2条1対・縦位区画+弧状)+結束第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒中量・赤色岩粒微量	
Ⅲ-45-16	61-16	JP020 A	ⅢA2b	AQ-31 AQ-32	ⅤbM	3 1	口縁部	平縁・外反-外削ぎ切出し状(やや肥厚)	縄刻み/平行沈線文(2条1対・弧状)+結束第1種羽状縄文-ミガキ	中量・赤色岩粒微量	
Ⅲ-45-17	61-17	JP021 B	ⅢA2b	AS-31	Ⅵ	1	口縁部	平縁(貼付帯)・外反-丸状	貼付帯+縄刻み+縦位貼付帯+縄線文・LR縄文-ミガキ	砂粒中量・繊維繊維	
Ⅲ-45-18	61-18	JP021 C	ⅢA2b	AS-31	ⅤbL	1	口縁部	平縁・外反-外削ぎ切出し状	貼付帯+縄刻み LR斜行縄文-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	補修孔
Ⅲ-45-19	61-19	JP021 A	ⅢA2b	AS-31	Ⅴc	2	胴部	外反	結束第1種斜行縄文-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅲ-45-20	61-20	JP026 A	ⅢA2b	G-15	ⅤbL	1	口縁部	平縁+山形突起・外反-内削ぎ切出し状(肥厚帯)	貼付文(突起下縦位)・結束第1種斜行縄文/結束第1種斜行縄文	砂粒少量・繊維少量・黒曜石細片1点	
Ⅲ-45-21	61-21	JP023 A	ⅢA2b	AI-25	ⅤbL	3	底部	外傾/張り出し-丸状-平底	結束第1種羽状縄文/横ミガキ-ミガキ	砂粒中量・繊維少量	

表Ⅲ-13 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	部位	器形等		文様		胎土(砂粒)	備考
								口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面		口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面			
Ⅲ-46-22	62-22	JP027 A	ⅢB2	AQ-31	Vc	12	口縁部	平縁・外反-隅丸角状/頸部屈曲/緩く膨らむ		縄線文-棒状貼付文+縄線文+平行沈線文・貼付文+縄刻み(斜位)・LR斜行縄文		中量・繊維微量	
Ⅲ-46-23	62-23	JP027 C	ⅢB2	AQ-31	Vc	2	口縁部	平縁・隅丸角状		縄線文-平行沈線文・LR斜行縄文		中量・繊維微量	
				AS-31	ⅢbU	1							
Ⅲ-46-24	62-24	JP027 B	ⅢB2	AS-31	VbU	10	胴部	緩く膨らむ		LR斜行縄文		中量・繊維微量	内面ケズリ調整著
Ⅲ-46-25	62-25	JP028 A	ⅢB2	AQ-30	Vc	3	口縁部	平縁・外反-隅丸角状/頸部屈曲/やや膨らむ		縄刻み(斜位)-LR斜行縄文/LR斜行縄文(横走気味)		少量・繊維中量	
				AQ-31		11							
Ⅲ-46-26	62-26	JP028 B	ⅢB2	AQ-30	VbL	1	胴部下半	外傾(外反気味)		LR斜行縄文(縦回転)・LR斜行縄文(横回転)		少量・繊維中量	
				AQ-31	Vc	2							
				AQ-32		1							
				AR-31	Ⅵ	1							
Ⅲ-46-27	62-27	JP028 E	ⅢB2	AM-25	VbM	4	底部	直立-隅丸角状-平底		LR斜行縄文(横走気味)		少量・繊維中量	
Ⅲ-46-28	62-28	JP034 A	ⅢB2	AQ-31	Vc	3	口縁部	平縁・外反		LR斜行縄文-LR斜行縄文(縦走気味)		中量・赤色岩片微量繊維少量	
Ⅲ-46-29	62-29	JP031 A	ⅣA1a	AT-22	Vc	1	胴部	やや外傾		重複縄文		多量	
Ⅲ-46-30	62-30	JP033 A	VB	AS-31	VbM	1	口縁部	平縁・外傾-角状		ヘラナデ/RL斜行縄文		多量・石英結晶粒	富良野盆地系
Ⅲ-46-31	62-31	JP032 A	VB	AS-33	Ⅵ	2	底部	浅鉢:内湾気味に外傾-角状-凸状		LR斜行縄文-LR斜行縄文		中量	

表Ⅲ-14　縄文時代包含層出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構/グリッド	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-47-1	63-1	-	345	ポイント類	A1	KR	AL-25	(40.1)	10.2	3.5	(1.5)	Obs.	-
Ⅲ-47-2	63-2	-	2786	ポイント類	A1	VbL	AM-25	35.0	10.2	4.1	1.5	Obs.	-
Ⅲ-47-3	63-3	-	4197	ポイント類	A2b	VbL	AE-25	(28.7)	13.5	3.2	(1.0)	Obs.	-
Ⅲ-47-4	63-4	-	2201	ポイント類	A3a	VbL	AS-31	21.3	12.4	1.8	0.4	Obs.	-
Ⅲ-47-5	63-5	-	1917	ポイント類	A3b	VbL	AR-31	(27.8)	14.9	3.2	(0.9)	Obs.	-
Ⅲ-47-6	63-6	-	4195	ポイント類	A4	VbL	AF-26	37.1	21.1	7.1	4.1	Obs.	-
Ⅲ-47-7	63-7	-	4554	ポイント類	B1a	VbU	K-16	41.5	17.6	3.7	2.4	Obs.	-
Ⅲ-47-8	63-8	-	3084	ポイント類	B1a	Vc	AR-24	(53.5)	31.2	8.9	(9.8)	Obs.	-
Ⅲ-47-9	63-9	-	115	ポイント類	B2	VbL	AO-21	(65.0)	24.8	6.3	(9.7)	Obs.	-
Ⅲ-47-10	63-10	-	4193	ポイント類	B2	VbL	AF-26	72.8	30.5	6.7	11.1	Obs.	未成品・原産地分析赤井川 AS-1
Ⅲ-47-11	63-11	-	1976	石錐	A	Ⅵ	AQ-29	(58.3)	35.3	12.2	(19.7)	Obs.	-
Ⅲ-47-12	63-12	-	3187	石錐	B	VbM	TP-18	32.8	32.4	8.4	8.2	Obs.	-
Ⅲ-47-13	63-13	-	6408	石錐	D	VbU	AL-26-1	(30.5)	9.4	4.8	(1.1)	Obs.	-
Ⅲ-47-14	63-14	-	1827	ナイフ・スポレイパー類	A1	VbL	AP-30	25.8	19.8	5.1	2.2	Obs.	-
Ⅲ-47-15	63-15	-	1517	ナイフ・スポレイパー類	A2	VbL	AR-30	48.9	22.5	10.6	9.6	Sh.	-
Ⅲ-47-16	63-16	-	4561	ナイフ・スポレイパー類	A3	VbU	N-17	36.4	22.6	9.4	5.7	Obs.	-
Ⅲ-47-17	63-17	-	1830	ナイフ・スポレイパー類	A	Vc	AP-30	73.5	49.4	21.0	64.7	Sh.	松原型の未成品
Ⅲ-47-18	63-18	-	4073	ナイフ・スポレイパー類	B2	VbU	AL-26	51.2	38.0	8.2	15.7	Obs.	-
Ⅲ-47-19	63-19	-	4080	ナイフ・スポレイパー類	B2	VbU	AL-26	51.6	33.7	12.2	17.2	Obs.	岩絣面有・原産地分析赤井川 AS-2
Ⅲ-47-20	63-20	-	2200	ナイフ・スポレイパー類	C1a	Vc	AS-31	40.8	18.7	6.8	6.1	Obs.	-
Ⅲ-47-21	63-21	-	2013	RF	-	VbU	AR-25	32.1	29.6	9.4	6.3	Obs.	-
Ⅲ-47-22	63-22	-	4076	UF	-	VbU	AL-26	57.4	32.1	11.0	15.7	Obs.	原産地分析赤井川 AS-3
Ⅲ-47-23	63-23	-	4081	UF	-	VbU	AL-26	52.5	35.1	7.2	15.0	Obs.	-
Ⅲ-47-24	63-24	-	4082	UF	-	VbU	AL-26	43.3	34.0	7.9	10.0	Obs.	-
Ⅲ-47-25	63-25	-	1488	石核	-	VbM	AR-31	72.4	71.3	19.4	105.7	Sh.	厚真産頁岩
Ⅲ-48-26	64-26	-	2801	石斧	A1a	VbM	AV-24	112.5	40.3	14.8	105.5	Gr-Mud.	-
Ⅲ-48-27	64-27	-	1389	石斧	A2a	VbU	AS-30	95.7	35.1	13.5	66.9	Gr-Mud.	-
Ⅲ-48-28	64-28	-	1800	石斧	A2a	Vc	AQ-29	(61.5)	39.6	21.9	(86.3)	Gr-Mud.	擦切技法
Ⅲ-48-29	64-29	-	2203	たたき石	ⅠA1	Vc	AS-31	138.2	67.0	23.2	212.0	Mud.	擦痕あり
Ⅲ-48-30	64-30	VST003	1477 1915	たたき石	ⅠA1	VbL	AR-31	165.0	85.8	22.0	396.0	Sa.	-
Ⅲ-48-31	64-31	-	2753	たたき石	ⅠB3	Vc	AV-22	157.2	46.3	32.3	352.0	Sa.	-
Ⅲ-48-32	64-32	-	2764	たたき石	ⅠB3	Vc	AS-24	142.9	53.6	31.0	326.0	Sa.	被熱
Ⅲ-48-33	64-33	-	1507	たたき石	ⅡA1	VbL	AR-30	117.5	70.8	24.4	308.0	Sa.	-
Ⅲ-48-34	64-34	-	4563	たたき石	ⅡB1	VbL	M-18	148.7	59.0	40.9	486.0	Sa.	-
Ⅲ-49-35	64-35	-	4198	たたき石	ⅡB2	VbL	AO-30	160.3	80.4	67.9	109.0	Sa.	-
Ⅲ-49-36	64-36	-	2530	たたき石	ⅡB2	Vc	AP-25	127.2	87.4	55.2	495.0	Sa.	わずかにすり痕あり
Ⅲ-49-37	64-37	-	4067	たたき石	Ⅳ	VbM	AN-26	(83.3)	(54.7)	28.4	(160.0)	Sa.	-
Ⅲ-49-38	64-38	-	1651	たたき石	Ⅴ	VbL	AP-29	(83.1)	61.9	20.8	(164.0)	Sa.	-
Ⅲ-49-39	64-39	-	1434	すり石	A	VbL	AQ-30	150.9	72.5	55.9	580.0	Sa.	すり面2か所
Ⅲ-49-40	64-40	-	1425	すり石	B	Vc	AQ-29	136.0	74.6	51.0	750.0	Sa.	被熱
Ⅲ-50-41	64-41	-	1445	すり石	C2	VbU	AP-31	166.5	118.1	26.7	560.5	Sa.	-
Ⅲ-50-42	64-42	-	4124	砥石	-	VbM	AH-20	95.1	97.3	68.0	1,115.0	Sa.	-
Ⅲ-50-43	65-43	-	1426	砥石	-	KR	AR-28	121.9	78.6	63.0	1,000.0	Sa.	-
Ⅲ-50-44	65-44	-	1961	砥石片	-	Ⅵ	AQ-31	(92.7)	(72.5)	38.5	(270.0)	Sa.	-
Ⅲ-50-45	65-45	-	2793	滑沢面のある礫	-	VbL	AM-26	160.0	78.0	77.3	1,750.0	Sa.	-
Ⅲ-50-46	65-46	-	4446	線条痕のある礫	-	VbL	G-15	108.3	38.9	17.1	100.0	Sa.	-
Ⅲ-51-47	65-47	VST021	4085 4086	台石	-	VbU	AL-26	210.0	125.9	70.5	1,770.0	Sa.	-
Ⅲ-51-48	65-48	-	4437	台石	-	Vc	AN-30	380.0	230.0	132.8	12,400.0	Sa.	-
Ⅲ-51-49	65-49	-	4568	加工痕のある礫	-	KR	G-15	170.5	113.4	86.2	2,050.0	Sa.	-

第Ⅳ章　自然科学的分析

第１節　上幌内１遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

上幌内１遺跡は、北海道勇払郡厚真町字幌内 372-1～3（北緯 42° 46′ 24″、東経 142° 0′ 34″）に所在する。測定対象試料は、焼土や獣骨集中から出土した種子、炭化材の合計６点である（表 1）。

試料が出土した焼土や獣骨集中は、いずれも樽前ｂテフラ（1667 年降下）に被覆され、検出層位や出土遺物に基づき、ⅢF-02（試料 No. 7）、ⅢF-22（試料 No. 12）が 13･14 世紀代、ⅢF-34（試料 No. 9）、ⅢBB-09（試料 No. 10）が 12 世紀代と推定される。ⅢF-09 出土の試料 No. 8 とⅢF-35 出土の試料 No. 11 については、遺構の検出層位や遺物の所見に加え、試料が植物根によって上位から混入した可能性があるものの、検出層位よりⅢF-09 は 13･14 世紀代、ⅢF-35 は擦文文化期に属するとされる。

２　測定の意義

遺構の帰属時期を考古学的に決定することが難しい場合があるため、年代測定結果を参考情報として検討する。

３　化学処理工程

（１）メス･ピンセットを使い、根･土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表１に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径１mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）$\delta^{13}C$は、試料炭素の^{13}C濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代は$\delta^{13}C$によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2、3に示した。^{14}C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±1σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

（3）pMC（percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値も$\delta^{13}C$によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2、3に示した。

（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり1標準偏差（1σ＝68.2%）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$補正を行い、下1桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2、3に示した。なお、暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表2、図1に、後者を表3、図1に示した。

6　測定結果

測定結果を表1～3、図1に示す。較正年代は、cal BPとcal BC/ADの2通りで算出したが、以下の説明ではcal BC/ADの値で記載し（表3、図1）、cal BPの値は図表のみ提示した（表2、図1）。

試料6点の^{14}C年代は、1040±30yrBP（No.11）から640±20yrBP（No.7）の間にある。暦年較正年代（1σ）は、最も古いNo.11が991～1020cal ADの範囲、最も新しいNo.7が1293～1387cal ADの間に2つの範囲で示される。推定年代に対して、No.7～9、12が一致し、No.10がやや新しく、No.11が古い値となっている。ただし、No.11については、擦文文化期と考えられる遺構に上位から試料が混入した可能性を考慮した上での推定年代であり、遺構の時期と

は整合する（臼杵編 2007）。また、樽前bテフラとの上下関係に対しては、6点とも矛盾しない結果である。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

臼杵勲編 2007 科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書，札幌学院大学人文学部

表1 放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA -143212	No.7(炭化種子 同定No.02)	Ⅲ F-02 (Ⅲ H-02付属炉) Ⅲb層中位	クルミ 内果皮片	AaA	-25.6 ±0.54	640 ± 20	92.29 ±0.27
IAAA -143213	No.8(炭化種子 同定No.04)	Ⅲ F-09 (Ⅲ H-01付属炉) Ⅲb層中位	クルミ 内果皮片	AAA	-24.1 ±0.64	670 ± 20	92.03 ±0.27
IAAA -143214	No.9(炭化種子 同定No.12)	Ⅲ F-34 (擦文文化期 集中区1付属炉) Ⅲb層下位	炭化種子 (コナラ属)	AAA	-26.4 ±0.47	980 ± 20	88.53 ±0.27
IAAA -143215	No.10(炭化種子 同定No.14)	Ⅲ HB-09 (擦文文化期 集中区1付属) Ⅲb層下位	クルミ 内果皮片	AAA	-26.4 ±0.56	740 ± 20	91.25 ±0.28
IAAA -143216	No.11(炭化種子 同定No.25)	Ⅲ F-35 (擦文～中世アイヌ文化期単独焼土) Ⅲb層下位	炭化種子 (ブドウ科種子)	AAA	-29.3 ±0.39	1,040 ± 30	87.9 ±0.28
IAAA -143217	No.12	Ⅲ F-22 (Ⅲ H-03付属炉) Ⅲb層中位	炭化材(木炭)	AAA	-25.6 ±0.49	660 ± 20	92.16 ±0.27

[#7174]

表2　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用^{14}C年代、較正年代cal BP）

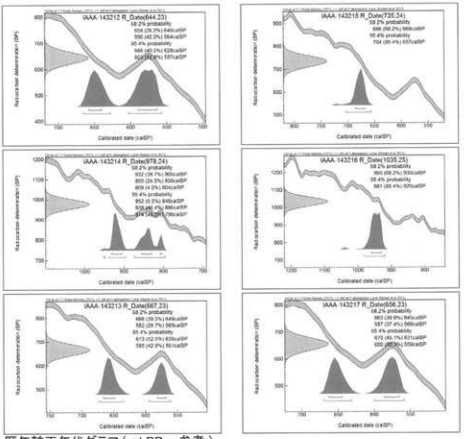
測定番号	δ^{13}C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA -143212	650 ± 20	92.17 ± 0.25	644 ± 23	658calBP - 640calBP (26.2%)	666calBP - 628calBP (40.5%)
				590calBP - 564calBP (42.0%)	603calBP - 557calBP (54.9%)
IAAA -143213	650 ± 20	92.2 ± 0.24	667 ± 23	666calBP - 649calBP (39.5%)	673calBP - 635calBP (52.5%)
				582calBP - 569calBP (28.7%)	595calBP - 561calBP (42.9%)
IAAA -143214	1,000 ± 20	88.27 ± 0.25	978 ± 24	932calBP - 905calBP (39.7%)	952calBP - 948calBP (0.5%)
				855calBP - 830calBP (24.5%)	938calBP - 896calBP (46.4%)
				809calBP - 804calBP (4.0%)	874calBP - 796calBP (48.5%)
IAAA -143215	760 ± 20	90.99 ± 0.26	735 ± 24	686calBP - 668calBP (68.2%)	704calBP - 657calBP (95.4%)
IAAA -143216	1,110 ± 20	87.13 ± 0.27	1,035 ± 25	960calBP - 930calBP (68.2%)	981calBP - 920calBP (95.4%)
IAAA -143217	670 ± 20	92.05 ± 0.26	656 ± 23	663calBP - 645calBP (30.8%)	670calBP - 631calBP (45.1%)
				587calBP - 566calBP (37.4%)	600calBP - 559calBP (50.3%)

［参考値］

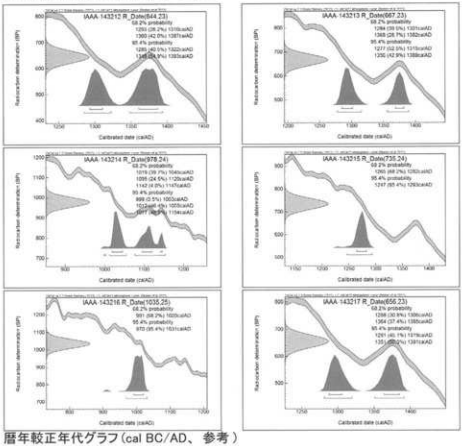
表3　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用^{14}C年代、較正年代cal BC/AD）

測定番号	δ^{13}C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA -143212	650 ± 20	92.17 ± 0.25	644 ± 23	1293calAD - 1310calAD (26.2%)	1285calAD - 1322calAD (40.5%)
				1360calAD - 1387calAD (42.0%)	1348calAD - 1393calAD (54.9%)
IAAA -143213	650 ± 20	92.20 ± 0.24	667 ± 23	1284calAD - 1301calAD (39.5%)	1277calAD - 1315calAD (52.5%)
				1368calAD - 1382calAD (28.7%)	1356calAD - 1389calAD (42.9%)
IAAA -143214	1,000 ± 20	88.27 ± 0.25	978 ± 24	1019calAD - 1045calAD (39.7%)	999calAD - 1003calAD (0.5%)
				1095calAD - 1120calAD (24.5%)	1012calAD - 1055calAD (46.4%)
				1142calAD - 1147calAD (4.0%)	1077calAD - 1154calAD (48.5%)
IAAA -143215	760 ± 20	90.99 ± 0.26	735 ± 24	1265calAD - 1282calAD (68.2%)	1247calAD - 1293calAD (95.4%)
IAAA -143216	1,110 ± 20	87.13 ± 0.27	1,035 ± 25	991calAD - 1020calAD (68.2%)	970calAD - 1031calAD (95.4%)
IAAA -143217	670 ± 20	92.05 ± 0.26	656 ± 23	1288calAD - 1306calAD (30.8%)	1281calAD - 1319calAD (45.1%)
				1364calAD - 1385calAD (37.4%)	1351calAD - 1391calAD (50.3%)

［参考値］



暦年較正年代グラフ（cal BP、参考）



暦年較正年代グラフ（cal BC/AD、参考）

図1　暦年較正グラフ

第２節　平成 26 年度北海道勇払郡厚真町上幌内１遺跡の動物

千歳市埋蔵文化財センター　高橋　理

はじめに

上幌内１遺跡は２級河川厚真川上流域における厚幌ダム建設に伴う平成 26 年度事前調査として、厚真町教育委員会によって発掘調査が行われた。調査面積は 9,022 ㎡である。出土した遺構、遺物はアイヌ文化期、擦文文化期、縄文時代早期・中期中葉～後期前葉と広汎にわたる。

筆者に分析が依頼された資料は、中世前半アイヌ文化期、アイヌ文化期、擦文文化期の住居跡及び炉跡、獣骨集中において検出されたものである。

筆者に分析の機会を与えられた厚真町教育委員会各位に心より御礼申し上げます。

出土動物

今回分析を依頼された資料は、中世前半アイヌ文化期、アイヌ文化期、擦文文化期の住居跡及び獣骨集中のものである。これらは、調査現場における回収法（ハンドピック）と、採取土壌に対するフローテーション法によるものである。本報告は双方による回収資料についてである。

出土した動物は、カワシンジュガイ、コイ科魚類、サケ科魚類、シカ、ヒグマである。ヒグマがやや多く認められたことは特筆される。

表１～５にハンドピックとフローテーションによって回収された動物を時期別・遺構別に示している。それらは次のように分類、整理される。

軟体動物門　Mollusca
　二枚貝綱 Bivalvia
　　古異歯目　Paleoheterodonta
　　カワシンジュガイ科　Margaritiferidae
　　カワシンジュガイ　*Margaritifera laevis*
脊椎動物門　Vertebrata
　条鰭綱　Actinopterygii
　　サケ目 Salmoniformes
　　サケ科 Salmonidae
　　コイ目 Cypriniformes
　　コイ科 Cyprinidae
　哺乳綱 Mammalia
　　食肉目 Carnivora
　　クマ科　Ursidae
　　ヒグマ *Ursus arctos*
　　クジラ偶蹄目 Cetartiodactyla
　　シカ科 Cervidae
　　ニホンジカ *Cervus nippon*

コメント

・中世アイヌ文化期

該期に属するⅢH-01 および関連するⅢBB-01A･B･C、ⅢH-02 および関連するⅢBB-02･04、ⅢP-02･04 では多くのシカと少なからぬヒグマが認められた。また、フーロテーション法によりⅢH-01･02･03 の炉跡からもシカが検出されている。ⅢH-02 ではシカの袋角の破片が出土している。

該期の動物はシカを主体とする陸獣類がほぼすべてであり、魚類はごく少量である。

さて、２軒の住居跡に関連するとされるⅢBB（獣骨集中）であるが、すべて住居跡の東に位置し、調査者によれば神窓（ロルンプヤル）の延長にあたるという。そのシカの出土状況であるが、ほぼすべてが頭骨あるいは頭骨に由来する部位であることが注目される。下顎歯も少なくないことから、頭骨は下顎をともなっていたことがわかる。臼歯の磨滅指数は、第一後臼歯４～５、第二後臼歯４～６、第三後臼歯５～７であり、２歳をすぎて永久歯列となってあまり時を経ない若い成獣個体が狩猟の対象となっていたことを示す。

これら若いシカ個体の頭骨が住居跡の東側に集中している事実は、シカ送りが行われていたことを示すものと考えられる。

ヒグマについてであるが、これまで 17 世紀半ば以前の遺跡・遺構においてヒグマ骨がこのような位置的状況をもって出土した例はなかった。筆者はこれまでヒグマ儀礼の成立は近世アイヌ文化期より新しいと考えてきた。本例をみても、出土した部位は上腕骨、距骨であり、頭骨に由来するものは含まれない。シカとはあまりにも対照的なヒグマのあり方からは、シカと同様な扱い方をヒグマに施されていたか、すなわちヒグマは送りの対象となっていたかという点は判断を留保せざるをえない。

類例を待つこととする。

・アイヌ文化期

該期の資料は獣骨集中から出土したものである。ⅢBB-03 はシカの四肢骨が主体、ⅢBB-07 は角をはじめ頭骨から成っている。

・擦文文化期

該期における動物はやはりシカが主体であるが、アイヌ期とは異なり、ⅢH-04 の炉からはカワシンジュガイ、サケ科魚類、コイ科魚類など河川由来の資源も出土している。

また、１点ではあるがヒグマ上腕骨が出土している。筆者が実見した限り、該期におけるヒグマの出土は古宇郡泊村掘株１遺跡（10～11 世紀）であるが、掘株１遺跡例は遺構他との関係性が不明である（田部・村上 2005）。

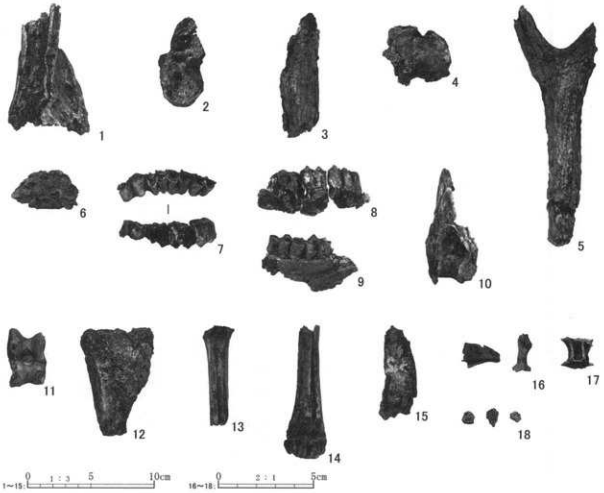
該期におけるヒグマが当時の人々のどのような対象とされていたか今後の課題である。

引用文献

大泰司紀之 1980「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別･年齢･死亡時期査定法」『考古学と自然科学』 13, pp. 51-73

田部　淳･村上章久 2005『掘株１遺跡（２）』　北海道泊村教育委員会

図版1



1. ヒグマ上腕骨遠位骨幹(B.317) 2. ヒグマ上腕骨遠位端(B.081A) 3. ヒグマ橈骨(B.081C) 4. ヒグマ距骨(B.235)
5. シカ角(B.281) 6. シカ袋角(ⅢBB-02) 7. シカ上顎臼歯内側外側(B.211) 8. シカ下顎臼歯(B.075A) 9. シカ下顎歯(B.261)
10. シカ上腕骨遠位端(B.150B) 11. シカ距骨(B.390) 12. シカ脛骨近位端(B.372) 13. シカ中足骨近位端(B.268)
14. シカ中足骨遠位端(B.400) 15. シカ踵骨(B.135) 16. コイ科咽頭骨歯 17. コイ科椎骨 18. サケ椎骨

表1 ハンドピック法動物遺存体同定一覧表

[HH-01間連遺構／中世アイヌ文化期]

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
HH01	ⅢbL	B.125	シカ	臼歯歯冠破片		6	
	ⅢbL	B.271	シカ	臼歯歯冠破片		1	
	ⅢbL	B.272	シカ	臼歯歯冠破片		2	
	ⅢbM	B.001	シカ	臼歯歯冠破片		6	
	ⅢbM	B.002	シカ	臼歯歯冠破片		1	
	ⅢbM	B.003	シカ	歯冠破片		8	
	ⅢbM	B.004	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.005	シカ	臼歯歯冠破片		6	
	ⅢbM	B.006	シカ	臼歯歯冠破片		4	
	ⅢbM	B.007	シカ	臼歯歯冠破片		5	
	ⅢbM	B.008	シカ	臼歯歯冠破片		6	
	ⅢbM	B.009	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.010	シカ	臼歯歯冠破片		8	
	ⅢbM	B.011	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.012	シカ	臼歯歯冠破片		7	
	ⅢbM	B.013	シカ	臼歯歯冠破片		4	
	ⅢbM	B.014	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.015	シカ	臼歯歯冠破片		5	
	ⅢbM	B.016	シカ	臼歯歯冠破片		6	
	ⅢbM	B.017	シカ	臼歯歯冠破片		5	
	ⅢbM	B.018	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.019	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.020	シカ	臼歯歯冠破片		3	図示範囲外
	ⅢbM	B.021	哺乳綱sp.	部位不明		2	図示範囲外
	ⅢbM	B.032	シカ	下顎臼歯歯冠破片		10	他に微細片
	ⅢbM	B.033	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.034	シカ	角幹破片？		1	
	ⅢbM	B.035	シカ	下顎臼歯 M1-M3	L	1	W.L不明
	ⅢbM	B.036	哺乳綱 non det.	部位不明		6	
	ⅢbM	B.037	シカ	下顎臼歯 M1-M3	R	1	W.L不明
	ⅢbM	B.038	シカ	下顎臼歯		4	
	ⅢbM	B.039	哺乳綱 non det.	部位不明		5	
	ⅢbM	B.040	シカ	上顎臼歯M3	R	1	他に微細片
	ⅢbM	B.041	哺乳綱sp.	長管骨骨幹		1	
	ⅢbM	B.042	シカ	下顎臼歯M3	L	1	W.L不明
	ⅢbM	B.043	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.044	シカ	臼歯歯冠破片		6	
	ⅢbM	B.045	シカ	上顎臼歯歯冠破片		8	
	ⅢbM	B.046	哺乳綱 non det.	部位不明		5	
	ⅢbM	B.047	シカ	上顎臼歯歯冠破片		2	
	ⅢbM	B.048A	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.048B	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.048C	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.049	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.050A	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.050B	哺乳綱sp.	長管骨骨幹		1	
	ⅢbM	B.051	シカ	下顎臼歯 下顎体	L	5	W.L不明
	ⅢbM	B.052	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.053	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.054A	不明 sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.054B	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.055	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.056	シカ	臼歯歯冠破片		6	
	ⅢbM	B.057	シカ	下顎臼歯？歯冠破片	L	3	
	ⅢbM	B.058	哺乳綱sp.	遊離歯頸？		1	
	ⅢbM	B.059	哺乳綱sp.	遊離歯頸？		1	
	ⅢbM	B.060	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.061	シカ	下顎臼歯歯冠破片		6	
	ⅢbM	B.062	シカ	下顎臼歯M2	R	3	W.LM2:5
	ⅢbM	B.063	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.064	シカ	下顎臼歯 PM3-M2	L	3	W.L不明

※網かけ部は図版1に表示したものを示す

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
HH01A	ⅢbM	B.065	シカ	上顎臼歯・歯槽	R	3	
	ⅢbM	B.066A	シカ	臼歯・歯槽？歯冠破片		4	
	ⅢbM	B.066B	哺乳綱 部位不明			3	
	ⅢbM	B.067A	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.067B	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.068	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.069	シカ？	上腕骨？遠位端？		5	他不明
	ⅢbM	B.070	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.071	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.072	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.074	不明 spp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.075A	シカ	下顎臼歯・歯槽 M1-M3	L	3	W.LM1:5, M2:4,M3:5
	ⅢbM	B.075B	シカ	睡骨			
	ⅢbM	B.076	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.077A	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.077B	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.077C	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.077D	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.077E	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.077F	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.078	シカ	下顎臼歯	?	6	
	ⅢbM	B.079A	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.079B	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.080	シカ	下顎臼歯歯冠破片		4	
	ⅢbM	B.081A	ヒグマ	上腕骨遠位端 後来外側	R	1	他1点
	ⅢbM	B.081B	シカ	中手・中足骨 骨幹背側破片		2	
	ⅢbM	B.081C	ヒグマ	橈骨骨幹中央	L	1	位置情報未記録
	ⅢbM	B.081D	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.082	シカ	下顎臼歯歯冠破片		2	W.L不明 他に微細片5点
	ⅢbM	B.083A	シカ	中手骨骨幹 背側破片		1	
	ⅢbM	B.083B	哺乳綱 non det.	部位不明		5	
	ⅢbM	B.084A	ヒグマ？	橈骨？骨幹中央	L	1	
	ⅢbM	B.084B	シカ	下顎臼歯 M2-M3	R	2	W.LM2:4,M3:5
	ⅢbM	B.085	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.086	哺乳綱 non det.	部位不明		6	
	ⅢbM	B.087	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.088	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.089	不明 non det.	部位不明		5	
	ⅢbM	B.091A	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.091B	シカ	中手骨骨幹 背側		1	他に微細片2点
	ⅢbM	B.092	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.093	哺乳綱 non det.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.094	シカ	臼歯歯冠破片		1	
	ⅢbM	B.095	哺乳綱 non det.	部位不明		5	
	ⅢbM	B.096	不明 sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.097A	シカ	臼歯歯冠破片		4	
	ⅢbM	B.097B	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.098	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.099	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.100	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.101	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.102	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.103A	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.103B	哺乳綱 non det.	部位不明		3	

表2　ハンドピック法動物遺存体同定一覧表

［Ⅲ1-01関連遺構／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ1B01C	ⅢbM	B.104	哺乳綱 non det.	部位不明		12	
	ⅢbM	B.105	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.106	シカ	下顎臼歯 M1-M2？	R	2	W.上不明
	ⅢbM	B.107	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.108	哺乳綱 non det.	部位不明		5	
	ⅢbM	B.109	シカ	臼歯歯冠破片		1	W.上不明
	ⅢbM	B.110	シカ	臼歯歯冠破片		3	W.上不明
	ⅢbM	B.111	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.112	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.113	シカ	下顎臼歯歯冠破片		3	W.上不明
	ⅢbM	B.114	哺乳綱 non det.	部位不明		3	
	ⅢbM	B.115	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.116	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.117	哺乳綱sp.	部位不明		1	

［Ⅲ1-02関連遺構／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ1B04	ⅢbM	B.172	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.173	哺乳綱 sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.174	シカ	下顎臼歯	L	1	W.LM3;67
	ⅢbM	B.174	シカ	上顎臼歯	R	1	
	ⅢbM	B.175	シカ	角		4	角幹
	ⅢbM	B.176	シカ	臼歯歯冠破片		1	
	ⅢbM	B.176	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.177	哺乳綱 non det.	部位不明		7	
	ⅢbM	B.178	シカ	下顎臼歯 PM3-M3	L	4	W.LM1:4, M2:5, M3:6
	ⅢbM	B.179	シカ	上顎臼歯	R?	8	
	ⅢbM	B.180	シカ	臼歯歯冠破片 歯槽		12	
	ⅢbM	B.182	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.183	シカ	距骨	R	1	
	ⅢbM	B.184	シカ？	上顎臼歯？ 歯冠破片		2	
	ⅢbM	B.185	シカ	臼歯歯冠破片		7	
	ⅢbM	B.186	シカ	下顎臼歯 M2,M3	L	2	他に微破片 W.LM2:5,M3:7
	ⅢbM	B.187	シカ	上顎臼歯歯冠破片	L	3	
	ⅢbM	B.188	シカ	臼歯歯冠破片		10	
	ⅢbM	B.189	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.190	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.191	シカ	下顎臼歯 M1,M2,M3	L	2	W.LM3:6
	ⅢbM	B.191	シカ	下顎臼歯 M1,-M3	R	2	W.LM2:5, M3:6
	ⅢbM	B.192	シカ	下顎臼歯 M2,M3	L	2	W.上不明
	ⅢbM	B.193	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.194	シカ	下顎臼歯 M1-M3	L	3	W.LM2:47, M3:57
	ⅢbM	B.195	シカ	肩甲骨 関節基部付近	R	1	
	ⅢbM	B.195	哺乳綱sp.	長管骨骨幹		1	
	ⅢbM	B.196	シカ	上顎臼歯M3	L	1	他に破片17点
	ⅢbM	B.197	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.197	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.198	シカ	下顎臼歯歯冠破片		5	
	ⅢbM	B.199	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.200	シカ	下顎臼歯 M2,M3	L	2	W.LM2:6,M3:7
	ⅢbM	B.201	シカ	下顎臼歯 M1,M2	R	2	W.LM1:5
	ⅢbM	B.202	シカ	下顎臼歯 M1,M2	R	2	W.上不明
	ⅢbM	B.203	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.204	シカ	臼歯歯冠破片		2	
	ⅢbM	B.205	シカ	上腕骨遠位端	L	1	
	ⅢbM	B.206	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.207	シカ	上顎臼歯 M1-M3？	R	3	

［Ⅲ1-02関連遺構／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ1B04	ⅢbM	B.208	シカ	下顎臼歯 M1,M2	L	2	他に7点 W.LM1:4,M2:5
	ⅢbM	B.209	シカ	臼歯歯冠破片		1	
	ⅢbM	B.210A	シカ	下顎臼歯 下顎体	R	1	PM1一部
	ⅢbM	B.210B	シカ	上顎臼歯歯冠破片	R	1	
Ⅲ1B02	ⅢbM	B.027	シカ	上顎臼歯M3?	R	1	
	ⅢbM	B.028	シカ	上顎臼歯		1	
	ⅢbM	B.029	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.030	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.031	シカ	上顎臼歯M2?	R	1	
	ⅢbM	B.211	シカ	上顎臼歯 PM2-M3	L	1	
	ⅢbM	B.212	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.213A	シカ	上顎臼歯M2	L	1	
	ⅢbM	B.213B	シカ	上顎臼歯歯冠破片	L	2	
	ⅢbM	B.214	哺乳綱sp.	橈骨骨一部		2	
	ⅢbM	B.215	シカ	上顎臼歯？ 歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.216A	シカ	上顎臼歯PM3, M1,M2	R	3	
	ⅢbM	B.216B	シカ	上顎臼歯M3	L	1	
	ⅢbM	B.216C	シカ	上顎臼歯	R	2	他に微破片 W.LM2:5,M3:7
	ⅢbM	B.217	シカ	下顎骨下顎体破片		1	歯冠破片を伴う
	ⅢbM	B.218	シカ	下顎臼歯 後臼歯歯冠		10	
	ⅢbM	B.219	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.220	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.221	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.222	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.223	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.224	シカ	上顎臼歯・歯槽 M2-M3	L	2	
	ⅢbM	B.225	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.226	シカ	下顎臼歯 M1-M3	L	3	
	ⅢbM	B.227	シカ	下顎臼歯 後臼歯歯冠		3	
	ⅢbM	B.228	シカ	下顎臼歯M2?	L	1	
	ⅢbM	B.229	シカ	下顎臼歯M3?	L	1	
	ⅢbM	B.230	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.231	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.232	シカ	下顎臼歯M2?	L	1	W.LM2:6,M3:7
	ⅢbM	B.233	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.234	哺乳綱sp.	部位不明 長管骨骨幹		1	
	ⅢbM	B.235	ヒグマ	距骨	R	1	
	ⅢbM	B.236	シカ？	大腿骨？ 近位骨幹？		1	
	ⅢbM	B.237	シカ	上顎臼歯 後臼歯歯冠		8	
	ⅢbM	B.238	シカ？	橈骨遠位端？		1	
	ⅢbM	B.239	シカ	臼歯歯冠破片		3	
	ⅢbM	B.240	シカ	下顎臼歯M1?	L	1	
	ⅢbM	B.241	シカ	下顎臼歯M3	R	1	W.上不明
	ⅢbM	B.242	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.243	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.244	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.245	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.246	哺乳綱sp.	部位不明		1	カットあり
	ⅢbM	B.247	シカ	上顎臼歯 後臼歯歯冠	R	1	
	ⅢbM	B.248	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.252	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.253	シカ	下顎臼歯 後臼歯歯冠	L?	10	
	ⅢbM	B.254	不明 non det.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.255	シカ	上顎・下顎 後臼歯歯冠	R	2	
	ⅢbM	B.132	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	ⅢbM	B.172	哺乳綱 non det.	部位不明		4	
	ⅢbM	B.173	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	ⅢbM	B.174	シカ	下顎臼歯M3	L	1	W.LM3;67
	ⅢbM	B.174	シカ	上顎臼歯	R	1	
	ⅢbM	B.175	シカ	角幹		4	

※網かけ部は図版1に表示したものを示す

表3 ハンドピック法動物遺存体同定一覧表

［IIH-02関連遺構／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
IIIP 04	IIIbM	B.280	シカ	上顎臼歯歯冠破片	L	2	
	IIIbL	B.281	シカ	角三叉部	L	1	下端切断？
	IIIbL	B.282	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbL	B.283	シカ	頭骨側頭骨鱗部		1	
	IIIbL	B.284	シカ	上顎臼歯M3	R	1	286と同一個体？
	IIIbL	B.285	シカ？	角？		1	
	IIIbL	B.286	シカ	上顎臼歯M1・M2	R	1	摩耗進む
	IIIbL	B.288	シカ	肋骨体		1	
	IIIbL	B.288	シカ	大腿骨近位骨幹	L	1	咬痕あり
	4	B.150A	シカ	橈骨胴部骨体		2	
	4	B.150B	シカ	上腕骨遠位端	R	1	
IIIP 02	4	B.150B	シカ	中手骨遠位骨幹		1	
	4	B.150B	哺乳綱non det.	部位不明		5	
	1	B.181A	シカ	橈骨鋸部突起、骨体下部を欠く	L	1	
	1	B.181B	シカ	基部骨遠位端		1	

［単独獣骨集中／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
IIIBD 03	IIIbM	B.267	哺乳綱sp.	部位不明長管骨近位骨幹		1	カットあり
	IIIbM	B.268	シカ	中足骨骨側骨幹遠位端		1	
	IIIbM	B.269	シカ	部位不明		1	
	IIIbM	B.270	シカ	橈骨骨幹		1	端部にエグリによる切断痕
	IIIbM	B.287	シカ	大腿骨骨幹前面		1	エグリによる切断
	IIIbM	B.289	シカ	中手骨骨幹骨側橈骨前関節突起部		2	骨器未製品
	IIIbM	B.290	シカ	部位不明		1	
IIIBD 07	IIIbL	B.295	シカ	角幹破片		1	
	IIIbL	B.296	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbL	B.297	シカ	角幹破片		4	
	IIIbL	B.298	哺乳綱non det.	頭蓋破片		11	
	IIIbL	B.299	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	IIIbL	B.300	シカ	上顎臼歯・歯槽一部		3	
	IIIbL	B.308	シカ	上顎臼歯・歯槽一部		1	

［単独獣骨集中／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
IIIP 05	IIIbM	B.394	シカ	中足骨骨幹骨側		1	
	IIIbM	B.395	不明non det.	部位不明		5	
	IIIbM	B.396	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbM	B.397	シカ	下顎臼歯歯冠破片		1	
	IIIbM	B.398	哺乳綱sp.	部位不明		1	
IIIP 06	IIIbM	B.387	シカ	臼歯歯冠破片		4	
	IIIbM	B.388	シカ	中手・中足骨遠位端骨側		1	
	IIIbM	B.389	哺乳綱non det.	部位不明		3	他に微細片
	IIIbM	B.390	シカ	距骨	R	1	
	IIIbM	B.391	シカ	臼歯歯冠破片		4	
	IIIbM	B.392	シカ	臼歯歯冠破片		8	
	IIIbM	B.393	シカ	臼歯歯冠破片		8	
	IIIbM	B.399	不明 spp.	部位不明		2	
	IIIbM	B.400	シカ	中足骨遠位端ふち骨幹骨側		3	
	IIIbM	B.401	シカ	中手・中足骨遠位端骨側		2	
	IIIbM	B.402	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbM	B.403	哺乳綱non det.	部位不明		7	

※網かけ部は図版1に表示したものを示す

［IIIB-01関連遺構／擦文文化期集中区1］

遺構	層位	骨番号	出土動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
IIIB 01	IIIbM	B.317	ビダ	上腕骨遠位骨幹	L	1	
	IIIbM	B.318	哺乳綱non det.	部位不明		20	
	IIIbM	B.319	哺乳綱sp.	部位不明		2	
	IIIbM	B.320	哺乳綱non det.	部位不明長管骨骨幹		4	
	IIIbM	B.321	シカ	臼歯歯冠破片		9	
	IIIbM	B.322	哺乳綱non det.	部位不明		4	
	IIIbM	B.323	シカ	橈骨・骨幹前面		1	
	IIIbM	B.324	哺乳綱non det.	部位不明		4	
	IIIbM	B.325	哺乳綱non det.	部位不明		4	
	IIIbM	B.326	哺乳綱non det.	部位不明		5	
	IIIbM	B.327	哺乳綱non det.	部位不明		6	
	IIIbM	B.328	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	IIIbM	B.329	哺乳綱non det.	部位不明		4	
	IIIbM	B.330	シカ	下顎臼歯歯冠破片		2	
	IIIbM	B.331	シカ	下顎臼歯M1・M2	L	1	W.上不明
	IIIbM	B.332	哺乳綱non det.	部位不明		6	
	IIIbM	B.333	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbM	B.336	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	IIIbM	B.338	哺乳綱non det.	部位不明		5	
	IIIbM	B.341	シカ	距骨		1	
	IIIbM	B.354	シカ	臼歯歯冠破片		1	
	IIIbM	B.355	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	IIIbM	B.356	哺乳綱non det.	部位不明		5	
	IIIbM	B.357	哺乳綱sp.	部位不明長管骨骨幹		1	
	IIIbM	B.359	シカ	臼歯歯冠破片		22	
	IIIbM	B.361	シカ	上顎臼歯歯冠破片	R	1	
	IIIbM	B.362	哺乳綱non det.	部位不明		15	
	IIIbM	B.363	哺乳綱non det.	部位不明長管骨骨幹		3	
	IIIbM	B.364	哺乳綱non det.	部位不明		3	
	IIIbM	B.365	哺乳綱non det.	部位不明		7	
	IIIbM	B.366	哺乳綱non det.	部位不明		6	
	IIIbM	B.373	哺乳綱non det.	部位不明		4	
	IIIbM	B.376	哺乳綱non det.	部位不明		3	
	IIIbM	B.380	シカ	臼歯歯冠破片		14	
IIIBD 08	IIIbM	B.342	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbM	B.343	哺乳綱non det.	部位不明		4	
	IIIbM	B.344	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbM	B.345	シカ？	距骨？		1	
	IIIbM	B.346	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbM	B.347	哺乳綱non det.	部位不明		4	
	IIIbM	B.348	シカ？	距骨？骨幹前面？		1	
	IIIbM	B.349	シカ	臼歯歯冠破片		2	他に微細片
	IIIbM	B.350	哺乳綱sp.	部位不明		1	
IIIBD 09	IIIbM	B.351	哺乳綱non det.	部位不明		5	他に微細片
	IIIbM	B.352	シカ	距骨		1	被熱し黒色化
	IIIbM	B.353	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	IIIbM	B.374	哺乳綱non det.	部位不明		12	
	IIIbM	B.375	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	IIIbM	B.377	哺乳綱non det.	部位不明		14	
	IIIbM	B.378	哺乳綱non det.	部位不明		1	他に微細片
	IIIbM	B.379	哺乳綱non det.	部位不明		5	他に微細片

表4　ハンドピック法動物遺存体同定一覧表(包含層)

骨No.	グリッド	層位	出土動物	出土骨	部位	LR	点数	備考
B.026	AI-22	第bM	シカ	下顎臼歯	M3	L	1	W.L.不明
B.256		第bU	シカ	距骨		R	1	
B.257		第bL	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.258		第bL	哺乳綱non det.	部位不明			3	
B.259		第bU	哺乳綱non det.	部位不明			3	
B.260		第bL	哺乳綱sp.	部位不明	長管骨骨幹			
B.261		第bU	シカ	下顎骨	M2•M3	R	1	W.L
B.262		第bL	シカ	上腕骨	遠位端		1	
B.024	AI-23	第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	位置情報未記録
B.263		第bU	哺乳綱non det.	部位不明			3	
B.264		第bL	哺乳綱non det.	部位不明			3	
B.265		第bL	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.276	AJ-22	第bL	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.311	AK-26	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
B.312		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
B.313		第bM	シカ	下顎臼歯	M3	R	1	W.L.不明
B.314		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		8	
B.315		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
B.316		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		6	
B.384		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		6	
B.309	AK-27	第bM	シカ	下顎臼歯	M3	L	1	W.L.不明
B.310		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
B.129	AL-21	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		6	
B.127	AL-22	第bM	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.128		第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.133		第bM	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.169	AL-25	第bL	シカ	臼歯	歯冠破片		10	
B.367		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
B.368		第bM	シカ	下顎臼歯	M2•M3	R	2	W.L
B.369		第bM	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.370	AL-26	第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.371		第bM	シカ	臼歯	後臼歯歯冠破片		5	
B.372		第bM	シカ？	腓骨？	近位骨幹骨端部		1	
B.130	AM-21	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		9	
B.131		第bM	哺乳綱non det.	部位不明			3	
B.273		第bL	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.274		第bL	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.275		第bL	不明sp.	部位不明			1	
B.126	AM-22	第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.124		第bM	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.122		第bM	不明spp.	部位不明			2	
B.123	AM-24	第bM	不明spp.	部位不明			2	
B.124		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片	L	1	W.L.不明
B.170	AM-26	第bL	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.146	AN-23	第bM	不明sp.	部位不明			1	
B.147		第bM	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.148		第bM	哺乳綱？	部位不明			2	
B.381		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
B.382	AN-29	第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.383		第bM	シカ	距骨			1	
B.386	AN-30	第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.334	AN-31	第bM	哺乳綱non det.	部位不明			5	
B.154	AO-21	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		8	
B.293	AO-29	第bM	シカ	角	角幹破片		1	
B.294		第bL	不明non det.	部位不明			4	
B.358	AO-30	第bM	哺乳綱non det.	部位不明			3	
B.335	AO-31	第bM	哺乳綱non det.	部位不明			4	
B.337		第bM	不明sp.	部位不明			1	
B.339		第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.340	AO-32	第bM	シカ	下顎臼歯	M1•M3		1	W.L.不明
B.135		第bM	シカ	橈骨		R	1	
B.136		第bM	不明spp.	部位不明			2	
B.137		第bM	不明non det.	部位不明			3	
B.138		第bM	シカ	下顎臼歯	歯冠破片		10	他に微細片多数
B.139	AP-21	第bM	シカ	下顎臼歯	歯冠破片		10	W.L.不明
B.140		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		3	W.L.不明
B.141		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		7	W.L.不明
B.142		第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	長管骨
B.143		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		3	W.L.不明
B.144		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		7	
B.145		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		8	
B.152		第bM	哺乳綱non det.	部位不明				被熱
B.118	AP-30	第bL	哺乳綱non det.	部位不明			3	
B.279	AQ-20	第bL	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.161	AQ-21	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
B.162		第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.163	AQ-22	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		24	
B.160		第bM	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.277	AR-21	第bL	シカ	臼歯	後臼歯歯冠破片		3	
B.278		第bL	哺乳綱sp.	部位不明			1	
B.120	AR-31	第bL	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.151	AS-25	第bM	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.158	AT-21	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		5	
B.156		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
B.156		第bM	哺乳綱non det.	部位不明			5	
B.157	AT-23	第bM	シカ	上顎臼歯	歯冠破片	R	1	
B.164		第bM	シカ	下顎臼歯	M2	R	1	W.L.M2.6
B.164		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		10	
B.165		第bM	シカ	上顎臼歯	歯冠破片		1	
B.155	AT-24	第bM	シカ	下顎臼歯	M2,M3		2	W.L.不明
B.159	AU-21	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		9	
B.171		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		6	
B.301		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		3	
B.302		第bM	哺乳綱spp.	部位不明	長管骨骨幹		2	
B.303	AV-24	第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		3	
B.304		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
B.305		第bM	哺乳綱spp.	部位不明			2	
B.306		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
B.307		第bM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
B.292	V-20	第bM	哺乳綱non det.	部位不明			3	
B.291	Z-22	第bM	シカ	腓骨	骨幹後面破片	L?	1	
B.250	位置不明	不明	シカ	臼歯	M2•M3	R	2	W.L
B.249	位置不明	不明	哺乳綱non det.	部位不明			6	
B.272	位置不明	不明	シカ	臼歯	後臼歯歯冠破片		2	
B.271	位置不明	不明	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
不明	位置不明	不明	シカ	臼歯	歯冠破片		5	
不明	位置不明	不明	シカ	上顎臼歯	歯冠破片		2	
不明	位置不明	不明	シカ	臼歯	歯冠破片		4	

※網かけ部は図版1に表示したものを示す

表5 フローテーション法動物遺存体同定一覧表

［Ⅲ H-01付属・関連遺構／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ F07	5層	哺乳綱sp.	歯根		1	
	5層	哺乳綱non det.	部位不明		65	
Ⅲ F09	1層	シカ	第二・三手根骨一部	L	1	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		24	シカ歯にあらず
	1層	哺乳綱spp.	部位不明		2	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		33	他に微細片多数
Ⅲ F10	10層	不明non det.	部位不明		4	
Ⅲ F11	7層	哺乳綱sp.	部位不明		1	
	7層	哺乳綱non det.	部位不明		11	
Ⅲ H02	Ⅲ bM	シカ	後角 破片		2	他に微細片多数

［Ⅲ H-02付属・関連遺構／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ F01	4層	哺乳綱non det.	部位不明		31	
Ⅲ F02	4層	哺乳綱non det.	部位不明		60	

［Ⅲ H-03付属・関連遺構／中世アイヌ文化期］

遺構	層位	動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ F22	1層	哺乳綱sp.	指骨近位端？		1	
	1層	哺乳綱sp.	歯根		1	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		43	他に微細片多数
	1層	魚類non det.	椎骨 破片		3	
Ⅲ F23	1層	シカ	中手・中足骨近位端一部		1	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		10	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		88	他に微細片多数
Ⅲ F25	1層	魚類non det.	椎骨 破片		12	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		25	他に微細片多数

［Ⅲ H-04付属・関連遺構／擦文文化期～中世アイヌ文化期］

遺構	層位	動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ F31	1層	魚類non det.	椎骨 破片		多数	
	1層	コイ科sp.	咽頭骨 一部		1	
	1層	コイ科sp.	咽頭歯		1	
	1層	魚類non det.	部位不明		4	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		12	他に微細片多数
Ⅲ F33	1層	魚類non det.	椎骨 破片		25	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		13	

［中世アイヌ文化期単独土坑・焼土］

遺構	層位	動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ P05	1層	シカ	基節骨遠位端一部		1	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		35	
Ⅲ P06	1層	シカ	基節骨遠位端一部		1	
	1層	哺乳綱non det.	部位不明		54	他に微細片
Ⅲ P13	3層	シカ	中手・中足骨近位端一部		2	
	3層	哺乳綱non det.	部位不明		31	他に微細片
Ⅲ P14	1層	哺乳綱non det.	部位不明		32	他に微細片

［集中区1関連遺構／擦文文化期］

遺構	層位	動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ F34	1層	魚類non det.	椎骨 破片		3	
	1層	コイ科sp.	咽頭骨一部		1	
Ⅲ D08	1層	哺乳綱non det.	部位不明		22	他に微細片多数
	Ⅲ bM	シカ	前足破片		22	
	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		34	他に微細片多数
	Ⅲ bM	魚類spp.	椎骨 破片		2	
	Ⅲ bM	カワシンジュガイ	殻皮		多数	
Ⅲ D09	Ⅲ bM	コイ科sp.	椎骨		1	ウグイ類
	Ⅲ bM	サケ科non det.	椎骨破片		3	
	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		38	シカ歯にあらず
	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		23	他に微細片多数

［擦文文化期単独焼土・包含層］

遺構	層位	動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ F04	Ⅲ bL	哺乳綱non det.	部位不明		43	他に微細片
Ⅲ F28	Ⅲ bL	哺乳綱non det.	部位不明		7	他に微細片
	Ⅲ bL	哺乳綱non det.	部位不明		4	
Ⅲ F29	Ⅲ bL	シカ	肘骨骨幹後面一部		1	
	Ⅲ bL	哺乳綱non det.	部位不明		46	他に微細片多数
AN30	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		5	

［擦文～中世アイヌ文化期単独焼土・包含層］

遺構	層位	動物	出土骨・部位	LR	点数	備考
Ⅲ F15	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		12	他に微細片
Ⅲ F17	Ⅲ bM	サケ科sp.	椎骨破片		1	
	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		4	他に微細片多数
Ⅲ F35	Ⅲ bM	サケ科sp.	椎骨破片		1	
	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		9	
	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		78	他に微細片多数
AK-26	Ⅲ bM	不明	部位不明		8	
	Ⅲ bM	魚類？	椎骨 破片		2	
採取地点不明	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		27	シカ歯ではない
	Ⅲ bM	哺乳綱non det.	部位不明		7	シカ歯ではない
	Ⅲ bM	魚類？	椎骨 破片？		2	

※網かけ部は図版1に表示したものを示す

第３節　厚真町上幌内１遺跡から検出された植物種子

Project Seeds 考古植物研究会　椿　坂　恭　代

1. 遺跡の所在と性格

遺 跡 の 名 称：上幌内１遺跡
所　　在　　地：北海道勇払郡厚真町字上幌内 372-1～3
発掘調査期間：平成 26 年 5 月 13 日～同年 10 月 31 日
発掘調査面積：平成 26 年度　9,022 ㎡
調 査 担 当 者：宮塚義人
遺構の主な時期：中世アイヌ文化期、擦文文化期、縄文時代
遺 跡 の 立 地：遺跡は厚真町市街地から北東に約 12Km、厚真川上流左岸の標高 70～72m の河岸段丘上に立地している。

その他の検出遺構・遺物などの詳細については本編を参照していただきたい。

出土した炭化植物から、次のような ^{14}C 測定値が得られている。

ⅢH-01 付属炉ⅢF-09 より出土したクルミ属内果皮、667±23 暦年較正用(yr BP)。ⅢH-02 付属炉ⅢF-02 より出土したクルミ属内果皮、644±23 暦年較正用(yr BP)。集中区１のⅢF-34 から検出されたコナラ属子葉、978±24 暦年較正用(yr BP)。集中区１のⅢBB-09 から検出されたクルミ属内果皮、735±24 暦年較正用(yr BP)。この詳細については第Ⅳ章第１節を参照のこと。

2. 扱った資料

分析対象として扱った資料は平成26年度に発掘調査を実施した遺跡からのものである。中世アイヌ文化期と擦文文化期の各遺構から土壌を採取し、フローテーション処理を行い、第1次選別で炭化植物種子などを抽出し送付されてきたものである。これらの資料は実体顕微鏡で観察と撮影を行った。検出された植物種子の出土表と図版は表１、図版1･2に示す。

3. 検出された植物種子

オオムギ *Hordeum vulgare* L.（図版 1-1a～c：ⅢBB-09 から出土）

擦文文化期の集中区1の獣骨集中（ⅢBB-09）から1粒出土。果実は紡錘状楕円形。腹面中央には縦溝があり、背面はほぼ平らで楕円形の胚がある。出土種子は破損のうえ、煮沸による変形があるが、裸性オオムギの形態を示す（1988　椿坂）。破片の計測値はL3.80×W2.85×T1.85（mm）

アワ *Setaria italica* (L.) P. Beauv.（図版1-2a～c：ⅢF-34から出土）

擦文文化期の集中区１の獣骨集中（ⅢBB-09）、焼土（ⅢF-34）から合わせて９粒出土。果実はやや球形。背面には果長の 2/3 ほどの胚があり、その反対側の腹面には小さなヘラ型のヘソがある（1993　椿坂）。出土種子は、いずれも写真 2a～c に示すように、内・外穎のとれた「えい果」の状態である。計測値は L1.40×W1.30×T0.90（mm）

ヒエ属 *Echinochloa* Beauv.（図版1-3a～c：ⅢF-02、4a～c：ⅢBB-09から出土）

中世アイヌ文化期ⅢH-02付属炉（ⅢF-02）、焼土（ⅢF-13）、擦文文化期の集中区1の獣骨集中（ⅢBB-08・09）、焼土（ⅢF-34）から合わせて15粒出土。果実は広楕円形。背面には果長の2/3ほどを占める楕円形の大きな胚がある。その反対側の腹面にはヘラ型状のヘソがある（1993　椿坂）。出土種子はいずれも写真3a～c,4a～cに示すように、内・外穎のとれた「えい果」の状態である。粒型の特徴から栽培型ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabunoとして分類される。計測値3:L1.70×W1.40×T1.00（mm）、4:L2.00×W1.70×T1.25（mm）

キビ *Panicum miliaceum* L.（図版1-5a～c：ⅢBB-09から出土）

中世アイヌ文化期の焼土（ⅢF-05）と擦文文化期の集中区1の獣骨集中（ⅢBB-09）から合わせて4粒出土。果実はやや球形または広卵形。背面には果長の1/2ほどの胚があり、その反対側の腹面にはヘラ型状のヘソがある（1993　椿坂）。出土種子はいずれも写真5a～cに示すように内・外穎のとれた「えい果」の状態である。計測値はL1.60×W1.50×T1.00（mm）

シソ属 *Perilla* L.（図版1-6a･b：ⅢBB-09から出土）

中世アイヌ文化期のⅢH-01付属炉の焼土（ⅢF-09）、焼土（ⅢF-13）、擦文文化期の集中区1の獣骨集中（ⅢBB-09）から合わせて12粒出土。種子は扁平球形で種子の表面に大きな網目状の模様がある。エゴマ *Perilla frutescens* Britton var. japonica Haraかシソ *Perilla frutescens* Britton var.acutaKudoのいずれであるかは、両者とも形態と表皮の構造が類似している部分が多く分類は困難である。計測値はL2.25×W1.60×T1.40（mm）

アサ *Cannabis sativa* L.（図版1-7a･b：ⅢBB-08から出土）

擦文文化期の集中区1の獣骨集中（ⅢBB-08・09）、擦文～中世アイヌ文化期の焼土（ⅢF-35）からすべて破片で出土。種皮の表面は炭化により粗面で斑状になる。こうした特徴からアサと判断する。破片のため計測はしていない。アサは、純粋に栽培したものか、集落や耕地周辺に半野生状態にあったのかの判断はつかない。しかし、アサの若葉や種子は食用になるし、油脂植物としても利用され、繊維植物としてもよく知られている。

タデ科 POLYGONACEAE（図版1-8：ⅢBB-09から出土。9：ⅢBB-08から出土）

擦文文化期の集中区1の獣骨集中（ⅢBB-08・09）、焼土（ⅢF-29）から出土。写真8に示した種子は球形でその下部にヘソがある。このような特徴からイシミカワ *Polygonum perfoliatnm* L.と判断される。写真9に示す種子は三角状紡錘形。タデ科種子は形態の類似する種類が多いので詳細な分類は困難である。破片の計測値は8：L1.50×W3.00（mm）、9：L1.90×W1.10（mm）

アカザ属 *Chenopodium* L.（図版1-10：ⅢF-23から出土）

中世アイヌ文化期のⅢH-01・02・03付属炉の焼土（ⅢF-10・11・01・22・23）、焼土（ⅢF-05・24）、擦文～中世アイヌ文化期のⅢH-04付属炉の焼土（ⅢF-31）と焼土（ⅢF-17・35）から出

土。種子は扁平球形。側面には嘴状に突出したヘソがある。これらの特徴からアカザ属と判断される。出土した種子はすべて酸化した状態[1]である。計測値はL1.30×W0.65×T0.40（mm）

ホタルイ属 *Scirpus* L.（図版1-11：ⅢF-23から出土）

中世アイヌ文化期ⅢH-01付属炉の焼土（ⅢF-09）から酸化した状態で出土。種子は扁平倒卵形で背面は外湾し腹面は扁平である。形態の特徴からはホタルイ *Scirpus juncoides* Roxb.var.*hotarui*(Ohwi)Ohwi、サンカクイ *Scirpus triqueter* L.、カンガレイ *Scirpus triangulatus* Roxb.に似るが形態の類似した種類が多いため、詳細な分類は困難である。計測値はL2.20×W1.80×T0.65（mm）

タラノキ属 *Aralia* L.（図版1-12：ⅢF-31から出土）

擦文～中世アイヌ文化期のⅢH-04の付属炉の焼土（ⅢF-31）から酸化した状態で出土。種子は半円形。種子の上方には二本の横溝があり、種皮は凹凸で粗面である。このような特徴からタラノキ *Aralia elata*（Miq.）Seemannと判断される。破片のため計測はしていない。

マタタビ属 *Actinidia* Lindl.（図版1-13：ⅢBB-09から出土）

擦文文化期の集中区 1 の獣骨集中（ⅢBB-09）から出土。種子は長楕円形。種皮には凹点による網目模様がある。この仲間にはマタタビ Actinidia polygama Planch. et Maxim.とサルナシ *Actinidia arguta* Planch.があるが、両者の種子は形態と表面組織がきわめて良く似ている。しかし、粒形の特徴からはサルナシ *Actinidia arguta* Planch.であろう。計測値はL2.10×W1.10×T0.75（mm）

ニワトコ属 *Sambucus* L.（図版1-14：ⅢF-07から出土）

中世アイヌ文化期ⅢH-01付属炉の焼土（ⅢF-07）から出土。種子は狭楕円形。背面は円みがあり、腹面は鈍稜をなす。種皮は皺状に隆起した模様があり粗面である。これらの特徴からニワトコ *Sambucus racemosa* L.と判断される。だだし、日本では本州北部から北海道の林中にエゾニワトコ *S.buergeriana var.miquelii*（Nakai）Haraが分布するという。計測値はL2.10×W1.50×T0.85（mm）

キハダ属 *Phellodendron* Rupr.（図版2-15：ⅢBB-08から出土）

中世アイヌ文化期ⅢH-03付属炉の焼土（ⅢF-23）、擦文文化期の集中区 1 の獣骨集中（ⅢBB-08・09）、焼土（ⅢF-34）、擦文～中世アイヌ文化期の焼土（ⅢF-35）から出土。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr.と判断される。計測値はL3.80×W2.20×T1.30（mm）

---

[1]種子の胚・胚乳が分解されて表皮だけが残っている状態

ブドウ科 VITIDACEAE（図版2-16a･b：ⅢBB-09から出土）

中世アイヌ文化期ⅢH-03付属炉の焼土（ⅢF-25）、焼土（ⅢF-05）、擦文文化期の集中区1の獣骨集中（ⅢBB-08・09）、焼土（ⅢF-34）、擦文～中世アイヌ期のⅢH-04付属炉の焼土（ⅢF-31）と焼土（ⅢF-35）、擦文文化期の焼土（ⅢF-04・29）から出土。堅果は広倒卵形。背面は円みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜をなし稜の両側に針形の凹みがある。これらの特徴からブドウ科に分類される。形態の類似する種子にヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat.、サンカクズル *Vitis flexuosa* Thunb.、エビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. lobata, などがあるが、形態の特徴からヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat と判断される。計測値はL4.30×W3.60×T2.30（mm）

ウルシ科 ANACARDIACEAE（図版2-17：ⅢF-28から出土）

擦文文化期の焼土（ⅢF-28）から出土。種子は歪んだ扁円形でやや扁平。先端は急に尖る。北海道ではこれらと類似した形態を持つ種子としてヤマウルシ *Rhus trichocarpa* Miq.、ツタウルシ *Rhus ambigua Lavallee* ex Dippel,、ヌルデ *Rhus javanica* L.がある。破片のため詳細な分類はできなかった。計測値は2.00×W3.20（mm）

ミズキ属 *Cornus* L.（図版2-18：ⅢF-35から出土）

擦文～中世アイヌ文化期の焼土（ⅢF-35）から出土。すべて破片であったが、ミズキ種子の特徴である縦溝が確認できたことからミズキ *Cornus controversa* Hemsley と判断される。破片の計測値はL2.40×W3.60（mm）

コナラ属 *QUERCUS* L.（図版2-19a･b：ⅢF-34から出土）

擦文文化期の集中区1の焼土（ⅢF-34）から1片出土。子葉は長楕円形で表面には縦条がある。写真19a･bに示した資料はコナラ Quercus serrata Thunb.、ミズナラ *Quercus crispula* Blume, に近い大きさと形態を示すが、炭化による変形が大きいので子葉の形態から詳細な分類をするのは困難である（吉崎・椿坂 2000）。計測値はL18.35×W9.99（mm）

クルミ属 *Juglans* L.（図版2-20：ⅢBB-09から出土）

中世アイヌ文化期ⅢH-01・02付属炉（ⅢF-07・09・01・02）からと擦文文化期の集中区1の獣骨集中（ⅢBB-08・09）、焼土（ⅢF-28・29）、擦文～中世アイヌ文化期の焼土（ⅢF-35・17）から内果皮の細片が合わせて 1.791g 出土。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maxim と判断される。細片のため計測はしていない。参考までに自然乾燥処理の現生オニグルミ核1個の重さは約6.0gである。

モクレン科 MAGNOLIACEAE（図版2-21：ⅢBB-09から出土）

擦文文化期の集中区1の焼土（ⅢF-34）、獣骨集中（ⅢBB-09）から出土。出土資料はすべて細片であったが表皮の組織構造からホオノキ *Magnolia obovata* Thunberg;と判断される。細片のため計測はしていない。

冬 芽（図版2-22：ⅢF-34から出土）

擦文文化期の集中区１の獣骨集中（ⅢBB-08・09）、焼土（ⅢF-34）から出土。現生の比較資料がないので詳細な分類が出来ない。計測値はL6.00×W2.00（mm）

不明1（図版2-23a･b：ⅢBB-08から出土。24：ⅢF-23から出土。25：ⅢBB-09から出土。26a･b：ⅢF-13から出土）

中世アイヌ文化期ⅢH-03付属炉（ⅢF-23）、焼土（ⅢF-13・14）、擦文文化期の集中区１獣骨集中（ⅢBB-08・09）、擦文～中世アイヌ文化期の焼土（ⅢF-35）から出土。いずれも現生の比較資料がないので分類できなかったものを不明１として扱った。計測値は23：L3.30×W2.10×T1.40（mm）、24：L2.00×W1.60（mm）、25：L2.00×W1.50（mm）、26：L9.10×W6.90×T4.60（mm）

菌類？（図版2-27a･b：ⅢBB-08から出土）

擦文文化期の集中区１獣骨集中（ⅢBB-08）、擦文～中世アイヌ文化期の焼土（ⅢF-35）から出土。資料の表面に乳頭状の突起がある。これまでも各時期の遺構から同じ組織構造の資料が検出されている。その形と大きさが一定していないことから、種子や堅果類ではないようである。しかし、その実態は不明である。破片の計測値はL10.00×W5.60（mm）

その他にキビ、ヒエのいずれかと思われるが、被熱による変形が大きくて分類できなかったものを不明ミレットとして扱った。また保存状態が窮めて悪いので分類できなかった資料を不明２として扱った。

4. 若干のコメント

上幌内１遺跡から検出できた植物遺体は､中世アイヌ文化期の遺構からは栽培植物のヒエ属、キビ、シソ属と野生植物草本類のアカザ属、ホタルイ属、木本類のニワトコ属、キハダ属、ブドウ科、クルミ属が出土。

擦文文化期の遺構からは栽培植物のオオムギ、アワ、ヒエ属、キビ、シソ属、アサと野生植物草本類のタデ科、アカザ属、木本類のタラノキ属、マタタビ属、キハダ属、ブドウ科、ウルシ科、ミズキ属、コナラ属、クルミ属、モクレン科が出土。

両時期から検出された野生植物は、いずれも集落の周囲に一般的に認められる草本と木本類で、可食性あるいは利用可能のものが多い。栽培植物の組成は北海道のアイヌ文化期、擦文文化期に見られるものである。

今回、集中区１の焼土（ⅢF-34）、獣骨集中（ⅢBB-08・09）の遺構から数量は少ないが、栽培植物と野生植物遺体の多様な出土状況を示した。両遺構から検出された種子は被熱後に受けたと考えられる汚れが種子全体を覆った状態であった。

この焼土（ⅢF-34）、獣骨集中（ⅢBB-08・09）遺構は沢部に面した傾斜地で、その斜面から発見された遺構であるという。この所見を踏まえると、先に述べた植物遺体の出土状況は斜面へ投棄された様子を窺うことができる。また、種子の汚れについては投棄によって二次的に付着したものと推測される。投棄の行為で日常の生活残渣の投棄なのか、アイヌ民族例にあるよ

うな儀礼的な性質のものなのかであるが、今回、検出された植物遺体の組成と種子の様相からは、この判断は困難である。

上幌内 1 遺跡の調査では、当時の日常活動の一端（投棄の場）を考える好資料が得られた。今後もこうした事例を蓄積して行くことが重要と考える。

引用文献

椿坂恭代
1998：「オオムギについて」『道を辿る』245-246　石附喜三男先生を偲ぶ本刊行委員会
1993：「アワ・ヒエ・キビの同定」『先史時代と関連科学』261-281　吉崎昌一先生還暦記念論集刊行会
吉崎昌一・椿坂恭代
2000：「キウス4遺跡Q地区から出土した縄文時代の植物種子」『千歳市キウス4遺跡（7）』第2分冊347-352　北埋調報152　財団法人 北海道埋蔵文化財センター

表1　厚真町上幌内1遺跡炭化種子一覧表

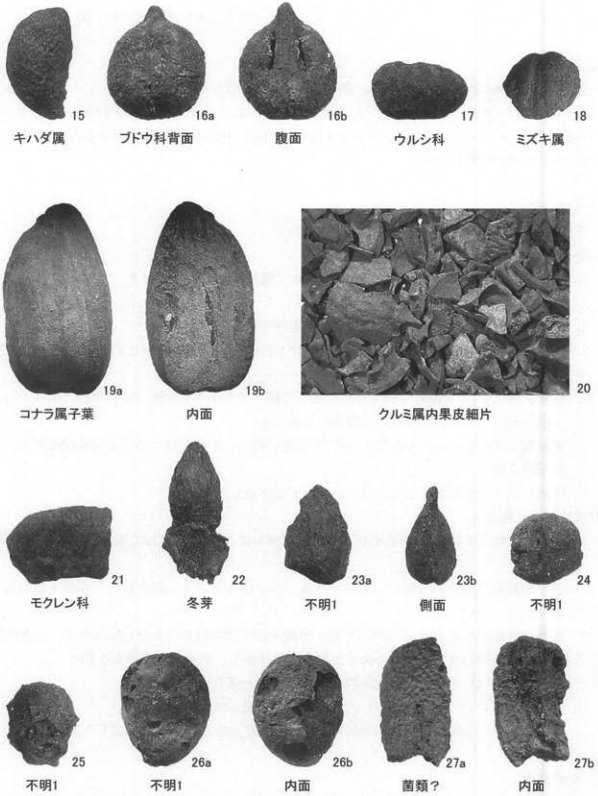
遺構種別	委託No.	遺構名	グリッド	層位	オオムギ	アワ	ヒエ属	キビ	シソ属	アサ属	タデ科	アカザ属	ホタルイ属	タラノキ属	マタタビ属	ニワトコ属	キハダ属		ブドウ科		ウルシ科	ミズキ属	コナラ属	クルミ属	モクレン科	冬芽	不明ミレット	不明1		菌類	サンプリング土量(ℓ)
					粒	粒	粒	粒	粒	片	粒	粒	粒	片	粒	片	粒	片	粒	片	片	片	片	g	片	片	片	粒	片	片	
Ⅲ H-01付属炉・開連遺構（中世アイヌ文化期）	03	Ⅲ F-07	AM-23	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	0.037	–	–	–	–	–	–	0.22
	04	Ⅲ F-09	AL・AM-23	Ⅲ bM	–	–	–	–	2	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0.127	–	–	–	–	3	–	5.00
	05	Ⅲ F-10	AL-23	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0.40
	06	Ⅲ F-11	AL-23	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	13	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1.40
	07	Ⅲ BB-02	AJ-22	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	0.01
Ⅲ H-02付属炉（中世アイヌ文化期）	01	Ⅲ F-01	AJ-23	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0.002	–	–	–	–	–	–	1.20
	02	Ⅲ F-02	AJ-22	Ⅲ bM	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0.018	–	–	–	–	2	–	2.33
Ⅲ H-03付属炉（中世アイヌ文化期）	08	Ⅲ F-22	AO-24・25	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1.30
	09	Ⅲ F-23	AO-25	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	–	–	12	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	6.60
	10	Ⅲ F-25	AO-25	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	6	–	1.90
Ⅲ H-04付属炉（擦文～中世アイヌ文化期）	11	Ⅲ F-31	AI-25	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	–	–	2	–	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–	14	–	10.00
集中区1（擦文文化期）	12	Ⅲ F-34	AN-29	Ⅲ bL	–	1	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	4	1	4	–	–	1	–	5	2	–	–	17	–	6.80
	13	Ⅲ BB-08	AN-29	Ⅲ bL	–	–	1	–	–	2	1	–	–	–	–	–	6	12	1	13	–	–	–	0.170	–	2	–	1	46	1	48.60
	14	Ⅲ BB-09	AN-29	Ⅲ bL	1	8	10	3	9	1	1	–	–	–	1	–	1	6	4	14	–	–	–	1.375	–	3	1	2	20	–	42.60
	26	Ⅲ BB-09	AN-29	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	12	–	6.00
	27	Ⅲ BB-09	AN-30	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	3	1	–	1	3	–	1.00
擦文文化期焼土	15	Ⅲ F-04	AI-21	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	1	–	–	–	–	–	–	–	–	6	–	1.35
	16	Ⅲ F-28	T-19	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	0.007	–	–	–	–	–	–	2.00
	17	Ⅲ F-29	V-20	Ⅲ bL	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	0.002	–	–	–	–	13	–	3.80
中世アイヌ文化期焼土	18	Ⅲ F-05	AP-21	Ⅲ bM	–	–	–	1	–	–	–	12	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3.20
	19	Ⅲ F-06	AN-25	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	2.00
	20	Ⅲ F-13	AN-23	Ⅲ bM	–	–	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	0.80
	21	Ⅲ F-14	AN-23	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	0.88
	24	Ⅲ F-24	AP-25	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	0.48
擦文～中世アイヌ文化期　焼土	25	Ⅲ F-35	AJ-27	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	3	–	1	–	–	–	–	–	1	6	20	–	3	–	0.047	–	–	–	1	9	4	13.60
	22	Ⅲ F-15	AR-26	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	7	–	6.60
	23	Ⅲ F-17	AV-24	Ⅲ bM	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0.006	–	–	–	–	1	–	2.20
合計					1	9	15	4	12	7	4	49	1	1	1	1	9	25	15	59	1	3	1	1.791	8	8	3	8	161	5	172.27

酸化状態の種子

図版1

炭化種子同定試料(1)

図版2



炭化種子同定試料(2)

第４節　上幌内１遺跡の花粉分析

アースサイエンス株式会社　岡　孝雄
五十嵐八枝子

1. 試料

分析試料は上幌内１遺跡のａ地点（AD-24 区）から採取した試料 AKH1-P1, -5, -6 とｃ地点（AE-20 区）から採取した AKH1-P2, -3, -4 の計６点，およびショロマ１遺跡 07 地点（AL-20 区）から採取した AKS1-P3, -4, -5 とショロマ１遺跡 02 地点（BB-30 区）から採取した AKS1-P1, -2 の計５点の合計 11 試料である。

2. 分析方法

各試料 200 g について、次の操作で処理を行った。

シルト質と砂質試料の場合

1. 50%のフッ化水素酸を試料の倍量加えてよく攪拌し、ドラフト内で 12 時間放置して鉱物質を除去する。
2. フッ化水素酸を除去した後、２度水洗いを行う。
3. 比重 1.8 の塩化亜鉛溶液を加えてよく攪拌した後、2000 回転/分で１時間遠心分離する。
4. 浮遊物を集めて２回水洗いする。
5. 酢酸を加えて 30 分湯煎（80℃）で加熱した後、アセトリシス液（無水酢酸：硫酸の９：１混合液）により、試料中の多糖類を分解する。
6. 蒸発皿に残渣をいれ、水を加えて約 15 分後に静かに上液を捨てる作業を数回繰り返して細粒物を除く。
7. 残渣をとり、水を除去して、プレパラートを作成した。

有機質試料の場合

1. 試料に苛性カリの 10%溶液を加え、よく攪拌して 80℃に設定して湯煎器で約 30 分加熱する。
2. 遠心分離器で５分間分離し、アルカリ液で溶け出したフミン酸を捨てる操作を数回以上繰り返す。
3. 試料に酢酸を加え 80℃に加熱した後、酢酸を捨てて試料中の水分を除去する。つぎに無水酢酸と硫酸の９：１液を加えて加熱した後除去し、試料中の多糖類を除く。
   以後の作業はシルト質・砂質試料の処理方法７と同じである。
   作製したプレパートは 400 倍の光学顕微鏡で検鏡した。
   花粉・胞子の分類単位の産出率は花粉・胞子の総数を基数として算定した。

3. 分析結果

11 試料について、上記の分析方法で分析して６試料から花粉・胞子がえられたが、残る５点の砂質試料とシルト質試料には全く含まれなかった。

上幌内１遺跡 a 地点では、Ta-d 直下の２試料（AKH1-P5, -P6）は無化石であるが、それより

下位の AKH1-P1 から 63%を超える単溝型のシダ胞子（Monolete type；オシダ科、ウラボシ科などを含む）と 21%のゼンマイ属（Osmunda）の胞子が産出した。ほかにトウヒ属（Picea）、モミ属（Abies）とコナラ属（Quercus）、カバノキ属（Betula）、ハンノキ属（Alnus）、クルミ属（Juglans）が３%以下で産出した。草本類は種類、数ともに少なく、カヤツリグサ科（Cyperaceae）が約２%産出したのが最大である（図１、表１）。産出した花粉・胞子のうち、主要なものの写真を図４に示す。

上幌内１遺跡 c 地点から採取された Ta-d 直下の AKH1-P2,-3,-4 の３試料はすべて化石を含んでいた（図２,表１）。最下位の AKH1-P4（有機質土）には 16%のトウヒ属、６%のモミ属、２%のマツ属といった針葉樹花粉とカバノキ属、クルミ属（Juglans）、コナラ属、キハダ属（Phellodendron）の広葉樹花粉が 6.4%以下で産出した。非樹木花粉・胞子はキク亜科（Carduoideae），カヤツリグサ科，イネ科（Gramineae）が３%以下で産したのみであるが，ヒカゲノカズラ属（Lycopodium），ゼンマイ属と単溝型のシダ胞子が 38%に達した。

その上位の灰色粘土質土の AKH1-P3 では樹木花粉は約３%以下に減少し、替わってカヤツリグサ科（Cyperacea）が 23%に増加し、ゼンマイ属が 50%へと増加した。単溝型シダ胞子は下位の試料 P-4 よりやや減少した。

同じく灰色粘土質土の試料 AKH1-P2 では、樹木花粉は試料 P3 と産出率及び産出種はほぼ同じであるが、カヤツリグサ科が消滅してゼンマイ属が約 70%まで増加した。

ショロマ１遺跡 02 地点から得られた AKS1-P2 と AKS1-P1 はともに化石を含んでいた下位の AKS1-P2 は樹木花粉を殆ど含まないが、ゼンマイ属を 56%、単溝型のシダ胞子を 40%含む。他方上位の AKS-P1 では、ゼンマイ属は消滅し、単溝型の胞子も 13%まで減少した。

他方、樹木花粉、中でもコナラ属、カバノキ属、トウヒ属がそれぞれ 26%、12%、11%で産出した。ほかに低率のモミ属、マツ属、ハンノキ属、ニレ属、クルミ属、シナノキ属が産出した。

草本類は産出頻度は低いが種類が多様化している。

4. 考察

上述した６試料はその花粉組成からみて、次に示す３群集に区分される。

1）単溝型胞子・ゼンマイ属胞子群集

AKH1-P1，-P2,-P3 と AKS1-P2 がこの群集に属する。AKH の３試料は Ta-d の直下の層準であるが、AKS1-P2 は Ta-d との関係は不明である。しかし、特徴的群集組成からみて、Ta-d 直下の層準である可能性が高い。この群集から復元される植生は、ゼンマイ属と単溝型のシダ植物の繁茂する湿地である。樹木や草本の花粉が試料に混交していないことから見て、何らかの要因でかなり広範囲に植生が破壊されたあとに、シダの繁茂する湿地が広がっていたと推定される。

2）トウヒ属・モミ属・クルミ属群集

AKH1-P4 はトウヒ属とクルミ属で特徴付けられる。苫小牧市明野で得られた Ta-d に挟まれる腐植層の花粉組成ではクルミ属が急増している（小野・五十嵐，1991）。江別市角山（小野・五十嵐，1991）、黒松内低地帯（Sakaguchi,1989）でも約 9000 年前からクルミ属が急増してお

り、北海道では氷河時代が終わって気候が回復したときに、冷温帯落葉広葉樹中でクルミ属が最初に回復したと考えられる。クルミ属（オニグルミ）の急増には河川の氾濫が一つの要因と考えられる。クルミの球果は秋に落下して、春先の融雪期に河川水に運ばれて分布を広げる。特に完新世初頭の急速な温暖化で増加した融雪水がオニグルミの分布拡散を助長したと推定される。

3）コナラ属優勢群集

ショロマ1遺跡 02 地点から得られた AKS1-P1 は高率のコナラ属花粉を含んでいる。この群集の特徴は Ta-d 降灰以後の完新世温暖期を示している（Sakaguchi, 1989；小野・五十嵐，1991 ほか）。多種の草本類も産出しており、Ta-d 降下以前と異なった環境に冷温帯広葉樹林が成立したと推定される。

引用文献

Sakaguchi Yutaka(1989) Some pollen records from Hokkaido and Sakhalin. Bulletin of the Department of Geography University of Tokyo, 21, 1-17pp.

小野有五・五十嵐八枝子（1991）「北海道の自然史ー氷期の森林を旅するー」北海道大学図書刊行会，219pp.

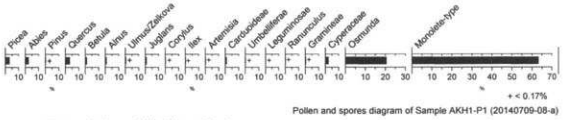


図1　上幌内1遺跡 P1　花粉ダイアグラム

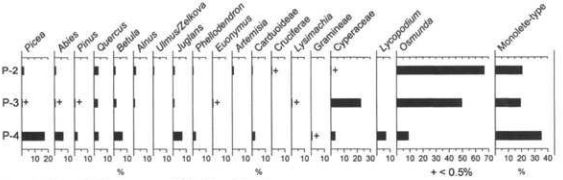


図2　上幌内1遺跡 P2 ～ P4　花粉ダイアグラム

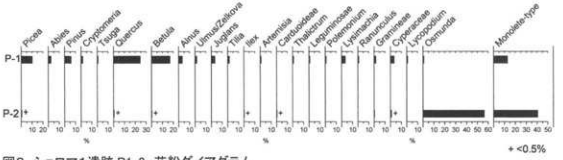
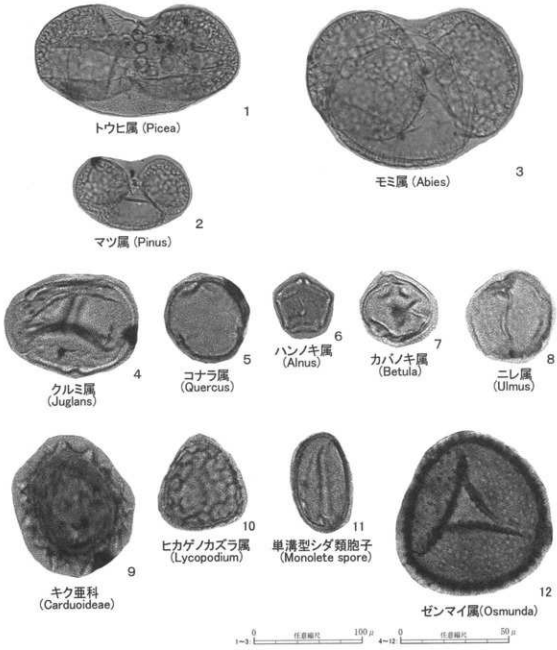


図3　ショロマ1遺跡 P1･2　花粉ダイアグラム

表1　検出した花粉

試料番号	上幌内1-P1		上幌内1-P2		上幌内1-P3		上幌内1-P4		ショロマ1-P1		ショロマ1-P2	
	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%
Picea（トウヒ属）	17	2.98	7	1.63	1	0.45	33	16.25	24	11.05	2	0.50
Abies（モミ属）	13	2.28	4	0.93	1	0.45	12	5.91	5	2.30	0	0.00
Pinus（マツ属）	1	0.17	0	0.00	1	0.45	4	1.97	13	5.99	0	0.00
Cryptomeria（スギ）	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.92	0	0.00
Tsuga（ツガ属）	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.46	0	0.00
Quercus（コナラ属）	18	3.15	14	3.26	6	2.67	6	2.95	57	26.26	2	0.50
Ulmus（ニレ属）	2	0.35	2	0.46	0	0.00	0	0.00	2	0.92	0	0.00
Juglans（クルミ属）	5	0.87	5	1.16	2	0.89	13	6.40	8	3.68	0	0.00
Tilia（シナノキ属 ）	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.92	0	0.00
Corylus（ハシバミ属）	1	0.17	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Euonymus（ニシキギ属）	0	0.00	0	0.00	1	0.45	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Phellodendron（キハダ属）	0	0.00	2	0.46	0	0.00	4	1.97	0	0.00	0	0.00
Ilex（モチノキ属）	1	0.17	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.25
Betula（カバノキ属）	6	1.05	5	1.16	4	1.78	12	5.91	26	11.98	1	0.25
Alnus（ハンノキ属）	5	0.87	7	1.63	2	0.89	0	0.00	9	4.14	0	0.00
草本類												
Gramineae	2	0.35	0	0.00	0	0.00	1	0.50	5	2.30	1	0.25
Cyperaceae	13	2.28	1	0.23	51	22.76	6	2.95	10	4.60	4	1.00
Artemisia	1	0.17	5	1.16	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Carduoideae	5	0.87	2	0.46	0	0.00	4	1.97	0	0.00	2	0.50
Ranunculus	1	0.17	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.92	0	0.00
Cruciferae	0	0.00	1	0.23	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Thalictrum	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	1.38	0	0.00
Polemonium	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.46	0	0.00
Leguminosae	1	0.17	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.46	0	0.00
Lysimachia	0	0.00	0	0.00	1	0.45	0	0.00	8	3.68	0	0.00
シダ類												
Osmunda	117	20.52	286	66.66	111	49.55	17	8.37	5	2.30	224	56.28
Monolete-type	360	63.15	88	20.51	43	19.19	78	38.42	29	13.36	161	40.45
Lycopodium	1	0.17	0	0.00	0	0.00	13	6.40	3	1.38	0	0.00
コケ類												
Sphagnum	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.46	0	0.00
total	570	99.91	429	99.94	224	99.98	203	99.97	217	99.92	398	99.98

図版1



花粉・胞子化石写真

第５節　上幌内１遺跡出土木材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1. はじめに

厚真川左岸の段丘上に立地する上幌内１遺跡から出土した木材について、樹種同定を行った。

2. 試料と方法

上幌内１遺跡の試料は、縄文時代中期～後期のＴピットである TP-19 の KP01 から出土した逆茂木が１点、縄文時代早期の TP-19 と TP-30 周辺の Ta-d 層直下から出土した自然木が各１点の、計３点の出土木材である。

樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

表1 出土木材の樹種同定結果

	遺跡名	上幌内1遺跡		一里沢遺跡(参考)	合計
	時期	Ta-d降下以前	縄文時代 中～後期	縄文時代 中～後期	
樹種	器種	自然木	逆茂木	逆茂木	
ノリウツギ		1	1	－	2
エゴノキ属		－	－	5	5
トネリコ属根材		1	－	－	1
	合計	2	1	5	8

3. 結果

同定の結果、広葉樹であるノリウツギとトネリコ属根材の２分類群がみられた。ノリウツギが２点、トネリコ属の根材が１点であった。同定結果を表１に、一覧を２に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1)ノリウツギ　*Hydrangea paniculata*　Siebold　ユキノシタ科　図版１　1a-1c（No.1）、2a-2c（No.3）

小型の道管が単独ないし２～３個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は 20～40 段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端１～４列が直立する異性で、１～３列となる。

ノリウツギは、北海道から九州に分布する落葉低木の広葉樹である。材は重硬だが、小径木であるため、現在ではあまり利用されていない。

(2)トネリコ属　*Fraxinus*　モクセイ科　図版３　8a-8c（No.２）

根材：中型の道管が、単独ないし２～３個複合して疎らに散在する。木部繊維の壁は薄い。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、１～２列幅となる。トネリコ属にはシオジ節とトネリコ節があるが、根材では両者の区別は難しく、ここではトネリコ属とした。

いずれも日本各地の山地などの湿潤地に分布する、落葉高木から小高木の広葉樹である。

表2 出土木材の樹種同定結果一覧

試料No.	遺跡名	出土遺構	器種	樹種	木取り	時期	挿図番号
1	上幌内1遺跡	TP-19 KP-01	逆茂木	ノリウツギ	割れ	縄文時代中～後期	図Ⅲ-29-2
2		TP-19下	自然木	トネリコ属根材	割れ	樽前dテフラより下層	－
3		TP-30下	自然木	ノリウツギ	芯持丸木？	樽前dテフラより下層	－
4	一里沢遺跡（参考）	TP-37 KP-01	逆茂木	エゴノキ属	芯持丸木	縄文時代中～後期	－
5		TP-37 KP-02	逆茂木	エゴノキ属	芯持丸木	縄文時代中～後期	－
6		TP-37 KP-03	逆茂木	エゴノキ属	芯持丸木	縄文時代中～後期	－
7		TP-37 KP-05	逆茂木	エゴノキ属	芯持丸木	縄文時代中～後期	－
8		TP-37 KP-06	逆茂木	エゴノキ属	芯持丸木	縄文時代中～後期	－

4. 考察

上幌内１遺跡から出土した、自然木はノリウツギとトネリコ属の根材であった。ノリウツギとトネリコ属は、共に遺跡周辺でも生育可能な樹種であり（平井，1996・伊東ほか，2011）Ta-d降下以前の遺跡周辺には、ノリウツギおよびトネリコ属が生育していたと考えられる。

上幌内１遺跡から出土した縄文時代中期～後期の逆茂木は、ノリウツギであった。試料は片端を尖らせる加工が施されていた。逆茂木は、落とし穴の一種であるＴピット TP-19 から出土しており、狩猟の際の罠として利用されていたと考えられる。ノリウツギは堅硬だが加工性が良いという材質を持つ（平井，1996）。

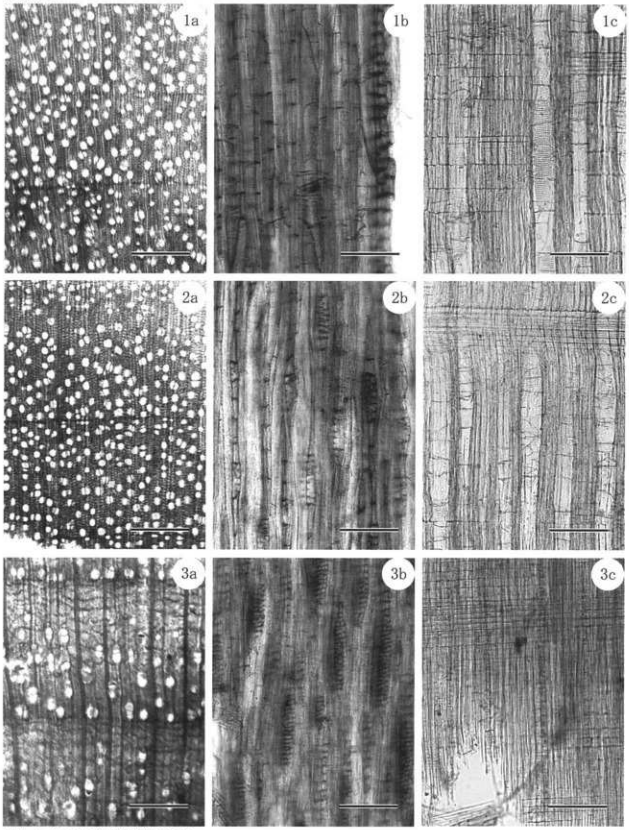
引用文献

平井信二（1996）木の大百科－解説編－．642p，朝倉書房．

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1992）火山灰分析・材同定調査．秋田県埋蔵文化財センター編「秋田ふるさと村(仮称)建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書（第二分冊）」：417-428，秋田県教育委員会．

図版1

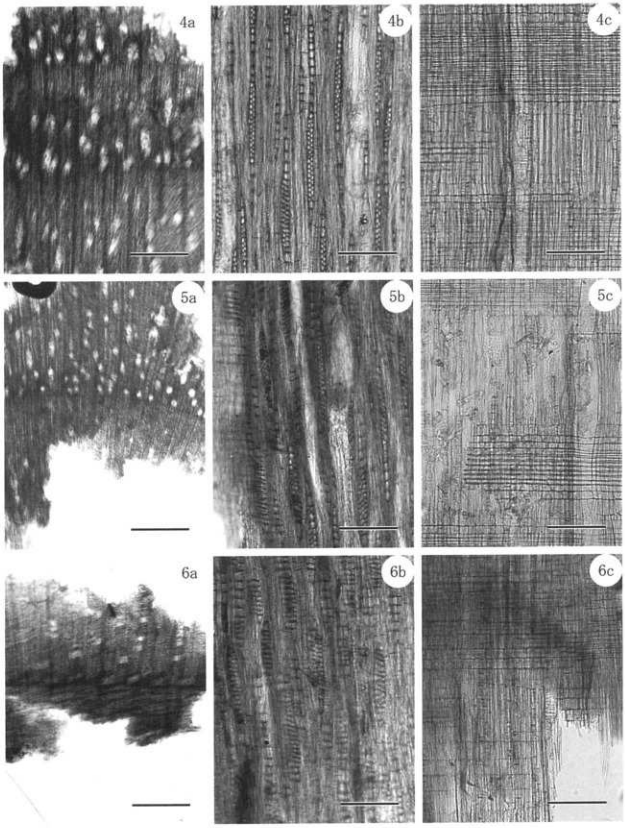


出土木材の光学顕微鏡写真(1)

1a-1c.ノリウツギ(No.1)　2a-2c.ノリウツギ(No.3)　3a-3c.エゴノキ属(No.4)

a:横断面(スケール=500 μm)　b:接線断面(スケール=200 μm)　c:放射断面(スケール=200 μm)

図版2

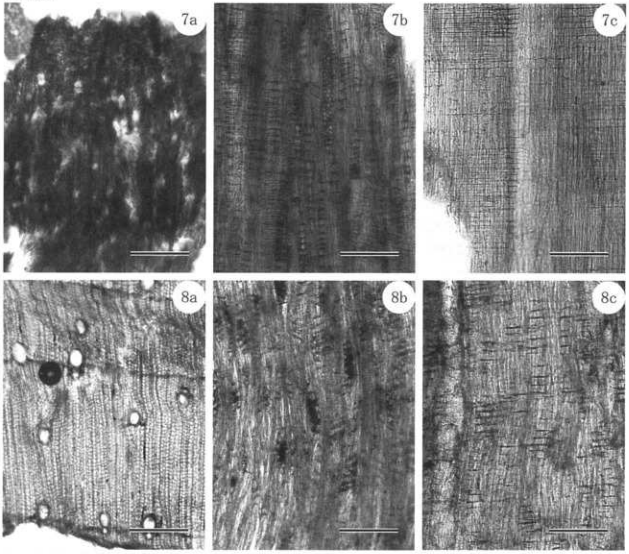


出土木材の光学顕微鏡写真(2)

4a-4c.エゴノキ属(No.5) 5a-5c.エゴノキ属(No.6) 6a-6c.エゴノキ(No.7)

a:横断面(スケール=500 μm) b:接線断面(スケール=200 μm) c:放射断面(スケール=200 μm)

図版3



出土木材の光学顕微鏡写真(3)

7a-7c.エゴノキ属(No.8)　8a-8c.トネリコ属根材(No.2)

a:横断面(スケール=500 μm)　b:接線断面(スケール=200 μm)　c:放射断面(スケール=200 μm)

第６節　上幌内１遺跡出土黒曜石の原産地分析

(株)第四紀地質研究所　井上　巌

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光sX線分析装置(日本電子製JSX-3200)で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(FP法)による自動定量計算システムが採用されており、6C～92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大 30kV、4mA)の採用で微量試料～最大 290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクFP法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝200 秒(有効分析時間)である。

分析対象元素は Si, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zr の14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量%を 100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素の Rb, Sr, Y, Zr は重量%では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。主要元素と微量元素の酸化物濃度(重量%)で SiO2-Al2O3,Fe2O3-TiO2,K2O-CaO の各相関図、Rb-Sr は積分強度の相関図の4組の組み合わせて図を作成した。

2 分析結果

第1表化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。第2表には原産地対比が記載してある。

上幌内1遺跡のAS-1と5は所山産、AS-2, 3, 4の3個は赤井川産で、4は被熱している。

引用文献

井上　巌(2000)東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析(XRF)北越考古学、第11号、23-38.

井上　巌(2001)テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号　23-51.

井上　巌(2008)東北日本の原産地黒曜石　関東・中部・東海編

井上　巌(2008)東北日本の原産地黒曜石　東北・北陸編

井上　巌(2008)東北日本の原産地黒曜石　北海道編

井上　巌(2008)東北日本の原産地黒曜石写真集

表1　化学分析表

試料名	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	$Fe2O_3$	Rb_2O	SrO	$Y2O_3$	ZrO_2	Total	Rb(I)	Sr(I)
AS-1	3.7006	0.0000	13.5528	75.1109	0.4268	4.4202	1.0151	0.2033	0.0616	1.4527	0.0251	0.0113	0.0000	0.0197	100.0001	1435	630
AS-2	3.6113	0.0000	11.8742	76.7841	0.4278	4.7368	0.8857	0.1289	0.0806	1.4165	0.0236	0.0101	0.0053	0.0151	100.0000	1308	544
AS-3	3.6354	0.0000	11.8219	76.9106	0.4060	4.8093	0.8088	0.1171	0.0705	1.3648	0.0211	0.0086	0.0072	0.0159	100.0002	1178	469
AS-4	3.5022	0.0000	12.7730	74.9989	0.4102	6.8880	0.8477	0.1145	0.0540	1.2565	0.0275	0.0043	0.0063	0.0167	99.9998	1515	234
AS-5	3.7806	0.0000	12.1895	76.8247	0.3750	4.3731	0.7355	0.1671	0.0680	1.4264	0.0262	0.0106	0.0060	0.0175	99.9999	1405	555

表2　原産地対比表

試料名	原産地	遺物番号	遺構／グリッド	層位	遺物名	分類	時期	規模(mm)			重量(g)	肉眼所見		備考	掲図番号
								長軸	短軸	厚さ					
AS-1	南山	4496	VH-01	3	つまみ付きナイフ	A1	縄文時代	60.6	22.6	8.0	9.2	黒色強い。わずかに白い縞が入る。	床面		図Ⅲ-5-3
AS-2	赤井川	4080	AL-26	VbL	エンド・スクレイパー	B2	縄文時代	51.6	33.7	12.2	17.2	黒色不透明。球晶がやや多量に入る。	岩砕面有		図Ⅲ-47-19
AS-3	赤井川	4076	AL-26	VbL	UF	－	縄文時代	57.4	32.1	11.0	15.7	黒色不透明。球晶が多量に入る。	－		図Ⅲ-47-22
AS-4	被熱・赤井川？	4193	AF-26	VbL	ポイント類	B2	縄文時代	72.8	30.5	6.7	11.1	黒色半透明。	未成品、被熱		図Ⅲ-47-10
AS-5	南山	381	AU-22	Ⅲ層L	石核	－	旧石器文化期	85.9	66.1	48.1	302.0	黒色強い。細い亀裂面。	転礫面有		図Ⅱ-44-10

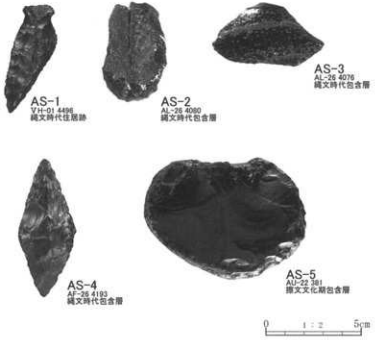


写真1　分析に使用した黒曜石

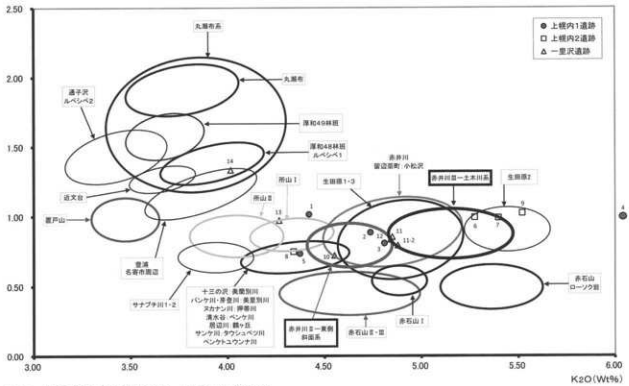


図 3　北海道の黒曜石 SiO_2–Al_2O_3（標準図）

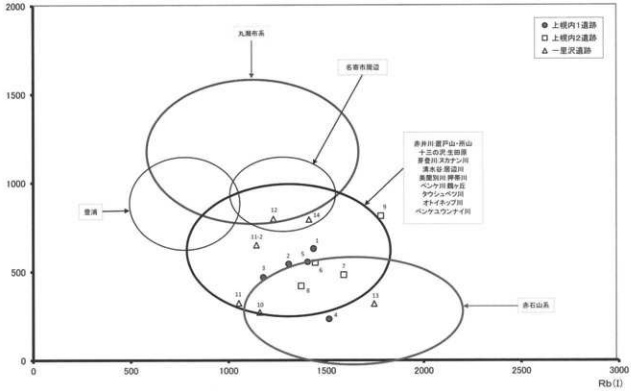


図 4　北海道の黒曜石・Rb–Sr（標準図）

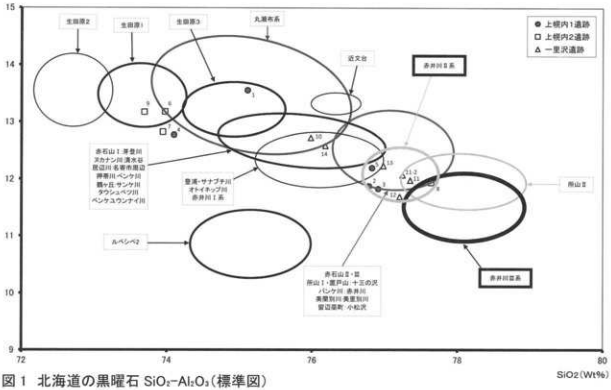


図 1　北海道の黒曜石 SiO_2–Al_2O_3（標準図）

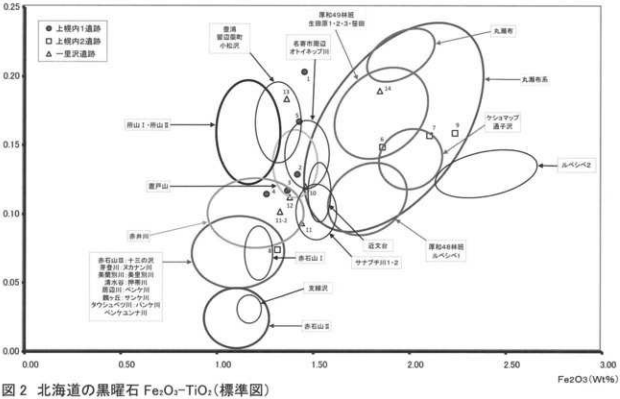


図 2　北海道の黒曜石 Fe_2O_3–TiO_2（標準図）

第７節　上幌内１遺跡における石材同定

アースサイエンス株式会社
加藤孝幸　米島真由子

１．石材同定観察

石材を肉眼・ルーペ・簡易実体鏡・マグネットを併用して観察した．結果を表１に示す．

２．考　　察

岩種別に観察の結果を示す。

(1) 火成岩類

今回岩種鑑定を行った試料で火成岩類は，花崗岩類・デイサイト・ひん岩・安山岩・閃緑岩・玄武岩ないしドレライト（緑色岩化するものとそうでない比較的新鮮なものがある）・はんれい岩・輝石岩・はんれい岩質ペグマタイト・かんらん岩（蛇紋岩化）がある．

花崗岩類は花崗岩そのものを含む．日高変成帯の花崗岩分布域に直接由来する可能性と新第三紀の礫岩や第四紀の段丘堆積物に含まれていたものに由来する可能性がある．

デイサイトは珪化している．石狩低地帯西方の山地などに分布する．近傍では中新世の川端層の礫岩の礫に含まれる可能性もある．

神居古潭帯の富良野市山部などで蛇紋岩体に貫入するトロニエム岩が分布している．これらの一部はひん岩となっている．あるいは，様似町には新第三紀の火山活動としてひん岩脈が多数知られている．その他，各地に安山岩質の岩脈があり，それらの一部は斑状の安山岩質半深成岩であるひん岩となっているであろう．

安山岩は輝石安山岩らしいが，珪化しており，熱水変質作用を受けた安山岩である．このような安山岩は石狩低地帯より西側の山地に広く分布している．また，川端層などの礫岩中に礫として含まれることもある．

閃緑岩は日高変成帯などに分布するが，神居古潭帯の蛇紋岩中の岩脈としても存在する．

玄武岩～ドレライトのうち，緑色岩化しているものは東方の神居古潭帯やイドンナップ帯に広く分布する．また，緑色岩化せず，比較的新鮮なものは紅葉山などで新第三紀の貫入岩として存在する．はんれい岩は日高変成帯やポロシリオフィオライト帯に広く分布し，その一部は輝石岩となっている可能性がある．はんれい岩質ペグマタイトは，日高変成帯のはんれい岩中に見られるほか，神居古潭帯の蛇紋岩に含まれることがある．

かんらん岩は鑑定したものはマイロナイト化が進んで片状の組織が発達し，半ば蛇紋岩化している．神居古潭帯のかんらん岩にはめったに見られない組織であり，日高変成帯のかんらん岩に由来する可能性が高い．

(2) 堆積岩類

1) 正常堆積物に由来する堆積岩

礫岩，砂岩，泥岩，凝灰質泥岩，珪藻質泥岩が認められる．これらの供給源は近傍に分布する新第三紀層に求めることができる．

2) 化学的沈澱岩

シリカシンター（珪華）は火山の熱水が地表に供給される場所に沼（湯沼）ができ，そこ

に熱水からシリカ（石英など）が沈澱し，元素の拡散を伴って縞状の組織が形成されたものである．近傍では支笏湖周辺の火山活動に関係して，漁川などに見られる．これに泥質分（あるいは微細な黄鉄鉱？）が混じって黒色を呈するものも，シリカシンター様岩として記載した．

チャートは赤色，暗灰色，帯緑暗灰色などを呈し，神居古潭帯やイドンナップ帯に分布する．

3）火山砕屑岩

凝灰岩は珪化し，帯緑灰色に変質したものがあり，神居古潭帯やイドンナップ帯に酸性凝灰岩として含まれていた可能性，川端層などの新第三紀層中の礫，あるいは西方の新第三紀の火山岩地帯にあって，熱水変質作用を受けたなど，さまざまの由来の可能性がある．

ハイアロクラスタイト（水冷破砕岩）は緑色岩化しており，神居古潭帯やイドンナップ帯に由来すると考えられる．

(3) 変成岩・熱水変質岩

角閃岩は日高変成帯・ポロシリオフィオライト帯・神居古潭帯に分布する．

黒色片岩・緑色片岩・石英片岩は神居古潭帯に分布する．

蛇紋岩やタルクは主として，神居古潭帯に分布する．

珪質頁岩は新第三紀層などの非変形の泥岩が火成岩の接触に伴う熱水変質作用を受けて珪酸分に富むようになったもので，剥片石器などに多用される．産地は道内各地の新第三紀の泥岩層分布域の火成岩が貫入する場所に存在する．

珪化岩は同様の熱水変質作用が極端に進んで，原岩が不明となったものである．

(その他)

赤鉄鉱岩は神居古潭帯やイドンナップ帯の緑色岩の一部が赤鉄鉱岩化したものである可能性がある．また，石狩低地帯西側山地の熱水変質帯にも存在する可能性がある．

珪質泥岩としたものは緑灰色で青黒色のフィルム状薄層があり，変形している．イドンナップ帯など付加体起源の可能性がある．

石英岩は，火山岩その他の孔隙（晶洞）中に熱水から石英が結晶したものである．同じ理屈で，オパールや微小石英が沈澱して縞模様をつくるものはめのうと呼ばれるが，今回は鑑定していない．

表1 上幌内1遺跡 石材同定一覧表

委託番号	遺跡名／採集地点	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド／遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	備考	同定結果	特徴
1	上幌内1	3	自然礫	－	ⅢbM	AO-29	37.1	23.1	19.6	22.4	完形	ひん岩	斜長石斑状で、淡緑色に変質。
2	上幌内1	693	自然礫	－	ⅢbL	ⅢPB-02	54.4	37.0	11.9	31.2	完形	角閃岩	斜長石と角閃石のそれぞれの濃集部が縞状構造をつくる。
3	上幌内1	1146	自然礫	－	ⅢbL	T-19	97.0	(38.7)	14.4	(76.0)	欠損、被熱	中粒砂岩	淡褐色に変色。ラミナに平行な縞状。
4	上幌内1	2002	FC	－	ⅥbM	ⅤSB-01	66.5	29.7	20.0	40.0	完形	珪化岩	縞状組織。強珪化した火山岩片が散在。
5	上幌内1	4621	石斧	A	Ⅲb	R-17	(72.2)	57.9	31.1	(185.0)	刃部片	はんれい岩	淡緑灰色に変質した変はんれい岩。
6	上幌内1	2815	自然礫	－	Ⅴc	AR-27	91.4	82.8	(56.8)	(560.0)	破片	珪質頁岩	暗灰色の泥岩が珪化した硬質岩。
7	上幌内1	4125	自然礫	－	ⅤbU	AG-19	63.6	59.5	17.5	55.7	完形	細礫岩	淘汰不良。粒子は安山岩、砂岩、泥岩他。
8	上幌内1	4549	石斧	B2	ⅤbU	ⅤAXB-01	132.2	49.4	33.7	292.0	完形、図Ⅲ-43-6	凝灰質泥岩	帯緑灰色細粒で硬質の頁岩。
9	上幌内1	4851	自然礫	－	ⅢbL	ⅢPB-02	(78.5)	(33.7)	(15.4)	(25.5)	809・865-1と接合、欠損	珪質頁岩	黒灰色で微細な砂粒子が散在。
10	上幌内1	2490	すり石	A	ⅤbL	AP-26	(79.6)	(67.6)	(30.3)	(156.1)	2491と接合、欠損	デイサイト	灰白色に珪化。斑晶は斜長石ら普通角閃石。
50	上幌内1	1844	自然礫	－	Ⅵ	AP-30	(148.7)	(51.2)	(54.6)	(418.0)	欠損	ドレライト(緑色岩)	暗緑色。斜長石は緑泥石し、チャンバラ状に配列。
58	上幌内1	2813	自然礫	－	ⅤbL	AR-26	72.9	39.0	21.3	74.5	完形	石英岩	白色。石英脈。晶洞内には、自形の石英が生成。
59	上幌内1	2177	自然礫	－	ⅥbM	AT-25	(37.7)	(28.8)	(19.9)	(29.6)	欠損	石英岩	白色。塊状、石英脈。母岩由来と考えられる団状構造認められるが、母岩の詳細不明。
60	上幌内1	1941	自然礫	－	ⅤbL	AR-30	(80.5)	(60.6)	(41.5)	(330.0)	欠損	石英岩	白色。石英脈主体で、晶洞内には自形の石英生成。一部に褐色の母岩(凝灰質砂岩?)が付く。母岩は溶脱著しく、多孔質。
64	上幌内1	1894	自然礫	－	Ⅵ	AQ-31	(41.5)	(23.3)	(17.5)	(11.3)	欠損	珪藻質泥岩	黄褐色。吸水性顕著。
65	上幌内1	2770	自然礫	－	ⅤbU	AP-21	66.2	40.2	14.1	31.7	完形	泥岩	灰色。吸水性があり、珪藻を含む可能性。堆積構造があり、パッチ状の泥を含む。生物擾乱受ける。
77	上幌内1	4390	自然礫	－	Ⅴc	AO-31	33.7	26.0	14.6	18.7	完形	珪質頁岩	暗灰色。貝殻状断口。
78	上幌内1	4422	自然礫	－	Ⅴc	AL-30	41.2	33.9	25.1	32.9	完形	蛇紋岩	淡褐色。メッシュ状組織。磁石に付く。

第８節　上幌内１遺跡出土鉄器の金属考古学的調査結果

岩手県立博物館　赤沼　英男

１　はじめに

北海道勇払郡厚真町上幌内１遺跡は、厚真川右岸段丘から続く緩斜面上に立地する。厚幌ダム建設に伴い、平成 26 年度に発掘調査された遺跡である。調査の結果、アイヌ文化期に比定される遺構から、棒状鉄製品、鉄鍋の破片、小刀などが出土した。棒状鉄製品は漁撈用具として使用された可能性がある。鉄鍋破片は資料厚と口縁部の形状から、少なくとも２個体が混在していることが確認された[1]。他地域からもたらされた鉄鍋を破片の状態にし、日常生活に必要な鉄器を製作するための素材として使用された可能性がある。

出土資料の素材を明らかにし、遺跡内への来歴を推定することを目的として、棒状鉄製品と鉄鍋破片２点の金属考古学的調査を実施した。以下に調査結果を報告する。

表1　調査試料の概要

試料番号	資料名	検出遺構	層位	推定時期	挿図番号
1	棒状鉄製品	AV-24	ⅢbM	アイヌ文化期	図Ⅱ-46-20
2	鉄鍋破片	ⅢIPB-01	ⅢbM	アイヌ文化期	図Ⅱ-37-2
3	鉄鍋破片	ⅢIPB-01	ⅢbM	アイヌ文化期	図Ⅱ-37-1

*考古学的情報は厚真町教育委員会・乾哲也氏による。

２　調査資料

２－１　調査資料の概要

調査資料は表１に示す棒状鉄製品(No. １)、および２点の鉄鍋破片(No. ２・３)である。鉄鍋破片 No. ２および No. ３は口縁部の形状が異なっており、別個体の可能性が高い。製作地域が異なっていた可能性があり、地金の組成が異なっていたものと推定される。

２－２　調査試料の摘出

表に示す調査資料からの金属考古学的調査試料の摘出は、岩手県立博物館で実施された保存処理の過程で行われた。図１～３に示す部位から、ダイヤモンドカッターを装着したハンドドリル(以下、ハンドドリルという)を使い、0.5～0.8g の試料を摘出した。摘出した試料をさらに２分し大きい方を組織観察に、小さい方を化学分析に供した。

２－３　調査方法

化学分析用試料は、まず表面に付着する土砂、錆をハンドドリルで丹念に削り落とし、エチルアルコール、アセトンで超音波洗浄した。その上で試料を 130℃で２時間乾かし、ほぼメタルからなる試料、メタルと錆が混在した試料については直接テフロン分解容器に、錆からなる試料はメノー乳鉢で粉砕した後テフロン分解容器に秤量し、塩酸、硝酸、およびフッ化水素酸を使って溶解した。

得られた溶液を蒸留水で定溶とした後、全鉄(T.Fe)、銅(Cu)、ニッケル(Ni)、コバルト(Co)、マンガン(Mn)、リン(P)、チタン(Ti)、ケイ素(Si)、カルシウム(Ca)、アルミニウム(Al)、マグネシウム(Mg)、バナジウム(V)、およびイオウ(S)の 13 元素を、高周波誘導プラズマ発光分光分析法(ICP-AES)で分析した。

組織観察用試料はエポキシ樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを使って研磨し、研磨面を金属顕微鏡で観察した。No. 1については錆化前の地金の状態を推定できる領域、および残存する非金属介在物をエレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー(EPMA：JXA-8230)で分析した。２点の鉄鍋破片については、ナイタール(2.5ml の硝酸と 97.5ml のエタノール混合液)で腐食した後顕微検鏡し、地金の製造法を推定する上で重要と判断された組織を、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー(EPMA：JXA-8230)で分析した。

3　調査結果

3－1　化学成分分析結果

表２は３試料の化学成分分析結果である。３試料からは 0.006mass%以上の Ni、Co、および Cu が検出された。No. 2および No. 3からは 0.26mass%、0.42mass%の P が分析された。後者２試料から検出された P は相当の高レベルであり、鋳造鉄器の製作に優位性を発揮した可能性がある。

表2　調査試料の金属考古学的解析結果

試料番号		道跡名	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	S	ミクロ組織	Cu・Ni・Co三成分比			
																Co*	Cu*	Ni**	Cu**
1	－	上幌内1遺跡	0.004	0.011	0.021	0.001	0.090	0.008	0.535	0.003	0.106	0.004	0.001	0.140	Cm (<0.5)	1.91	0.36	0.52	0.19
2	－	上幌内1遺跡	0.010	0.009	0.018	0.014	0.420	0.003	0.010	<0.001	<0.001	<0.001	0.026	0.080	G.L.	2.00	1.11	0.50	0.55
3	－	上幌内1遺跡	0.006	0.009	0.040	0.012	0.260	0.011	<0.01	0.011	<0.001	<0.001	0.016	0.030	L.	4.44	0.67	0.22	0.15
101	－	二風谷遺跡	0.005	0.011	0.017	0.003	0.154	0.000	0.056	0.034	0.041	0.001	0.007	－	G.L.	1.54	0.44	0.64	0.28
102	－	上幌内モイ遺跡	0.015	0.008	0.015	0.005	0.170	0.004	<0.01	<0.001	0.003	0.003	0.006	－	L.	1.88	1.88	0.53	1.00
103	－	オニキシベニ遺跡3号墓A	0.026	0.013	0.016	0.006	0.336	0.000	<0.01	0.001	0.038	0.004	0.007	<0.01	L.	1.23	2.00	0.81	1.62
104	－	上幌内モイ遺跡	0.006	0.011	0.013	0.010	0.100	0.007	0.310	0.005	0.003	0.001	0.012	－	G.L.	1.18	0.55	0.84	0.46
105	a	富里2遺跡	0.007	0.011	0.013	0.003	0.257	0.002	<0.01	<0.001	0.001	<0.001	0.017	0.037	－	1.18	0.64	0.84	0.53
	b		0.006	0.010	0.012	0.003	0.265	0.002	<0.01	<0.001	0.002	<0.001	0.017	0.008	－	1.20	0.60	0.83	0.5
106	－	ポロモイチャシ跡	0.011	0.010	0.020	0.002	0.150	－	－	－	－	－	－	－	G.L.	2.00	1.10	0.50	0.55
107	－	大町2遺跡	0.011	0.014	0.032	0.007	0.200	0.005	<0.01	0.021	0.005	0.002	0.010	－	G.L.	2.29	0.79	0.43	0.34
108	a	富里2遺跡	<0.001	0.011	0.025	0.018	0.272	0.021	0.021	<0.001	<0.001	<0.001	0.016	0.030	－	2.27	0.00	0.44	－
	b		<0.001	0.010	0.024	0.017	0.262	0.021	0.008	<0.001	<0.001	<0.001	0.015	0.029	－	2.40	0.00	0.41	－

* Cmはセメンタイトその欠落孔、G.L.は片状黒鉛、L.はレーデブライト。　　** 101～108は厚真町または川西遺跡出土鉄鍋。

3－2　摘出した試料の組織観察結果

No. 1 (図 $1a_1$)から摘出した試料のマクロ組織はその全域が錆化した組織によって構成されていた(図 $1b_1$)。マクロ組織領域 Reg. 1および Reg. 2内部の EPMA 反射電子組成像(BEI)には、微細な金属光沢を呈する結晶 Cm とその欠落孔と推定される空隙からなる組織が観察された(図 $1c_{1\cdot2}$)。EPMA による含有元素濃度分布のカラーマップによって、結晶 Cm は Fe および炭素(C)を主成分とすることがわかった。これまでに行われた出土鉄器の金属考古学的解析結果をふまえると(佐々木・村田　1984)、結晶 Cm は錆化前の鋼を構成するパーライト中のセメンタイト(Fe_3C)、微細な空隙はその欠落孔と判定される。結晶 Cm およびその欠落孔と推定される組織のマクロ組織における分布状況から、No. $1b_1$ 領域 Reg. 1の錆化前の地金は、炭素量 0.5mass%以下の鋼と推定される(東北大学金属材料研究所編　1953)(佐藤知雄編　1968)。マクロ組織領域 Reg. 2内部も領域 Reg. 1内部とほぼ同じ組織によって構成されていた。

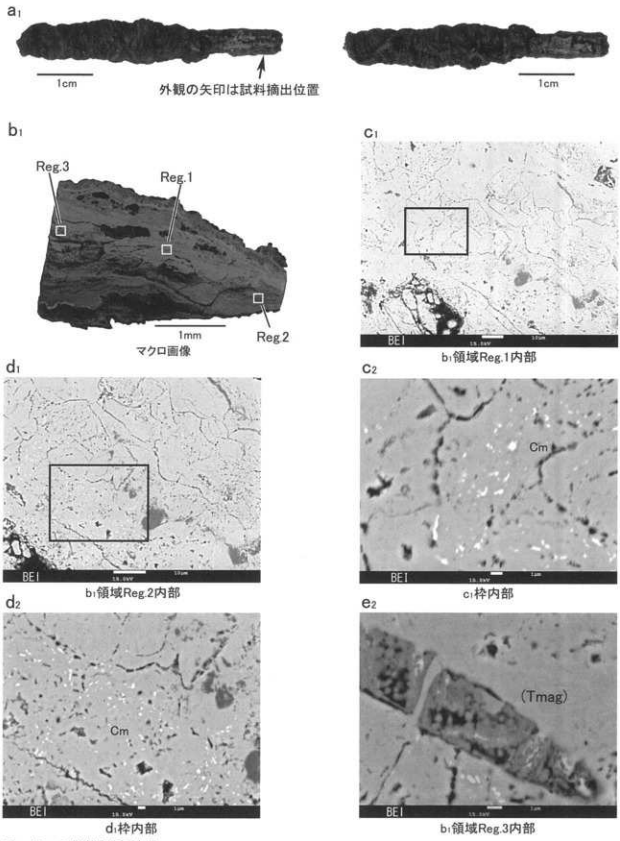
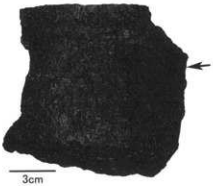


図1　No.1の組織観察結果

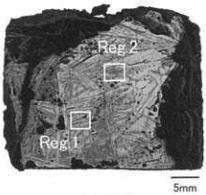
a1：外観。矢印は試料摘出位置　b1：摘出した試料のマクロ組織　c1･2･d1･2：それぞれb1領域(Reg.1)領域(Reg.2)内部のEPMA反射電子組成像(BEI)。　e2：b1領域(Reg.3)内部のEPMA反射電子組成像(BEI)。

a1



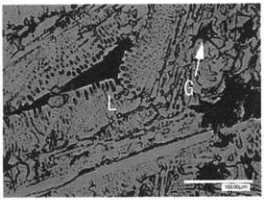
外観の矢印は試料摘出位置

b1



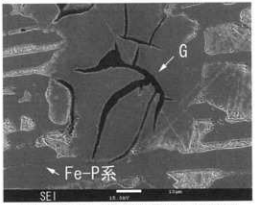
マクロ画像

c1



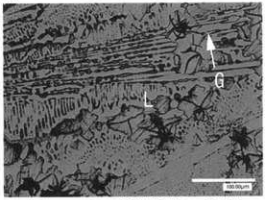
マクロエッチング組織領域(Reg.1)内部

d1



マクロエッチング組織領域(Reg.2) 内部

c2



マクロエッチング組織領域(Reg.2)内部

図2 No.2の組織観察結果
a1：外観。矢印は試料摘出位置。b1：マクロエッチング組織、エッチングはナイタールによる。c1-2：それぞれb1領域(Reg.1)内部、領域(Reg.2)内部のマクロエッチング組織、d1：b1領域(Reg.2)内部のEPMA反射電子組成像(BEI)。 L=レーデブライト組織、G=片状黒鉛。

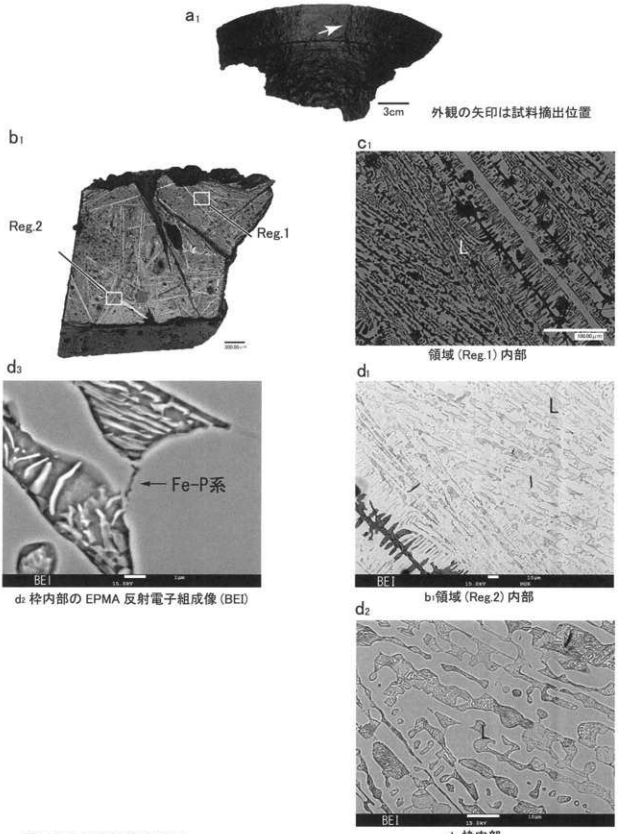
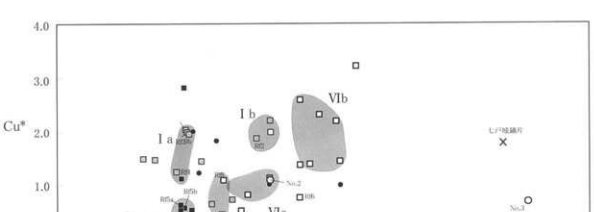


図3　No.3 の組織観察結果

a1：外観。矢印は試料摘出位置　b1：摘出した試料のマクロ組織　c1・2・d1・2：それぞれb1領域(Reg.1)、領域(Reg.2)内部のEPMA反射電子組成像(BEI)。e2：b1領域(Reg.3)内部のEPMA反射電子組成像(BEI)。



Co*=[(mass%Co)/(mass%Ni)] と Cu*=[(mass%Cu)/(mass% Ni)]。
No.2・No.3 および Rf1 ～ Rf8 は表2に対応。

図4 No.2・No.3に含有されるNi・Co・Cuの三成分比

No. 1マクロ組織領域 Reg. 3内部には細長く伸びた非金属介在物が観察された(図 1d$_1$)。EPMA 分析によって、FeO-TiO_2-Al_2O_3系化合物(チタノマグネタイトと思われる、Tmag)と暗灰色を呈する微細粒子が混在した領域からなることが分かった(図 1e$_2$)。

図2および図3に No. 2および No. 3鉄鍋破片から摘出した試料の組織観察結果を示した。2試料とも周縁部を除きメタルで構成されていたので、ナイタールで腐食した。腐食組織はその全域がレーデブライト(L)からなり、ところどころに片状黒鉛(G)が析出していた。2試料には Fe-P 系領域が観察された。

4 考察

4－1 棒状鉄製品の素材となった地金の組成

No. 1の製作に使用された地金は炭素量亜共析鋼で、鉄チタン酸化物(チタノマグネタイトと思われる)が混在した非金属介在物が観察された。鋼製造過程で、鉄チタン酸化物を含む物質が使用された、あるいは鉄チタン酸化物を含む物質が生産設備あるいは道具類に使用され、その一部が不純物として鋼に取り込まれたものと思われる。これまで、厚真町およびその周辺遺跡から出土した棒状鉄製品については、数例金属考古学的調査が実施されてきたが、いずれも亜共析鋼を素材とし、そのほとんどに鉄チタン酸化物が混在した非金属介在物が観察された。同様の操作によって製造された鋼を素材としていた可能性があり、この点については今後の調査を通し検討すべき課題である。

4－2 Ni・Co・Cuの化学組成比による鉄鍋の分類

既述のとおり、破片の状態で検出された鉄鍋は、2個体の破片が混在した資料である可能性の高いことが指摘された。最後にこの可能性について検討する。

通常の土壌に含有されるNi、Co、およびCuはきわめて低く(これまでの調査結果に基づけば0.005mass%未満)(赤沼 2005;2009)、鉄よりも錆びにくい金属であるため、一度メタルに取り

込まれた後はそのほとんどが鉄中に留まる。従って合金添加処理が行われていなかったとすると、その組成比は鉄製造法の差異に係らず、製鉄原料の組成比に近似すると推定される(赤沼2005;2009)[2]。そこで本稿では表２から Ni、Co、Cu の三成分比、Co*｛(mass%Co)/(mass%Ni)｝と Cu*｛(mass%Cu)/(mass% Ni)｝を求め、表２右欄に示す数値を基に地金の組成分類を行った。

図４は鉄鍋の Co* と Cu*の値をプロットした結果である。No. 1および No. 2は近接した位置に、No. 3はやや離れた位置に分布する。鉄鍋破片の中に少なくとも２個体の混在が認められたが、組成分析結果も形態学的調査結果と整合した結果が得られた。

図４には表２の下段に示す 10 試料を含む、これまでに調査した中世に比定される鉄鍋の分布状況をプロットした。これまでに調査した中世の鉄鍋は概ね６つのグループに分類され、No. 2はⅣa に分布する。このグループに分類する鉄鍋は東日本で広く利用された銑鉄を素材とする鉄鍋である。一方、No. 3は図の右方に単独で分布する。これまでに類例はみられず、しいて言えば七戸城矢館跡から出土した鉄鍋破片が該当する。太平洋沿岸部に鋳造工房が存在したことを示す資料とも思われるが、この点については類例の蓄積を待って検討する必要がある。

5　まとめ

厚真町上幌内１遺跡から出土した鉄器の自然科学的調査を実施した。鉄器の調査結果は中世の上幌内１遺跡に様々な地域から鉄器がもたらされ、日常生活に必要な鉄器を得ていた様子をみてとれた。供給地域を推定することにより、本州との物質文化交流の変遷がより一層見えてくる可能性があるが、この点については今後の課題としたい。

註１

1) 厚真町教育委員会からのご教授による。なお、検出された鉄鍋破片を調査した札幌国際大学・越田賢一郎氏によると、検出された鉄鍋は 14～15 世紀代に比定されるという。

2) 早稲田大学理工学術院基礎理工学部・伊藤公久教授からのご教授による。

引用・参考文献

赤沼英男(2005)『出土遺物の組成からみた物質文化交流－古代北方地域出土鉄関連資料を中心に－』岩手県立博物館

赤沼英男(2009)『東北地方北部および北海道出土刀剣類の形態と組成からみた日本刀成立過程』岩手県立博物館

佐々木稔、村田朋美(1984)「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」季刊考古学、８、pp. 27-33

佐藤知雄編(1968)『鋼の顕微鏡写真と解説』丸善株式会社

東北大学金属材料研究所編(1953)『金属顕微鏡組織』

引用・参考文献

厚真町　1986　『厚真町史』

厚真町教育委員会　2001a　『豊川1遺跡』

厚真町教育委員会　2001b　『鯉沼2遺跡』

厚真町教育委員会　2004　『厚幌1遺跡』

厚真町教育委員会　2005　『鯉沼3遺跡』

厚真町教育委員会　2006a　『上幌内モイ遺跡(1)』

厚真町教育委員会　2006b　『鯉沼3遺跡(2)』

厚真町教育委員会　2007a　『上幌内モイ遺跡(2)』

厚真町教育委員会　2007b　『鯉沼3遺跡 (3) 』

厚真町教育委員会　2009a　『上幌内モイ遺跡(3)』

厚真町教育委員会　2009b　『ニタップナイ遺跡(1)』

厚真町教育委員会　2010a　『厚幌1遺跡(2) 幌内7遺跡(1)』

厚真町教育委員会　2010b　『幌内5遺跡(1) 富里2遺跡 ニタップナイ遺跡(2)』

厚真町教育委員会　2011　『オニキシベ2遺跡』

厚真町教育委員会　2013a　『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡』

厚真町教育委員会　2013b　『オニキシベ5遺跡』

厚真町教育委員会　2015a　『ショロマ2遺跡』

厚真町教育委員会　2015b　『ショロマ1遺跡』

厚真村　1956　『厚真村史』

厚真村郷土研究会　1962　『厚真村古代史』 厚真村郷土研究会

出穂雅実　2006　「第Ⅲ章第2節　ジオアーケオロジー」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会

乾 哲也　2011　「厚真の遺跡を支えたもの」『アイヌ史を問いなおす』勉誠出版

恵庭市教育委員会　2001　『カリンバ4遺跡Ⅲ』

亀井喜久太郎　1956　「厚真出土の土偶」『先史時代』3

亀井喜久太郎　1976　『厚真の旧地名を尋ねて』

越田賢一郎　2004　「鉄鏃再考」『アイヌ文化の成立-宇田川洋先生華甲記念論文集-』北海道出版企画センター

(財)北海道埋蔵文化財センター　2003　『厚真町浜厚真3遺跡』北埋調報 186

札幌市教育委員会　1997　『札幌市K39遺跡大木地点』札幌市埋蔵文化財調査報告書 54

関根達人　2014　「アイヌの宝物とツクナイ」『人文社会論叢 人文科学篇』第32号

早田 勉　2006　「上幌内モイ遺跡後期更新統の層序とテフラ」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会

田近 淳・大津 直・八幡正弘　2004　「厚幌1遺跡の地すべり堆積物」『厚幌1遺跡』厚真町教育委員会

戸井町教育委員会　1995　『蛭子川2遺跡』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1987　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1990　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1992　『静川37遺跡』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1992　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1995　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅴ』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター　2002　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅷ』

苫小牧市埋蔵文化財調査センター　2002　『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅸ』

野澤 謙庵　1692　「蝦夷記」『續々群書類從第九』

秦 昭繁　1991　「特殊な剥離技法をもつ東日本の石鏃-松原型石鏃の分布と製作時期について-」『考古学雑誌』第76号第4号

北海道環境科学研究センター　2006　「ニホンジカの捕獲ハンドブック」(独) 森林総合研究所北海道支所

益富 壽之助　1987　『原色岩石図鑑』(全改訂新版)　保育社

町田 洋・新井房夫　2003　『火山灰アトラス』　東京大学出版会

松浦武四郎(吉田常吉編)　1962　『蝦夷日誌 上　東蝦夷日誌』時事通信社

松浦武四郎(高倉信一郎校訂)　1985　『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中　北海道出版企画センター

松野久也・石田正夫　1960　『1:50,000 地質図幅説明書早来』北海道開発庁

南茅部町教育委員会　1994　『磨光A遺跡』

蓑島栄紀・森秀之　2009　「「鮫皮」刀装の成立展開に関する基礎的考察」『環太平洋・アイヌ文化研究　第7号』 苫小牧駒澤大学 環太平洋・アイヌ文化研究センター

上幌内1遺跡
写真図版

図版1

1. A1区Ⅲ層完掘　S→

2. A2区沢部Ⅲ層完掘及び道跡検出　SW→

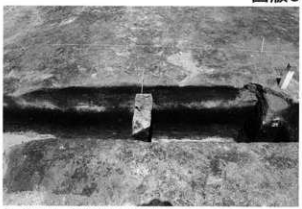
図版2

1. B区Ⅴ層完掘及びTピット配列　SW→

2. C区Ⅴ層完掘及びTピット配列　S→

図版3

1. 基本土層(1)(AO-23区) S→



2. 基本土層(2)(AO-27区) S→

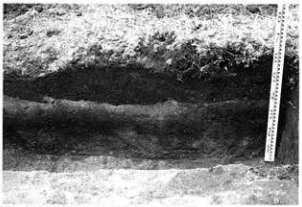
3. 基本土層(3)(A2区沢部西側) S→

4. 基本土層(4)(A2区沢部東側) S→

5. 基本土層(5)(X-21区西側) S→

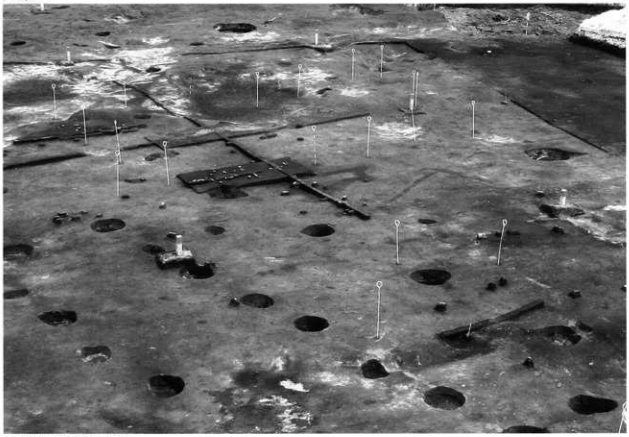
6. 基本土層(6)(X-21区東側) S→

7. C区南側トレンチ断面(西側) S→

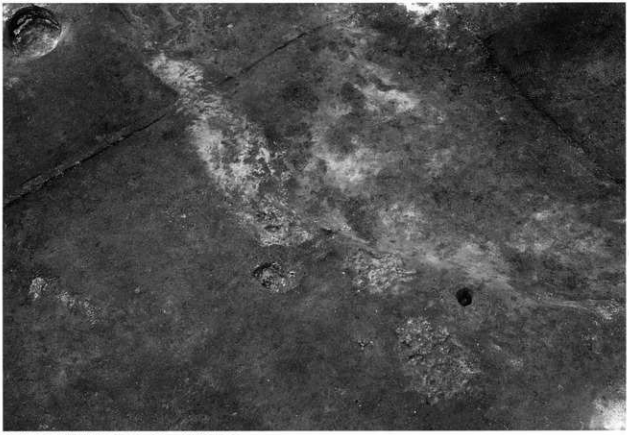


8. C区南側トレンチ断面(東側) S→

図版4



1. ⅢH-01完掘　SW→



2. ⅢH-01付属ⅢF-07・09～11検出　E→

図版5

1. ⅢH-01付属ⅢF-09断面 S→

2. ⅢH-01付属ⅢF-11断面 S→

3. ⅢH-01付属ⅢSB-01検出 S→

4. ⅢH-01付属ⅢSB-02検出 SW→

5. ⅢH-01.HP03断面 E→

6. ⅢH-01.HP04断面 E→

7. ⅢH-01.HP05断面 S→

8. ⅢH-01.HP05完掘 S→

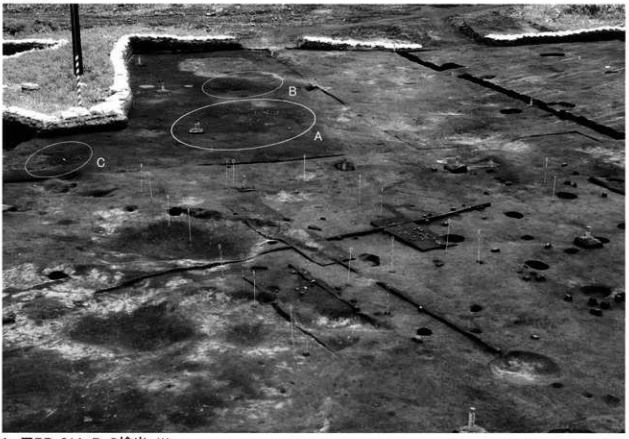
9. ⅢH-01.HP07断面 W→

10. ⅢH-01.HP07完掘 W→

11. ⅢH-01.HP14断面 E→

12. ⅢH-01.HP17断面 S→

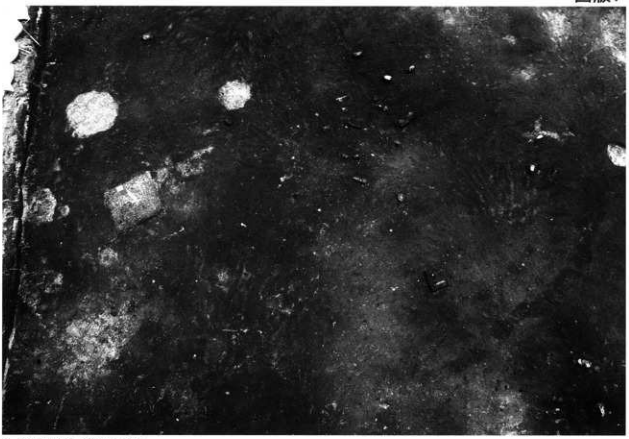
図版6



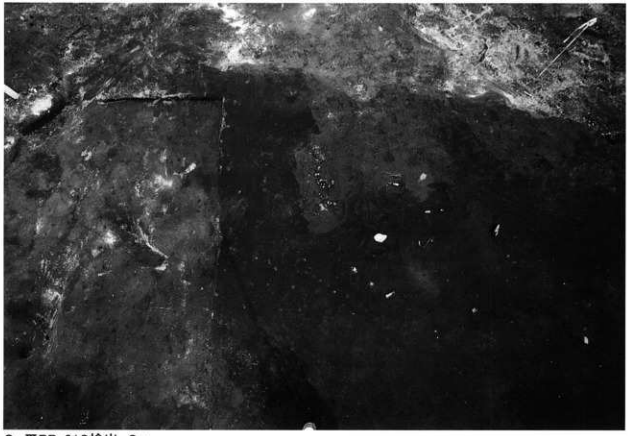
1. ⅢBB-01A・B・C検出　W→

2. ⅢBB-01A・B検出　S→

図版7



1. ⅢBB-01B検出 W→

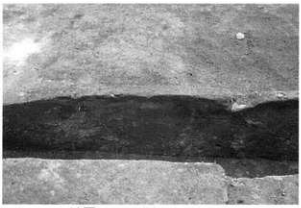


2. ⅢBB-01C検出 S→

図版8

1. ⅢH-02完掘(奥はⅢH-01) N→

2. ⅢH-02付属ⅢF-01断面 N→



3. ⅢH-02付属ⅢF-02断面 N→

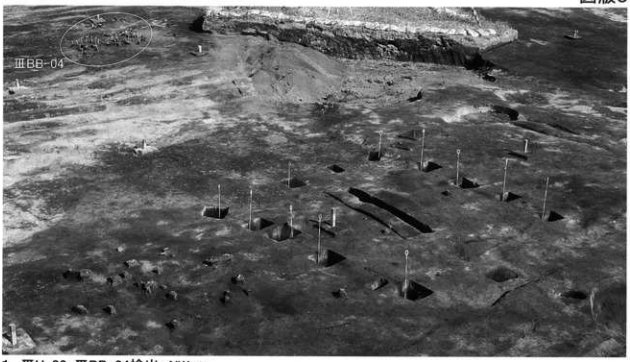
4. ⅢH-02.HP02断面 E→

5. ⅢH-02.HP02完掘 E→

6. ⅢH-02.HP05断面 W→

7. ⅢH-02.HP05完掘 W→

図版9



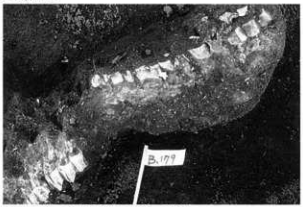
1. ⅢH-02・ⅢBB-04検出　NW→

2. ⅢBB-04検出　N→

3. ⅢPB-02調査状況　NE→

4. 集中区1調査状況　N→

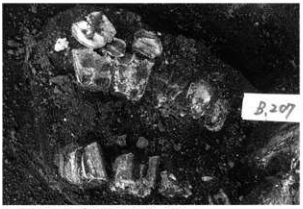
図版10



1. ⅢBB-04歯列(B.179) NW→

2. ⅢBB-04獣骨(B.181)

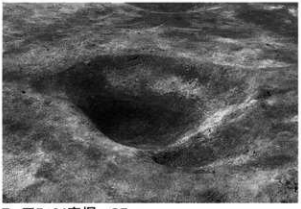
3. ⅢBB-04歯列(B.196) SW→



4. ⅢBB-04歯列(B.207) SW→

5. ⅢP-02完掘 W→

6. ⅢP-02断面・獣骨出土状態 SW→

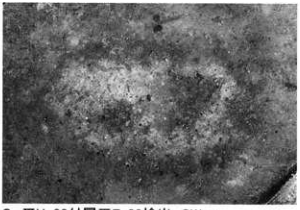


7. ⅢP-04完掘 SE→

8. ⅢP-04断面・ⅢBB-02出土状態 SE→

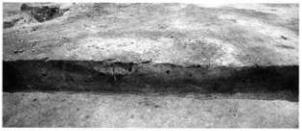
図版11

1. ⅢH-03完掘　N→

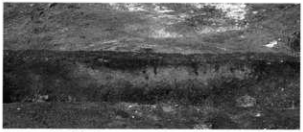


2. ⅢH-03付属ⅢF-22検出　SW→

3. ⅢH-03付属ⅢF-23・25検出　NW→



4. ⅢH-03付属ⅢF-22断面　SW→



5. ⅢH-03付属ⅢF-23断面　NE→

6. ⅢH-03付属ⅢF-25断面　SW→

図版12

1. ⅢH-03.HP01断面 SW→

2. ⅢH-03.HP01完掘 SW→

3. ⅢH-03.HP04断面 W→

4. ⅢH-03.HP04完掘 W→

5. ⅢH-03.HP05断面 SW→

6. ⅢH-03.HP05完掘 SW→

7. ⅢH-03.HP08断面 SW→

8. ⅢH-03.HP08完掘 SW→

9. ⅢH-04完掘 SE→

図版13

1. ⅢH-04付属ⅢF-31検出　N→

2. ⅢH-04付属ⅢF-31断面　N→

3. ⅢH-04付属ⅢF-33検出　N→

4. ⅢH-04付属ⅢF-33断面　N→

5. ⅢF-33擦文土器出土状態　S→

6. ⅢF-33北側遺物出土状態　W→

7. ⅢH-04.HP01断面　W→

8. ⅢH-04.HP02断面　E→

9. ⅢH-04.HP02完掘　E→

10. ⅢH-04.HP03断面　W→

図版14

1. ⅢH-04.HP04断面 E→

2. ⅢH-04.HP04完掘 E→

3. ⅢH-04.HP08断面 W→

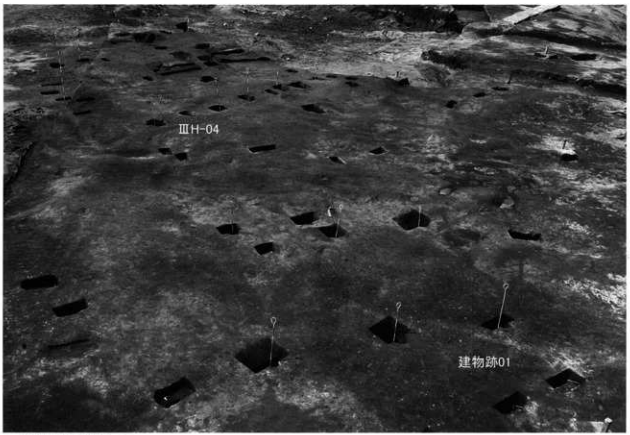
4. ⅢH-04.HP08完掘 W→

5. ⅢH-04.HP11断面 W→

6. ⅢH-04.HP19断面 W→

7. ⅢH-04.HP19完掘 W→

8. ⅢH-04.HP22断面 E→



9. 建物跡01完掘 N→

図版15

1. ⅢKP-276断面 S→

2. ⅢKP-276完掘 S→

3. ⅢKP-277断面 S→

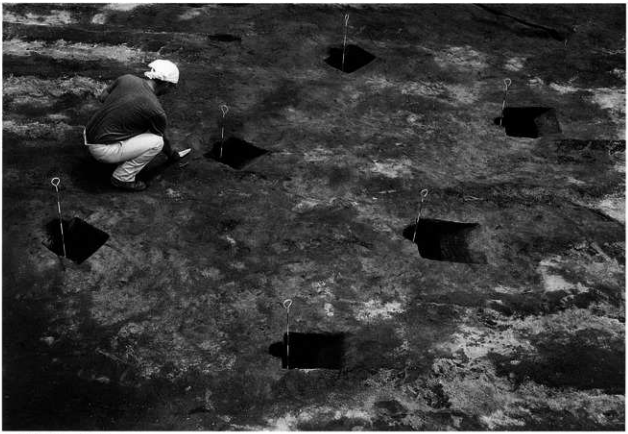
4. ⅢKP-277完掘 S→

5. ⅢKP-282断面 S→

6. ⅢKP-282完掘 S→

7. ⅢKP-287断面 S→

8. ⅢKP-287 完掘 S→



9. 建物跡02完掘 W→

図版16

1. ⅢKP-298断面 SW→

2. ⅢKP-298完掘 SW→

3. ⅢKP-300断面 SW→

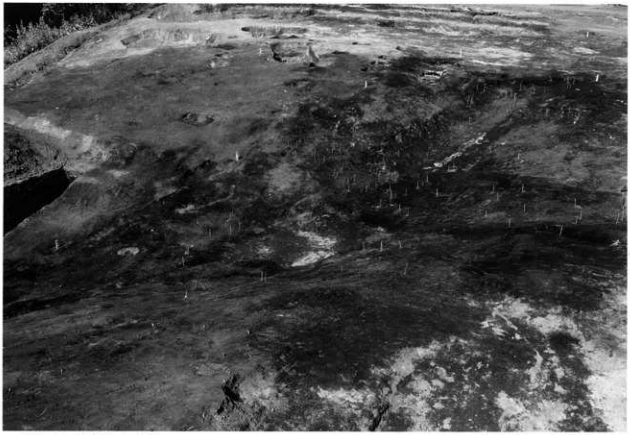
4. ⅢKP-300完掘 SW→

5. ⅢKP-301断面 SW→

6. ⅢKP-301完掘 SW→

7. ⅢKP-305断面 SW→

8. ⅢKP-305完掘 SW→



9. 集中区1遺物出土状態 SE→

図版17

1. 集中区1ⅢB-01遺物出土状態　W→

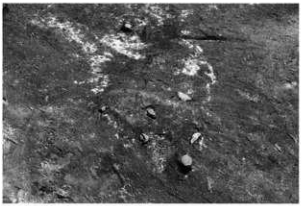
2. 集中区1小刀出土状態　W→

3. 集中区1獣骨(B.317)出土状態　SW→

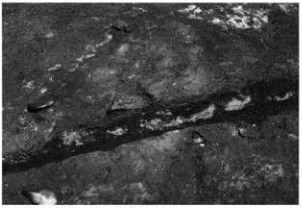
4. 集中区1ⅢBB-08遺物出土状態　SW→

図版18

1. 集中区1ⅢBB-09遺物出土状態　W→



2. 集中区1ⅢF-34検出　SW→



3. 集中区1ⅢF-34断面　SE→

4. ⅢBB-09獣骨(B.374)　SW→

5. ⅢBB-09獣骨(B.378)　N→

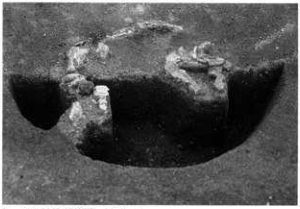
6. ⅢP-01完掘　SE→

7. ⅢP-01断面　E→

図版19

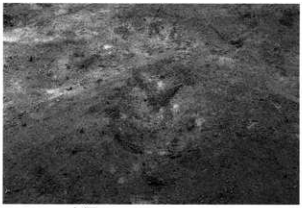
1. ⅢP-05検出　NW→

2. ⅢP-05完掘　W→



3. ⅢP-05断面　SW→

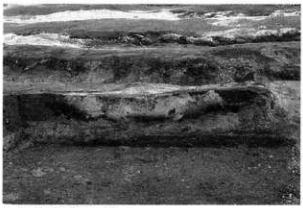
4. ⅢP-06検出　N→



5. ⅢP-06完掘　E→

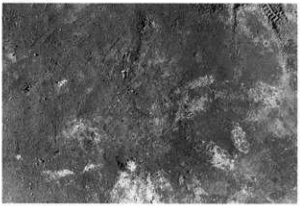
6. ⅢP-06断面　E→

7. ⅢF-04検出　W→

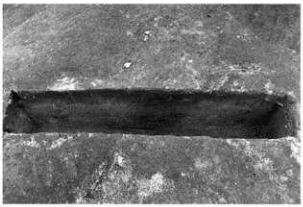


8. ⅢF-04断面　W→

図版20



1. ⅢF-05検出 E→



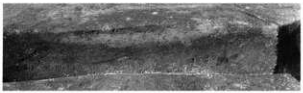
2. ⅢF-05断面 S→

3. ⅢF-06検出 SE→

4. ⅢF-06断面 SW→

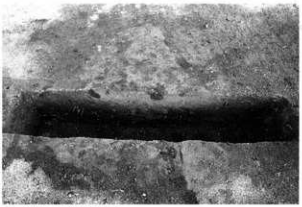
5. ⅢF-13·14 検出 N→

6. ⅢF-13断面 SW→



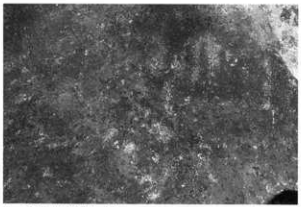
7. ⅢF-14断面 SW→

8. ⅢF-15検出 N→



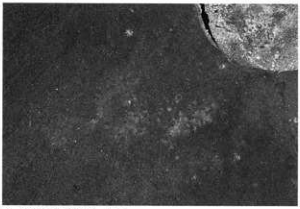
9. ⅢF-15断面 W→

図版21



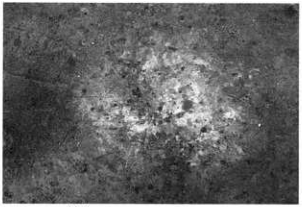
1. ⅢF-17検出　E→

2. ⅢF-17断面　W→



3. ⅢF-21検出　E→

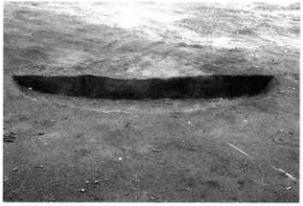
4. ⅢF-21断面　S→



5. ⅢF-24検出　NE→

6. ⅢF-24断面　SW→

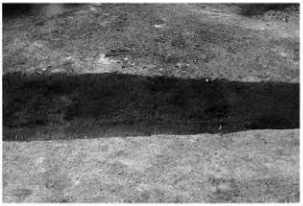
7. ⅢF-28検出　S→



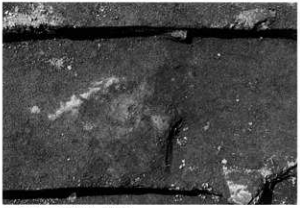
8. ⅢF-28断面　W→

図版22

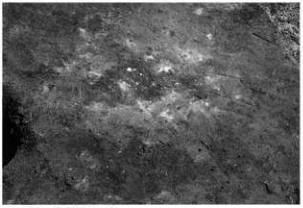
1. ⅢF-29検出　SW→



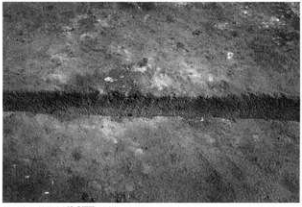
2. ⅢF-29断面　SW→



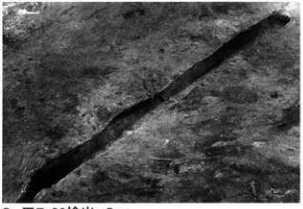
3. ⅢF-30検出　NW→



4. ⅢF-35検出　N→

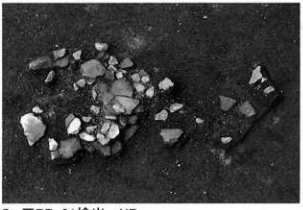


5. ⅢF-35断面　N→



6. ⅢF-36検出　S→

7. ⅢF-36断面　SE→



8. ⅢPB-01検出　NE→

図版23

1. ⅢPB-02検出　N→

2. ⅢF-26検出　S→

3. ⅢF-26断面　N→

4. ⅢPB-03検出　SE→

5. ⅢPB-04検出　SW→

図版24

1. ⅢSB-04検出　NW→

2. ⅢSB-04検出(拡大)　NW→

3. ⅢIPB-01検出　E→

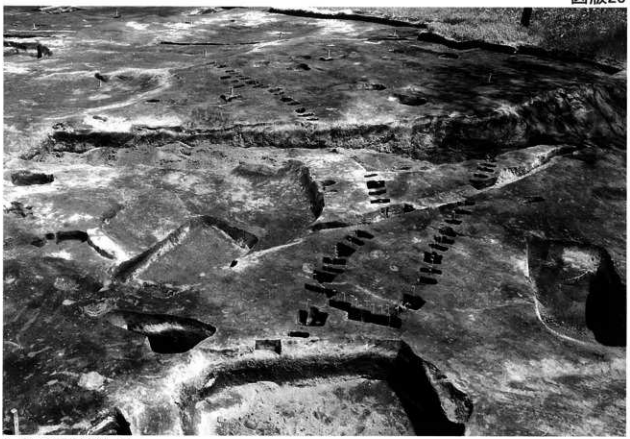
4. ⅢIPB-01検出(拡大)　NW→

5. ⅢIPB-01調査状況　SW→

6. ⅢBB-03検出　S→

7. ⅢBB-07検出　S→

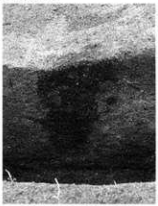
図版25



1. 杭列跡01完掘　W→

2. 杭列跡01南側検出　SW→

図版26



1. ⅢKP-23断面 SW→

2. ⅢKP-45断面 E→

3. ⅢKP-50断面 E→

4. ⅢKP-50完掘 E→

5. ⅢKP-65断面 SW→

6. ⅢKP-65完掘 SW→

7. ⅢKP-70断面 W→

8. ⅢKP-76断面 SW→

9. 杭列跡02完掘 NW→

図版27

1. 杭列跡02西端部完掘　W→

2. ⅢKP-130断面　W→

3. ⅢKP-130完掘　W→

4. ⅢKP-139断面　E→

5. ⅢKP-139完掘　E→

6. ⅢKP-149断面　SW→

7. ⅢKP-149完掘　SW→

8. ⅢKP-188断面　SE→

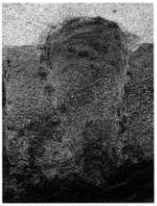
9. ⅢKP-188完掘　SE→

図版28

1. ⅢKP-332断面 W→

2. ⅢKP-332完掘 W→

3. ⅢKP-344断面 S→



4. ⅢKP-344完掘 S→

5. ⅢKP-454断面 NE→

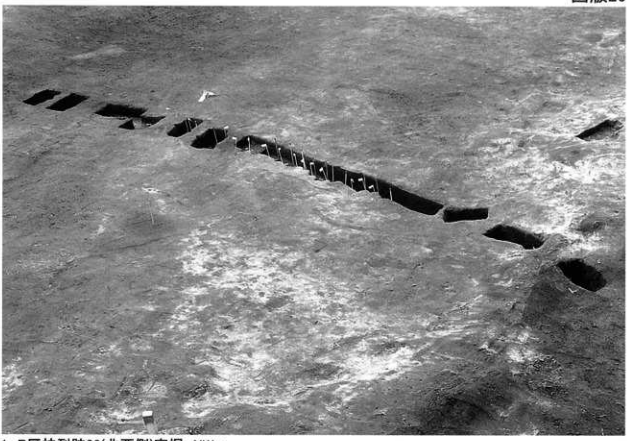
6. ⅢKP-454完掘 NE→

7. ⅢKP-441断面 S→

8. ⅢKP-441完掘 S→

9. 杭列跡03完掘 N→

図版29



1. B区杭列跡03(北西側)完掘　NW→

2. ⅢKP-209断面　E→

3. ⅢKP-209完掘　E→

4. ⅢKP-224断面　W→

5. ⅢKP-224完掘　W→

6. ⅢKP-231断面　SW→

7. ⅢKP-231完掘　SW→

8. ⅢKP-238断面　SW→

9. ⅢKP-238完掘　SW→

図版30

1. 道跡完掘　S→

2. 道跡断面A　W→

3. 道跡断面B　W→

4. 道跡断面C　SE→

図版31

1.VH-01完掘 SE→

2. VH-01遺物出土状態(1) E→

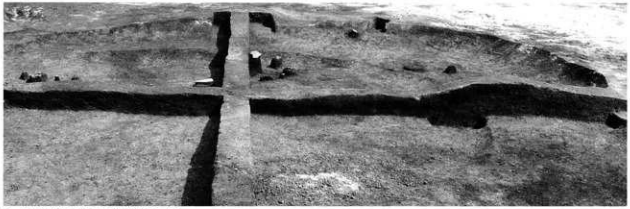
3. VH-01遺物出土状態(2) NW→

4. VH-01遺物出土状態(3) E→

5. VH-01つまみ付きナイフ出土状態 S→

図版32

1. ⅤH-01 SNライン断面 E→



2. ⅤH-01 WEライン断面 S→

3. ⅤH-01.HP08断面 E→

4. ⅤH-01.HP08完掘 E→

5. ⅤH-01.HP09断面 W→

6. ⅤH-01.HP09完掘 W→

7. ⅤH-01.HP13断面 NW→

8. ⅤH-01.HP13完掘 NW→

9. ⅤH-01.HP16断面 S→

10. ⅤH-01.HP16完掘 S→

図版33

1. VH-01.HP17断面 N→

2. VH-01.HP17完掘 N→

3. VH-01.HP18断面 S→

4. VH-01.HP18完掘 S→

5. VH-01.HP19断面 S→

6. VH-01.HP19完掘 S→

7. VH-01.HP20断面 S→

8. VH-01.HP20完掘 S→

9. VP-01完掘 E→

10. VP-01断面 E→

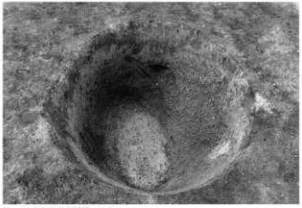
図版34

1. TP-02完掘 S→

2. TP-02断面 S→

3. TP-03完掘 S→

4. TP-03断面 S→


5. TP-04完掘 SE→

6. TP-04断面 SE→

7.TP-04.KP03
断面 NW→

8.TP-04.KP05
断面 NE→

9.TP-04.KP06
断面 NE→

10. TP-05完掘 SE→

11. TP-05断面 SE→

12.TP-05.KP02
断面 W→

13.TP-05.KP02
完掘 W→

14.TP-05.KP03
断面 W→

15.TP-05.KP05
断面 S→

16.TP-05.KP06
断面 N→

図版35

1. TP-06完掘　S→

2. TP-06断面　S→

3. TP-07 完掘　W→

4. TP-07断面　W→

5. TP-07掘り上げ土断面　W→

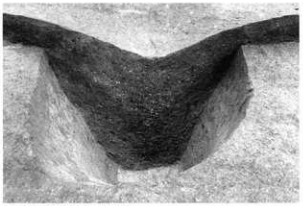
6. TP-08完掘　W→

7. TP-08断面(1)　S→

8. TP-08断面(2)　S→

図版36

1. TP-09完掘　NW→



2. TP-09断面　NW→

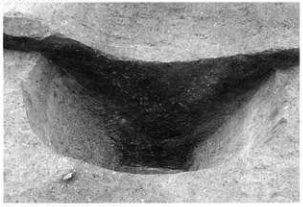
3. TP-09掘り上げ土断面　NW→

4. TP-09掘り上げ土(南西側)断面　NW→

5. TP-09.KP02(右)・03(左)断面　NE→

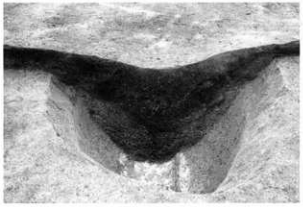
6. TP-09.KP06断面　SE→

7. TP-10完掘　NW→



8. TP-10断面　SE→

9. TP-11完掘　NW→



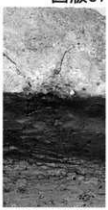
10. TP-11断面　SE→

図版37

1. TP-11掘り上げ土断面 SE→

2. TP-11.KP01 断面 SE→

3. TP-11.KP02 断面 SE→



4. TP-11.KP03 断面 SE→

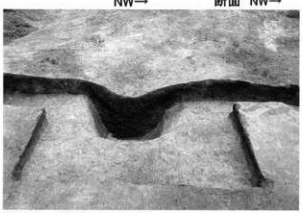
5. TP-12完掘 NW→

6. TP-12断面 NE→

7. TP-12.KP04·05断面 NW→

8. TP-12.KP07 断面 NW→

9. TP-13完掘 E→



10. TP-13掘り上げ土断面 W→

11. TP-13.KP01断面 W→

12. TP-13.KP02断面 E→

図版38

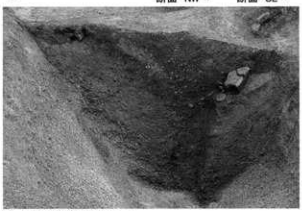
1. TP-14完掘 W→

2. TP-14断面 E→

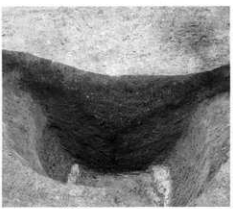
3. TP-14.KP01 断面 NW→

4. TP-14.KP02 断面 SE→

5. TP-15完掘 N→


6. TP-15断面 SE→

7. TP-16完掘 W→


8. TP-16断面 W→

9. TP-16.KP01 断面 W→

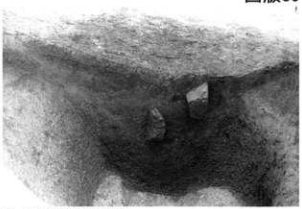
10. TP-16.KP02 断面 E→

11. TP-17完掘 W→

12. TP-17断面 W→

図版39

1. TP-18完掘　NW→



2. TP-18断面　NW→

3. TP-19完掘　W→

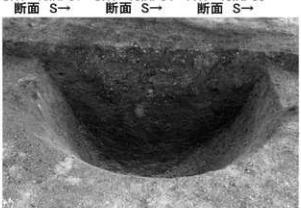
4. TP-19断面　NW→

5.TP-19.KP01
断面　S→

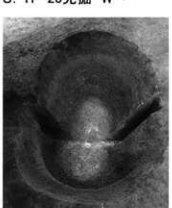
6.TP-19.KP04
断面　S→

7.TP-19.KP06
断面　S→

8. TP-20完掘　W→



9. TP-20断面　W→



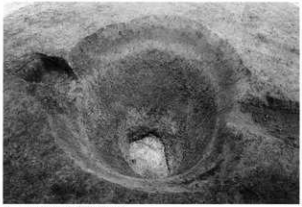
10. TP-21完掘　S→

図版40

1. TP-21断面 S→

2. TP-21.KP01完掘 NE→

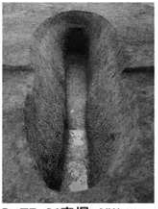
3. TP-21.KP02完掘 NE→


4. TP-22完掘 W→

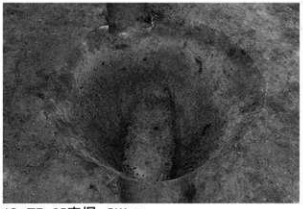
5. TP-22断面 W→

6. TP-23完掘 W→

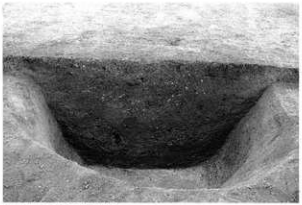
7. TP-23断面 SW→


8. TP-24完掘 NW→

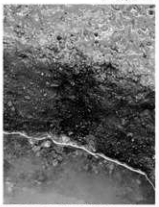
9. TP-24断面 NW→


10. TP-25完掘 SW→

図版41

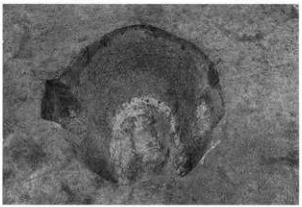

1. TP-25断面 W→

2. TP-25.KP02断面 S→


3. TP-25.KP03断面 N→

4. TP-26完掘 SW→

5. TP-26断面 SW→


6. TP-27完掘 S→

7. TP-27断面 S→

8. TP-27覆土中逆茂木跡完掘 S→

9. TP-28完掘 E→

10. TP-28断面 E→

図版42

1. TP-28.KP03断面 W→

2. TP-28.KP03完掘 W→

3. TP-28.KP04断面 W→

4. TP-28.KP04完掘 W→

5. TP-28.KP05断面 W→

6. TP-28.KP05完掘 W→

7. TP-28.KP07断面 W→

8. TP-28.KP07完掘 W→

9. TP-29完掘 SW→

10. TP-29断面 SW→

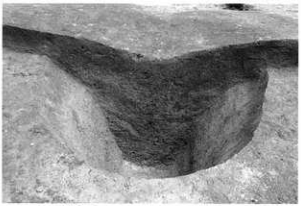
11. TP-29.KP01断面 SW→

12. TP-29.KP01完掘 SW→

13. TP-29.KP05(左)・11(右)断面 NE→

図版43

1. TP-30完掘　NW→



2. TP-30断面　NW→

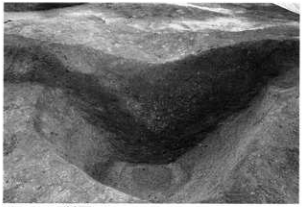
3. TP-30掘り上げ土断面　NW→

4. TP-31完掘　NW→

5. TP-31断面　NW→

6. TP-31掘り上げ土断面　NW→

7. TP-32完掘　W→



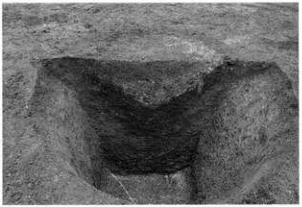
8. TP-32断面　W→

図版44

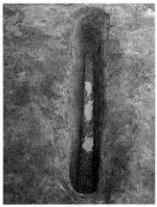
1. TP-33完掘 S→

2. TP-33断面 S→

3. TP-34完掘 S→



4. TP-34断面 S→



5. TP-35完掘 SW→

6. TP-35断面 SW→

7. TP-36完掘 SW→

8. TP-36断面 NE→

9. TP-37完掘 SE→

図版45

1. TP-37断面 SE→

2. TP-37.KP03断面 W→

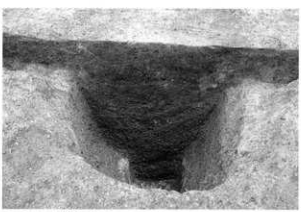
3. TP-37.KP04断面 W→

4. TP-37.KP07断面 W→

5. TP-37.KP08断面 W→

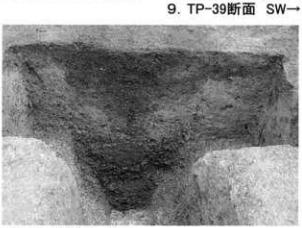
6. TP-38完掘 S→

7. TP-39完掘 SW→


8. TP-38断面 S→

9. TP-39断面 SW→

10. TP-40完掘 W→


11. TP-40断面 W→

12. TP-41完掘 SW→

図版46

1. TP-41断面 SW→

2. TP-41.KP02断面 SW→

3. TP-41.KP04断面 NW→

4. TP-42完掘 S→

5. TP-42断面 S→

6. TP-42.KP04断面 S→

7. TP-42.KP04完掘 S→

8. TP-42.KP09断面 S→

9. TP-42.KP09完掘 S→

10. TP-43完掘 W→

11. TP-43断面 W→

12. TP-43.KP02断面 W→

13. TP-43.KP09断面 NE→

図版47

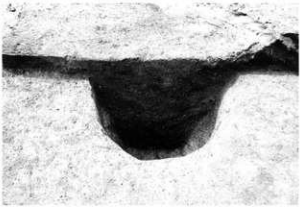
1. TP-44完掘 N→

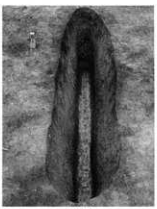
2. TP-44断面 N→

3. TP-44.KP02断面 W→

4. TP-44.KP04断面 S→

5. TP-46完掘 N→


6. TP-46断面 N→


7. TP-47完掘 S→

8. TP-47断面 S→

9. TP-47掘り上げ土検出 S→

10. TP-47掘り上げ土断面 E→

図版48

1. ⅤPB-01検出 SW→

2. ⅤPB-02検出 N→

3. ⅤPB-03検出 E→

4. ⅤPB-04検出 W→

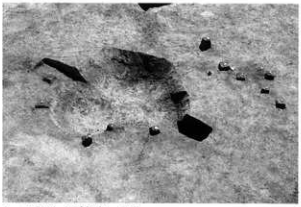
5. ⅤPB-05(中央)・06(右奥)検出 N→

6. ⅤPB-05検出 NW→

7. ⅤPB-06検出 W→

8. ⅤPB-07検出 NW→

図版49



1. ⅤPB-08検出 NW→

2. ⅤPB-09(右)・10(左)検出 SW→

3. ⅤPB-09検出 SW→

4. ⅤPB-10検出 SW→

5. ⅤPB-11検出 E→

6. ⅤPB-12検出 E→

7. ⅤPB-13検出 W→

8. ⅤSB-02検出 N→

図版50

1. ⅤSB-03検出　NW→

2. ⅤSB-03北側拡大　W→

3. ⅤSB-03南側拡大　SE→

4. ⅤSB-04検出　W→

5. ⅤSB-05検出　W→

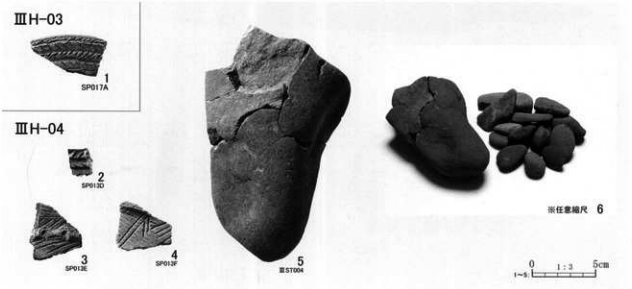
6. ⅤAXB-01検出　SW→

7. Tピット調査状況(1)

8. Tピット調査状況(2)

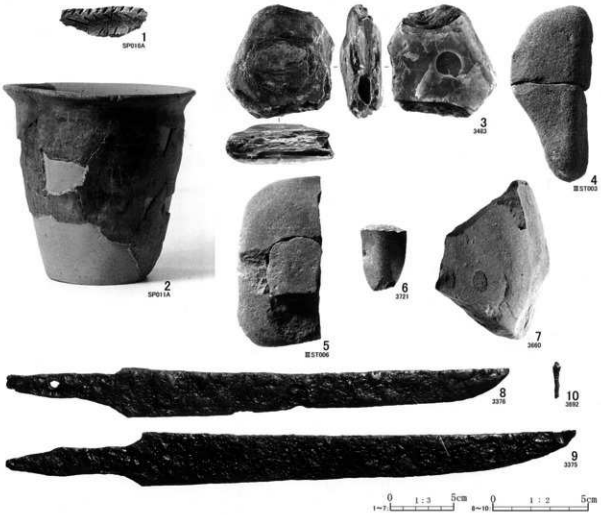
図版51

1．ⅢH-01・ⅢSB-01・02・ⅢBB-01・ⅢSB-03出土礫

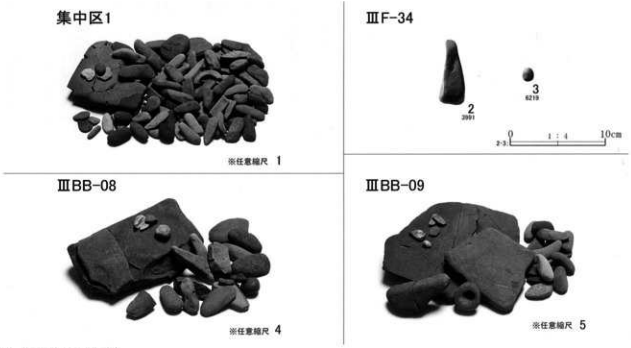


2．ⅢH-03・04出土遺物

図版52



1．集中区1出土遺物



2．集中区1出土礫

図版53

ⅢPB-01・02出土遺物

図版54

1．ⅢPB-02出土礫石器・礫

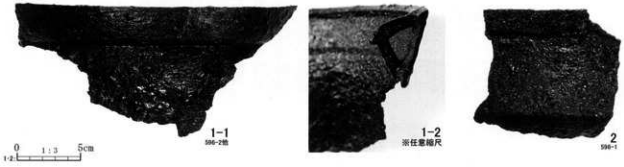
0 1:3 5cm

2．ⅢPB-03出土土器

図版55

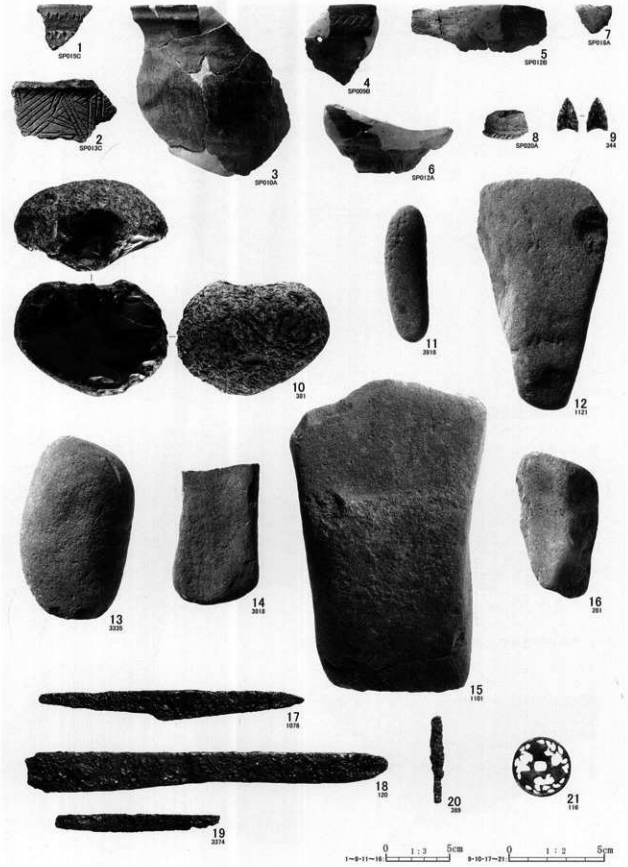
1. ⅢPB-04出土土器

2. ⅢSB-04·ⅢIPB-01出土礫·ⅢBB-03出土骨角器



3. ⅢIPB-01出土鉄器

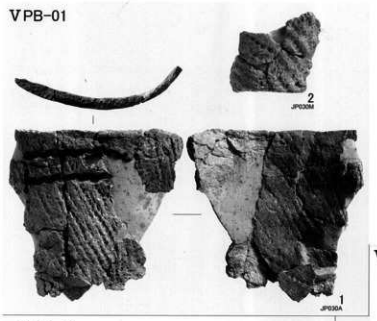
図版56

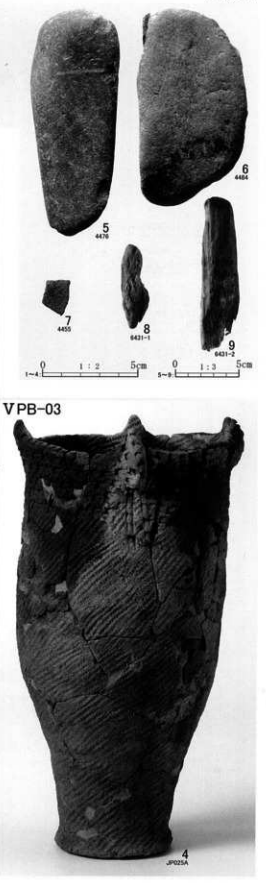


Ⅲ層包含層出土遺物

図版57

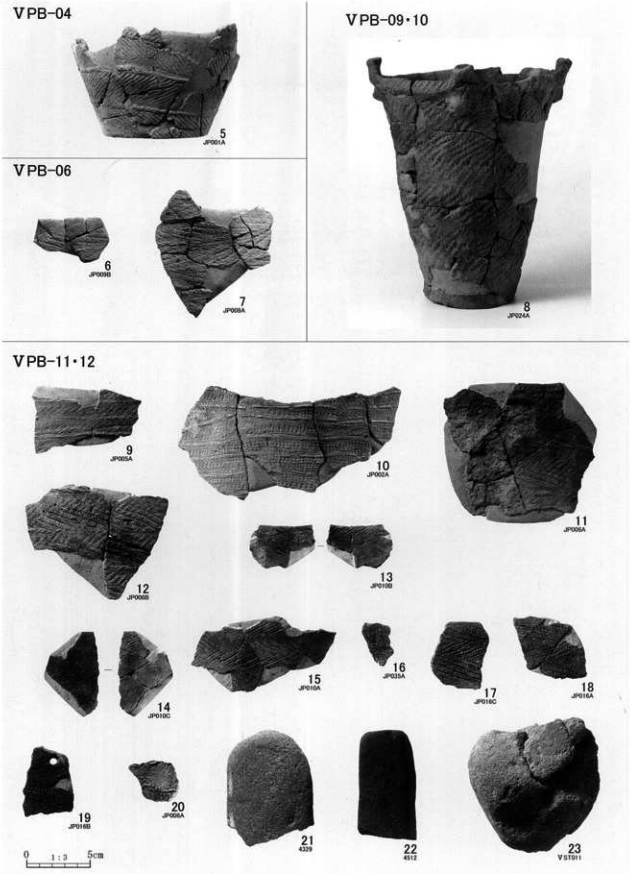
1. VH-01出土石器・TP-19出土逆茂木





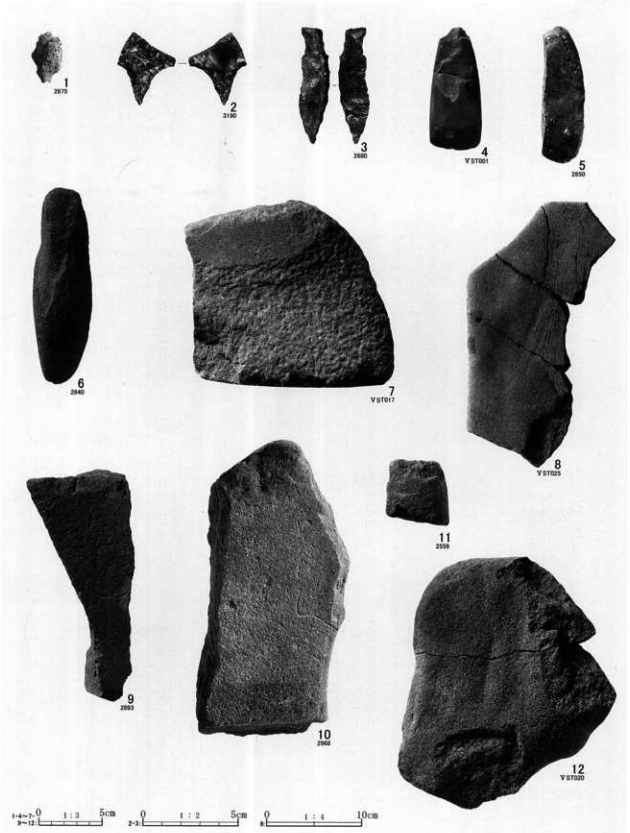
2. VPB-01～03出土土器

図版58



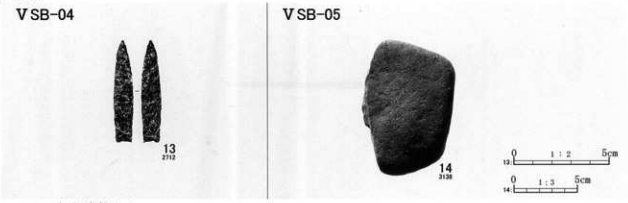
VPB-04・06・09～12出土遺物

図版59

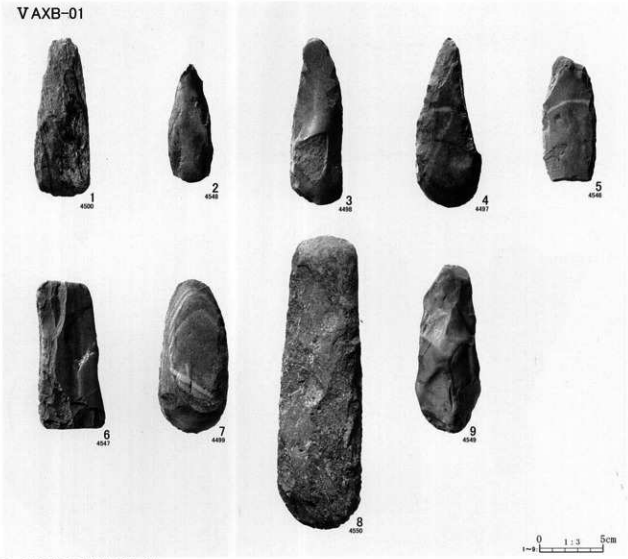


VSB出土遺物(1)

図版60

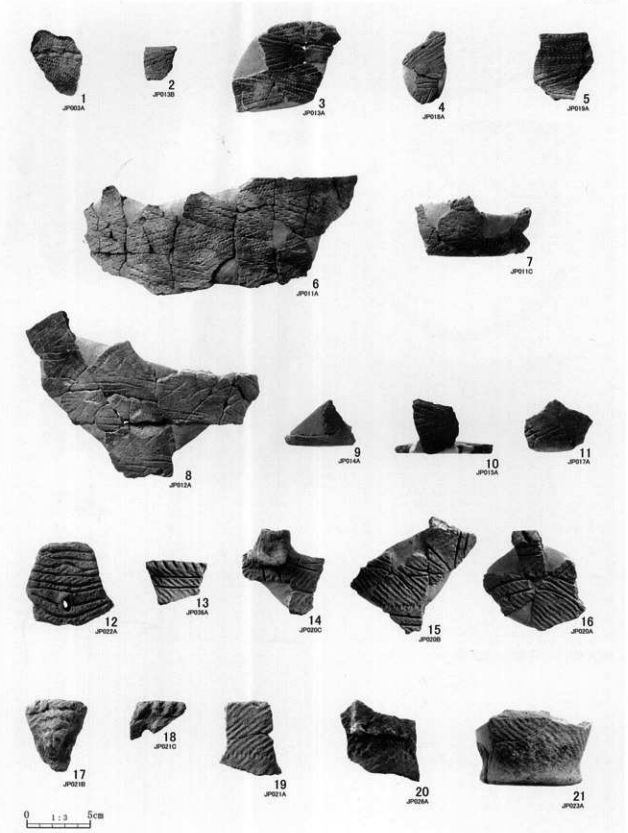


1．ⅤSB出土遺物(2)



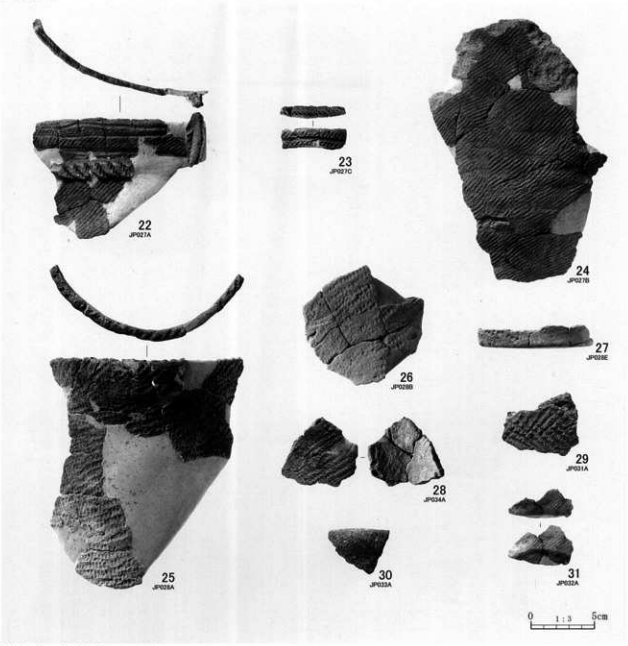
2．ⅤAXB-01出土礫石器

図版61



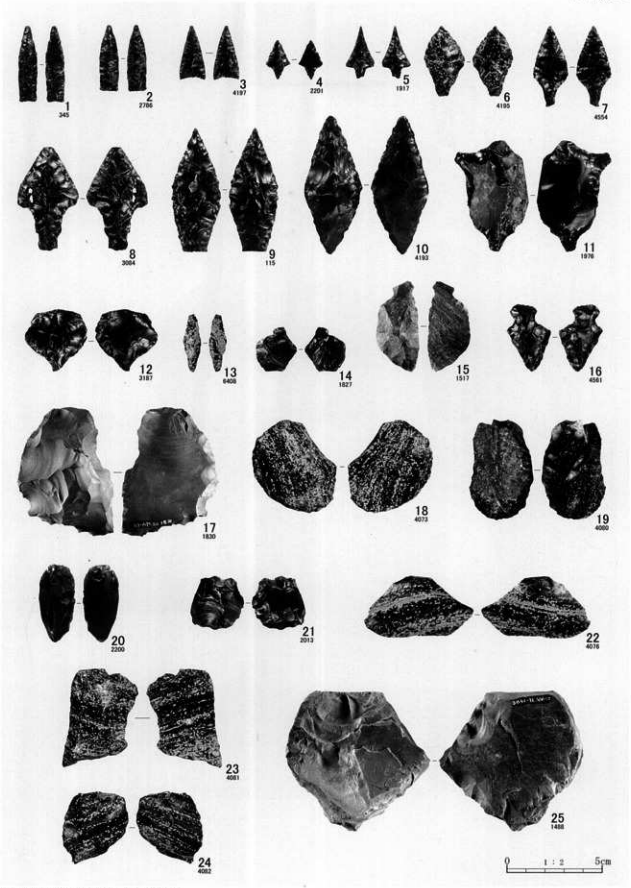
縄文時代包含層出土土器(1)

図版62



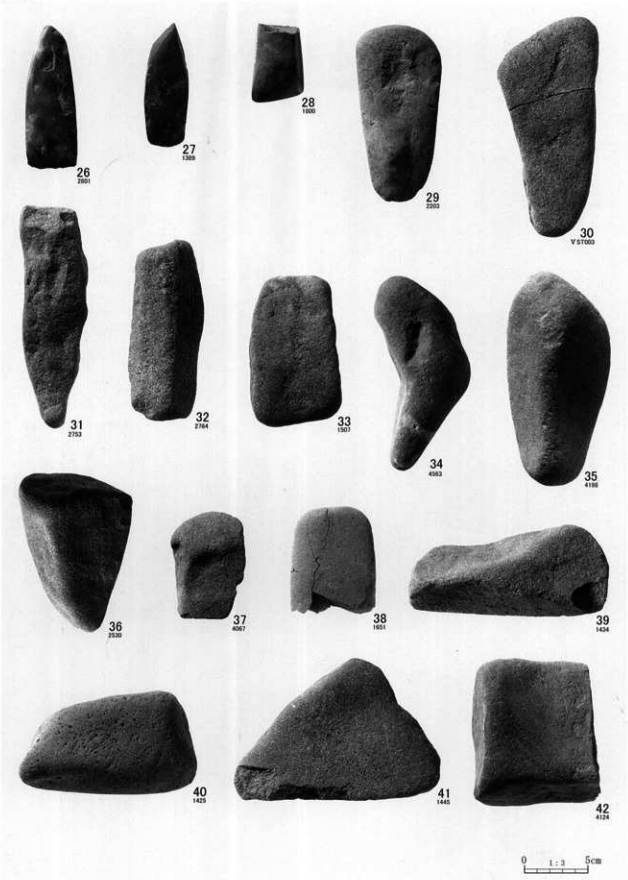
縄文時代包含層出土土器(2)

図版63



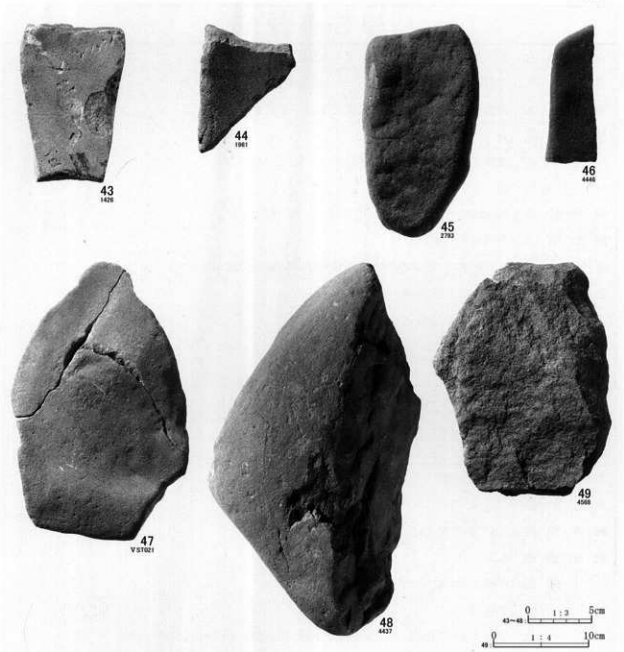
縄文時代包含層出土石器(1)

図版64



縄文時代包含層出土石器(2)

図版65



縄文時代包含層出土石器(3)

報告書抄録

ふりがな	あつまちょう かみほろない 1 いせき
書名	厚真町 上幌内1遺跡
副書名	厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	14
シリーズ名	厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	14
編著者名	宮塚義人・奈良智法・乾 哲也・松井 昭・服部一雄
編集機関	厚真町教育委員会
所在地	〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町165番地の1
発行機関	厚真町教育委員会
発行年月日	2016年 3月 23日
ふりがな	かみほろない1いせき
収録遺跡	上幌内1遺跡
所在地	勇払郡厚真町字幌内372-1～3
市町村コード	015814
遺跡番号	30
北緯	42° 46′ 24″
東経	142° 0′ 34″
調査期間	2014 年 5 月 13日 ～ 2014 年 10 月 31 日
調査面積	9,022㎡
調査原因	厚幌ダム建設
種別	集落跡
主な時代	中世アイヌ文化期、擦文文化期、続縄文文化期、縄文時代早期～後期。
主な遺構	中世アイヌ文化期：平地式住居跡3軒(焼土9、土坑3、礫集中3、獣骨集中3)、建物跡2軒、焼土5ヵ所、土坑2基、鉄器集中1ヵ所、獣骨集中2ヵ所、杭列跡3条、道跡1条 擦文～中世アイヌ文化期：平地式住居跡1軒(焼土2)、焼土4ヵ所、土坑1基 擦文文化期：集中区1ヵ所(焼土1、獣骨集中2、遺物集中1)、焼土5ヵ所、土器集中3ヵ所(焼土1)、礫集中1ヵ所 続縄文文化期：土器集中1ヵ所 縄文時代：竪穴住居跡1軒、土坑1基、Tピット45基、土器・礫集中18ヵ所
主な遺物	Ⅲ層：刃子、内耳鉄鍋、擦文土器、石器、礫 Ⅴ層：土器(中茶路式、東釧路Ⅳ式、サイベ沢Ⅶ式、柏木川式、余市式)、石器、礫 ほか

要約

調査範囲は厚真川左岸の河岸段丘面に立地し、擦文文化期後期からアイヌ文化期は平地式住居跡4軒(うち2軒は獣骨集中を東側に伴う。)が、10～14世紀の年代を得ている。アイヌ文化期のエゾシカ追い込み猟の遺構と思われる杭列跡3条が検出された。遺物では鉄鍋2個体の集中出土地点がある。縄文時代の遺構は住居跡1軒、Tピット45基等が発見された。Tピットは掘り上げ土を伴うものが多く、新旧関係を明らかにできる資料も確認された。

厚真町 上幌内１遺跡

－厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書14－

発　行　日　　平成 28 年 3 月 23 日
編集・発行　　厚真町教育委員会
〒059-1601　北海道勇払郡厚真町京町 165 番地 1
電　話　　(0145)－ 27－ 2321(代)
印　刷　　北海印刷株式会社
〒050-0074　室蘭市中島町4丁目12番地15号